外部から本機にアクセスする機能についてのご注意

外部から本機にアクセスする機能をお使いになる場合には、ネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性がありますので、管理者設定メニューの「パスワード」ページですべてのパスワードを設定してください。

© 2013 Sony Corporation

SONY®

3-869-200-**08** (1)

ビデオ コミュニケーション システム

取扱説明書（バージョン 2.4）

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA

PCS-TL50

MEMORY STICK™

© 2004 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

8 ～ 13 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。
点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたりキャビネットを破損したときは**

⬇

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ 買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

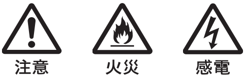
⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

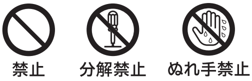
⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

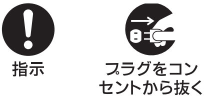
注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

- 警告 8
- 注意 10
- 電池についての安全上のご注意 13
- 本機の性能を維持するために 13

1章 設置と準備

- この取扱説明書の使いかた 16
- 本機の特長 17
- システムの構成 20
  - 基本システムを構成する機器 20
  - 別売り機器の一覧 21
- システムの構成例 23
  - 構成例（LAN接続） 23
  - 構成例（ISDN接続） 24
  - 構成例－多地点会議システム（LAN接続） 26
  - 構成例－多地点会議システム（ISDN接続） 27
  - 構成例—多地点会議システム（LAN & ISDN接続） 28
  - 構成例－多地点データ会議システム（LAN接続） 29
  - 構成例－多地点データ会議システム（ISDN接続） 30
- システムの接続 31
  - 接続端子の使いかた 31
  - 接続上のご注意 32
  - 接続例（LAN接続） 32
  - 接続例（ISDN接続） 33
- システムの準備 34
  - リモコンに乾電池を入れる 34
  - リモコンを本機に置く 35
- 電源を入れる / 切る 36
  - 電源を入れる 36
  - 電源を切る 37
  - スタンバイ状態にする 38
  - シャッターを開ける 38
  - 音量を調節する 40
  - 画質を調節する 40
  - ヘルプを表示する 40
  - 本機のバージョンとオプションを表示する 40
- 設置直後の設定－初期設定ウィザード 41
- メニューの基本操作 44
  - メニューの基本構成 44
  - メニューの紹介 45
  - 文字や数字を入力する 48

2章 登録と設定 － 管理者用

- システムを設定する 50
  - 設定メニューを表示する 50
  - 発信設定メニュー 51
  - 着信設定メニュー 55
  - 一般設定メニュー 58
  - 音声設定メニュー 61
  - LAN設定メニュー 63
  - 管理者用設定メニュー 68
  - ISDN設定メニュー 71
  - マルチポイント設定メニュー 72
  - インフォメーションメニュー 74
  - ステータス表示メニュー 76
  - 暗号化設定メニュー 78
  - SIP設定メニュー 79
  - 共有アドレス帳設定メニュー 81
- 会議の相手をアドレス帳に登録する 82
  - 新しい相手を登録する 82
  - アドレス帳を修正する 85
  - 登録した相手を削除する 85
  - アドレス帳の登録相手をすべて消去する 85
  - アドレス帳の設定をコピーする 86
  - プライベートアドレス帳を作成する 86
  - 共有アドレス帳を使用する 89
- 会議の相手をワンタッチダイヤルに登録する 92

- ランチャーメニューからワンタッチダイヤルを登録する ... 92
- アドレス帳からワンタッチダイヤルを登録する ... 94
- プライベートワンタッチダイヤルを登録する ... 96

ネットワーク構成ごとの設定方法 ... 97
- LAN（DHCPを介しての接続） ... 97
- LAN（ルーターを介しての接続） 98
- LAN（ゲートキーパーを介しての接続） ... 99
- LAN（NAT環境での接続） ... 100
- LAN（H.460）を使用したファイアウォール越えでの接続 ... 102
- LAN（PPPoEによる接続） ... 104
- ISDNによる接続 ... 105

3章 日常の会議

自分側から会議を始める ... 107
- 電源を入れる ... 107
- ランチャーメニューの見かた ... 109
- ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す ... 113
- ランチャーメニューで電話番号やIPアドレスを入力して呼び出す ... 115
- アドレス帳に登録している相手を呼び出す ... 117
- 詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す ... 120

相手から会議に呼び出される ... 125
- 相手から呼び出される ... 125
- 会議を終了する ... 127

画質・音声を調節する ... 129
- 画質を調節する ... 129
- 音量を調節する ... 129
- 音声の送信を一時的にカットする—マイクミュート機能 ... 129
- 着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ ... 130
- 送信する映像と音声の時間差を調整する—リップシンク機能 ... 130
- エコーを軽減する－エコーキャンセラー ... 131

カメラを調節する ... 132
- 操作するカメラを決める ... 132
- ズームとアングルを調節する ... 133
- 画像の明るさを調整する ... 135
- ズームとアングルの設定をプリセットする ... 137
- プリセットしたズームとアングルの設定を呼び出す ... 139

映像と音声を切り換える ... 141
- 通信中に相手側と自分側の映像を切り換える ... 141
- 通信中に相手側の映像入力を切り換える ... 141
- 通信中にディスプレイに表示される映像を切り換える ... 142

自分側の映像を子画面に表示する—子画面表示 ... 144

自分側と相手側の映像を2画面で見る—2画面表示 ... 146

ワイド画面を切り換える ... 148

4章 いろいろな機器を使った会議

“メモリースティック”の静止画を会議に使う ... 150
- “メモリースティック”の静止画を表示する ... 150
- “メモリースティック”の静止画を送信する ... 153

“メモリースティック”について ... 155
- “メモリースティック”をフォーマットする ... 157

カメラ映像を静止画にして送信する ... 158

  - 静止画メニューから送信する 158
  - 通信中サブメニューから送信する 159
- 相手側から静止画を受信する 160
- 会議中の静止画を保存する 161
  - 自動的に相手側の映像を保存する—自動静止画キャプチャー機能 161
  - リモコンの静止画保存ボタンで相手側の映像を保存する—静止画キャプチャー機能 161
  - 静止画メニューから保存する 162
  - メモリースティックメニューから保存する 163
  - 通信中サブメニューから保存する 164
- 通信中に使える便利なメニュー－通信中サブメニュー 165
- 外部マイクやヘッドホンを使う 167
- 音声のみの会議をする－ボイスミーティング 168
- トーン信号で相手のシステムを制御する－DTMFの送信 169
- NetMeetingを使ってデータ会議をする－T.120データ会議 170
- 外部から本機にアクセスする 174
  - Webブラウザを使用する 174
  - Telnetを使用する 174

5章 データソリューションボックスを使ったデータ会議

- データソリューションボックスへの接続例 177
  - コミュニケーショントランスデューサーCTE-600を接続する 179
- 接続機器の映像・音声を会議に使う 181
  - 会議前の設定 181
  - 会議中の操作 181

6章 暗号化会議

- 暗号化会議の準備 189
- 暗号化会議を始める 191

7章 多地点会議

- 多地点会議の接続例 194
  - LAN接続の場合（最大6地点） 194
  - LANカスケード接続の場合（最大10地点） 195
  - ISDN接続の場合 196
  - LAN & ISDN接続の場合 198
  - LAN & ISDNカスケード接続の場合 199
- 多地点会議の準備 200
  - MCUソフトウェアをインストールする 200
  - 多地点会議の設定をする 202
  - 多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する 202
- 多地点会議を始める 207
  - ワンタッチダイヤルで多地点会議の相手を呼び出す 207
  - マルチポイント接続リストに登録している相手を呼び出す 208
  - アドレス帳から多地点会議の相手を選択して呼び出す 210
  - アドレス帳に登録していない相手を呼び出す 211
  - 相手から呼び出しを受ける 213
- 画面制御を行う 214
  - 放送モードの種類 214
  - 放送モードと画面表示 216
  - 放送モードを切り換える 217
  - 他の端末から送信要求を受ける 218
- 多地点会議を終了する 219
- 二次端末の取り扱い 221
- 外部MCUと接続する 222
  - 議長制御をする 222

マルチポイントの属性表 225

8 章 SIP を使った会議

SIP を使った会議をするための接続例 228
- 2 地点間の接続例 228
- 多地点会議の接続例 229

SIP を使った会議の準備 231
- SIP ソフトウェアをインストールする 231
- SIP の設定をする 232
- 会議の相手をアドレス帳に登録する 235

SIP を使った会議を始める 236
- 相手を呼び出す 236
- 相手から呼び出される 239
- 通話を保留する 240
- 通話を転送する 242
- 会議を終了する 245

9 章 コンピューターディスプレイ機能 / ビデオモニター機能

コンピューターディスプレイ機能 246
- コンピューターと接続する 246
- コンピューターの映像を見る 247
- ビデオ会議中にコンピューターの映像を見る 247
- データソリューションボックスを介してコンピューターの映像を見る 249

ビデオモニター機能 250
- ビデオ機器と接続する 250
- ビデオ機器の映像を見る 250
- ビデオ会議中にビデオ機器の映像を見る 251

ディスプレイの画質を調節する 253

10 章 Web 機能

Web ページへのアクセス方法 258

認証ページの入力方法 259

機能ボタンの選択 260

[Controller] ページの使用方法 262
- Controller 画面 262
- Commander 画面 263

[Dial/Disconnect] ページの使用方法 264

[Phone Book] ページの使用方法 266
- Phone Book 編集画面 267
- Phone Book 新規登録画面 269

[Setup] ページの使用方法 270
- Send Message 画面 271
- Reset 画面 272

[Info] ページの使用方法 273
- Cause Code 一覧画面 274
- Call Log 画面 275

[Monitor] ページの使用方法 276

[FTP] ページの使用方法 277

付録

各部の名称と働き 278
- ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 278
- リモコン PCS-RTL50 280
- ISDN ユニット PCSA-B384S/PCS-B384（別売り） 282
- ISDN ユニット PCSA-B768S/PCS-B768（別売り） 283
- データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1（別売り） 284

インジケーター一覧 286

メッセージ一覧 288

故障かな？ 302

仕様 306

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 306
リモコン PCS-RTL50 308
AC アダプター PCS-AC19V8 308
マイクロホン PCS-A1（別売り）308
マイクロホン PCSA-A3（別売り）....308
ISDN ユニット PCSA-B384S/PCS-B384（別売り）....309
ISDN ユニット PCSA-B768S/PCS-B768（別売り）....309
データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1（別売り）....309
H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）....310
H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）....310
SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）....310
RGB 入出力仕様 311
端子のピン配列 314
別売り機器の端子のピン配列 315
PCS-TL50 使用ポート番号一覧 ..316
ミーティングスペースのレイアウト 318
保証書とアフターサービス 320
保証書 320
アフターサービス 320
用語解説 320
メニューの構成 325

⚠警告 火災 感電 下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけない

禁止

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、コードが傷んだら、ソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

雨のあたる場所や、油煙、湯気、ほこりの多い場所には置かない

禁止

火災や感電の原因となることがあります。

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない

接触禁止

感電の原因になります。

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

禁止

落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐためにネットワークケーブルや電源プラグを抜いてください。また、雷が鳴りだしたら、本機には触らないでください。

たこ足配線をしない

禁止

配線器具をたこ足配線して定格を超えた電流が流れると、火災などの原因となります。

AC アダプターの AC プラグ、DC プラグは根元まで差し込む

指示

しっかり根元まで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

⚠警告　火災　感電　下記の注意を守らないと、**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながることがあります。

ネットワークコネクターに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

禁止

本機のネットワークコネクターに次のネットワークや回線を接続すると、コネクターに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。

特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-T と 100BASE-TX タイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- ISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャック
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

また、ネットワークコネクターをお使いになるときは、職場などのネットワーク管理者にご相談ください。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります

不安定な場所に設置しない

禁止

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置･取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

通気孔をふさがない

禁止

通気孔をふさぐと、本機内部に熱がこもり、発煙、発火などが起こり、やけどの原因になることがあります。

接続の際は電源を切る

注意

電源を入れたままで電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。

付属の AC アダプターや電源コード、接続コードを使う

指示

付属の AC アダプターや電源コード、接続コードを使わないと、感電や故障の原因になることがあります。

付属の AC アダプターは指定された製品以外には使用しない

禁止

指定された製品以外に使用すると、故障の原因になることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

ぬれた手で AC アダプターにさわらない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

分解や改造をしない

分解禁止

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは電源コード、接続コードを抜く

指示

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

禁止

変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となります。特に窓際に置くときなどはご注意ください。

内部に水や異物を入れない

禁止

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。

万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください

リモコン装着部に磁気記録メディアを近づけない

禁止

本機のリモコン装着部には磁石を内蔵しています。

フロッピーディスク、磁気カードなどの磁気記録メディアを近づけないようにご注意ください。近づけた場合は記録内容が破壊されます。

通電中の本体や AC アダプターに長時間触れない。

禁止

温度が相当上がることがあります。

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

排気口からの排気に長時間あたらない

注意

本機をご使用中、その動作状況により排気口から温風が排出されることがあります。この温風に長時間あたると、低温やけどの原因となる場合があります。

長時間使用しないときは電源ケーブルや AC アダプターのプラグを抜く

プラグをコンセントから抜く

長時間使用しないときは、安全のため AC アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

ディスプレイ画面を長時間継続して見ない

禁止

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。

ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本システムの使用をやめて休息してください。

万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは、医師の診察を受けてください。

⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります

製品の上に乗らない、重いものを乗せない

禁止

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

液晶画面に衝撃を与えない

禁止

液晶画面はガラスでできています。
重い物をのせたり、落としたり、画面を強打したりしないでください。
強い衝撃を与えると液晶が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

人が通行するような場所に置かないコード類は正しく配置する

禁止

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかかったりするような恐れのある場所を避け、十分注意して接続･配置をしてください。

転倒、移動防止の処理をする

注意

本製品をラックに取り付けたり、取り外すときは、転倒･移動防止の処置をしないと、倒れたり、動いたりして、けがの原因となることがあります。安定した姿勢で注意深く作業してください。また、ラックの設置状況、強度を十分にお確かめください。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機を廃棄する場合は、内蔵の電池を小型化学廃棄物として処理する必要がありますので、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

本機の性能を維持するために

使用・保管場所について

次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に寒いところや暑いところ。
- 湿気、ほこりの多いところ。
- 激しく振動するところ。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生する機器やラジオの送信所の近く。
- 雑音が多いところ。

液晶画面について

取り扱い上の注意

- 液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。窓際や室外に置くときなどはご注意ください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上にものを置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元にもどります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

液晶画面の輝点・滅点について

本機の液晶パネルは有効画素 99.99% 以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり（画素欠け）、常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。また、液晶パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。

CCDについて

撮影画面に出る下記の現象は、CCD 撮像素子（Charge Coupled Device）特有の現象で、故障ではありません。

白点

CCD 撮像素子は非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。

これは CCD 撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。

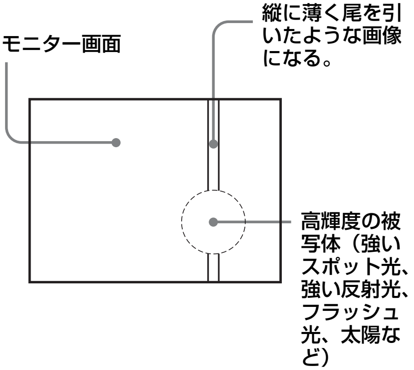
また、下記の場合、白点が見えやすくなります。

・高温の環境で使用するとき

・ゲイン（感度）を上げたとき

スミア現象

強いスポット光やフラッシュ光などを撮影したときに、画面上に縦線や画乱れが発生することがあります。


モニター画面
縦に薄く尾を引いたような画像になる。
高輝度の被写体（強いスポット光、強い反射光、フラッシュ光、太陽など）

折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

レーザービームについてのご注意

レーザービームは CCD 撮像素子に損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CCD 撮像素子表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。

内蔵スピーカーについて

スピーカーからは磁気が発生していますので、磁気テープや磁気ディスクなどはスピーカー開口部から離しておいてください。データが破損するおそれがあります。

お手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

この取扱説明書の使いかた

各章には以下の内容を記載しています。必要に応じてお読みください。

1 章　設置と準備

システムの構成や接続、設置のしかたをはじめ、電源の入れかたやメニューの基本操作など、はじめてお使いになる前に必要な情報を記載しています。システムの全体を把握するためにお読みください。

2 章　登録と設定－管理者用

本機のメニューを使った登録や設定をすべて説明しています。システムを管理する方がお読みください。

3 章　日常の会議

日常の会議をするための基本的な操作や設定を記載しています。この章を読むだけで、会議を始めるところから終わるところまでがわかります。会議を行う方がお読みください。

４章　いろいろな機器を使った会議

別売りの機器を使った様々な会議のしかたを紹介しています。

5 章　データソリューションボックスを使ったデータ会議

別売りのデータソリューションボックスを使い、コンピューターなど外部機器のデータを会議に使う方法を説明しています。

6 章　暗号化会議

映像、音声、データソリューションボックスに接続したコンピューターのデータを暗号化して会議を行う方法を説明しています。

7 章　多地点会議

多地点での同時会議の開催のしかたを説明しています。
本機を多地点会議装置として使うときは、別売りの MCU ソフトウェアが必要です。

8 章　SIP を使った会議

SIP を使用し、IP 電話などと接続した会議を行う方法を説明しています。
SIP による会議を行うには、別売りの SIP ソフトウェアが必要です。

9 章　コンピューターディスプレイ機能 / ビデオモニター機能

会議をしていないときにコンピューターディスプレイやビデオモニターとして使う場合の使いかたを説明しています。

10 章　Web 機能

Web 経由で本機の操作設定をする方法を説明しています。

付録

システムの各機器の各部の名称やメッセージ一覧、故障かな？、主な仕様、用語集などを記載しています。困ったときにお読みください。

本機の特長

ビデオコミュニケーションシステムPCS-TL50は、離れたところにいるグループをLAN（ローカルエリアネットワーク）やISDN（デジタル公衆通信網）で結び、映像と音声を送受信することにより、相手側と同席しているかのように会議ができるビデオ会議システムです。

持ち運びのできる一体型ビデオコミュニケーションシステム

カメラ、モニター、コーデック部からマイク、スピーカーまでが小型のキャビネットに一体化されています。簡単に持ち運びができるため、会議の場所を選びません。
20型のワイドモード対応ディスプレイとデジタルパン・チルト・ズーム対応カメラを内蔵しています。

30件までのワンタッチダイヤルが可能

よく接続する会議の相手をランチャーメニューに登録しておくと、リモコンのワンタッチダイヤルボタンを押すだけで相手を選ぶことができます。

世界標準方式を採用

WTSC（世界電気通信標準化会議）が定めたITU-T勧告に準拠、日本国内だけでなく、海外とも簡単に接続することができます。

データ会議に対応

別売りのデータソリューションボックスPCSA-DSB1Sを使用することにより、コンピューターのデータを会議に使ったり、プロジェクターで会議の様子やデータを表示できます。

高速、高画質の送受信が可能

LANの使用帯域は、最大1920Kbpsまで対応しています。また、ISDN回線の場合、別売りのISDNユニットPCSA-B384Sを使うと最大でISDN3回線、6Bチャンネル、PCSA-B768Sを使うと、最大でISDN6回線、12Bチャンネルの使用が可能です。

幅広い映像圧縮方式・音声圧縮方式に対応

映像圧縮方式は、H.264、MPEG4、H.263+、H.263、H.261方式に対応、音声圧縮方式はMPEG4 Audio、G.722.1、G.722、G.729、G.728、G.723.1、G.711方式に対応しています。

ネットワークの状態に応じて最適化できるQoS（Quality of Service）機能搭載

パケット再送要求機能および最適レート制御機能を搭載。LAN使用時、ネットワークの混雑やパケットロスが生じた場合、自動的に最適化して常に高品質な通信が確保できます。

簡単設定・簡単操作

ディスプレイに操作案内用のヘルプメニューが表示されます。また、会議の出席者が日常的に使うメニューは、管理者が設定するメニューと分けて表示されます。

多地点会議に対応

別売りのH.323 MCUソフトウェアPCS-323M1（LAN用）、H.320 MCUソフトウェアPCS-320M1（ISDN用）をインストールすると、多地点間でのビデオ会議を行うことができます。
PCS-323M1とPCS-320M1を両方インストールすると、LANとISDN接続が混在した多地点会議も可能です。

メモリースティックスロットを装備

本機にはメモリースティックスロットを装備しているため、デジタルスチルカメラなどで撮影した静止画を簡単に会議に使用することができます。
また、“メモリースティック”をプライベートアドレス帳として、個人用のアドレス帳やワンタッチダイヤルアイコンを作成し、利用することができます。

暗号化会議に対応

本機は、ITU-Tで規定されたH.233、H.234、H.235に準拠した標準暗号化方式と、ソニー独自の暗号化方式に対応しており、機密性の高い会議を行うことが可能です。
標準方式の場合は、LAN接続、ISDN接続で２地点間、多地点間（カスケード接続およびLANとISDN接続が混在した場合を含む）の暗号化会議が可能です。
独自方式の場合は、LAN接続またはSIP接続で２地点間、多地点間の暗号化会議が可能です。

SIP対応

別売りのSIPソフトウェアPCSA-SP1をインストールすると、IP電話などの端末とSIP（Session Initiation Protocol）を使った会議ができます。
保留や転送など、IP電話に準じた機能も使うことができます。
また、SIPソフトウェアとともに別売りのMCUソフトウェアをインストールすれば、多地点会議ができます。

コンピューターディスプレイまたはビデオモニターとして使用可能

会議をしていないとき、本機のディスプレイをコンピューターディスプレイやビデオモニターとして使用することができます。
コンピューターディスプレイやビデオモニターとして使用中でも、相手から会議に呼び出されると、自動的に相手側の映像が画面に表示されます。

静止画の自動 / 手動キャプチャーが可能

1対1の通信中､通信相手の映像が数枚、自動的にキャプチャーされ、本機のメモリーに保存されます。この画像をアドレス帳の登録に利用することができます。

また、“メモリースティック”を本機に挿入しておけば、通信中に静止画保存ボタンを押すだけで、相手の映像をキャプチャーすることが可能です。この画像もアドレス帳の登録などに利用することができます。

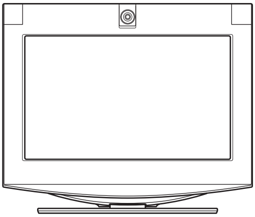
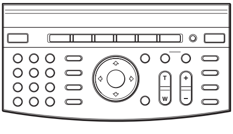
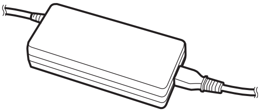
“IPELA”および IPELA はソニー株式会社の商標です。

システムの構成

PCS-TL50 は、ビデオ会議をするために必要な基本システムと、より充実した会議を行うための別売り機器で構成されます。

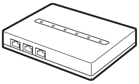
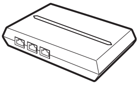
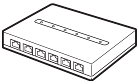
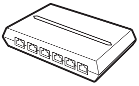
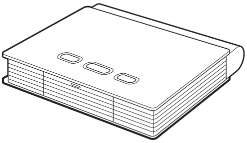
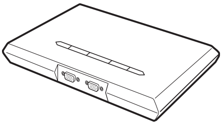
基本システムを構成する機器

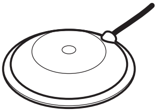
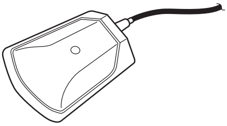
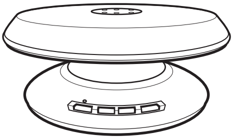
ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 は、ビデオ会議システムの中心をなす基本システムです。ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 は以下の機器で構成されています。

機器	説明
ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 	カメラ、モニター、映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
リモコン PCS-RTL50 	ビデオコミュニケーションシステムとカメラを操作します。
AC アダプター PCS-AC19V8 	ビデオコミュニケーションシステムに電源を供給します。

別売り機器の一覧

会議を充実させるために、以下の別売り機器が用意されています。

機器	説明
ISDN ユニット PCSA-B384S  PCS-B384 	ISDN 回線に接続します。最大3回線、6B チャンネルでの接続が可能です。 （PCSA-B384S と PCS-B384 の機能は同じです。この説明書では、PCSA-B384S を代表として記載しています。）
ISDN ユニット PCSA-B768S  PCS-B768 	ISDN 回線に接続します。最大6回線、12B チャンネルでの接続が可能です。 （PCSA-B768S と PCS-B768 の機能は同じです。この説明書では、PCSA-B768S を代表として記載しています。）
データソリューションボックス PCSA-DSB1S  PCS-DSB1 	コンピューターやプロジェクターを接続して、データ会議ができます。 （PCSA-DSB1S と PCS-DSB1 の機能は同じです。この説明書では、PCSA-DSB1S を代表として記載しています。）

機器	**説明**
マイクロホン PCS-A1 	どの方向からの音でも拾える無指向性のマイクです。静かな部屋での会議におすすめします。
マイクロホン PCSA-A3 	指向性のマイクです。 マイクに向き合った人の音声だけを拾いたい場合におすすめします。
コミュニケーション トランスデューサー CTE-600 	マイクとスピーカーが一体化されたユニットです。データソリューションボックスに接続して使います。 話している人の方位を自動的に検出してマイクを選択するため、雑音の少ない明瞭な音声が集音できます。また、全方位スピーカーの搭載により、鮮明な音声を均等に伝えることができます。 （現在は販売されていません。）
H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1	LAN を使って多地点会議をするためのソフトウェアです。
H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1	ISDN 回線を使って多地点会議をするためのソフトウェアです。
SIP ソフトウェア PCSA-SP1	SIP を使った会議をするためのソフトウェアです。

システムの構成例

PCS-TL50ビデオコミュニケーションシステムは、基本システムと別売り機器の組み合わせにより、さまざまなシステムを構成できます。ここでは、代表的な7つの例をあげて、システムの構成に必要な機器とそのシステムでどんなことができるかを説明します。

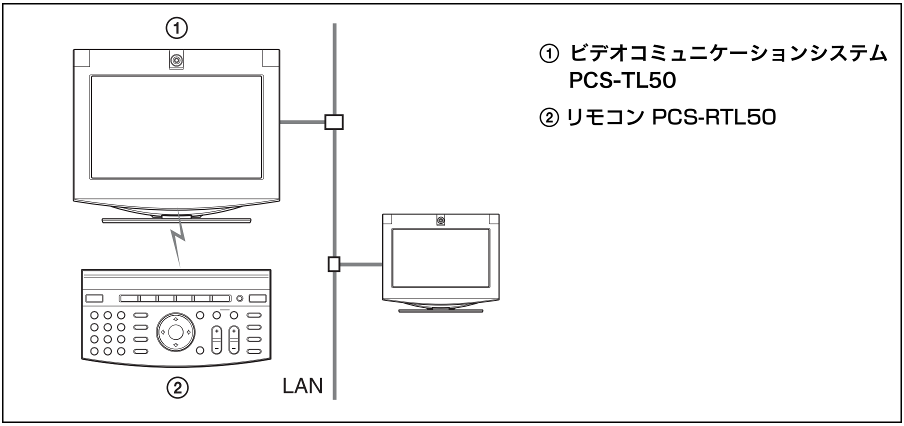
構成例（LAN接続）

このシステムでできること

・LANを介した2地点間のビデオ会議ができます。

・“メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。

システム構成図


①
②
LAN
① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50
② リモコン PCS-RTL50

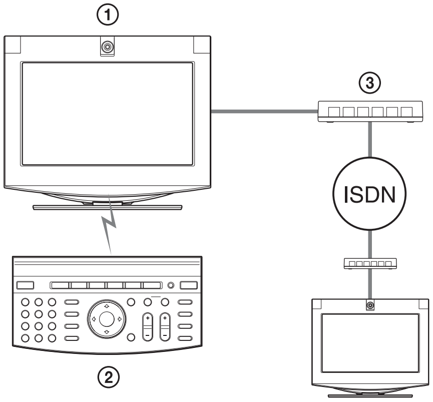
構成例（ISDN 接続）

ISDN 回線に接続するには、専用別売り機器の ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した 2 地点間のビデオ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- PCSA-B384S 使用時は ISDN 回線を最大 3 回線、PCSA-B768S 使用時は最大 6 回線接続して高速・高画質の会議ができます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

② リモコン PCS-RTL50

③ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）または PCSA-B768S（別売り）

（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

ISDN の回線数と B チャンネルについて

本機は、ISDN ユニット PCSA-B384S を介して最大 3 回線、または PCSA-B768S を介して最大 6 回線の ISDN 回線を使用することができます。

1 回線の ISDN 回線には 2 本の情報チャンネル（B チャンネル）が通っており、2 本の B チャンネルは同時に同じ通信に使用する（2B 接続）ことも、別々の通信に使用する（1B 接続）こともできます。同一の通信に使うチャンネル数が多い程、高速・高画質の通信ができます。

本機では、ISDN ユニットにより、以下の回線数とチャンネル数が選択できます。

PCSA-B384S：最大 3 回線の ISDN 回線を使用し、1B (64K)、2B (128K)、3B (192K)、4B (256K)、5B (320K)、6B (384K) が選択可能。

PCSA-B768S：最大 6 回線の ISDN 回線で、同一の通信に使うチャンネル数を 1B (64K)、2B (128K)、3B (192K)、4B (256K)、5B (320K)、6B (384K)、8B (512K)、12B (768K) が選択可能。

ご注意

ISDN ユニットのポートは番号が若い順に使用してください。

○：1、2、3 ....
×：1、5、2 ....

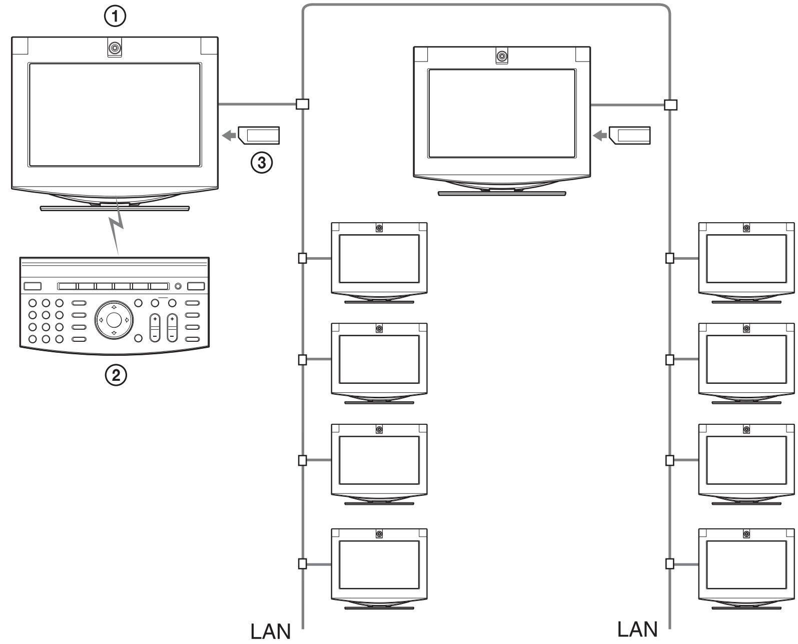
構成例－多地点会議システム（LAN 接続）

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 が必要です。

このシステムでできること

- LAN を介した最大 10 地点間のビデオ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

② リモコン PCS-RTL50

③ H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）

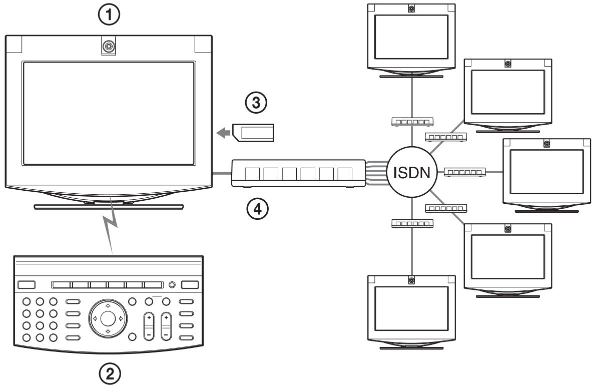
構成例－多地点会議システム（ISDN 接続）

専用別売り機器の ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S と別売りの H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1 が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した最大 6 地点間のビデオ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50
② リモコン PCS-RTL50
③ H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）
④ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）または PCSA-B768S（別売り）

（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

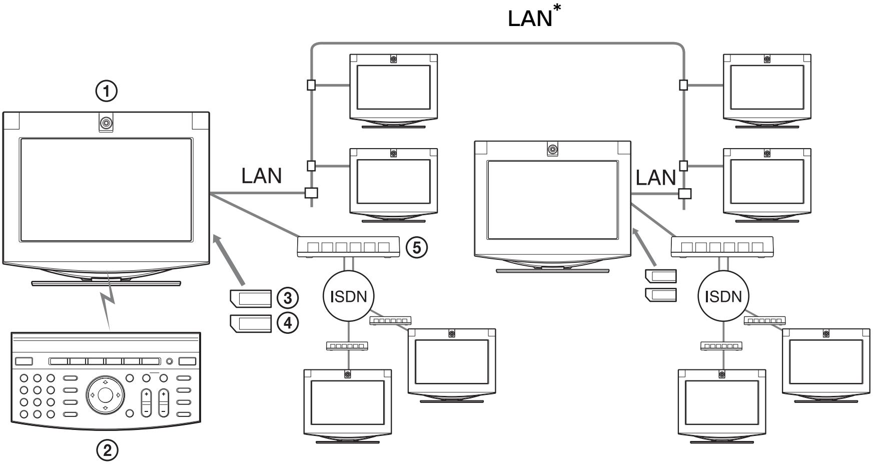
構成例—多地点会議システム（LAN & ISDN 接続）

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 と H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1 を本機にインストールすることにより、LAN および ISDN 回線が混在した多地点会議が可能です。MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のビデオコミュニケーションシステムは LAN を介して接続します。

このシステムでできること

- LAN および ISDN 回線を介した最大 10 地点間のビデオ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50
② リモコン PCS-RTL50
③ H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）
④ H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）
⑤ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）
または PCSA-B768S（別売り）

* 必ず LAN で接続してください。

（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

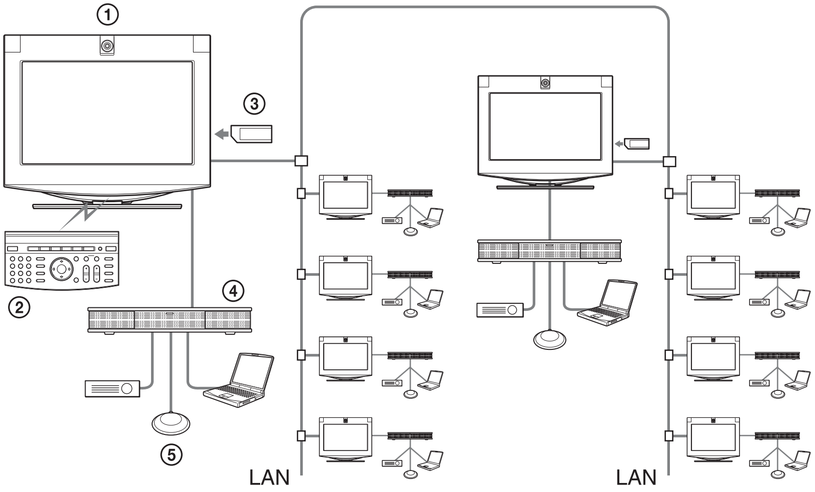
構成例－多地点データ会議システム（LAN 接続）

専用別売り機器のデータソリューションボックス PCSA-DSB1S と別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 が必要です。

このシステムでできること

- ・LAN を介した最大 10 地点間のビデオ会議ができます。
- ・“メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- ・コンピューターや外部機器のデータを会議に使用できます。
- ・子画面表示機能や 2 画面表示機能を使って静止画やコンピューターのデータを会議の映像と同時に見ることができます。
- ・データソリューションボックスに外部マイクを最大 5 本接続して、多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

② リモコン PCS-RTL50

③ H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）

④ データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）

⑤ マイクロホン PCS-A1（別売り）

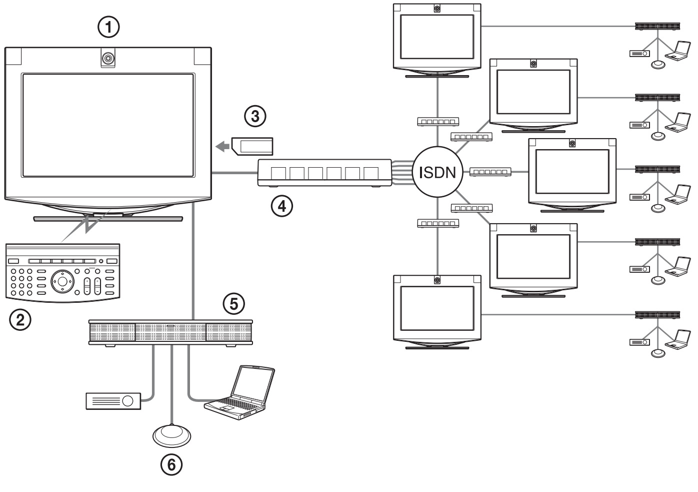
構成例－多地点データ会議システム（ISDN 接続）

専用別売り機器のISDN ユニットPCSA-B384S またはPCSA-B768S、データソリューションボックスPCSA-DSB1S と別売りのH.320 MCU ソフトウェアPCS-320M1 が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した最大6 地点間のビデオ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- コンピューターや外部機器のデータを会議に使用できます。
- 子画面表示機能や2 画面表示機能を使って静止画やコンピューターのデータを会議の映像と同時に見ることができます。
- データソリューションボックスに外部マイクを最大5 本接続して、多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

② リモコン PCS-RTL50

③ H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）

④ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）または PCSA-B768S（別売り）

⑤ データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）

⑥ マイクロホン PCS-A1（別売り）

（この図は、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

システムの接続

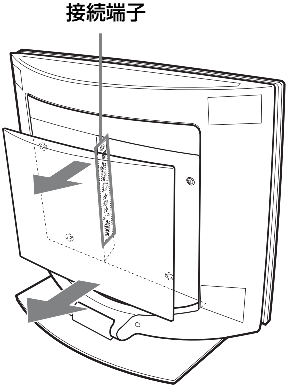
ここでは、代表的なシステムの接続のしかたを説明します。

接続端子の使いかた

接続端子はリアカバーの内側にあります。
リアカバーを外してケーブルを接続し、接続終了後に再びリアカバーを取り付けてください。

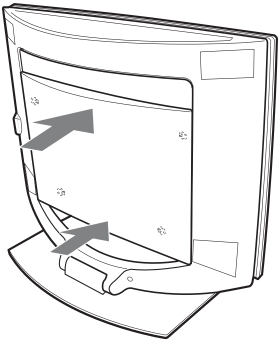
リアカバーを外すには

手前に引っぱります。



リアカバーを取り付けるには

4か所の突起を合わせ、押し付けます。



接続上のご注意

⚠警告

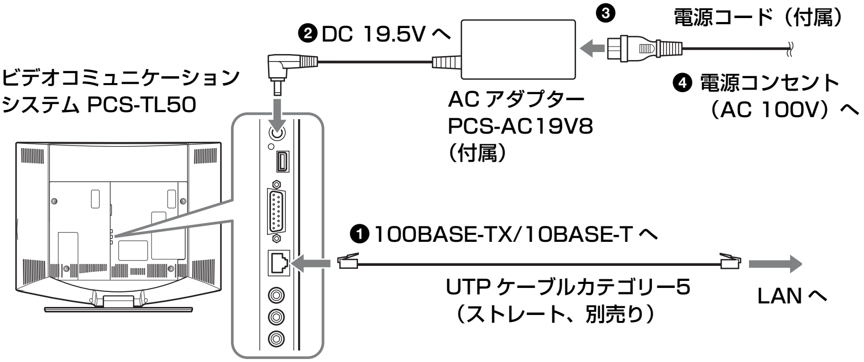
- 必ず本機に付属のACアダプターと電源コードをご使用ください。
- ACアダプターのACプラグとDCプラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 安全のために、100BASE-TX/10BASE-T端子を過電圧が加わるおそれのあるネットワークなどに接続しないでください。

⚠注意

- 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- 本機が壊れますので、電源を入れたままケーブルを抜き差ししないでください。

接続例（LAN接続）

❶～❹の順に接続してください。

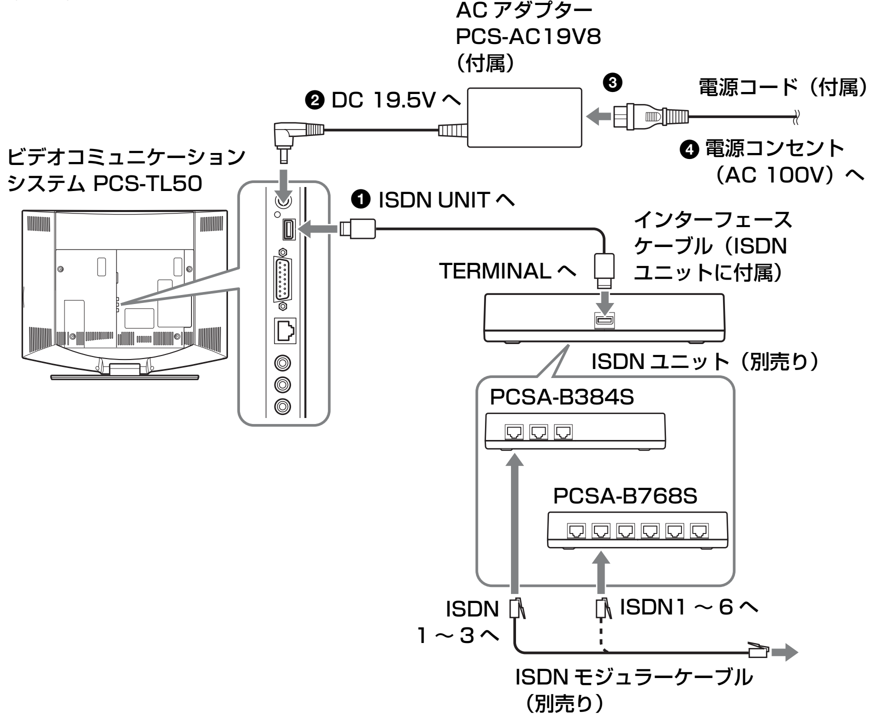

❸
電源コード（付属）
❷DC 19.5Vへ
ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50
ACアダプター
PCS-AC19V8
（付属）
❹電源コンセント
（AC 100V）へ
❶100BASE-TX/10BASE-Tへ
UTPケーブルカテゴリー5
（ストレート、別売り）
LANへ

接続例（ISDN 接続）

⚠注意

- ・本機や、ISDN ユニットが壊れますので、電源を入れたままインターフェースケーブルを抜き差ししないでください。
- ・ISDN ユニットを初めて本機に接続して使用するとき、本機が自動的に ISDN ユニットのソフトウェアをバージョンアップすることがあります。画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。

❶～❹の順に接続してください。

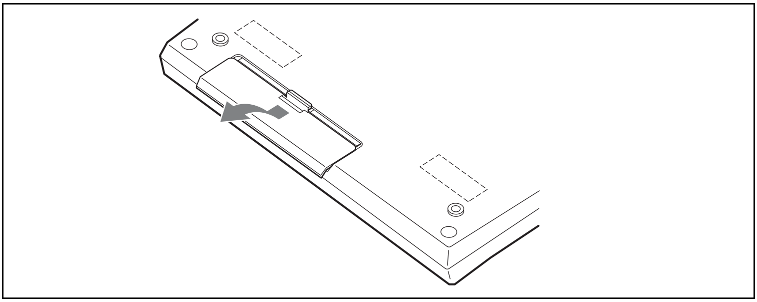

AC アダプター
PCS-AC19V8
（付属）
❷ DC 19.5V へ
❸
電源コード（付属）
❹ 電源コンセント
（AC 100V）へ
ビデオコミュニケーション
システム PCS-TL50
❶ ISDN UNIT へ
インターフェース
ケーブル（ISDN
ユニットに付属）
TERMINAL へ
ISDN ユニット（別売り）
PCSA-B384S
PCSA-B768S
ISDN
1～3へ
ISDN1～6へ
ISDN モジュラーケーブル
（別売り）

システムの準備

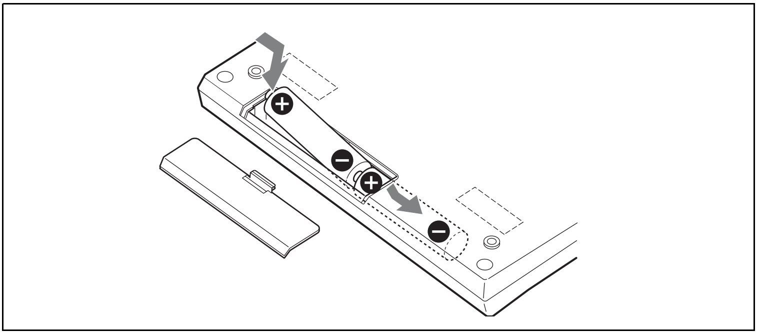
リモコンに乾電池を入れる

本機では、会議の操作のほとんどを付属のリモコンで行います。ここでは、リモコンへの電池の入れかたを説明します。

1 電池ぶたを取りはずす。



2 単 3 形乾電池（付属）を 2 本、⊕ ⊖ の向きを正しく入れる。



⚠注意

リモコンに単 3 形乾電池を入れるときは、⊖ 極側から入れてください。⊕ 極側から乱暴に入れようとすると、乾電池の絶縁被膜が破れてショートすることがあります。

3 電池ぶたを取り付ける。

⚠注意

乾電池の寿命

リモコンで操作ができなくなったら、乾電池の寿命です。2 本とも新しい乾電池と交換してください。

⚠注意

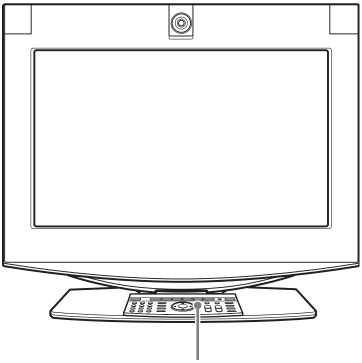
乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ・⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- ・新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ・乾電池は充電できません。
- ・長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。
- ・液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンを本機に置く

付属のリモコンは本機のスタンド部に置いても操作できます。



電源を入れる / 切る

ここでは、ビデオコミュニケーションシステムの電源を入れる手順や切る手順など、電源に関する説明をします。

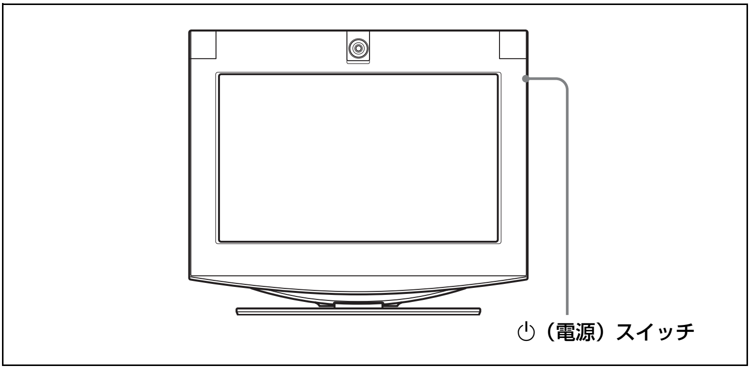
電源を入れる

本機の電源を入れる前に、システム全体を正しく接続してください。

◆接続のしかたは、31ページの「システムの接続」をご覧ください。

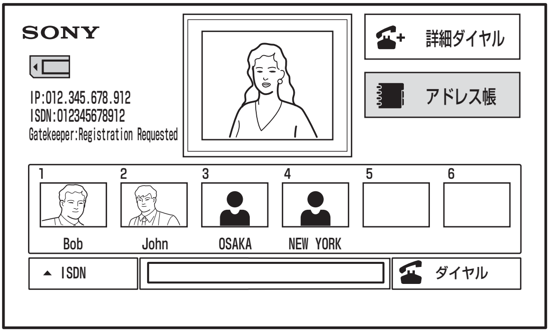
1 会議で使用する機器の電源を入れる。

2 本機の右側面の ⏻（電源）スイッチを押す。



スイッチのインジケーターが緑色に点灯し、本機の電源が入ります。ディスプレイにはランチャーメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ランチャーメニュー


SONY
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル

IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
Gatekeeper:Registration Requested

ご注意

- 設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終了すると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って設定を行ってください。

◆ウィザードを使った設定については、「設置直後の設定－初期設定ウィザード」（41 ページ）をご覧ください。

- データソリューションボックスや ISDN ユニットなど別売りの専用機器を初めて本機に接続して使用するとき、本機が接続した機器のソフトウェアを自動的にバージョンアップすることがあります。ディスプレイにバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。また、バージョンアップ中に停電などでシステムの電源がオフになった場合も正常に動作しないことがあります。電源がオフになり、再び電源が入ったあと、データソリューションボックスや ISDN ユニットなどが認識されない場合は、サービス窓口にご連絡ください。

ステータス表示

番号表示の下に PPPoE の認証状況、UPnP の登録状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況が表示されます。表示されるのは、登録中とエラーが発生したときだけで、登録に成功したときは表示されません。

ご注意

- 複数の動作状況が同時に表示されることはありません。PPPoE の認証状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、UPnP の登録状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況の順に優先的に表示されます。
- 一般設定メニューの 4 ページ目の「番号表示」を「表示しない」に設定している場合は、表示されません。

◆ステータス表示について詳しくは、「ステータス表示」（110 ページ）をご覧ください。

◆「番号表示」の設定については、「一般設定メニュー」4 ページ目（60 ページ）をご覧ください。

電源を切る

1　本機の右側面の ⏻（電源）スイッチを 1 秒以上長押しして、電源を切る。

「電源を切っています。少々お待ちください」というメッセージが表示され、電源が切れます。

2 会議で使用したその他の機器の電源を切る。

ご注意

長期間システムを使わないときは、電源を切っておいてください。ただし、電源を切ると、会議をする相手から呼び出しが受けられません。

スタンバイ状態にする

1 リモコンの I/⏻ ボタンを押す。

「ディスプレイの電源を切って待機状態にしますか？」というメッセージが表示されます。

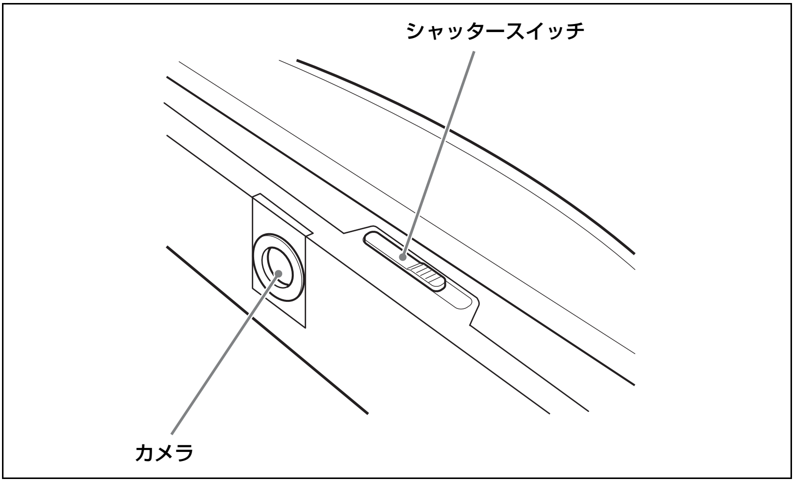
2 リモコンの ←/→ ボタンで [OK] を選び、決定ボタンを押す。

本機はスタンバイ状態になります。

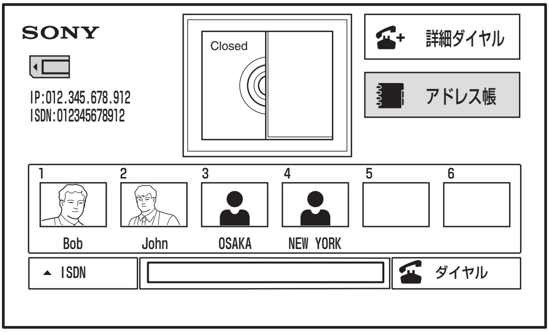
スタンバイ状態の場合は、相手からの呼び出しを受けることができます。

シャッターを開ける

本機には、カメラを隠すためのシャッターがついています。ビデオ会議を始める前に、本体上部のシャッタースイッチを右にスライドさせ、必ずシャッターを開けてください。シャッターが閉まったままでは、自分側の映像が相手に見えません。
また、一般設定メニュー 2 ページ目の「カメラシャッター マイクオン / オフ」を「マイクオン / オフ」に設定していると、シャッターの開閉に連動して本機のマイクが入 / 切するため、シャッターを閉じた状態では自分側の音声も相手に聞こえません。(59 ページ)

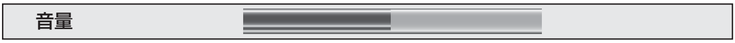

シャッタースイッチ
カメラ

シャッターが閉まっているときは、ランチャーメニューが次のように表示されます。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
Closed
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
▲ ISDN
ダイヤル

音量を調節する

リモコンの音量＋ / －ボタンを押して、聞きとりやすい音量に調節します。



ご注意

- 音量は、ビデオ会議、コンピューター、ビデオの 3 種類の映像のそれぞれに対して調節できます。
- 子画面表示の全画面表示、または二画面表示の左画面の音量が調節できます。また、これらの画面では、両方の画面の音声が混合されて聞こえます。

画質を調節する

本機の右側面の MENU ボタンと ⬆/⬇ ボタン、OK ボタンを使って画質を調節します。

◆詳しくは、「ディスプレイの画質を調節する」（253 ページ）をご覧ください。

ヘルプを表示する

リモコンのヘルプボタンを押すと、操作案内用のバルーンヘルプまたはヘルプ画面が表示されます。

ヒント

文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプを表示させないようにすることもできます。
メニューボタンを押してメニューを表示させ、一般設定メニューから「文字入力ヘルプ表示」を選び、「オフ」を選びます。（60 ページ）

本機のバージョンとオプションを表示する

本機のバージョンや接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどをインフォメーションメニューで確認できます。

◆インフォメーションメニューについて詳しくは、「インフォメーションメニュー」（74 ページ）をご覧ください。

設置直後の設定－初期設定ウィザード

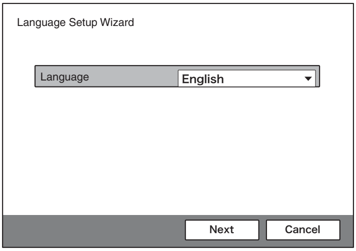
設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終わると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って登録を行ってください。
ここで設定した項目は、あとでメニュー画面を使って変更することもできます。

ご注意

システムを設置後にISDNユニットPCSA-B384SまたはPCSA-B768Sを新たに取り付けた場合にも初期設定用ウィザードが表示されます。この場合も登録を行ってください。

1　リモコンの↑/↓ボタンを押してメニューやメッセージに表示する言語を選ぶ。

Language: English（英語）またはFrench（フランス語）、German（ドイツ語）、Japanese（日本語）、Spanish（スペイン語）、Italian（イタリア語）、Simplified Chinese（中国語（簡体字））、Portuguese（ポルトガル語）、Traditional Chinese（中国語（繁体字））、Korean（韓国語）、Dutch（オランダ語）、Swedish（スウェーデン語）、Danish（デンマーク語）、Finnish（フィンランド語）、Polish（ポーランド語）、Russian（ロシア語）、Arabic（アラビア語）、Thai（タイ語）から選ぶことができます。

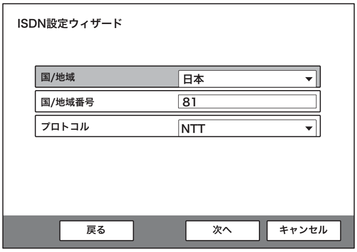

Language Setup Wizard

Language　English

2　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「Next」を選び、決定ボタンを押す。

ISDNユニットPCSA-B384SまたはPCSA-B768Sが接続されている場合、ISDN設定ウィザードが表示されます。
ISDNユニットが接続されていない場合はLAN設定ウィザードが表示されます。手順9へ進んでください。

3　ISDN回線を使用する国/地域/プロトコルを設定する。


ISDN設定ウィザード

国/地域　日本

国/地域番号　81

プロトコル　NTT

国/地域：本機を使用する国や地域を選ぶ。
日本国内で使用する場合は、「日本」を選んでください。

国/地域番号：本機を使用する国や地域の国番号や地域番号を入力する。
日本国内で使用する場合は、「81」と入力してください。（「国/地

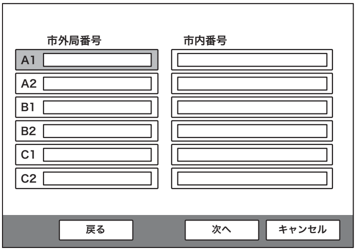
域」で「日本」を選ぶと、自動的に「81」と表示されます。）

プロトコル：使用するISDN回線のプロトコルを選ぶ。日本国内で使用する場合は、「NTT」を選んでください。

4　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

5　本機が使用するISDN回線の電話番号を入力する。

1回線のときはA1とA2に同じ番号を入力してください。



市外局番号：市外局番号を入力する。

市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

市内局番：回線番号を入力する。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

ご注意

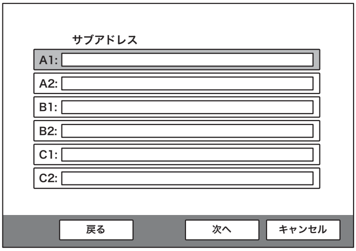
ISDNユニットPCSA-B384S使用時、ISDN回線を2または3回線接続するときは、B1～C2欄にも電話番号を入力してください。

また、PCSA-B768S使用時にISDN回線を2～6回線接続するときは、B1～F2欄にも入力してください。D1～F2欄は、「次へ」を選び、決定ボタンを押すと表示されます。

6　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

7　サブアドレスを入力する。

サブアドレスは数字のみ有効です。1回線のときはA1とA2に同じ番号を入力してください。



ご注意

ISDNユニットPCSA-B384S使用時、ISDN回線を2または3回線接続するときは、B1～C2欄にもサブアドレスを入力してください。

また、PCSA-B768S使用時にISDN回線を2～6回線接続するときは、B1～F2欄にも入力してください。D1～F2欄は、「次へ」を選び、決定ボタンを押すと表示されます。

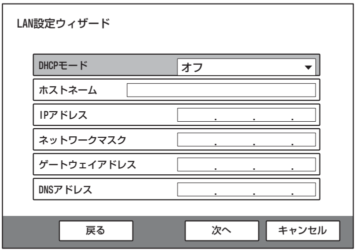
8　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

LAN設定ウィザードが表示されます。

ご注意

LAN を使用しないときは、「次へ」を選んで、確認メッセージを表示し、手順 11 へ進んでください。

9 LAN に関する下記の項目を設定する。


LAN設定ウィザード

DHCPモード　オフ

DHCP モード : DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を設定します。

オート : IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。

オフ : DHCP を「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

ホストネーム : ホスト名を入力します。

IP アドレス : 本機の IP アドレスを入力します。

ネットワークマスク : ネットワークマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス : デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS アドレス : DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

ヒント

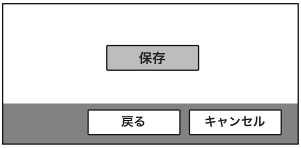
「DHCP モード」を「オート」に設定しているときは、自動取得した IP アドレスをランチャーメニュー（109 ページ）やインフォメーションメニュー（74 ページ）で確認することができます。

◆LAN に関する設定の方法がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

10 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

確認メッセージが表示されます。

11 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。



設定が保存されます。

設定を中止するには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

ひとつ前のウィザードに戻るには

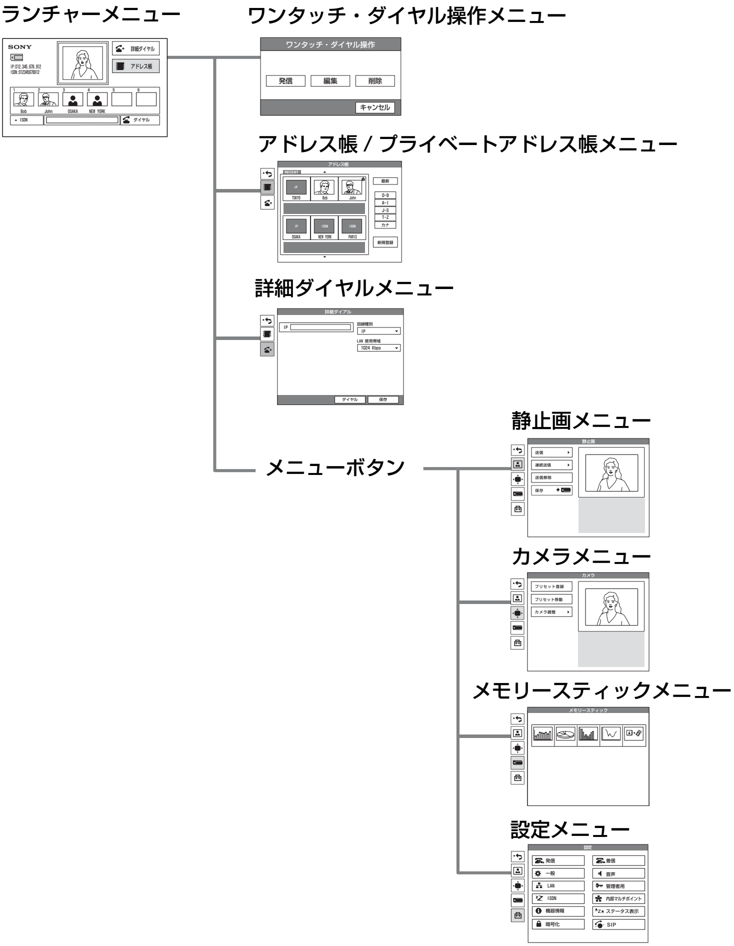
リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「戻る」を選び、決定ボタンを押してください。

メニューの基本操作

本機では、ディスプレイに表示されるメニューを使って各種調整や設定を行います。ここでは表示されるメニューの種類を簡単に説明します。

メニューの基本構成

本機のメニューは以下のように構成されています。
より詳しい構成については、325 ページ「メニューの構成」をご覧ください。


ランチャーメニュー
ワンタッチ・ダイヤル操作メニュー
ワンタッチ・ダイヤル操作
発信
編集
削除
キャンセル
アドレス帳 / プライベートアドレス帳メニュー
アドレス帳
詳細ダイヤルメニュー
詳細ダイヤル
ダイヤル
保存
メニューボタン
静止画メニュー
静止画
カメラメニュー
カメラ
メモリースティックメニュー
メモリースティック
設定メニュー
設定
発信
着信
一般
音声
LAN
管理者用
ISDN
内部マルチポイント
機器情報
ステータス表示
暗号化
SIP

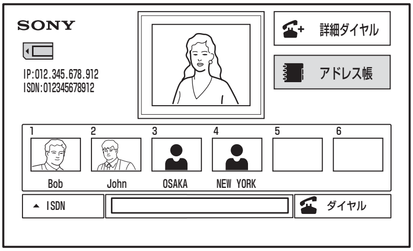
メニューアイコン

メニューの左端に表示されるメニュータブのアイコンを選ぶと各々のメニューが表示されます。

アイコン	表示されるメニュー
·↩	ひとつ前の階層に戻る
▮	アドレス帳メニュー
▮	プライベートアドレス帳メニュー
☎+	詳細ダイヤルメニュー
▣	静止画メニュー
◆	カメラメニュー
▭	メモリースティックメニュー
⊟	設定メニュー

メニューの紹介

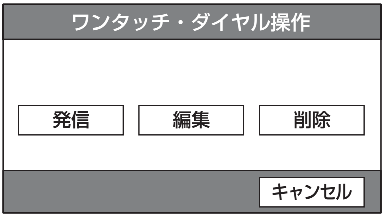
ランチャーメニュー


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
▲ ISDN
ダイヤル

電源を入れたときや、通信中でないときに表示されるメニューです。

◆ランチャーメニューについて詳しくは、109 ～ 111 ページをご覧ください。

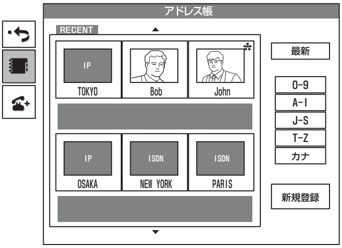
ワンタッチ・ダイヤル操作メニュー


ワンタッチ・ダイヤル操作
発信
編集
削除
キャンセル

ワンタッチダイヤルの編集やダイヤルを行うときに使います。
ランチャーメニューのワンタッチダイヤルボタンを選ぶと表示されます。

◆ワンタッチダイヤルについて詳しくは、92、113 ページをご覧ください。

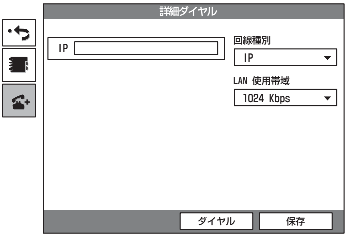
アドレス帳メニュー


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

会議をする相手を登録したり、会議を始めるときに登録した相手を選んだりするときに使います。
ランチャーメニューの「アドレス帳」を選んだり、メニュータブから ▮ を選ぶと表示されます。

◆アドレス帳メニューについて詳しくは、82 ～ 86、117 ～ 119 ページをご覧ください。

詳細ダイヤルメニュー


詳細ダイヤル
IP
ダイヤル
保存

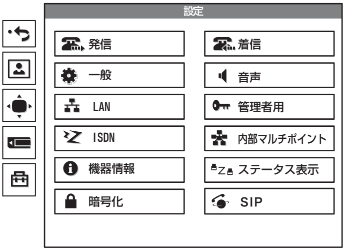
回線種別：IP

LAN 使用帯域：1024 Kbps

アドレス帳に登録されていない相手と会議するときに使います。
ランチャーメニューの「詳細ダイヤル」を選んだり、メニュータブの ☎ を選んだり、リモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押すと表示されます。

◆詳細ダイヤルメニューについて詳しくは、120 ～ 124 ページをご覧ください。

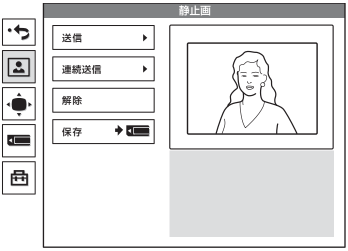
設定メニュー


設定
発信
着信
一般
音声
LAN
管理者用
ISDN
内部マルチポイント
機器情報
ステータス表示
暗号化
SIP

管理者がシステムの詳細を設定します。
リモコンのメニューボタンを押すと表示されます。

◆設定メニューについて詳しくは、50 ～ 78 ページをご覧ください。

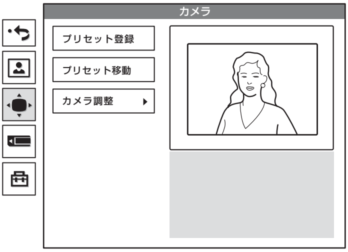
静止画メニュー


静止画
送信
連続送信
解除
保存

静止画を操作するときに使います。
リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、左側のメニュータブから ▣ を選ぶと表示されます。

◆静止画メニューについて詳しくは、158 ～ 164 ページをご覧ください。

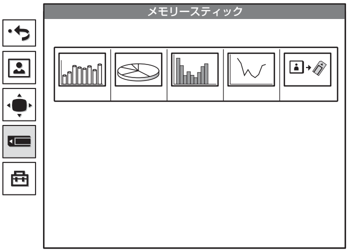
カメラメニュー


カメラ
プリセット登録
プリセット移動
カメラ調整

カメラのアングル調節やズームをするときに使います。
リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、左側のメニュータブから ● を選ぶと表示されます。

◆カメラメニューについて詳しくは、132 ～ 140 ページをご覧ください。

メモリースティックメニュー

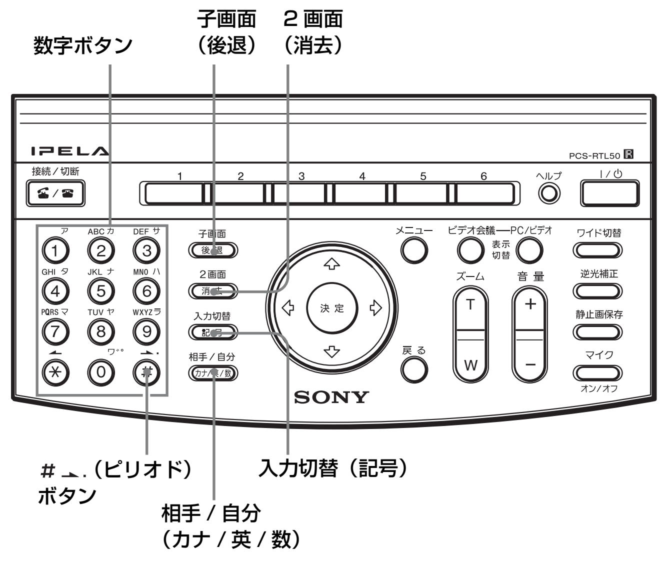


“メモリースティック”を使用するときに使います。“メモリースティック”を挿入していないと表示されません。
リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、左側のメニュータブから ▬ を選ぶと表示されます。

◆メモリースティックメニューについて詳しくは、150 ～ 154、163 ～ 164 ページをご覧ください。

文字や数字を入力する

リモコンを使ってメニュー上に文字や数字などを入力する方法を説明します。


数字ボタン
子画面（後退）
２画面（消去）
# ▲.（ピリオド）ボタン
相手／自分（カナ／英／数）
入力切替（記号）
IPELA
PCS-RTL50
接続／切断
ヘルプ
子画面
後退
2画面
消去
入力切替
記号
相手／自分
カナ／英／数
決定
メニュー
ビデオ会議
PC/ビデオ
表示切替
ワイド切替
ズーム
音量
逆光補正
静止画保存
戻る
マイク
オン／オフ
SONY

文字や数字を入力するには

1 相手／自分（カナ／英／数）ボタンを繰り返し押して入力モードを切り換える。

2 数字ボタンを押して、文字や数字を入力する。

カナのとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示された行のカタカナ文字が選べます。

ALPHA のとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示されたアルファベットが選べます。

NUM のとき：ボタンに表示された数字が選べます。

記号を入力するには

入力切替（記号）ボタンを繰り返し押して、入力したい記号を選びます。
「－」と「"」、「°」の記号は0ボタンを押しても入力できます。
また、入力モードが「英」のときは0ボタンを繰り返し押して記号を入力することもできます。

IP アドレス入力時にピリオドを入力するには

# ▲. ボタンを押します。

入力をまちがえたら

リモコンの子画面（後退）ボタンを押します。最後に入力した文字や数字、記号が消えます。

1 行分の文字をまとめて消すには

消したい欄にカーソルを移動し、リモコンの 2 画面（消去）ボタンを押します。1 行分の文字が消えます。

ヒント

リモコンのヘルプボタンを押してバルーンヘルプやヘルプ画面を表示させているとき、文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプだけを表示させないようにすることができます。
一般設定メニューの「文字入力ヘルプ表示」を「オフ」にします。（60 ページ）

2章

登録と設定 – 管理者用

この章では、システムの管理者が行う登録と設定の全般について説明しています。管理者の方がお読みください。

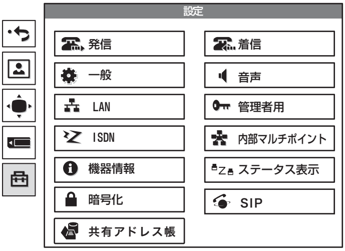
システムを設定する

会議をする前に、設定メニューを使って自分側の端末の情報をあらかじめ設定しておいてください。
ここでは、設定メニューの表示のしかたと、どんなメニューがあるかを紹介します。

設定メニューを表示する

1 リモコンのメニューボタンを押す。

設定メニューが表示されます。



設定メニューから選べるメニュー

各項目を選ぶと次のメニューを表示できます。

発信：発信設定メニュー（51 ページ）

着信：着信設定メニュー（55 ページ）

一般：一般設定メニュー（58 ページ）

音声：音声設定メニュー（61 ページ）

LAN: LAN 設定メニュー（63 ページ）

管理者用：管理者用設定メニュー（68 ページ）

ISDN: ISDN 設定メニュー（71 ページ）

内部マルチポイント：マルチポイント設定メニュー（72 ページ）

機器情報：インフォメーションメニュー（74 ページ）

ステータス表示：ステータス表示メニュー（76 ページ）

暗号化：暗号化設定メニュー（78 ページ）

SIP: SIP 設定メニュー（79 ページ）

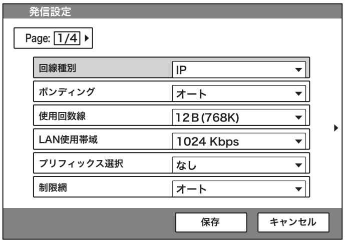
共有アドレス帳：共有アドレス帳設定メニュー（81 ページ）

ご注意

- SIP 設定メニューは、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールしているときのみ表示されます。
- 共有アドレス帳設定メニューは、管理者用設定メニューの「共有アドレス帳」を「オン」に設定しているときのみ表示されます。

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで設定したいメニューを選び、決定ボタンを押す。

選んだ設定メニューが表示されます。



回線種別 IP
ボンディング オート
使用回線数 12B(768K)
LAN使用帯域 1024 Kbps
プリフィックス選択 なし
制限網 オート

3 各設定項目を設定する。

◆各設定項目については、51 ページ～80 ページの各メニューのページをご覧ください。

4 設定が終わったら、リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定が保存され、設定メニューに戻ります。

設定を中止するには

リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。または、リモコンの戻るボタンを押してください。

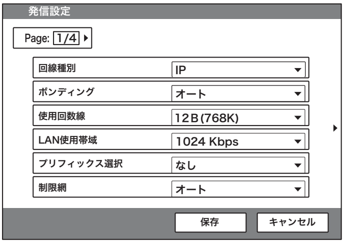
表示したメニューのページを切り換えるには

リモコンの↑/↓/←/→ボタンでPageの欄を選び、次のページへ進むときは→ボタン、前のページへ戻るときは←ボタンを押してください。

発信設定メニュー

発信時の属性などを設定します。

1ページ目（Page 1/4）



回線種別 IP
ボンディング オート
使用回線数 12B(768K)
LAN使用帯域 1024 Kbps
プリフィックス選択 なし
制限網 オート

回線種別

通常使用する回線インターフェースを選びます。

IP: LANを使ってビデオ会議システムと接続する場合。

ISDN: ISDN回線を使ってビデオ会議システムと接続する場合。

音声電話： ISDN回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

SIP： SIPを使ってIP電話などと接続する場合。

ボンディング

複数のISDN回線を使用するとき、1回線にダイヤルするだけで残りの回線も接続できるBONDING*（ボンディング）接続を行うかどうかを選びます。

* BONDING（Bandwidth on Demand Interoperability Group）はTHE BONDING CONSORTIUMの登録商標です。

オート： 着信側でボンディング接続が可能なとき、自動的にボンディング接続に切り換えます。

オン： 常にボンディング接続する場合。

使用回線数

ボンディングの発信時に使用するISDN回線のチャンネル数を選びます。
1B(64K)、2B(128K)、3B(192K)、4B(256K)、5B(320K)、6B(384K)、8B(512K)、12B(768K)チャンネルを選択できます。

LAN使用帯域

LANを使って通信するときの帯域幅を選択します。
64 Kbps、128 Kbps、256kbps、384 Kbps、512kbps、768 Kbps、1024 Kbps、1920 Kbps、その他を選択できます。
「その他」を選択すると1～1920 Kbpsを入力することができます。

プリフィックス選択

通常使用するプリフィックス（回線番号の前につける発信番号）の設定を選びます。

なし： プリフィックスを使用しない場合。

プリフィックス-A: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-A」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス-B: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-B」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス-C: 発信設定メニュー3ページ目の「プリフィックス-C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

◆プリフィックスの設定方法については、発信設定メニュー3ページ目（54ページ）をご覧ください。

制限網

発信時のISDN通信網速度を選びます。

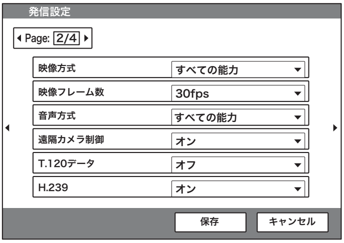
オート： 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。

56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

ご注意

出荷時の設定ではISDN回線に64 Kbpsで接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDNの通信速度として64 Kbpsと56 Kbpsの2種類が使用されています。このような国、地域の相手と64 Kbpsで会議を開始しようとするとうまくつながらないことがあります。
この場合は、「制限網」を「56K」に切り換えてください。

2ページ目（Page 2/4）



映像方式　すべての能力
映像フレーム数　30fps
音声方式　すべての能力
遠隔カメラ制御　オン
T.120データ　オフ
H.239　オン

映像方式

送信する映像の圧縮方式を選びます。

すべての能力： 相手の映像方式に合わせる場合。

インターレースSIF： SIF 50/60fpsに準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.264： H.264に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4: MPEG4に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+: H.263+ に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261: H.261 に準拠した圧縮方式を使用する場合（静止画伝送（Annex D）を行う場合）。

SIP ビデオなし：SIP 接続時に、映像なし、音声のみで使用する場合。
回線種別が「SIP」以外のときは、「すべての能力」で動作します。

ご注意

インターレース SIF 方式は、相手側のカラー方式が NTSC 方式の場合のみ動作します。

映像フレーム数

映像の送信フレーム数を選びます。

15fps: CIF フォーマット映像を最大 15 フレーム / 秒で送信する場合。

30fps: CIF フォーマット映像を最大 30 フレーム / 秒で送信する場合。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。

すべての能力：相手の音声方式に合わせる場合。

MPEG4 Audio：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722.1: G.722.1 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722: G.722 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.729: G.729 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.728: G.728 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.723.1: G.723.1 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.711: G.711 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のビデオ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

本機から相手を呼び出して会議をするとき、自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。

オン：双方のカメラを操作したい場合。
通常はオンにしておきます。

オフ： 相手側のカメラを操作しない場合。

T.120 データ

NetMeeting を使って T.120 に準拠したデータ会議を行うかどうかを選びます。（ISDN 接続の場合）

オン： T.120 に準拠したデータ会議を行う場合。

オフ： データ会議を行わない場合。

◆T.120 に準拠したデータ会議について詳しくは、「NetMeeting を使ってデータ会議をする－ T.120 データ会議」（170 ページ）をご覧ください。

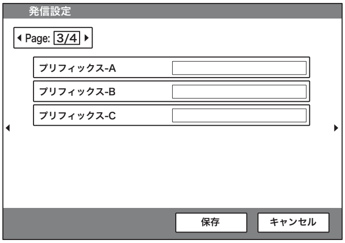
H.239

H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用するかどうかを選びます。

オン： H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用する場合。

オフ： H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用しない場合。

3 ページ目（Page 3/4）



プリフィックス-A
プリフィックス-B
プリフィックス-C

プリフィックス -A

発信設定メニュー 1 ページ目の「プリフィックス選択」を「プリフィックス - A」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

プリフィックス -B

発信設定メニュー 1 ページ目の「プリフィックス選択」を「プリフィックス - B」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

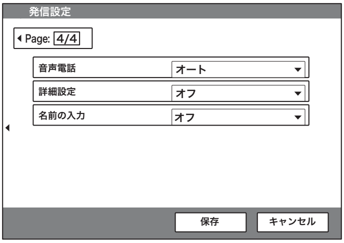
プリフィックス -C

発信設定メニュー 1 ページ目の「プリフィックス選択」を「プリフィックス - C」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

ご注意

- プリフィックスは 20 文字以内で入力してください。
- 0（ゼロ）発信の場合は、「0」と入力してください。

4 ページ目（Page 4/4）



音声電話　オート
詳細設定　オフ
名前の入力　オフ

音声電話

ボイスミーティングのとき、電話と通信する音声圧縮方式を選びます。

オート： 自動的に選ぶ場合。（ISDN メニューの「プロトコル」の設定に応じて自動判別します。）

G.711 μ -law: G.711 μ -law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

G.711A-law: G.711A-law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

詳細設定

発信設定メニューの設定をダイヤルリスト1件ごとに行うかどうかを選びます。

オン : ダイヤルリストごとに発信設定を行う場合。アドレス帳のリスト編集メニューの「詳細設定」を選ぶと、発信設定メニューが表示されます。

オフ : 発信設定メニューの設定をダイヤルリスト全件に適用する場合。

名前の入力

通信を始める前に、使用者の名前を通信ログに記録するかどうかを選びます。

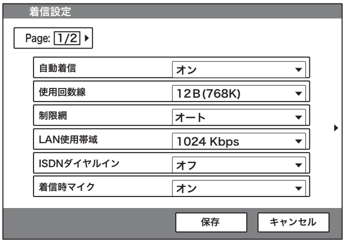
オン : 使用者の名前を記録する場合。発信するたびに名前入力用のメニューが表示されます。

オフ : 使用者の名前を記録しない場合。

着信設定メニュー

着信時の設定をします。

1 ページ目 (Page 1/2)


着信設定

Page: 1/2

自動着信　オン

使用回線数　12B(768K)

制限網　オート

LAN使用帯域　1024 Kbps

ISDNダイヤルイン　オフ

着信時マイク　オン

自動着信

自動着信するかどうかを選びます。

オン : 自動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、自動的に回線がつながります。

オフ : 手動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。「応答しますか？」のメッセージ画面で「OK」を選ぶと、回線がつながります。

使用回線数

着信時に使用するISDN回線のチャンネル数を選びます。

1B(64K)、2B(128K)、3B(192K)、4B(256K)、5B(320K)、6B(384K)、8B(512K)、12B(768K)チャンネルを選択できます。

制限網

着信時のISDN通信網速度を選びます。

オート : 通常のISDN回線を使用して、相手と接続する場合。

56K: ISDN回線の通信速度が56 Kbpsの国や地域と接続する場合。

ご注意

出荷時の設定ではISDN回線に64 Kbpsで接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDNの通信速度として64 Kbpsと56 Kbpsの2種類が使用されています。このような国、地域の相手と64 Kbpsで会議を開始しようとするとうまくつながらないことがあります。

この場合は、「制限網」を「56K」に切り換えてください。

LAN使用帯域

LANを使って通信するときの帯域幅を選択します。

64 Kbps、128 Kbps、256 Kbps、384 Kbps、512 Kbps、768 Kbps、1024 Kbps、1920 Kbps、その他を選択できます。

「その他」を選択すると1 ～ 1920 Kbpsを入力することができます。

ISDNダイヤルイン

複数加入者番号を使用しているかどうかを選びます。

オン：複数加入者番号を使用しているとき。

オフ：複数加入者番号を使用していないとき。

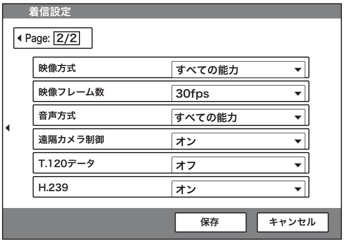
着信時マイク

相手から呼び出しを受けたとき、相手にこちらの音声を送信するかどうかを選びます。

オン：着信時、こちらの音声を送信する場合。

オフ：着信時、こちらの音声を送信しない場合。

2ページ目 (Page 2/2)



映像方式　すべての能力
映像フレーム数　30fps
音声方式　すべての能力
遠隔カメラ制御　オン
T.120データ　オフ
H.239　オン

映像方式

受信する映像の圧縮方式を選びます。

すべての能力：相手の映像方式に合わせる場合。

インターレースSIF：SIF 50/60fpsに準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.264：H.264に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4: MPEG4に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+: H.263+に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261: H.261に準拠した圧縮方式を使用する場合。

SIPビデオなし：SIP接続時に、映像なし、音声のみで使用する場合。
回線種別が「SIP」以外のときは、「すべての能力」で動作します。

ご注意

インターレースSIF方式は、相手側のカラー方式がNTSC方式の場合のみ動作します。

映像フレーム数

映像の受信フレーム数を選びます。

15fps: CIFフォーマット映像を最大15フレーム / 秒で受信する場合。

30fps: CIFフォーマット映像を最大30フレーム / 秒で受信する場合。

音声方式

受信する音声の圧縮方式を選びます。

すべての能力： 相手の音声方式に合わせる場合。

MPEG4 Audio： MPEG4に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722.1: G.722.1に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722: G.722に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.729: G.729に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.728: G.728に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.723.1: G.723.1に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.711: G.711に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のビデオ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的にG.711方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

相手から呼び出されて会議をするとき、自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。

オン： 双方のカメラを操作したい場合。通常はオンにしておきます。

オフ： 相手側のカメラを操作しない場合。

T.120データ

NetMeetingを使ってT.120に準拠したデータ会議を行うかどうかを選びます。（ISDN接続の場合）

オン： T.120に準拠したデータ会議を行う場合。

オフ： データ会議を行わない場合。

◆T.120に準拠したデータ会議について詳しくは、「NetMeetingを使ってデータ会議をする－T.120データ会議」（170ページ）をご覧ください。

H.239

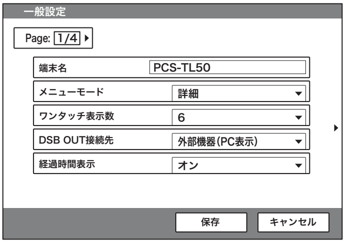
H.239に準拠したプレゼンテーション機能を使用するかどうかを選びます。

オン： H.239に準拠したプレゼンテーション機能を使用する場合。

オフ： H.239に準拠したプレゼンテーション機能を使用しない場合。

一般設定メニュー

1 ページ目 (Page 1/4)



端末名　PCS-TL50

メニューモード　詳細

ワンタッチ表示数　6

DSB OUT接続先　外部機器(PC表示)

経過時間表示　オン

端末名

外部の多地点会議装置に通知する本機の名前を 30 文字以内で入力します。

メニューモード

ランチャーメニューのシステム状況インジケーターを表示するかどうかを選びます。

シンプル：システム状況インジケーターを表示しません。

詳細：システム状況インジケーターを表示します。

ワンタッチ表示数

ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストの表示数を指定します。

6：ワンタッチダイヤル番号 1 ～ 6 のみをランチャーメニューに表示します。

30：ワンタッチダイヤル番号 1 ～ 30 をランチャーメニューに表示します。

DSB OUT 接続先

データソリューションボックス接続時、データソリューションボックスから出力する映像を選択します。

外部機器（映像 /PC 表示）：データソリューションボックスの非通信時は、自分の映像やメニューを表示します。データソリューションボックスの通信時は、通信されているコンピューター画面の映像を表示します。

外部機器（PC 表示）：データソリューションボックスの非通信時は、データソリューションボックスと接続しているコンピューターの映像を表示します。データソリューションボックスの通信時は、通信されているコンピューター画面の映像を表示します。

本体 RGB 入力：データソリューションボックスの RGB 出力と、PCS-TL50 の RGB 入力を接続している場合に有効です。データソリューションボックスの非通信時は、自分の映像やメニューを表示します。データソリューションボックスの通信時は、通信されているコンピューター画面の映像を、PCS-TL50 の画面に表示します。

経過時間表示

ビデオ会議中にディスプレイに通話時間を表示するかどうかを選びます。

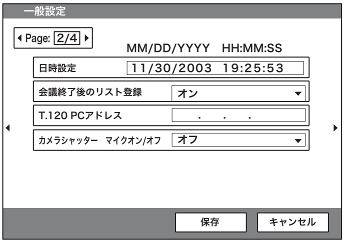
オン： 通話時間を表示するとき。

オフ： 通話時間を表示しないとき。

ご注意

通信中は、設定できない項目もあります。

2 ページ目 (Page 2/4)



MM/DD/YYYY　HH:MM:SS

日時設定　11/30/2003　19:25:53

会議終了後のリスト登録　オン

T.120 PCアドレス　　.　.　.

カメラシャッター　マイクオン/オフ　オフ

日時設定

現在の年月日と時刻を入力します。

会議終了後のリスト登録

会議終了後に相手をアドレス帳に登録するかどうかを選びます。

オン： 会議終了後、相手がアドレス帳に登録されていなければ、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示され、「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

オフ： アドレス帳に登録しない場合。

T.120 PC アドレス

NetMeeting を使って T.120 に準拠したデータ会議をするとき、使用するコンピューターの IP アドレスを入力します。（ISDN 接続の場合）

◆T.120 に準拠したデータ会議について詳しくは、「NetMeeting を使ってデータ会議をする － T.120 データ会議」（170 ページ）をご覧ください。

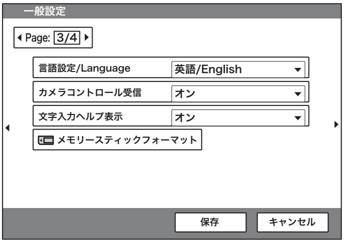
カメラシャッター マイクオン / オフ

本体上部にあるカメラのシャッターの開閉に連動して内蔵のマイクを入 / 切させるかどうかを選びます。

マイクオン / オフ：シャッターを閉じると同時にマイクが切になります。シャッターを開けるとマイクは入になります。

オフ：シャッターを閉じても、マイクは切になりません。

3 ページ目 (Page 3/4)



言語設定/Language　英語/English

カメラコントロール受信　オン

文字入力ヘルプ表示　オン

言語設定 /Language

画面に表示されるメッセージの言語を選びます。

英語 /English: 英語で表示するとき。

フランス語 /French: フランス語で表示するとき。

ドイツ語 /German: ドイツ語で表示するとき。

日本語 /Japanese: 日本語で表示するとき。

スペイン語 /Spanish: スペイン語で表示するとき。

イタリア語 /Italian: イタリア語で表示するとき。

簡体中国語 /Chinese: 中国語（簡体字）で表示するとき。

ポルトガル語 /PORT: ポルトガル語で表示するとき。

繁体中国語 /Chinese: 中国語（繁体字）で表示するとき。

韓国語 /Korean: 韓国語で表示するとき。

オランダ語 /Dutch：オランダ語で表示するとき。

スウェーデン語 /Swed.：スウェーデン語で表示するとき。

デンマーク語 /Danish：デンマーク語で表示するとき。

フィンランド語 /Finn：フィンランド語で表示するとき。

ポーランド語 /Polish：ポーランド語で表示するとき。

ロシア語 /Russian：ロシア語で表示するとき。

アラビア語 /Arabic：アラビア語で表示するとき。

タイ語 /Thai：タイ語で表示するとき。

カメラコントロール受信

発信側の発信設定メニューと着信側の着信設定メニューの「遠隔カメラ制御」が「オン」になっているとき、一時的に相手側からのカメラコントロールコマンドを拒否することができます。

オン：カメラコントロールコマンドを受信する場合。

オフ：カメラコントロールコマンドを拒否する場合。

文字入力ヘルプ表示

文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプを表示させるかどうかを選びます。

オン：バルーンヘルプを表示させる場合。

オフ：バルーンヘルプを表示させない場合。

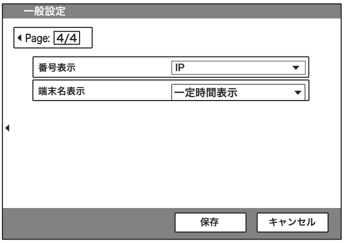
メモリースティックフォーマット

“メモリースティック”のフォーマットを実行します。

ご注意

“メモリースティック”をフォーマットすると、“メモリースティック”に保存されている画像やアドレス帳などはすべて消去されます。

4 ページ目（Page 4/4）



番号表示：IP
端末名表示：一定時間表示

自分側のランチャーメニューに表示する内容を変えることができます。

番号表示

ランチャーメニューに表示する、自分側のシステムを表わす番号を選びます。

SIP：ユーザー名：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP サーバーに登録したユーザー名を表示する場合。

SIP：アドレス：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP アドレスを表示する場合。

GK：ユーザー名：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー名を表示する場合。

GK：ユーザー番号：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー番号を表示する場合。

NAT：アドレス：NAT を使用したネットワークに接続しているとき、NAT アドレスを表示する場合。

IP：IP アドレスを表示する場合。

表示しない：システムを表わす番号を何も表示しない場合。

ご注意

「表示しない」を選択すると、ランチャーメニュー上のステータス表示も表示されなくなります。

端末名表示

切断時に、接続地点の端末名をディスプレイに表示するかどうかを選びます。

オフ：端末名を表示しない場合。

一定時間表示：一定時間端末名を表示する場合。

常時表示：常に端末名を表示する場合。

ご注意

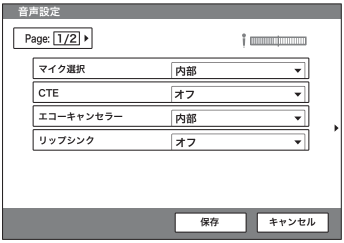
マルチポイント設定メニューの「マルチポイントモード」が「オート」に設定されている状態で、1対1の会議をしている場合、端末名は表示されません。

音声設定メニュー

音声に関する設定をします。

1ページ目（Page 1/2）

画面右上に音声入力レベルが表示されます。



マイク選択：内部
CTE：オフ
エコーキャンセラー：内部
リップシンク：オフ

マイク選択

内蔵マイクを使用するかどうかを選びます。

内部：内蔵マイク、または本機に接続した外部マイクを使用する場合。

DSB MIC：データソリューションボックスに接続したマイクを使用する場合。

CTE（コミュニケーショントランスデューサー）

コミュニケーショントランスデューサーCTE-600（現在は販売されていません。）のマイクからの音声を受信するかどうかを選びます。

オフ：コミュニケーショントランスデューサーのマイク入力を受信しない場合。

DSB AUX IN：データソリューションボックスのAUX IN端子を通じて受信する場合。

エコーキャンセラー

エコーキャンセラーを使用するかどうかを選びます。

内部： 本機内部のエコーキャンセラーを使用する場合。

オフ： 本機内部のエコーキャンセラーを使用しない場合。

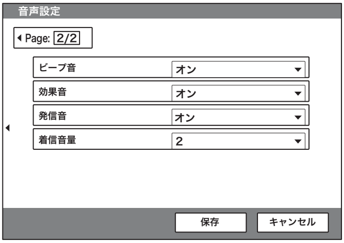
リップシンク

発言者の唇の動きと音声を同期させるリップシンク機能を使用するかどうかを選びます。

オン： リップシンク機能を使用する場合。

オフ： リップシンク機能を使用しない場合。

2 ページ目（Page 2/2）



ビープ音　オン
効果音　オン
発信音　オン
着信音量　2

ビープ音

リモコンのボタンを押したときに、ビープ音を出すかどうかを選びます。

オン： ビープ音を出す場合。

オフ： ビープ音を出さない場合。

効果音

ビデオ会議システム起動時や会議開始時または会議終了時に効果音を出力するかどうかを選びます。

オン：効果音を出力する場合。

オフ：効果音を出力しない場合。

発信音

発信時のリングバックトーンや話し中のビジートーンを出力するかどうかを選びます。

オン：リングバックトーンやビジートーンを出力する場合。

オフ：リングバックトーンやビジートーンを出力しない場合。

着信音量

着信時のリンガートーンを選びます。

リンガートーンを出力しない場合は「オフ」にします。

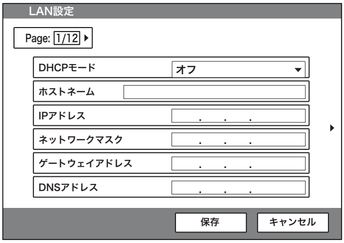
リンガートーンを出力する場合は音量を「1」（小）、「2」（中）、「3」（大）から選びます。

LAN 設定メニュー

LAN を使った会議をするときは、LAN 設定メニューを設定してください。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

1 ページ目 (Page 1/12)


LAN設定
Page: 1/12
ホストネーム
IPアドレス
ネットワークマスク
ゲートウェイアドレス
DNSアドレス
保存
キャンセル

DHCPモード: オフ

DHCP モード

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を使用するかどうかを設定します。

オート： IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。
LAN 接続後にランチャーメニューまたはインフォメーションメニューで IP アドレスを確認してください。

オフ： DHCP を「オフ」に設定します。
「オフ」にしたときは、IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

ホストネーム

ホスト名を 30 文字以内で入力します。

IP アドレス

IP アドレスを入力します。

ネットワークマスク

ネットワークマスクを入力します。

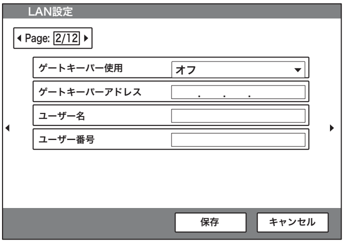
ゲートウェイアドレス

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS アドレス

DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

2 ページ目 (Page 2/12)


LAN設定
Page: 2/12
ゲートキーパーアドレス
ユーザー名
ユーザー番号
保存
キャンセル

ゲートキーパー使用: オフ

ゲートキーパー使用

アクセスをコントロールするゲートキーパーを使用するかどうかを設定します。ゲートキーパーを使用すると、IP アドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。
ゲートキーパーの登録状況が画面に表示されます。

オート： 自動的にゲートキーパーを探し、使用します。

オン： ゲートキーパーを使用します。

オフ： ゲートキーパーを使用しません。

ゲートキーパーアドレス

「ゲートキーパー使用」を「オン」にしたときに使用するゲートキーパーのアドレスを入力します。

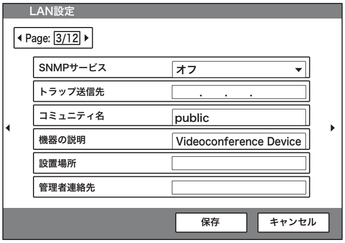
ユーザー名

ゲートキーパーに登録するユーザー名（H.323 エイリアス）を 30 文字以内で入力します。

ユーザー番号

ゲートキーパーに登録するユーザー番号（E.164 ナンバー）を 30 文字以内で入力します。

3 ページ目 (Page 3/12)



SNMPサービス　オフ
トラップ送信先　.　.　.
コミュニティ名　public
機器の説明　Videoconference Device
設置場所
管理者連絡先

SNMP サービス

SNM（Simple Network Management Protocol）エージェントのサービスを有効にするかどうかを設定します。

オン： SNMP エージェントのサービスを有効にします。

オフ： SNMP エージェントのサービスを無効にします。

トラップ送信先

トラップを送信する SNMP マネージャーのアドレスを入力します。

コミュニティ名

SNMP マネージャーが管理するコミュニティ名を 24 文字以内で入力します。デフォルトでは、「public」と入力されています。通常は変更する必要はありません。

機器の説明

この機器についての説明を入力します。デフォルトでは、「Videoconference Device」と入力されています。この項目は変更できません。

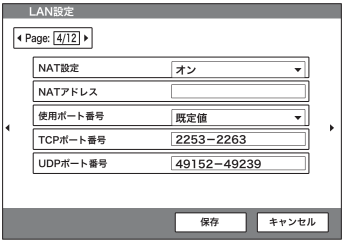
設置場所

この機器を設置している場所を 30 文字以内で入力します。

管理者連絡先

この機器の管理者についての情報を 30 文字以内で入力します。

4 ページ目 (Page 4/12)



NAT設定　オン
NATアドレス
使用ポート番号　既定値
TCPポート番号　2253−2263
UDPポート番号　49152−49239

NAT 設定

LAN 上の複数のパソコンがひとつの IP アドレスを共有できる NAT（Network Address Translation）を使用したネットワークに本機を接続するかどうかを選びます。

オン：NAT を使用したネットワークに接続している場合。この場合は、NAT アドレスを設定してください。

オフ：NAT を使用しないネットワークに接続している場合。

オート (UPnP)：NAT を使用しているかどうかを自動判別して設定を自動で行う場合。UPnP ルーターを使用している場合のみ有効です。

NAT アドレス

NAT が使用するグローバル側の IP アドレスを入力します。

使用ポート番号

TCP ポート番号と UDP ポート番号を固定するかどうかを選びます。

ユーザー設定： ユーザーが設定したポート番号を使用する場合。

既定値： デフォルトのポート番号を使用する場合。
TCP ポート番号 2253
UDP ポート番号 49152

TCP ポート番号

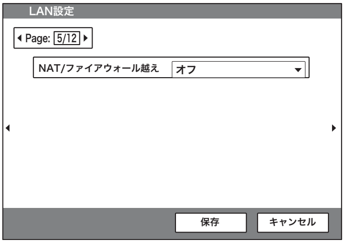
「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、TCP ポート番号を入力します。使用できるポート番号が表示されます。

UDP ポート番号

「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、UDP ポート番号を入力します。使用できるポート番号が表示されます。

◆使用ポート番号について詳しくは、「PCS-TL50 使用ポート番号一覧」（316 ページ）をご覧ください。

5 ページ目 (Page 5/12)



NAT/ファイアウォール越え　オフ

NAT ／ファイアウォール越え

H.460 を使用してファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うかどうかを選びます。

オン（H.460）： H.460 に準拠したファイアウォールを越える会議を行う場合。

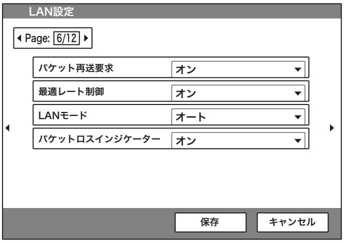
オフ： ファイアウォールを越える会議を行わない場合。

ご注意

この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

◆ゲートキーパーの設定について詳しくは、「LAN 設定メニュー」の 2 ページ目（63 ページ）をご覧ください。

6 ページ目 (Page 6/12)



パケット再送要求　オン
最適レート制御　オン
LANモード　オート
パケットロスインジケーター　オン

パケット再送要求

通信中にパケットをロスした場合に、再送要求するかどうかを選びます。

オン： パケット再送を要求します。

オフ： パケット再送を要求しません。

最適レート制御

LAN の使用帯域を常に最適化するかどうかを選びます。

オン： 最適化します。

オフ： 最適化しません。

ご注意

「パケット再送要求」を「オフ」にした場合のみ設定できます。「オン」にしたときは、「最適レート制御」は「オン」になります。

LAN モード

LAN 接続時のインターフェースのタイプと通信モードを選びます。

オート：インターフェースのタイプと通信モードを自動的に認識させる場合。

100Mbps Full Duplex：100BASE-TX、全二重モードで接続する場合。

100Mbps Half Duplex：100BASE-TX、半二重モードで接続する場合。

10Mpbs Full Duplex：10BASE-T、全二重モードで接続する場合。

10Mbps Half Duplex：10BASE-T、半二重モードで接続する場合。

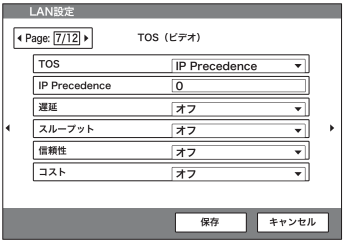
パケットロスインジケーター

ネットワークでパケットロスが生じた場合、「Packet Loss」インジケーターを画面上に表示するかどうかを選びます。

オン：パケットロスが生じた場合、画面上にインジケーターを表示します。

オフ：パケットロスが生じても画面上にインジケーターを表示しません。

7 ～ 10 ページ目（Page 7/12 ～ 10/12）



TOS：IP Precedence
IP Precedence：0
遅延：オフ
スループット：オフ
信頼性：オフ
コスト：オフ

7 ～ 10 ページ目の各ページで、データの種類ごとに TOS（Type of Service）Field の設定ができます。

7 ページ目：TOS（ビデオ）

映像データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

8 ページ目：TOS（オーディオ）

音声データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

9 ページ目：TOS（プレゼンテーション）

データソリューションボックスから出力される RGB データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

10 ページ目：TOS（カメラコントロール）

カメラコントロール信号の TOS（Type of Service）Field を設定します。

TOS

TOS Field の定義方法の選択をします。

オフ：TOS Field の定義をしない場合。

IP Precedence：TOS Field を IP Precedence に定義する場合。

Diffserve：TOS Field を Diffserve に定義する場合。

TOS Fieldごとに以下の設定ができます。データの種類により、設定できる項目が異なります。

IP Precedence

IP Precedence値（0～7）を入力します。

遅延

TOS FieldのLow Delayのビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS FieldのLow Delayのビットレートを指定する場合。

オフ：TOS FieldのLow Delayのビットレートを指定しない場合。

スループット

TOS FieldのHigh Throughputのビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS FieldのHigh Throughputのビットレートを指定する場合。

オフ：TOS FieldのHigh Throughputのビットレートを指定しない場合。

信頼性

TOS FieldのReliabilityのビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS FieldのReliabilityのビットレートを指定する場合。

オフ：TOS FieldのReliabilityのビットレートを指定しない場合。

コスト

TOS FieldのMinimum Costのビットレートを指定するかどうかを選択します。

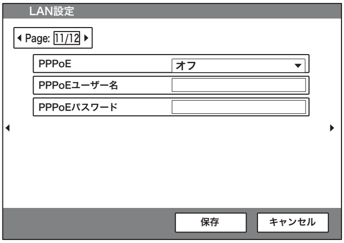
オン：TOS FieldのMinimum Costのビットレートを指定する場合。

オフ：TOS FieldのMinimum Costのビットレートを指定しない場合。

Diffserve値

Diffserve値（0～63）を入力します。

11ページ目（Page 11/12）


LAN設定

Page: 11/12

PPPoE: オフ

PPPoEユーザー名:

PPPoEパスワード:

PPPoE

PPPoEを使用してLAN接続するかどうかの選択をします。

PPPoEを使用すると、フレッツADSLまたはBフレッツ回線をルーターを接続せずに利用できます。

オン：PPPoEを使用してLAN接続をする場合。

オフ：PPPoEを使用しない場合。

ご注意

- PPPoEは、NTTのフレッツADSLおよびBフレッツサービスのみ動作保証を行っています。
- 「フレッツ」は、NTT東日本・NTT西日本のサービス名であり、登録商標です。
- 各ページの画面下部に、PPPoEの登録状況が表示されます。

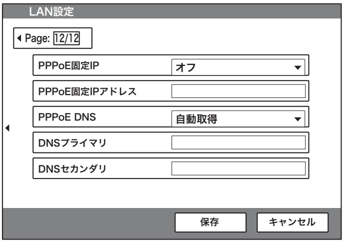
PPPoEユーザー名

PPPoEを使用してLAN接続するときのユーザー名を128文字以内で入力します。

PPPoE パスワード

PPPoE を使用して LAN 接続するときのパスワードを 128 文字以内で入力します。

12 ページ目（Page 12/12）



PPPoE固定IP　オフ

PPPoE固定IPアドレス

PPPoE DNS　自動取得

DNSプライマリ

DNSセカンダリ

PPPoE 固定 IP

固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続するかどうかの選択をします。

オン：固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続する場合。

オフ：固定 IP アドレスを使用しない場合。

PPPoE 固定 IP アドレス

「PPPoE 固定 IP」が「オン」のとき、固定 IP アドレスを入力します。

PPPoE DNS

PPPoE 接続する場合、DNS サーバーを自分で設定するか自動取得するかを選びます。

設定する：DNS サーバーを自分で設定する場合。

自動取得：DNS サーバーを自動取得する場合。

DNS プライマリ

DNS プライマリのアドレスを入力します。

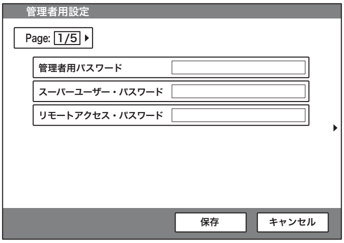
DNS セカンダリ

DNS セカンダリのアドレスを入力します。

管理者用設定メニュー

システムの管理者が使用するメニューです。このメニューでパスワードを設定すると、設定メニューやアドレス帳メニューの変更にパスワードが必要になります。また、管理者用設定メニューにアクセスするときも、このパスワードが必要になります。

1 ページ目 (Page 1/5)



管理者用パスワード

スーパーユーザー・パスワード

リモートアクセス・パスワード

管理者用パスワード

管理者用のパスワードを 10 文字以内で設定します。管理者は、設定メニュー（管理者用）とアドレス帳メニューを変更することができます。

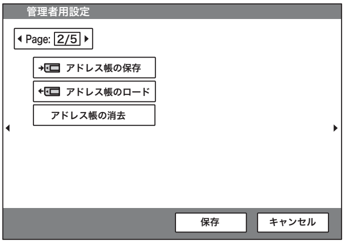
スーパーユーザー・パスワード

アドレス帳メニューを変更できるスーパーユーザー用のパスワードを 10 文字以内で設定します。

リモートアクセス・パスワード

Web からアクセスするときのパスワードを 10 文字以内で設定します。（管理者用とスーパーユーザー用のパスワードでもアクセスすることができます。）

2 ページ目 (Page 2/5)


管理者用設定
Page: 2/5
アドレス帳の保存
アドレス帳のロード
アドレス帳の消去
保存
キャンセル

アドレス帳の保存

アドレス帳メニューのデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”のデータは上書きされます。

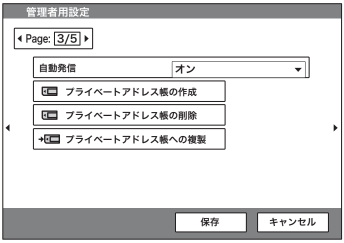
アドレス帳のロード

アドレス帳メニューのデータを“メモリースティック”からロードします。本体のアドレス帳メニューのデータは上書きされます。

アドレス帳の消去

本体のアドレス帳を消去します。

3 ページ目（Page 3/5）


管理者用設定
Page: 3/5
プライベートアドレス帳の作成
プライベートアドレス帳の削除
プライベートアドレス帳への複製
保存
キャンセル

自動発信　オン

自動発信

“メモリースティック”を挿入したときに、“メモリースティック”に作成したプライベートアドレス帳の指定したリストの相手に自動発信するかどうかを選びます。

オン：自動発信する場合。
オフ：自動発信しない場合。

プライベートアドレス帳の作成

“メモリースティック”に、空のプライベートアドレス帳のフォルダとファイルを作成します。

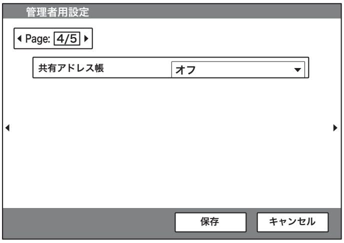
プライベートアドレス帳の削除

“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳を削除します。

プライベートアドレス帳への複製

本機に登録してあるアドレス帳のデータを“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳にコピーします。

4 ページ目（Page 4/5）


管理者用設定
Page: 4/5
保存
キャンセル

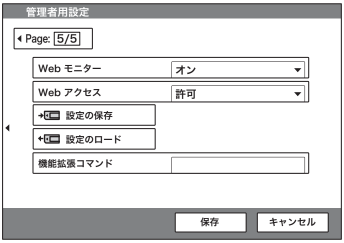
共有アドレス帳　オフ

共有アドレス帳

サーバー上にある共有アドレス帳を使用するかどうかを選びます。

オン：共有アドレス帳を使用する場合。
オフ：共有アドレス帳を使用しない場合。

5ページ目（Page 5/5）



Web モニター　オン

Web アクセス　許可

Web モニター

Web からの会議状態監視機能（JPEG 画像の自動更新）を許可するかどうかを選びます。

オン： Web からの会議状態監視機能を許可する場合。

オフ： Web からの会議状態監視機能を許可しない場合。

Web アクセス

Web や Telnet から本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。

禁止： Web や Telnet からのアクセスを許可しない場合。

許可： Web や Telnet からのアクセスを許可する場合。

設定の保存

各種設定データを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”の各種設定データは上書きされます。

ヒント

この機能を使って、定期的に各種設定データを保存することお勧めします。

ご注意

アドレス帳のデータは保存されません。

設定のロード

各種設定データを“メモリースティック”からロードします。本体の各種設定データは上書きされます。

ご注意

アドレス帳の保存およびロードは、元のデータを保存した端末とバージョンが同じ場合に使用してください。保存した端末とロードした端末のバージョンが異なる場合は、正常に認識されないことがあります。

機能拡張コマンド

IPELA VC Link サービス利用を開始するためのコマンドを入力します。

ご注意

IPELA VC Link サービスは、日本国内専用のサービスです。IPELA VC Link サービスに関しては、本機の販売会社へご確認ください。

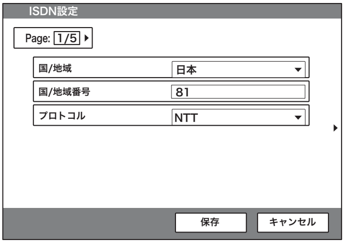
ISDN 設定メニュー

ISDN 回線の設定に関するメニューです。

ご注意

ISDN 設定メニューは、別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S を接続しているときのみ表示されます。

1 ページ目 (Page 1/5)



国/地域　日本
国/地域番号　81
プロトコル　NTT

国 / 地域

本機を使用する国や地域を選びます。（日本国内で使用する場合は、「日本」を選んでください。）

ヨーロッパ（フランス以外）/Europe、フランス /France、日本、アメリカ合衆国 /USA、中国、その他 /Other を選ぶことができます。

国 / 地域番号

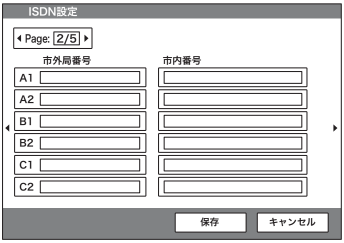
国番号や地域番号を入力します。

日本国内で使用する場合は、「81」と入力してください。（「国 / 地域」で「日本」を選ぶと、自動的に「81」と表示されます。）

プロトコル

使用する ISDN 回線のプロトコルを選びます。（日本国内で使用する場合は、「NTT」を選んでください。）

2 ページ目 (Page 2/5)



ISDN ユニットのポート番号と対応している欄に、市外局番号、市内番号をそれぞれ入力してください。

ISDN ユニットのポート番号と、入力欄の対応は以下のとおりです。

A1：ISDN ユニットのポート 1
A2：ISDN ユニットのポート 2
B1：ISDN ユニットのポート 3
B2：ISDN ユニットのポート 4
C1：ISDN ユニットのポート 5
C2：ISDN ユニットのポート 6

市外局番号

使用する ISDN 回線の市外局番号を 20 文字以内で入力します。市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

市内番号

使用する ISDN 回線の回線番号（市内番号）を 30 文字以内で入力します。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1 つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

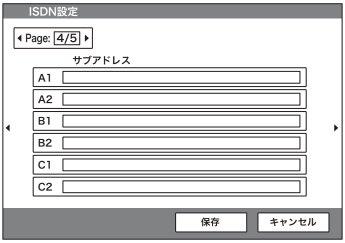
ご注意

次のページ（3 ページ目）に D1 ～ F2 欄が表示されます。使用する回線数に応じて、D1 ～ F2 欄にも入力してください。

（ISDN ユニット PCSA-B768S 使用時のみ）

4 ページ目 (Page 4/5)

A1 ～ C2 入力欄が表示されます。



サブアドレス

サブアドレスを登録する場合、サブアドレスを 30 文字以内で入力します。サブアドレスは数字のみ有効です。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1 つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

ご注意

次のページ（5 ページ目）に D1 ～ F2 欄が表示されます。使用する回線数に応じて、D1 ～ F2 欄にも入力してください。（ISDN ユニット PCSA-B768S 使用時のみ）

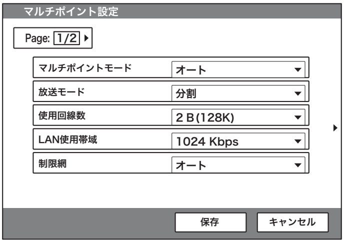
マルチポイント設定メニュー

多地点会議を行うときに設定します。

ご注意

マルチポイント設定メニューは、別売りの H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1 または H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 をインストールしているときのみ設定可能です。

1 ページ目 (Page 1/2)



マルチポイントモード　オート
放送モード　分割
使用回線数　2 B(128K)
LAN使用帯域　1024 Kbps
制限網　オート

マルチポイントモード

多地点会議を行うかどうかを選びます。

オン : 常に多地点会議を行います。

オート : 2 地点間の会議から多地点の会議に自動的に移行します。

放送モード

放送モードを選びます。

分割 : 接続している各端末の映像が分割された画面に映ります。

音声検出 : 会議に参加しているすべての端末の中で音量の一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末へ自動的に送信します。

使用回線数

多地点会議で 1 地点目の接続に使用する ISDN 回線のチャンネル数を選びます。

1B(64K): 1B チャンネルで接続するとき。

2B(128K): 2B チャンネルで接続するとき。

4B(256K): 4B チャンネルで接続するとき。

6B(384K): 6B チャンネルで接続するとき。

ご注意

- すでに接続されている ISDN 回線の本数により、2 地点目以降の接続に使用されるチャンネル数が変わります。
- 相手から呼び出された場合、相手側で設定したチャンネル数が本機で設定したチャンネル数より小さい場合は、相手側の設定が優先されます。

LAN 使用帯域

LAN を使って多地点会議をするときの帯域幅を選択します。

384 Kbps、512 Kbps、768 Kbps、1024 Kbps、1920 Kbps、その他を選択できます。

「その他」を選択すると 1 ～ 1920 Kbps を入力することができます。

制限網

発信時と着信時の ISDN 通信網速度を選びます。

オート : 通常の ISDN 回線を使用して、相手と接続する場合。

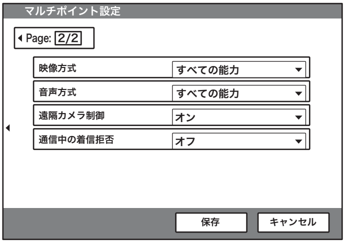
56K: ISDN 回線の通信速度が 56 Kbps の国や地域と接続する場合。

ご注意

出荷時の設定では ISDN 回線に 64 Kbps で接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDN の通信速度として 64 Kbps と 56 Kbps の 2 種類が使用されています。このような国、地域の相手と 64 Kbps で会議を開始しようとするとうまくつながらないことがあります。

この場合は、「制限網」を「56K」に切り換えてください。

2 ページ目 (Page 2/2)



映像方式　すべての能力
音声方式　すべての能力
遠隔カメラ制御　オン
通信中の着信拒否　オフ

映像方式

多地点会議時の映像の圧縮方式を選びます。

すべての能力 : 相手の映像方式に合わせる場合。

H.263: H.263 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261: H.261 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

SIP ビデオなし : SIP 接続時に、映像なし、音声のみで使用する場合。
回線種別が「SIP」以外のときは、「すべての能力」で動作します。

音声方式

多地点会議時の音声の圧縮方式を選びます。

すべての能力 : 相手の音声方式に合わせる場合。

G.722: G.722 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.728: G.728に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.711: G.711に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のビデオ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的にG.711方式に切り換わります。

遠隔カメラ制御

自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。

オン：双方のカメラを操作したい場合。通常はオンにしておきます。

オフ：相手側のカメラを操作しない場合。

通信中の着信拒否

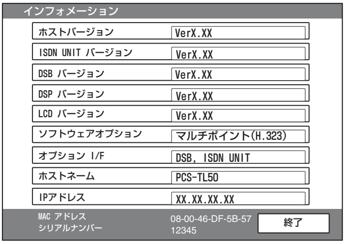
多地点会議中に他の端末からの呼び出しを受けたときに、接続するかどうかを選びます。

オン：接続しない場合。

オフ：接続する場合。

インフォメーションメニュー

本機のバージョンや接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを表示します。



ホストバージョン VerX.XX
ISDN UNIT バージョン VerX.XX
DSB バージョン VerX.XX
DSP バージョン VerX.XX
LCD バージョン VerX.XX
ソフトウェアオプション マルチポイント(H.323)
オプション I/F DSB, ISDN UNIT
ホストネーム PCS-TL50
IPアドレス XX.XX.XX.XX
MAC アドレス 08-00-46-DF-5B-57
シリアルナンバー 12345

ホストバージョン

本機のソフトウェアバージョンを表示します。

ISDN UNIT バージョン

接続されているISDNユニットのバージョンを表示します。

DSB バージョン

接続されているデータソリューションボックスPCSA-DSB1Sのバージョンを表示します。

DSP バージョン

内蔵の映像・音声コーデックDSP（Digital Signal Processor）のバージョンを表示します。

LCD バージョン

本機のディスプレイ部のバージョンを表示します。

ソフトウェアオプション

インストールされているオプションのソフトウェアの種類を表示します。

なし： ソフトウェアがインストールされていないとき。

マルチポイント（H.323）： H. 323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（LAN 用）がインストールされているとき。

マルチポイント（H.320）： H. 320 MCU ソフトウェア（ISDN 用）PCS-320M1 がインストールされているとき。

マルチポイント（H.320+H.323）： MCU ソフトウェア PCS-323M1 と PCS-320M1 が両方インストールされているとき。

SIP： SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされているとき。

マルチポイント（H.323）、SIP: MCU ソフトウェア PCS-323M1 と SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされているとき。

マルチポイント (H.320)、SIP: MCU ソフトウェア PCS-320M1 と SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされているとき。

マルチポイント (H.320+H.323)、SIP: MCU ソフトウェア PCS-323M1 と PCS-320M1、SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされているとき。

オプション I/F

接続されている別売り機器を表示します。

なし： 別売り機器が接続されていないとき。

ISDN UNIT： ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S が接続されているとき。

DSB： データソリューションボックス PCSA-DSB1S が接続されているとき。

ホストネーム

ホストネームを表示します。

IP アドレス

IP アドレスを表示します。

MAC アドレス

MAC アドレスを表示します。

シリアルナンバー

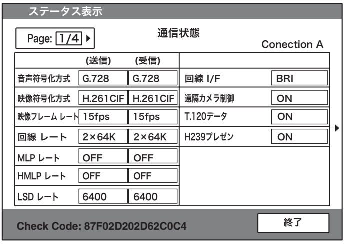
シリアル番号を表示します。

ステータス表示メニュー

現在の通信状態を表示します。
使用している回線インターフェースに応じ、ISDN回線状態、LAN回線状態、LAN通信状態も表示されます。

通信状態

接続されている地点ごとに1ページずつ表示されます。
接続地点は右上にConnection A、B、Cなどと表示され、その左側に端末名も表示されます。
送信欄と受信欄に分かれている項目では（送信）欄には、自分側が設定している状態が、（受信）欄には自分側が受信している状態が表示されます。



通信状態

Conection A

	(送信)	(受信)		
音声符号化方式	G.728	G.728	回線 I/F	BRI
映像符号化方式	H.261CIF	H.261CIF	遠隔カメラ制御	ON
映像フレーム レート	15fps	15fps	T.120データ	ON
回線 レート	2×64K	2×64K	H239プレゼン	ON
MLP レート	OFF	OFF		
HMLP レート	OFF	OFF		
LSD レート	6400	6400		

Check Code: 87F02D202D62C0C4

音声符号化方式

現在の音声符号化方式を表示します。

映像符号化方式

現在の映像符号化方式を表示します。

ご注意

実際の通信に使用される音声符号化方式と映像符号化方式は、接続先のビデオ会議システムの状態により、本機で設定した方式と異なる場合があります。

映像フレームレート

動画のフレームレートをリアルタイムで表示します。

回線レート

接続されている回線の数と通信中の伝送レートをリアルタイムで表示します。

MLPレート

MLPのデータ伝送レートを表示します。

HMLPレート

HMLPのデータ伝送レートを表示します。

LSDレート

LSD（Low Speed Data）のデータ伝送レートを表示します。

回線I/F

使用している回線インターフェースを表示します。

遠隔カメラ制御

双方のカメラを操作できる状態になっているかどうかを表示します。

T.120データ

T.120データ会議を行える状態になっているかどうかを表示します。

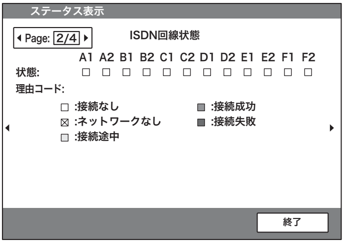
H239プレゼン

H.239に準拠したプレゼンテーション機能が使用できる状態になっているかどうかを表示します。

Check Code

H.235の標準暗号化方式を使用しているときに表示されます。

ISDN 回線状態

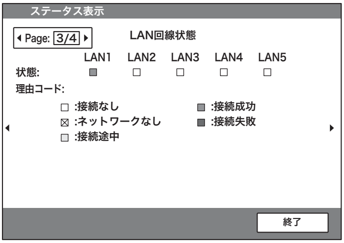

ステータス表示

Page: 2/4　ISDN回線状態

	A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E1	E2	F1	F2
状態:	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□
理由コード:												

□ :接続なし　■ :接続成功
☒ :ネットワークなし　■ :接続失敗
□ :接続途中

LAN 回線状態

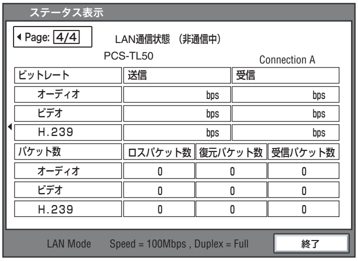

ステータス表示

Page: 3/4　LAN回線状態

	LAN1	LAN2	LAN3	LAN4	LAN5
状態:	■	□	□	□	□
理由コード:					

□ :接続なし　■ :接続成功
☒ :ネットワークなし　■ :接続失敗
□ :接続途中

LAN 通信状態


ステータス表示

Page: 4/4　LAN通信状態 （非通信中）

PCS-TL50　Connection A

ビットレート	送信	受信
オーディオ	bps	bps
ビデオ	bps	bps
H.239	bps	bps

パケット数	ロスパケット数	復元パケット数	受信パケット数
オーディオ	0	0	0
ビデオ	0	0	0
H.239	0	0	0

LAN Mode　Speed = 100Mbps , Duplex = Full

ビットレート—送信

送信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

ビットレート—受信

受信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数—ロスパケット数

相手からの伝送中にネットワーク上で欠落したパケット数が、オーディオ（音声）ビデオ（映像）、H.239（DSB）の種別ごとに表示されます。

パケット数—復元パケット数

ロスパケット数のうち本機の QoS 機能で復元されたパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（DSB）の種別ごとに表示されます。

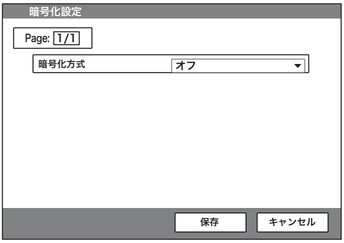
パケット数—受信パケット数

通信中に受信したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（DSB）の種別ごとに表示されます。

暗号化設定メニュー

暗号化機能を使った会議を行うときに設定します。
暗号化機能を使うと、機密性の高い会議を行うことが可能です。

◆暗号化機能を使った会議について詳しくは、6 章をご覧ください。



暗号化設定

Page: 1/1

暗号化方式　オフ

暗号化方式

使用する暗号化機能の方式を選びます。

標準方式：標準の暗号化方式を使用する場合。

独自方式：ソニー独自の暗号化方式を使用する場合。

オフ：暗号化機能を使用しない場合。

暗号化モード

「暗号化方式」で「標準方式」を選んだ場合に表示されます。

接続性優先：標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない相手とは暗号化せずに接続します。

暗号化優先：標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。

暗号化パスワード

「暗号化方式」で「独自方式」を選んだ場合に表示されます。
暗号化機能を使用して会議を行うときのパスワードを 13 ～ 20 文字で設定します。

ご注意

- 暗号化機能を持たない端末や、暗号化が「オフ」の端末、パスワードが異なる端末とは接続できません。
- 「暗号化方式」で「独自方式」を選んだ場合、ISDN 接続の端末には会議の内容が暗号化されないで接続されます。

SIP 設定メニュー

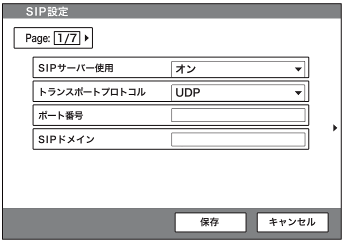
IP 電話などを接続し、SIP（Session Initiation Protocol）を利用して会議を行うときに設定します。

◆SIP を使用した会議について詳しくは、8 章をご覧ください。

ご注意

SIP 設定メニューは、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールしているときのみ設定可能です。

1 ページ目（Page 1/7）


SIP設定
Page: 1/7
ポート番号
SIPドメイン
保存
キャンセル

SIPサーバー使用　オン
トランスポートプロトコル　UDP

SIP サーバー使用

SIP サーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：SIP サーバーを使用する場合。

オフ：SIP サーバーを使用しない場合。

トランスポートプロトコル

SIP で使用するプロトコルを選択します。

TCP：TCP（Transmission Control Protocol）を使用する場合。

UDP：UDP（User Datagram Protocol）を使用する場合。

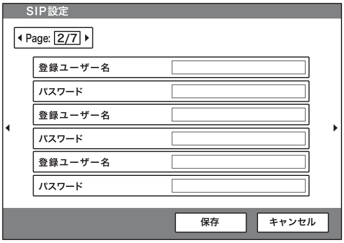
ポート番号

SIP で使用するポート番号を 11 文字以内で入力します。

SIP ドメイン

SIP ドメインの名前を 39 文字以内で入力します。

2 ページ目（Page 2/7）


SIP設定
Page: 2/7
登録ユーザー名
パスワード
登録ユーザー名
パスワード
登録ユーザー名
パスワード
保存
キャンセル

登録ユーザー名

SIP サーバーに登録する端末のユーザー名を入力します。

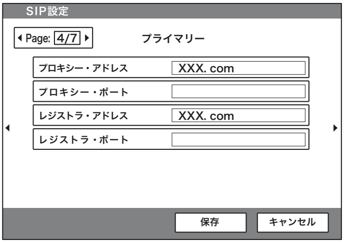
パスワード

SIP サーバーに登録する端末のパスワードを入力します。

ご注意

H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 がインストールされている端末では、多地点会議を行うすべての端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力してください。端末が 4 つ以上ある場合は 3 ページ目に設定できます。

4～7ページ目（Page 4/7 – 7/7）



プライマリー

プロキシー・アドレス XXX. com

プロキシー・ポート

レジストラ・アドレス XXX. com

レジストラ・ポート

4つのプロキシサーバー、レジストラサーバーに接続できます。サーバーごとにアドレスとポート番号を入力します。
4ページ目から7ページ目の各ページに、1番目から4番目までのサーバーが順番に表示されます。

4ページ目：プライマリー

5ページ目：セカンダリー

6ページ目：トリニティー

7ページ目：フォース

サーバーごとに以下の設定ができます。

プロキシー・アドレス

SIPで使用するプロキシサーバーのドメイン名を39文字以内で入力します。

プロキシー・ポート

SIPで使用するプロキシサーバーのポート番号を11文字以内で入力します。

レジストラ・アドレス

SIPで使用するレジストラサーバーのドメイン名を39文字以内で入力します。

レジストラ・ポート

SIPで使用するレジストラサーバーのポート番号を11文字以内で入力します。

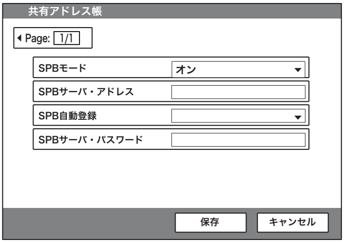
共有アドレス帳設定メニュー

サーバー上にある共有アドレス帳を使用する場合に設定します。

◆共有アドレス帳について詳しくは、「共有アドレス帳を使用する」（89ページ）をご覧ください。

ご注意

共有アドレス帳設定メニューは、管理者用設定メニューの「共有アドレス帳」を「オン」に設定しているときのみ設定可能です。



SPBモード　オン
SPBサーバ・アドレス
SPB自動登録
SPBサーバ・パスワード

SPB モード

共有アドレス帳を管理するサーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用する場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用しない場合。

管理サーバ・アドレス

共有アドレス帳を管理するサーバーのIP アドレスを入力します。

SPB 自動登録

共有アドレス帳を管理するサーバーへ端末情報の登録を自動で行うかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行う場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行わない場合。

SPB サーバ・パスワード

共有アドレス帳を管理するサーバーのパスワードを入力します。

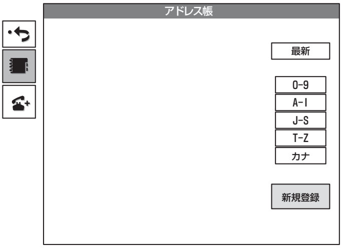
会議の相手をアドレス帳に登録する

アドレス帳に相手の電話番号やIPアドレスなどを登録しておくと、簡単にダイヤルすることができます。本機のアドレス帳には500件までの相手を登録できます。各リストに静止画（相手の写真など）を登録しておくこともできます。
また、本機のアドレス帳とは別に、“メモリースティック”にプライベートアドレス帳を作ることもできます。

新しい相手を登録する

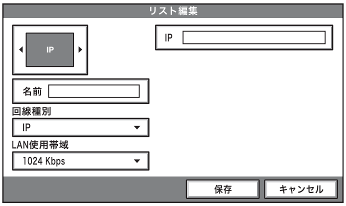
1 リモコンの↓/↑/←/→ボタンを押してランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。



2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「新規登録」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。



IP

名前

回線種別 IP

LAN使用帯域 1024 Kbps

3 名前欄に、相手の名前を39文字以内で入力する。

◆入力のしかたは、「文字や数字を入力する」（48ページ）をご覧ください。

4 「回線種別」で回線インターフェースを設定する。

IP: LANを使ってビデオ会議システムと接続する場合。

ISDN: 通常のISDN回線でビデオ会議システムと接続する場合。

音声電話： 通常のISDN回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

マルチポイント： LANやISDN回線を使って多地点（マルチポイント）接続をする場合。

SIP： SIPを使ってIP電話などと接続する場合。

選んだ回線インターフェースによって、リスト編集画面が切り替わります。

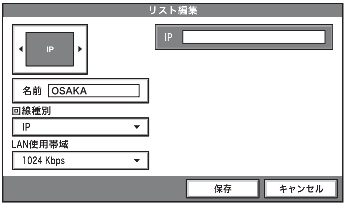
ご注意

「回線種別」に表示される回線インターフェース名は本機にインストールされているソフトウェアによって異なります。

マルチポイント接続については7章、SIPについては8章をご覧ください。

5 相手の回線の情報を設定32文字以内でする。

手順4で「IP」を選んだとき



IP

名前 OSAKA

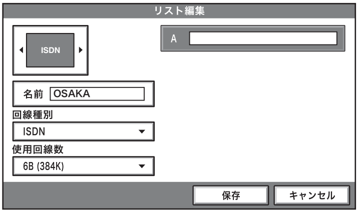
回線種別 IP

LAN使用帯域 1024 Kbps

① IPアドレス入力欄に相手のIPアドレスを入力する。
DNSサーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時は相手側のLAN設定メニューに登録してあるユーザー名やユーザー番号（64ページ）を入力してください。

② LAN使用帯域を選択する。

手順4で「ISDN」または「音声電話」を選んだとき



ISDN

名前 OSAKA

回線種別 ISDN

使用回線数 6B (384K)

① 回線番号Aの入力欄に相手の回線番号を入力する。
サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「*（アスタリスク）」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。
発信設定メニューの「詳細設定」（55ページ）を「オン」に設定しているとき、回線番号欄はA1、A2、B1、B2、C1、C2の6つ現れます。相手のISDN回線番号はA1欄に入力してください。

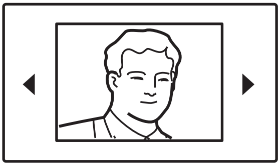
② 発信時に使用するISDN回線のチャンネル数を選択する。

ご注意

ボンディング機能を使用しない場合は、A1欄以外にも入力する必要があります。

◆詳しくは、「ボンディング機能を使わないで接続するには」（84ページ）をご覧ください。

6 アドレス帳に表示する回線種別アイコン、“メモリースティック”の静止画、または通信中に自動キャプチャーされた静止画を選び決定ボタンを押す。



リモコンの◆または◆ボタンを押して、アイコンまたは静止画を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

静止画が保存されている“メモリースティック”が本機に挿入されていない

ときは、前回の通信で自動キャプチャーされた静止画のみが選択できます。

◆静止画の自動キャプチャーについて詳しくは「自動的に相手側の映像を保存する―自動静止画キャプチャー機能」（161 ページ）をご覧ください。

7 リモコンの ↑/↓/←/→ で「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定した内容が登録されます。

ボンディング機能を使わないで接続するには

相手のビデオ会議装置がボンディング機能を持っていないとき、相手のISDN 回線番号を 1 つだけ入力したのでは、複数の使用回線数分を接続できません。
このような場合など、相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続したいときは、ボンディング機能を使用しないで接続することができます。
発信設定メニューの詳細設定（55 ページ）を「オン」にし、リスト編集メニュー下部の「詳細設定」から発信設定メニューを表示し、ボンディングを「オート」にしてください。リスト編集メニューに回線番号欄 A1、A2、B1、B2、C1、C2 が現れますので、「使用回線数」で選んだ回線数分の相手のISDN 回線番号を入力してください。
相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続できるのは、使用回線数最大 6B までです。

ヒント

使用回線が 2B のときは、詳細ダイヤルメニューから回線種別で「ISDN (2B)」を選んで接続することもできます。

発信の詳細を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、リスト編集メニュー下部に詳細設定ボタンが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「詳細設定」を選び、決定ボタンを押すと、発信設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

ご注意

リスト編集メニューの「詳細設定」で設定した内容は発信設定メニューで設定した内容よりも優先されます。

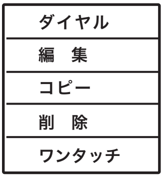
アドレス帳を修正する

アドレス帳に登録してある電話番号やIPアドレス、名前、設定を修正することができます。

1　アドレス帳メニューを表示する。

2　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して修正したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3　リモコンの↑/↓ボタンを押して「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。

4　電話番号やIPアドレス、名前、設定を修正する。

5　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

登録内容の修正が完了します。

登録した相手を削除する

アドレス帳に登録してある相手を削除するときは、次のように操作します。

1　アドレス帳メニューを表示する。

2　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して削除したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3　リモコンの↑/↓ボタンを押して「削除」を選び、決定ボタンを押す。

「リストを削除しますか?」という確認のメッセージが表示されます。

4　リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手が削除されます。

削除を中止するときは

手順4で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

削除した相手がワンタッチダイヤルに登録されている場合、ワンタッチダイヤルからも削除されます。

アドレス帳の登録相手をすべて消去する

管理者用設定メニューの2ページ目の「アドレス帳の消去」を選びます。

アドレス帳の設定をコピーする

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押してコピーしたい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「コピー」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手がコピーされ、元のファイル名のうしろに「-2」が追加されます。設定はすでにコピーされているので、変更したい項目だけ修正して使用することができます。

ご注意

ワンタッチダイヤルの情報はコピーされません。

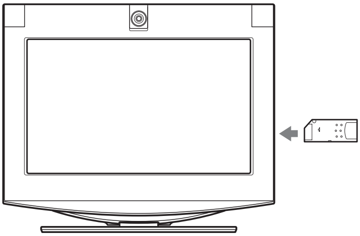
プライベートアドレス帳を作成する

“メモリースティック”に自分専用のアドレス帳（プライベートアドレス帳）を作成することができます。一度作成すると、本機に“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に切り換わります。また、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの1つに自動発信させることもできます。

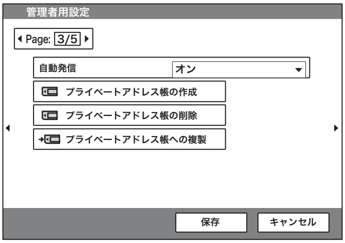
プライベートアドレス帳に相手を登録するには

1 プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の裏側を手前に、上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



2 管理者用設定メニューの３ページ目を表示する。


管理者用設定
Page: 3/5
プライベートアドレス帳の作成
プライベートアドレス帳の削除
プライベートアドレス帳への複製
保存
キャンセル

自動発信　オン

◆メニューの表示のしかたは、「設定メニューを表示する」（50 ページ）をご覧ください。

3 「プライベートアドレス帳の作成」を選ぶ。

画面に「プライベートアドレス帳を作成しますか？」とメッセージが表示されます。

4 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。

“メモリースティック”に空の「プライベートアドレス帳」フォルダと空のファイルが作成され、「プライベートアドレス帳の使用を開始します。」とメッセージが表示されます。

5 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

管理者用設定画面に戻ります。

6 リモコンの戻るボタンを押してランチャーメニューに戻り、↑/↓/←/→ ボタンでアドレス帳を選び、決定ボタンを押す。

プライベートアドレス帳メニューが画面に表示されます。

7 相手を新規登録する。

登録のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。「新しい相手を登録する」（82 ページ）の手順 2 ～ 7 をご覧ください。

プライベートアドレス帳の修正のしかたや、プライベートアドレス帳に登録した相手を削除したり、アドレス帳の設定をコピーしたりする方法も、本体のアドレス帳の場合と同じです。プライベートアドレス帳を画面に表示した状態で、85 ページの操作をしてください。

本体のアドレス帳をプライベートアドレス帳として複製するには

プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込みます。管理者用設定メニューの３ページ目を表示し、「プライベートアドレス帳への複製」を選び、決定ボタンを押します。「本体のアドレス帳をプライベートアドレス帳に複製しますか？」とメッセージが表示されます。「OK」を選び決定ボタンを押すと、本体に登録されているアドレス帳が“メモリースティック”に複製されます。

“メモリースティック”からプライベートアドレス帳を削除するには

削除したいプライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込みます。管理者用設定メニューの３ページ目を表示し、「プライベートアド

レス帳の削除」を選び、決定ボタンを押します。「プライベートアドレス帳を削除しますか？」とメッセージが表示されます。「OK」を選び決定ボタンを押すと、プライベートアドレス帳が“メモリースティック”から削除されます。

プライベートアドレス帳のリストの1つに自動発信するには

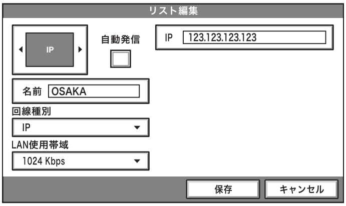
管理者設定メニューで「自動発信」を「オン」にしておくと、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの1つに自動的に発信できます。

1 プライベートアドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して自動発信したい相手を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの↑/↓ボタンを押して「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。

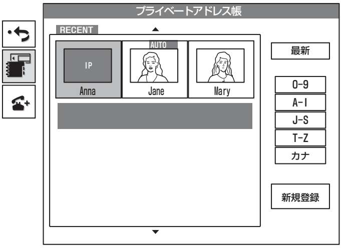

リスト編集
IP
保存
キャンセル

自動発信 □
IP 123.123.123.123
名前 OSAKA
回線種別 IP
LAN使用帯域 1024 Kbps

4 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「自動発信」を選び、決定ボタンを押す。ドロップダウンリストから「オン」を選び決定ボタンを押す。

5 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定が登録され、プライベートアドレス帳メニューのリストに「AUTO」と表示されます。


プライベートアドレス帳
RECENT
IP
AUTO
Anna
Jane
Mary
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

プライベートアドレス帳の使用をやめるには

プライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”を本体から取り出します。アドレスメニューは、本体のアドレス帳の表示に戻ります。

共有アドレス帳を使用する

共有アドレス帳機能を使用することで、サーバー上にあるアドレス帳を複数台のソニー製ビデオコミュニケーションシステムで使用できるようになります。

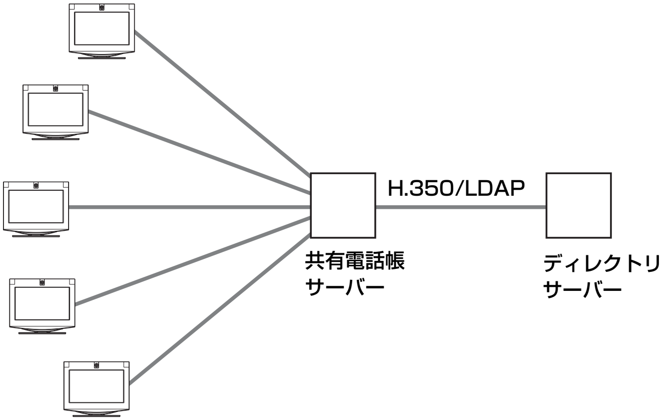
◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

ご注意

- 共有アドレス帳に登録された相手には通常のアドレス帳と同様に発信ができますが、相手の回線種別がマルチポイントの場合は発信できません。
- 共有アドレス帳へのリスト登録、変更、削除、および画像の貼り付けはできません。
  また、共有アドレス帳に登録された相手をプライベートアドレス帳にコピーすることはできません。

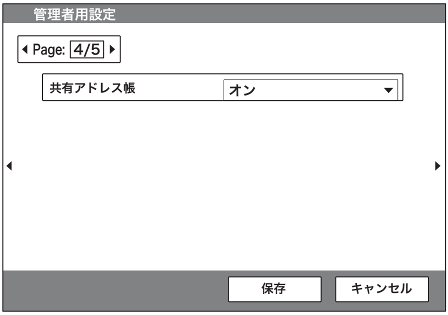
システム構成例

このシステム構成では、H.350 を使用したアドレス帳共有が可能になります。



共有アドレス帳を使用するには

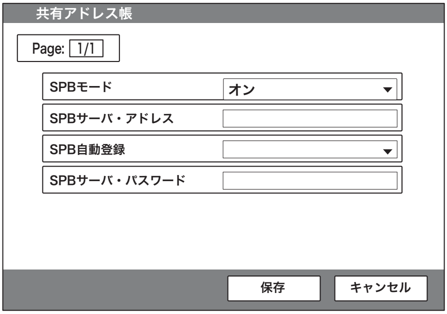
1 **管理者用設定メニューの４ページ目で「共有アドレス帳」を「オン」にする。**


管理者用設定
Page: 4/5
保存
キャンセル

共有アドレス帳　オン

設定メニュー（管理者用）画面に「共有アドレス帳」ボタンが表示され、共有アドレス帳設定ができるようになります。

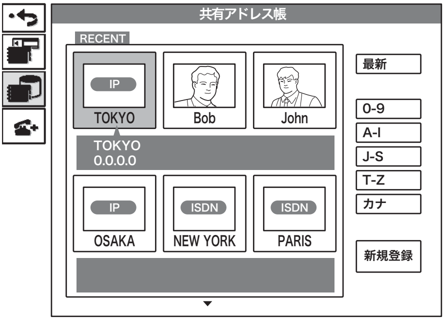
2 **共有アドレス帳設定メニューで、「SPB モード」を「オン」にし、「SPB サーバ・アドレス」、「SPB サーバ・パスワード」にそれぞれ適切な値を入力する。**


共有アドレス帳
Page: 1/1
SPBサーバ・アドレス
SPB自動登録
SPBサーバ・パスワード
保存
キャンセル

SPBモード　オン

共有アドレス帳を表示する

アドレス帳メニュー左端のメニュータブから を選ぶと、共有アドレス帳メニューに切り換わります。


共有アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
TOKYO
0.0.0.0
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

共有アドレス帳からアドレス帳またはプライベートアドレス帳に切り換えるには、メニュータブからそれぞれのアイコンを選びます。

◆共有アドレス帳に登録された相手への発信方法は、アドレス帳と同様です。発信方法について詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（117 ページ）をご覧ください。

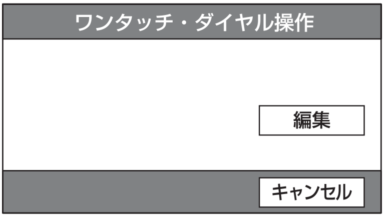
会議の相手をワンタッチダイヤルに登録する

ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストに会議の相手を登録しておくと、リモコンのワンタッチダイヤルボタンを使って、簡単に会議の相手を選ぶことができます。
ワンタッチダイヤルの登録のしかたには、ランチャーメニューから登録する方法と、アドレス帳から登録する方法があります。

ランチャーメニューからワンタッチダイヤルを登録する

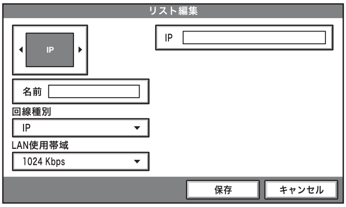
1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ランチャーメニュー上で相手を登録したいワンタッチダイヤルを選び、決定ボタンを押す。

ワンタッチ・ダイヤル操作メニューが表示されます。



2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。



回線種別
IP
LAN使用帯域
1024 Kbps

名前、回線種別、回線情報、静止画を設定する。
リスト編集メニューの設定のしかたは、アドレス帳の登録の場合と同じです。
「新しい相手を登録する」（82ページ）の手順3～6をご覧ください。

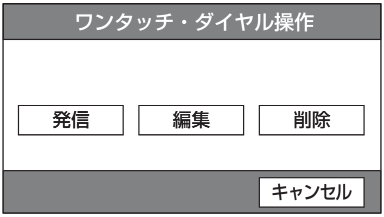
3 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。
これで、設定した内容がランチャーメニューのワンタッチダイヤルとアドレス帳へ同時に登録されます。

ランチャーメニューからワンタッチダイヤルの登録内容を修正するには

1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ランチャーメニュー上で登録内容を変更したいワンタッチダイヤルを選び、決定ボタンを押す。

ワンタッチ・ダイヤル操作メニューが表示されます。


ワンタッチ・ダイヤル操作
発信
編集
削除
キャンセル

2 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「編集」を選び、決定ボタンを押す。**

リスト編集メニューが表示されます。

3 **リスト編集メニューで登録内容を変更し、「保存」を選びます。**

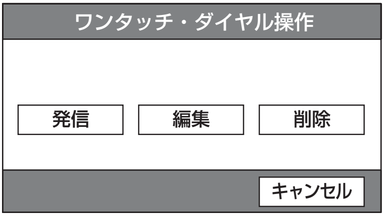
ランチャーメニューの表示に戻ります。

これで、ランチャーメニューのワンタッチダイヤルの登録内容とアドレス帳の登録内容が同時に修正されます。

ランチャーメニューからワンタッチダイヤルの登録を削除するには

1 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ランチャーメニュー上で登録を削除したいワンタッチダイヤルを選び、決定ボタンを押す。**

ワンタッチ・ダイヤル操作メニューが表示されます。


ワンタッチ・ダイヤル操作
発信
編集
削除
キャンセル

2 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「削除」を選び、決定ボタンを押す。**

ランチャーメニューに戻り、削除されたワンタッチダイヤルがグレーで表示されます。

ご注意

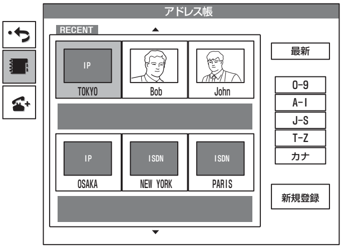
ワンタッチダイヤルの登録を削除しても、アドレス帳の登録内容は削除されません。

アドレス帳からワンタッチダイヤルを登録する

アドレス帳に登録した中から選んで30件までをワンタッチダイヤルに登録できます。
7件以上を登録するときは一般設定メニューの「ワンタッチ表示数」（58ページ）を「30」に設定してください。

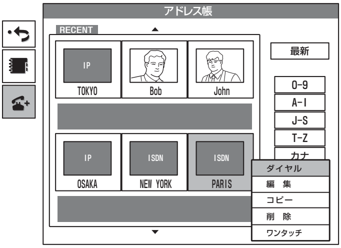
1 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。**

アドレス帳メニューが表示されます。


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

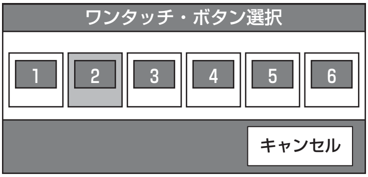
2 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ワンタッチダイヤルリストに登録したい相手を選び、決定ボタンを押す。**

サブメニューが表示されます。


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
ダイヤル
編　集
コピー
削　除
ワンタッチ

3 **リモコンの↑/↓ボタンを押して、「ワンタッチ」を選び、決定ボタンを押す。**

ワンタッチ・ボタン選択メニューが表示されます。

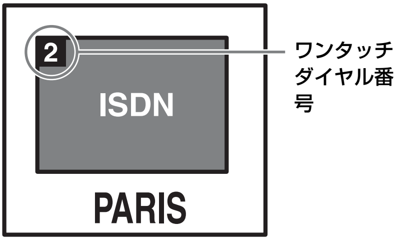

ワンタッチ・ボタン選択
1
2
3
4
5
6
キャンセル

グレーの番号には、すでに他の相手が登録されています。白の番号は未使用です。

4 **リモコンの←/→ボタンを押して、登録したいワンタッチダイヤル番号を選択し（黄色にする）、決定ボタンを押す。**

ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストに選んだ相手が登録されます。

登録が終わると、アドレス帳の上にワンタッチダイヤル番号が表示されます。

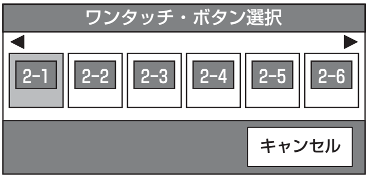

2
ISDN
PARIS
ワンタッチダイヤル番号

手順1から4を繰り返して、30件まで登録できます。

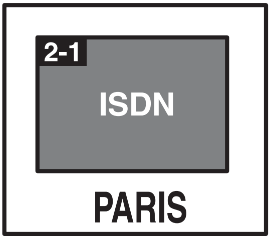
7件以上登録するには

「ワンタッチ表示数」を「30」に設定してあると、ワンタッチ・ボタン選択メニューは次のように表示されます。たとえば、2-1は、グループ2のボタン1を表します。

前のグループや次のグループのボタンを表示するには、リモコンの←/→ボタンを押して一番左、または一番右までカーソルを移動し、さらに←/→ボタンを押します。


ワンタッチ・ボタン選択
◀
▶
2-1
2-2
2-3
2-4
2-5
2-6
キャンセル

登録が終わると、アドレス帳の上にワンタッチダイヤル番号が次のように表示されます。


2-1
ISDN
PARIS

アドレス帳からワンタッチダイヤルの登録内容を修正するには

アドレス帳の登録内容を修正すると、アドレス帳から登録したワンタッチダイヤルの登録内容も自動的に修正されます。

アドレス帳の修正のしかたは、「アドレス帳を修正する」（85ページ）をご覧ください。

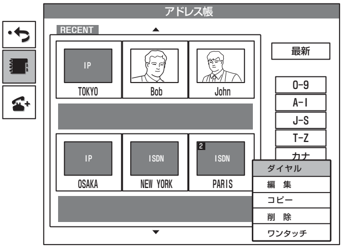
アドレス帳からワンタッチダイヤルの登録を削除するには

1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、ランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

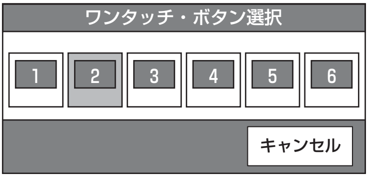
2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、登録を削除したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

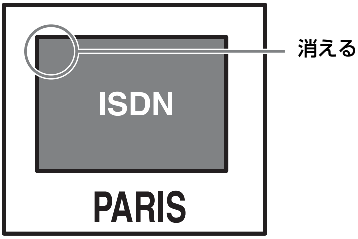

アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
2
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
ダイヤル
編 集
コピー
削 除
ワンタッチ

3 リモコンの↑/↓ボタンを押して、「ワンタッチ」を選び、決定ボタンを押す。

現在、登録されている番号が選択されます。


ワンタッチ・ボタン選択
1
2
3
4
5
6
キャンセル

4 **決定ボタンを押す。**



選んだ相手がワンタッチダイヤルボタンから削除され、ワンタッチダイヤル番号が消えます。

プライベートワンタッチダイヤルを登録する

“メモリースティック”に保存したプライベートアドレス帳の相手をワンタッチダイヤルに登録することもできます。いったん登録すれば、“メモリースティック”を本機に挿入するだけでランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストがプライベートアドレス帳から登録されたワンタッチダイヤルの内容に切り換わります。

ワンタッチダイヤルの登録や、削除、編集のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。94 ページ～ 96 ページをご覧ください。
最大 30 件まで登録できます。

ネットワーク構成ごとの設定方法

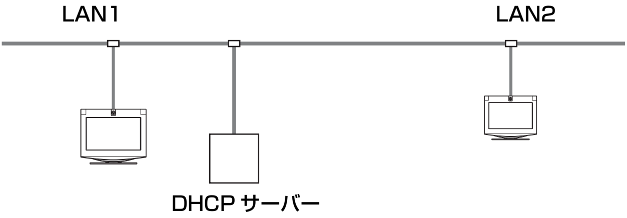
ここでは、さまざまなネットワークで使用する際の本機の設定方法を、使用するネットワーク構成ごとに説明します。

◆ LAN 設定メニューについて詳しくは、「LAN 設定メニュー」（63 ページ）をご覧ください。

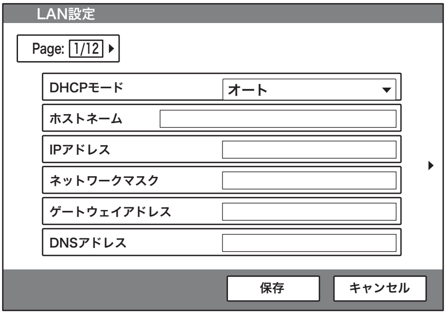
◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

LAN（DHCP を介しての接続）

構成例


LAN1
LAN2
DHCP サーバー

LAN 設定メニュー 1 ページ目で「DHCP モード」を「オート」にします。


LAN設定
Page: 1/12
保存
キャンセル

DHCPモード	オート
ホストネーム	
IPアドレス	
ネットワークマスク	
ゲートウェイアドレス	
DNSアドレス	

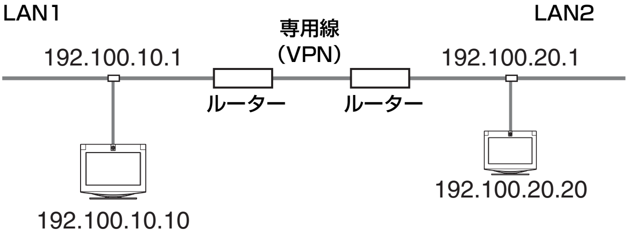
IP アドレスがランチャーメニュー左上に表示されていれば、正しく設定できています。

ビデオ会議を行うには

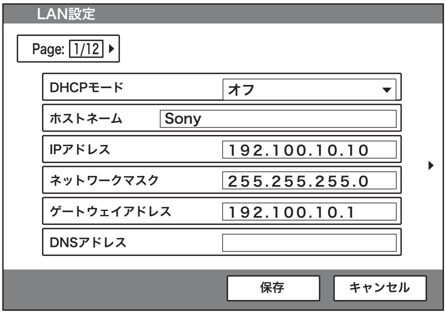
「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN（ルーターを介しての接続）

構成例


LAN1
LAN2
専用線
（VPN）
192.100.10.1
192.100.20.1
ルーター
ルーター
192.100.10.10
192.100.20.20

LAN 設定メニューの 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力します。


LAN設定
Page: 1/12
保存
キャンセル

DHCPモード	オフ
ホストネーム	Sony
IPアドレス	192.100.10.10
ネットワークマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.100.10.1
DNSアドレス	

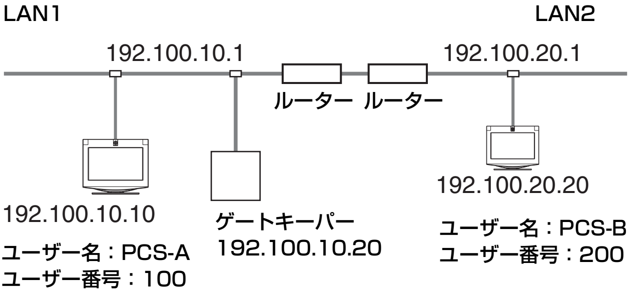
設定した IP アドレスが、ランチャーメニュー左上に表示されていれば、正しく設定できています。

ビデオ会議を行うには

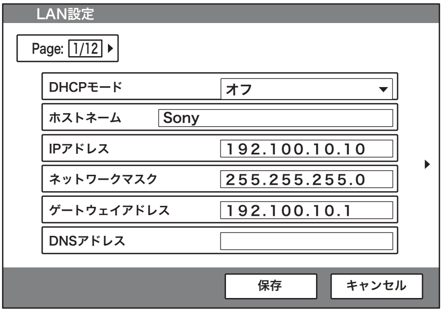
「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN（ゲートキーパーを介しての接続）

構成例

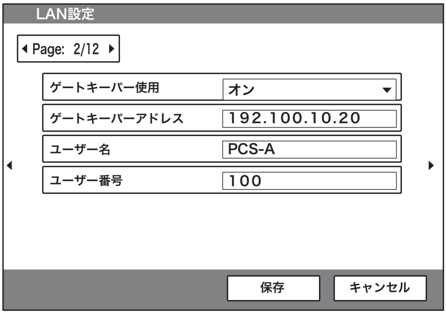

LAN1
LAN2
192.100.10.1
192.100.20.1
ルーター
ルーター
192.100.10.10
ユーザー名：PCS-A
ユーザー番号：100
ゲートキーパー
192.100.10.20
192.100.20.20
ユーザー名：PCS-B
ユーザー番号：200

1 LAN 設定メニューの 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。


LAN設定
Page: 1/12
保存
キャンセル

DHCPモード　オフ
ホストネーム　Sony
IPアドレス　192.100.10.10
ネットワークマスク　255.255.255.0
ゲートウェイアドレス　192.100.10.1
DNSアドレス

2 LAN 設定メニューの 2 ページ目で、「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」、「ユーザー名」、「ユーザー番号」にそれぞれ適切な値を入力する。


LAN設定

Page: 2/12

ゲートキーパー使用: オン

ゲートキーパーアドレス: 192.100.10.20

ユーザー名: PCS-A

ユーザー番号: 100

設定したIPアドレスがランチャーメニュー左上に表示され、LAN設定メニューの2ページ目下段に「ゲートキーパー：登録成功」と表示されていれば、正しく設定できています。

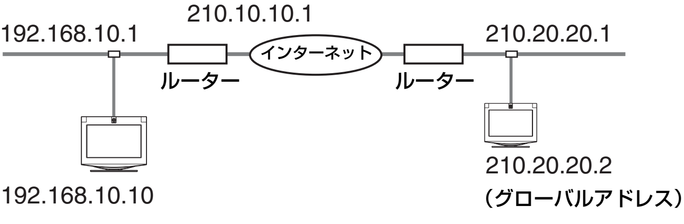
ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側で設定した「ユーザー名」または「ユーザー番号」を入力して、ダイヤルします。

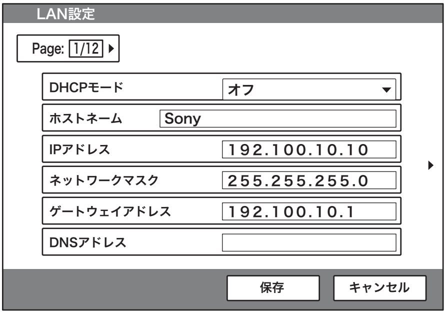
LAN（NAT環境での接続）

NATを使用すると、LAN上の複数のコンピューターが1つのIPアドレスを共有できます。ここでは、NAT環境とグローバルIP環境とのビデオ会議のための設定を説明します。

構成例

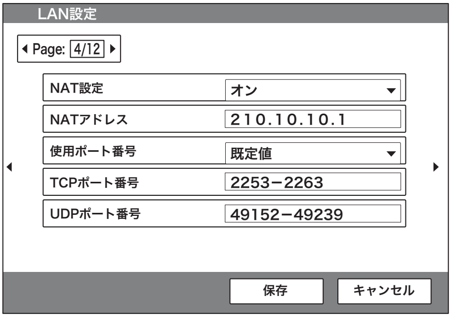

210.10.10.1
192.168.10.1
インターネット
210.20.20.1
ルーター
ルーター
210.20.20.2
（グローバルアドレス）
192.168.10.10

1 **LAN 設定メニューの 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。**



DHCPモード	オフ
ホストネーム	Sony
IPアドレス	192.100.10.10
ネットワークマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.100.10.1
DNSアドレス	

2 **LAN 設定メニューの 4 ページ目で、「NAT 設定」を「オン」、「NAT アドレス」に適切な値を入力する。**



NAT設定	オン
NATアドレス	210.10.10.1
使用ポート番号	既定値
TCPポート番号	2253−2263
UDPポート番号	49152−49239

ランチャーメニューの左上に、設定した NAT アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。
ランチャーメニューに NAT アドレスを表示させるには、一般設定メニューの 4 ページ目（60 ページ）の「番号表示」を、「NAT：アドレス」に設定する必要があります。

3 **相手側で、LAN 設定メニューの 1 ページ目を同様に設定する。**

ご注意

相手側は NAT 環境ではないので、LAN 設定メニューの「NAT 設定」や「NAT アドレス」を設定する必要はありません。

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

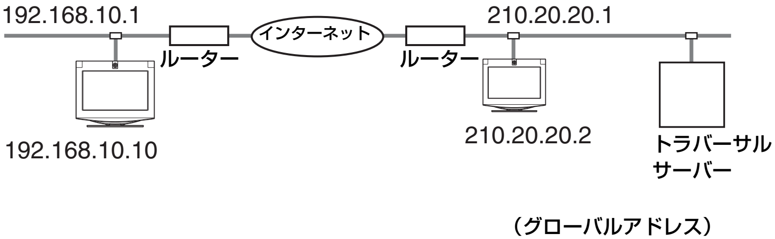
ご注意

NAT 環境で本機を使用する場合、本機から相手側（グローバル IP）への発信は可能ですが、相手側から本機への発信はルーターの設定を行う必要があります。ルーターの設定について詳しくは、ネットワーク担当者などにご相談ください。

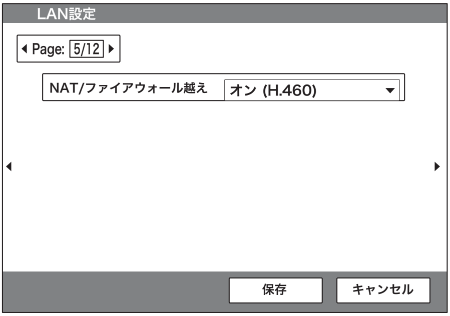
LAN（H.460）を使用したファイアウォール越えでの接続

H.460 を使用すると、ファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うことができます。

構成例


192.168.10.1
ルーター
インターネット
ルーター
210.20.20.1
192.168.10.10
210.20.20.2
トラバーサル
サーバー
（グローバルアドレス）

1 **LAN 設定メニューの５ページ目で「NAT/ ファイアウォール越え」を「オン（H.460）」に設定する。**


LAN設定

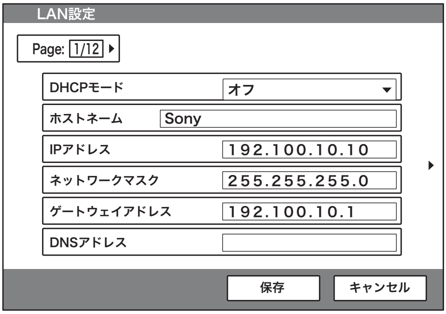
Page: 5/12

NAT/ファイアウォール越え　オン (H.460)

ご注意

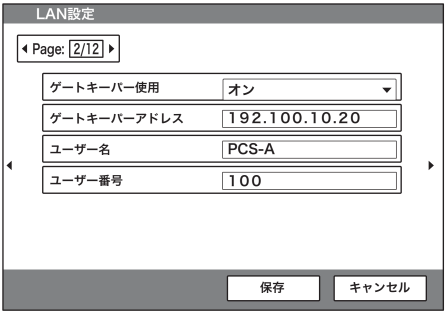
この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

2 LAN 設定メニューの 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。



DHCPモード	オフ
ホストネーム	Sony
IPアドレス	192.100.10.10
ネットワークマスク	255.255.255.0
ゲートウェイアドレス	192.100.10.1
DNSアドレス	

3 LAN 設定メニューの 2 ページ目で、「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」に適切な値を入力する。



ゲートキーパー使用	オン
ゲートキーパーアドレス	192.100.10.20
ユーザー名	PCS-A
ユーザー番号	100

設定した IP アドレスがランチャーメニュー左上に表示され、LAN 設定メニューの 2 ページ目下段に「ゲートキーパー：登録成功」と表示されていれば、正しく設定できています。

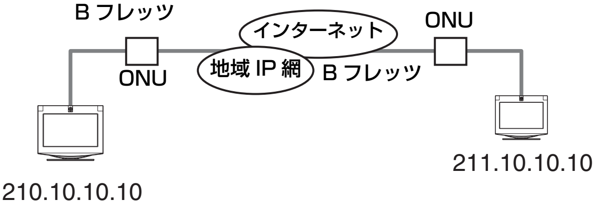
ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

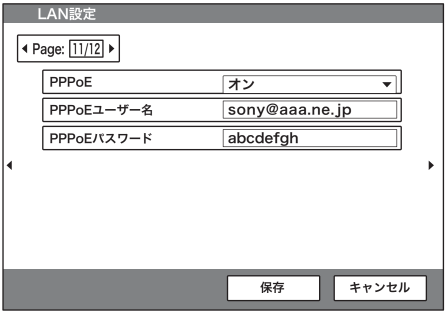
LAN（PPPoE による接続）

PPPoE を使用すると、ルーターを使用せずに、フレッツ ADSL またはＢフレッツを利用できます。
フレッツ ADSL の場合、モデム（ブリッジモードで使用）が必要になります。

構成例


Ｂフレッツ
インターネット
ONU
地域 IP 網
ONU
Ｂフレッツ
211.10.10.10
210.10.10.10

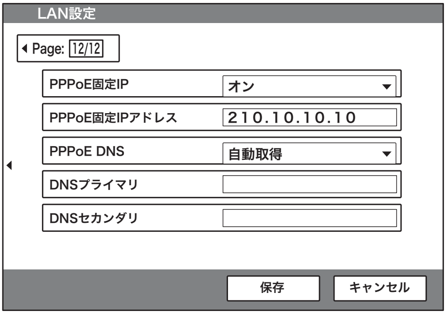
1 **LAN 設定メニューの 11 ページ目で、「PPPoE」を「オン」にし、「PPPoE ユーザー名」、「PPPoE パスワード」にそれぞれプロバイダーから取得したものを入力する。**


LAN設定

Page: 11/12

PPPoE	オン
PPPoEユーザー名	sony@aaa.ne.jp
PPPoEパスワード	abcdefgh

2 **プロバイダーから固定 IP を取得している場合は、LAN 設定メニューの 12 ページ目で、「PPPoE 固定 IP」を「オン」にし、「PPPoE 固定 IP アドレス」に取得した IP アドレスを入力する。**


LAN設定

Page: 12/12

PPPoE固定IP: オン

PPPoE固定IPアドレス: 210.10.10.10

PPPoE DNS: 自動取得

DNSプライマリ:

DNSセカンダリ:

ランチャーメニューの左上に、設定した IP アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

プロバイダーによって固定の DNS サーバーアドレスが指定されている場合は、「PPPoE DNS」を「設定する」にし、指定されたアドレスを「DNS プライマリ」、「DNS セカンダリ」に入力してください。

3 **相手側も同様に設定する。**

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

ISDN による接続

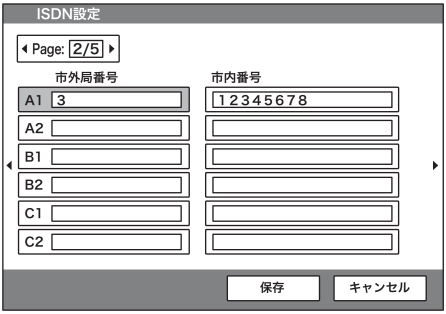
1 **ISDN 設定メニューの 2 ページ目で、「市外局番号」、「市内番号」にそれぞれ適切な値を入力する。**

ご注意

「市外局番号」の冒頭が「0」の場合は、冒頭の「0」は入力しないでください。

◆ISDN 設定メニューについて詳しくは、「ISDN 設定メニュー」（71 ページ）をご覧ください。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。



ISDN設定

Page: 2/5

	市外局番号	市内番号
A1	3	12345678
A2		
B1		
B2		
C1		
C2		

ランチャーメニューの左上に、設定した回線番号が表示されていれば、正しく設定できています。

2 相手側も同様に設定する。

ご注意

ISDN ユニットのポートは番号が若い順に使用してください。

○：1、2、3 ....

×：1、5、2 ....

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「ISDN」を選択し、相手側の回線番号を入力して、ダイヤルします。

◆会議の始めかたについて詳しくは、「自分側から会議を始める」（107 ページ）をご覧ください。

3章
日常の会議

この章では、管理者が2章のシステムの登録と設定をすませていることを前提に、日常の会議の行いかたを説明します。
この章で説明する会議は、LANまたはISDN回線（別売りのISDNユニットPCSA-B384SまたはPCSA-B768S使用）を使って接続する2地点間のビデオ会議です。

◆"メモリースティック"や別売りの機器を使った会議を行うには、4章をご覧ください。

◆別売りのデータソリューションボックスPCSA-DSB1Sを使ったデータ会議を行うには、5章をご覧ください。

◆ 暗号化会議を行うには、6章をご覧ください。

◆多地点会議を行うには、7章をご覧ください。

◆SIPを使った会議を行うには、8章をご覧ください。

自分側から会議を始める

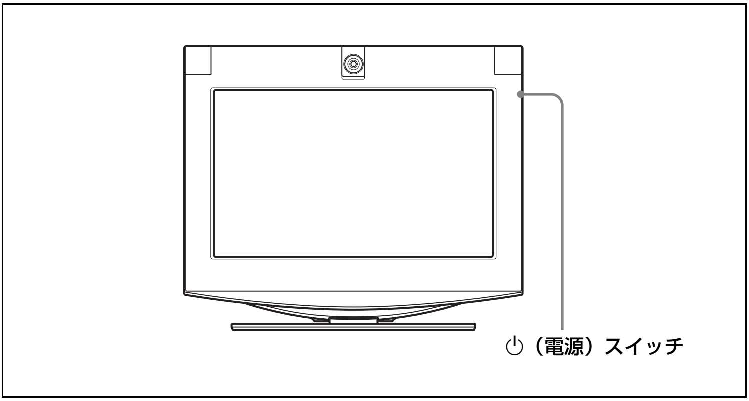
自分側から会議を始めるときは、会議を行う相手に電話をかけます（ダイヤルします）。相手とつながると、通常の電話で音声による会話を行うのと同じように、映像と音声による会議が始まります。
まず、相手を呼び出す方法を説明します。

電源を入れる

1　会議で使用する機器の電源を入れる。

2　本機の右側面の ⏻（電源）スイッチを押す。

スイッチのインジケーターが緑色に点灯し、本機の電源が入ります。



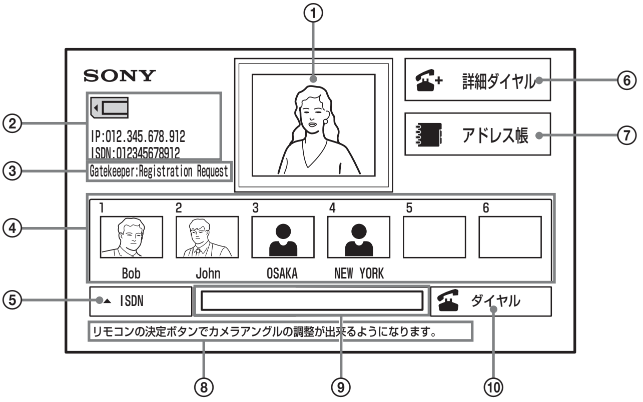
3 **カメラのシャッターが開いていることを確認する。**

閉じている場合は上面のシャッタースイッチを右へスライドさせて開いてください。

4 **リモコンのビデオ会議ボタンを押してランチャーメニューを表示する。**

ランチャーメニューの見かた

電源を入れたときなど通信中でないときは、ランチャーメニューが画面に表示されます。ランチャーメニューには、自分側のカメラの映像や、自分側のシステムの状況、メニュー操作用のボタン、ワンタッチダイヤルリストなどが表示されています。


①
SONY
詳細ダイヤル
⑥
②
アドレス帳
⑦
③
④
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
⑤
ISDN
ダイヤル
⑧
⑨
⑩

IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
Gatekeeper:Registration Request

リモコンの決定ボタンでカメラアングルの調整が出来るようになります。

① スクリーン

自分側のカメラの映像が表示されます。

② システム状況インジケーター

自分側のシステムの状況をインジケーターで表示します。
システムに応じて、以下のアイコンまたは文字が表示されます。

インジケーター	名称	説明
▭	メモリースティックあり	“メモリースティック”が挿入されています。
IP:	IP アドレス	本機の IP アドレスを表示します。
ISDN:	ISDN 回線番号	本機の ISDN 回線番号を表示します。

ご注意

一般設定メニューの「メニューモード」で「シンプル」が選択されているときは、システム状況インジケーターは表示されません。（工場出荷時は「シンプル」が選択されています。）

③ ステータス表示

PPPoE の認証状況、UPnP の登録状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況が表示されます。表示されるのは、登録中とエラーが発生したときだけで、登録に成功したときは表示されません。

表示	意味
SIP: Registration Requested	SIP サーバーへ登録中
SIP: Registration Failed	SIP サーバーへの登録に失敗
Gatekeeper: Registration Requested	ゲートキーパーへの登録要求中
Gatekeeper: Registration Failed	ゲートキーパーへの登録に失敗
DHCP: Assigning	DHCP サーバーから IP アドレスを取得中
DHCP: Assignment Failed	DHCP サーバーからの IP アドレスの取得に失敗
UPnP: Registration Requested	UPnP の登録中
UPnP: Registration Failed	UPnP の登録に失敗
PPPoE: Admitting	PPPoE の認証中
PPPoE: Admission Failed	PPPoE の認証に失敗

ご注意

一般設定メニューの「番号表示」を「表示しない」に設定している場合は、表示されません。

◆「番号表示」の設定については、「一般設定メニュー」（58 ページ）をご覧ください。

④ ワンタッチダイヤルリスト

リモコンのワンタッチダイヤルボタンを押すと、ここに登録した相手にダイヤルできます。

⑤ 回線種別

番号入力欄に電話番号や IP アドレスを入力して通信を開始するときに、使用する回線種別（IP、音声電話、ISDN）を指定します。

⑥ 詳細ダイヤルボタン

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、詳細ダイヤルメニューが表示されます。

⑦ アドレス帳ボタン

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、アドレス帳メニューが表示されます。

⑧ メッセージ表示

操作説明などのメッセージが表示されます。

⑨ 番号入力欄

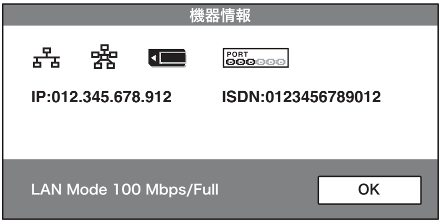
この欄に直接、電話番号や IP アドレスを入力してダイヤルできます。

⑩ ダイヤルボタン

番号入力欄に入力した番号にダイヤルするとき、このボタンを選びます。

詳細な機器情報を表示するには

ランチャーメニューが表示されているときにリモコンのヘルプボタンを押すと、自分側のシステム状況の詳細が表示されます。



機器情報

IP:012.345.678.912

ISDN:0123456789012

LAN Mode 100 Mbps/Full

インジケーター	名称	説明
🖧	LAN	LAN が使用可能なときは濃く、使用不可能なときは薄く表示されます。
🖧	マルチポイントモード	多地点会議のための MCU ソフトウェアがインストールされているとき表示されます。
PORT	ISDN	ISDN ユニットが接続されているとき、使用可能な ISDN ポートを表示します。
▭	メモリースティックあり	“メモリースティック”が挿入されています。
IP:	IP アドレス	本機の IP アドレスを表示します。

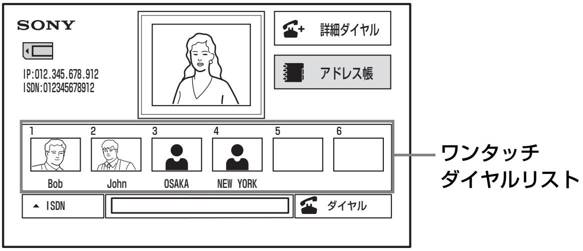
インジケーター	名称	説明
ISDN:	ISDN 回線番号	本機の ISDN 回線番号を表示します。
LAN Mode	LAN の接続プロトコル	100Mbps/Full：100BASE-TX、全二重モード 100Mbps/Half：100BASE-TX、半二重モード 10Mpbs/Full：10BASE-T、全二重モード 10Mbps/Half：10BASE-T、半二重モード

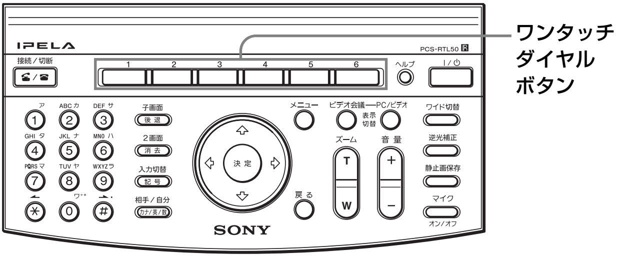
ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す

あらかじめワンタッチダイヤルリストに登録してある相手を呼び出す場合です。

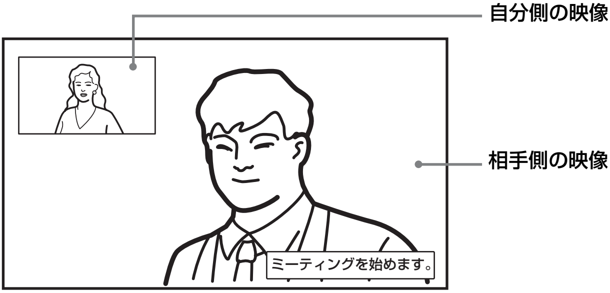
◆ワンタッチダイヤルリストへの登録のしかたは、92 ページをご覧ください。

1 呼び出したい相手が登録してあるリモコンのワンタッチダイヤルボタン (1 ～ 6) を押す。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル
ワンタッチ
ダイヤルリスト


IPELA
PCS-RTL50
接続／切断
1
2
3
4
5
6
ヘルプ
I／⏻
ワンタッチ
ダイヤル
ボタン
ア ABC カ DEF サ
GHI タ JKL ナ MNO ハ
PQRS マ TUV ヤ WXYZ ラ
ワ・°
子画面 後退
2画面 消去
入力切替 記号
相手／自分 カナ/英/数
決定
メニュー
ビデオ会議―PC/ビデオ
表示切替
ワイド切替
ズーム T W
音量 + −
逆光補正
静止画保存
マイク オン/オフ
戻る
SONY

選択した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中 (IP)」または「発信中（ISDN)」と表示されます。
相手とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。


自分側の映像
相手側の映像

ミーティングを始めます。

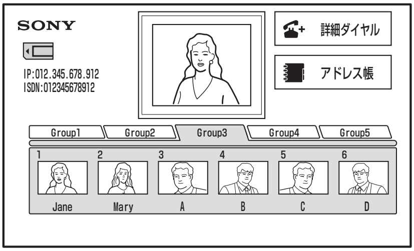
相手につながる前にダイヤルを中止するには

リモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押してください。または、リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

7 件以上のワンタッチダイヤルリストをランチャーメニューに表示するには

ワンタッチダイヤルリストには 30 件まで登録できます。ランチャーメニューに表示できる数は、一般設定メニューの「ワンタッチ表示数」（58 ページ）で 6 件または 30 件が選択できます。

「ワンタッチ表示数」を「30」に設定すると、ランチャーメニューの表示が次のように変更されます。グループ 1 〜グループ 5 に 6 件ずつのリストが登録されています。リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンで Group1 〜 Group5 のタブを選ぶと、選んだグループに登録されている通信相手が表示されます。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
Group1
Group2
Group3
Group4
Group5
1
2
3
4
5
6
Jane
Mary
A
B
C
D

ご注意

「ワンタッチ表示数」を「30」に設定すると、ランチャーメニュー下部に表示されていた「回線種別」、「番号入力欄」、「ダイヤル」ボタンが表示されなくなります。

プライベートアドレス帳からワンタッチダイヤルするには

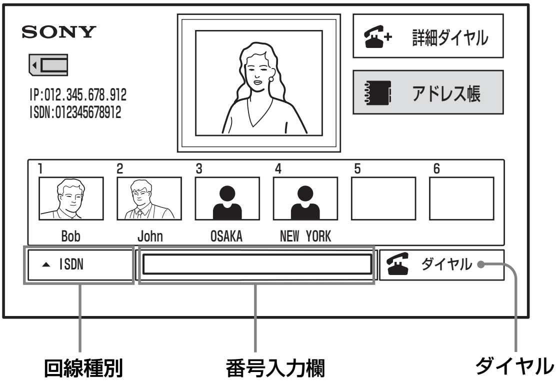
プライベートアドレス帳が登録されている “メモリースティック” をメモリースティックスロットに差し込むと、「プライベートアドレス帳の使用を開始します」とメッセージが表示され、ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストがプライベートアドレス帳から登録されたワンタッチダイヤルの内容に切り換わります。

操作のしかたは、上記の「ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す」の手順と同じです。

ランチャーメニューで電話番号や IP アドレスを入力して呼び出す

1 ランチャーメニュー下部のドロップダウンリストから回線インターフェースを選ぶ。

リモコンの ⇧/⇩/⇦/⇨ ボタンでランチャーメニュー下部の「回線種別」選択部を選び、決定ボタンを押すとドロップダウンリストが表示されます。⇧ または ⇩ ボタンで使用する回線インターフェースを選び、決定ボタンを押してください。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
▲ ISDN
ダイヤル
回線種別
番号入力欄
ダイヤル

IP: LAN を使ってビデオ会議システムと接続する場合。

音声電話 : ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。(ボイスミーティング)

ISDN: ISDN 回線でビデオ会議システムと接続する場合。

SIP: SIP を使って IP 電話などと接続する場合。

2 相手の IP アドレス（IP または SIP のとき）または電話番号（ISDN または音声電話のとき）を番号入力欄に入力する。

リモコンの ⇧/⇩/⇦/⇨ ボタンで番号入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンで数字を入力し、決定ボタンを押します。

ヒント

- ⇨ ボタンまたは # ＿. ボタンを押すと、「.」（ピリオド）が入力できます。
- 入力する文字を間違えたときは、リモコンの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した文字が消えます。

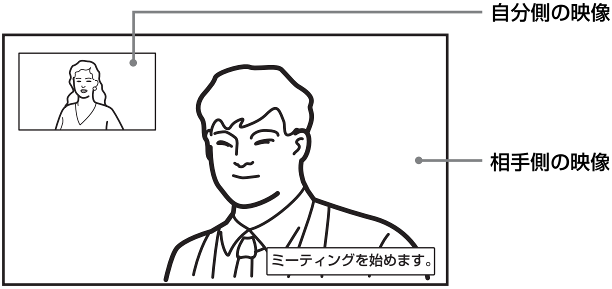
- 入力したIPアドレスを消去したいときは、リモコンの2画面（消去）ボタンを押してください。

ご注意

電話番号入力欄には､0発信などの発信番号(プリフィックス)を入力しないでください。

3 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して、「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す、またはリモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押す。

入力した番号にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中(IP)」､「発信中（ISDN)」､「発信中（音声電話)」または「発信中(SIP)」と表示されます。
相手とつながると「ミーティングを始めます｡」と表示されます。
これで会議を始めることができます。


自分側の映像
相手側の映像
ミーティングを始めます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

発信中の画面が表示されている間に、リモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押してください。または、リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

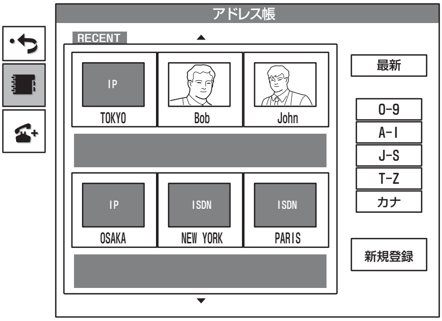
アドレス帳に登録している相手を呼び出す

あらかじめアドレス帳に登録してある相手を呼び出す場合です。

◆アドレス帳への登録のしかたは、82ページをご覧ください。

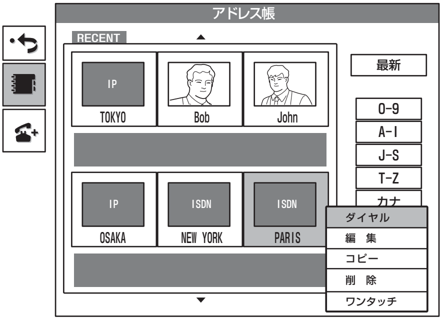
1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで呼び出す相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

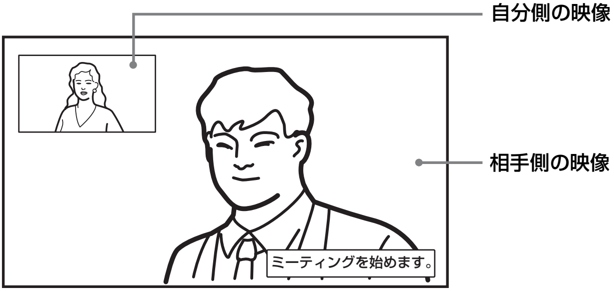

アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
ダイヤル
編　集
コピー
削　除
ワンタッチ

◆希望の相手が表示されないときは、「アドレス帳を検索するには」（119ページ）をご覧ください。

3 リモコンの↓または↑ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続／切断（☎/☎）ボタンを押す。

手順2で選んだ相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中（IP)」または「発信中（ISDN)」と表示されます。

相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。これで会議を始めることができます。


自分側の映像
相手側の映像
ミーティングを始めます。

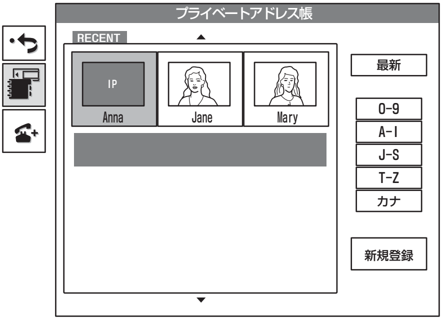
相手につながる前にダイヤルを中止するには

リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。または、リモコンの接続 / 切断（☏/☎）ボタンを押してください。

プライベートアドレス帳から相手を呼び出すには

1 プライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

アドレス帳の内容がプライベートアドレス帳に切り換わります。


プライベートアドレス帳
RECENT
IP
Anna
Jane
Mary
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでプライベートアドレス帳から呼び出したい相手を選び、決定ボタンを押す。

3 サブメニューから「ダイヤル」を選んで決定ボタンを押すか、リモコンの接続 / 切断（☏/☎）ボタンを押す。

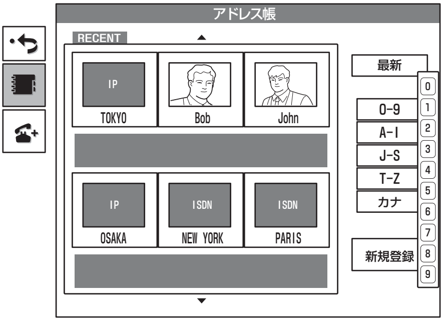
選んだ相手にダイヤルされます。

ヒント

プライベートアドレスの自動発信機能が「オン」になっているときは、“メモリースティック”を差し込むだけで自動的にダイヤルが始まります。

アドレス帳を検索するには

アドレス帳のリストには一度に最大6件分表示できます。
「最新」を選ぶと、最近ダイヤルした相手が最大6件表示されます。
「—9」、「A—I」、「J—S」、「T—Z」、「カナ」の項目を選ぶと、右側にサブメニューが表示されます。サブメニューの数字またはアルファベットを選ぶと、その数字またはアルファベット、カナで始まる相手を含む6件が表示されます。


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
新規登録
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9

ヒント

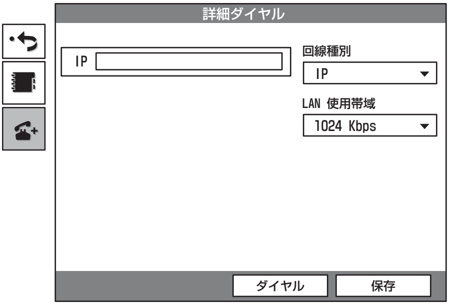
リモコンの数字（2～9）ボタンを押しても検索できます。数字ボタンを押すと、ボタン上に表示されている1番目のアルファベットで始まる相手を含む6件が表示されます。

詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す

詳細ダイヤルメニューを使うと、登録していない相手を呼び出すとき、LAN の使用帯域を指定したり、ISDN の使用回線数を指定したりできます。

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「詳細ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。または、リモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押す。

詳細ダイヤルメニューが表示されます。

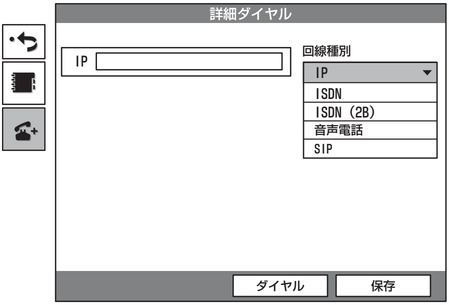

詳細ダイヤル
IP
ダイヤル
保存

回線種別: IP

LAN 使用帯域: 1024 Kbps

2 会議に使用する回線種別を選ぶ。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「回線種別」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。↓ または ↑ ボタンで使用する回線インターフェースを選び、決定ボタンを押してください。


詳細ダイヤル
IP
回線種別
IP
ISDN
ISDN (2B)
音声電話
SIP
ダイヤル
保存

IP: LAN を使ってビデオ会議システムと接続する場合。

ISDN: ISDN 回線でビデオ会議システムと接続する場合。

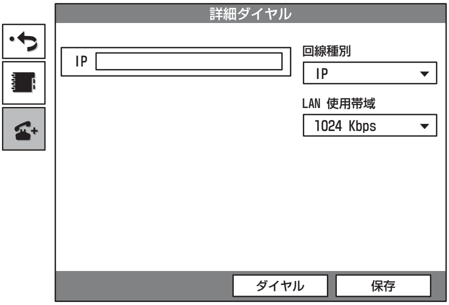
ISDN (2B): ISDN 回線で、H.221 方式のビデオ会議システムと 2B チャンネルで接続する場合

音声電話 : ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

SIP: SIP を使って SIP 端末や IP 電話などと接続する場合。

3 会議に使用する LAN、または ISDN 回線を設定する。

LAN を使用する場合


詳細ダイヤル

IP

回線種別: IP

LAN 使用帯域: 1024 Kbps

① IPアドレス入力欄に相手のIPアドレスを32文字以内で入力する。

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンで IP アドレス入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンで IP アドレスを入力し、決定ボタンを押します。

DNS サーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時は相手側の LAN 設定メニューに登録してあるユーザー名やユーザー番号（64 ページ）を IP アドレス入力欄に入力します。

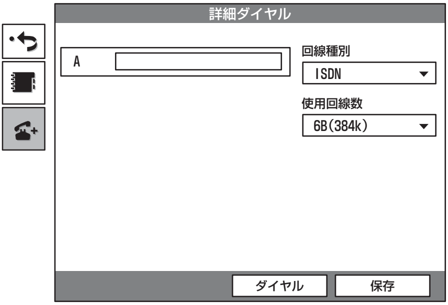
ヒント

- ➡ ボタンまたは #⎵. ボタンを押すと、「.」（ピリオド）が入力できます。
- 入力する文字を間違えたときは、リモコンの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した文字が消えます。
- 入力した IP アドレスを消去したいときは、リモコンの 2 画面（消去）ボタンを押してください。

② LAN 使用帯域を選択する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「LAN 使用帯域」を選び、決定ボタンを押すと、帯域の一覧が表示されます。↓ または ↑ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。
64 Kbps、128 Kbps、256 Kbps、384 Kbps、512 Kbps、768 Kbps、1024 Kbps、1920 Kbps、その他が選べます。

ISDN 回線を使用する場合


詳細ダイヤル

A

回線種別: ISDN

使用回線数: 6B(384k)

① 電話番号入力欄に相手の回線番号を 32 文字以内で入力する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで電話番号入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンで回線番号を入力します。

ご注意

電話番号入力欄には､0 発信などの発信番号(プリフィックス)を入力しないでください。

ヒント

- ISDN を選んだときは、複数（2B(128K) 以上）の「使用回線数」を選んでいても、相手側の ISDN 回線番号は 1 つ入力するだけで、使用回線数分を自動的に接続することができます。
- ISDN (2B) を選んだときは、電話番号入力欄 A1 と A2 が表示され、それぞれに別々の ISDN 回線番号を入力することができます。A2 を選んでリモコンの決定ボタンを押すと、A1 に入力した電話番号を A2 にコピーすることができます。
- 入力する数字を間違えたときは、リモコンの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した数字が消えます。
- 入力した回線番号を消去したいときは、リモコンの 2 画面（消去）ボタンを押してください。

② 発信時に使用するISDN回線の回線数を選ぶ。

リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「使用回線数」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。↓または↑ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。
接続されているISDN回線の本数に応じて、1B(64K)、2B(128K)、3B(192K)、4B(256K)、5B(320K)、6B(384K)、8B(512K)、12B(768K)チャンネルが選べます。

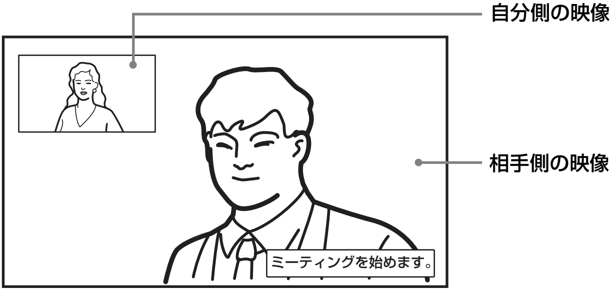
ヒント

相手側のISDN回線番号をすべて指定して接続するには

相手のビデオ会議装置がボンディング機能を持っていないとき､相手のISDN回線番号を1つだけ入力したのでは､複数の使用回線数分を接続することができません。
このような場合など相手のISDN回線番号をすべて指定して接続したいときは､2章の｢会議の相手をアドレス帳に登録する｣(82ページ)を参照して､アドレス帳にISDN回線番号を使用回線数分登録してから､｢アドレス帳に登録している相手を呼び出す｣(117ページ)に従って接続してください。

4 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでメニュー下部の「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続/切断（☎/☎）ボタンを押す。

手順3で入力したIPアドレスまたは回線番号にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中（IP）」または「発信中（ISDN）」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。


自分側の映像
相手側の映像
ミーティングを始めます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

発信中の画面が表示されている間に、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。または、リモコンの接続 / 切断（☏/☎）ボタンを押してください。

入力した番号をアドレス帳に保存するには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押してください。入力した番号がアドレス帳に保存され、リスト編集メニューが表示されます。

◆リスト編集メニューについて詳しくは、「会議の相手をアドレス帳に登録する」（82 ページ）をご覧ください。

リダイヤルするには

詳細ダイヤルメニューを使用してダイヤルすると、次にダイヤルメニューを表示したときに、前回ダイヤルした番号が IP アドレス入力欄または電話番号入力欄に入力されています。**（リダイヤル機能）**

ご注意

下記の場合は、リダイヤル機能は働きません。

- 電源を切ったとき。
- IP アドレスや回線番号を入力してもダイヤルしなかったとき。

発信の詳細を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、詳細ダイヤルメニュー下部に詳細設定ボタンが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「詳細設定」を選び、決定ボタンを押すと、発信設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

相手から会議に呼び出される

相手から呼び出しを受けたとき（着信）、自動着信に設定してあるか手動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

自動着信

相手からの呼び出しを自動的に受け、会議を始めます。
毎回操作をする手間が省けますが、自動的につながってしまうので、準備をしていないときでも、自分側の様子がすぐに相手側に伝わってしまいます。

手動着信

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。回線をつなぐ操作をすることにより会議が始まります。
会議を始めてよいか確認をしてから相手とつなぐことができます。

ご注意

本機の電源が入っていないと、着信できません。

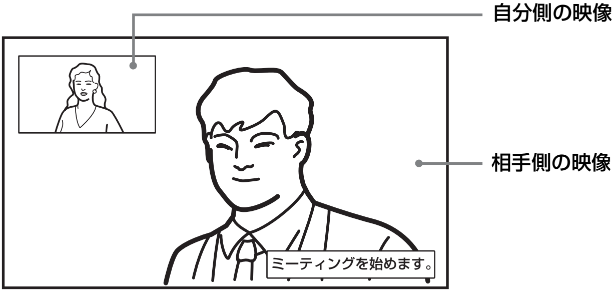
◆着信方法の設定については、着信設定メニューの「自動着信」（55 ページ）をご覧ください。

相手から呼び出される

自動着信のときは

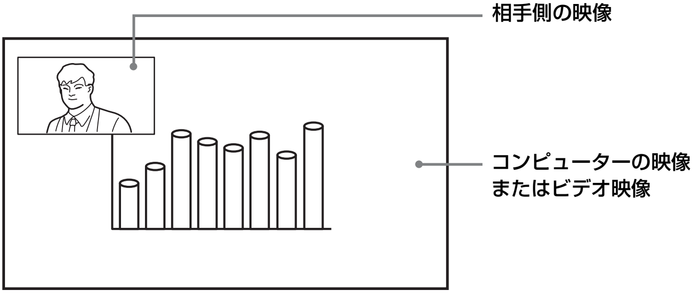
相手から呼び出しを受けると、本機から呼び出し音が鳴り、ディスプレイに「着信中」と表示されます。
自動的に接続すると、相手の映像がディスプレイに映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
ディスプレイには「ミーティングを始めます。」と表示されます。

これで会議を始めることができます。


自分側の映像
相手側の映像
ミーティングを始めます。

ご注意

相手から呼び出されたときに本機をコンピューターディスプレイやビデオモニターとして使用していたときは、相手側の映像が子画面に表示されます。


相手側の映像
コンピューターの映像
またはビデオ映像

ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、129 ～ 149 ページをご覧ください。

手動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、本機から呼び出し音が鳴り、ディスプレイに「着信があります。応答しますか ?」というメッセージが表示されます。

リモコンの ←/→ ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押してください。
回線の接続が始まります。
接続すると、相手の映像がディスプレイに映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。

ディスプレイには「ミーティングを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、129 ～ 149 ページをご覧ください。

回線をつなぎたくないときは

リモコンの ⬅/➡ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。呼び出し音が止まり、接続がキャンセルされます。

ISDN 回線が接続されなかったときは

何らかの理由で ISDN 回線がつながらなかったときは、「回線を完全につなぐことができません（ここに ISDN 理由コードとメッセージが現れます。）」と表示されます。

◆ISDN 理由コードとメッセージについては、「メッセージ一覧」（288 ページ）をご覧ください。

通話時間表示について

一般設定メニューの「経過時間表示」を「オン」に設定しておくと、通信中、ディスプレイに通話時間が表示されます。
通話時間を表示しないときは「オフ」に設定してください。
また、会議中に通話時間表示を消すには、通信中サブメニューから「インジケーター OFF」を選びます。

◆「経過時間表示」の設定については、「一般設定メニュー」（58 ページ）をご覧ください。

会議を終了する

1 リモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンを押す。

ディスプレイに「切断しますか？」と表示されます。

2 リモコンの ⬅/➡ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（☎/☎）ボタンをもう一度押す。

これで、回線が切れます。

ご注意

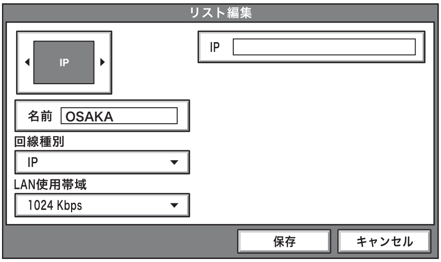
回線を切っても、本機の電源は入ったままです。

回線を切らないときは

リモコンの⬅/➡ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

接続していた相手をアドレス帳に登録するには

一般設定メニューの「会議終了後のリスト登録」が「オン」に設定されていれば、会議終了後に相手がアドレス帳に登録されていない場合、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示されます。「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。



IP

名前 OSAKA

回線種別 IP

LAN使用帯域 1024 Kbps

リモコンの⬅/➡ボタンを押し、画像あるいはIPと表示されている欄を選択すると、静止画キャプチャー機能（161ページ）で“メモリースティック”に保存されている静止画、あらかじめ“メモリースティック”に保存されていた静止画、自動静止画キャプチャー機能（161ページ）で本機のメモリー内に保存されている静止画が順番に表示されます。アドレス帳に登録したい画像を選んで決定ボタンを押してください。

ご注意

「会議終了後のリスト登録」が「オフ」になっていると、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージは表示されません。

◆「会議終了後のリスト登録」の設定については、「一般設定メニュー」（58ページ）をご覧ください。

◆リスト編集メニューについて、詳しくは「会議の相手をアドレス帳に登録する」（82ページ）をご覧ください。

画質・音声を調節する

画質を調節する

会議中に、本機右側面のMENUボタンと↑/↓ボタン、OKボタンを使ってディスプレイの画質（ピクチャーモード、ピクチャー、ブライト、バックライト）を調節することができます。
詳しい調節のしかたは、8章の「ディスプレイの画質を調節する」（253ページ）をご覧ください。

音量を調節する

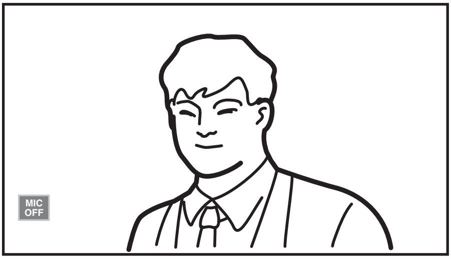
会議中に本機から聞こえる音量を調節することができます。
リモコンの音量＋ボタンを押すと音量が大きくなり、音量－ボタンを押すと小さくなります。
音量調整時にディスプレイに表示されている3種類の映像（ビデオ会議、ビデオ映像、コンピューター映像）のそれぞれについて、音量調整を行い、その内容を保持することができます。

ご注意

音量を大きくしすぎるとハウリングが起こることがあります。その場合は音量を小さくしてください。

音声の送信を一時的にカットする—マイクミュート機能

会議中にこちらから相手に送る音声を一時的にカットすることができます。
リモコンのマイク オン / オフボタンを押します。
マイク オン / オフボタンを1回押すと、相手に送られる音声がカットされ、相手に聞こえなくなります。ディスプレイに「MIC OFF」インジケーターが表示されます。



音声の送信を再開するときは

もう1回マイク オン / オフボタンを押します。
ディスプレイから「MIC OFF」インジケーターが消えます。

着信時の音声の送信をカットする – 着信時マイクオフ

相手から呼び出しを受けたとき、こちら側の音声が相手に送信されないように設定することができます。
着信設定メニューの「着信時マイク」を「オフ」に設定しておくと、着信時、映像のみ相手に送信されます。ディスプレイに「MIC OFF」インジケーターが表示されます。

◆「着信時マイク」の設定については、「着信時マイク」（56 ページ）をご覧ください。

相手に音声を送信するには

リモコンのマイクオン / オフボタンを押します。

送信する映像と音声の時間差を調整する—リップシンク機能

会議を行う際に、音だけが早く届き、その後で映像が届くことがあります。その結果、映像の口の動きと音声が一致せず、対話がスムーズに運ばなくなることがあります。
リップシンク機能を使うと、相手に届く映像と音声がほぼ一致するように自動的に調整されます。ただし、映像に合わせて音声も遅れて届くようになることがあります。
音声設定メニューの「リップシンク」を「オン」に設定しておくと、リップシンク機能が動作します。

◆「リップシンク」の設定については、「音声設定メニュー」（62 ページ）をご覧ください。

ご注意

相手から送られてくる映像と音声にリップシンク機能による調整が必要な場合は、相手側に、リップシンク機能を使うよう依頼してください。

エコーを軽減する－エコーキャンセラー

本機には、音声の伝送時に発生するエコーを消すエコーキャンセラー機能があります。

音声設定メニューの「エコーキャンセラー」を「内部」に設定しておくと、内蔵のエコーキャンセラーが動作します。

◆「エコーキャンセラー」の設定については、「音声設定メニュー」（62ページ）をご覧ください。

カメラを調節する

相手に送っている自分側のカメラの映像を希望の状態に調節することができます。
また、通信中に相手側のカメラを操作して、送られてくる映像を調節することもできます。

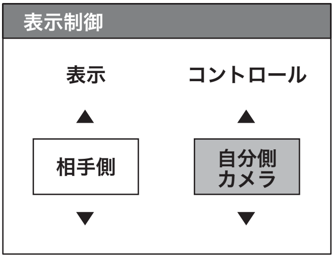
操作するカメラを決める

最初に、自分側と相手側のどちらのカメラを操作するか決めます。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの←/→ボタンで「コントロール」を選び、↑/↓ボタンで「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を切り換える。



3 リモコンの決定ボタンを押す。

相手側のカメラが選ばれているときは、ディスプレイに「FAR」インジケーターが表示されます。
自分側のカメラが選ばれているときは、ディスプレイに「FAR」インジケーターは表示されません。

ご注意

- 相手側のカメラを操作するときは、接続前に発信側の発信設定メニューの「遠隔カメラ制御」と、着信側の着信設定メニューの「遠隔カメラ制御」を両方とも「オン」に設定してください。この設定が違っていると相手側のカメラは操作できません。
- 通信中のカメラ遠隔操作方式が H.281 でない場合、相手側のカメラを操作することはできません。相手側のカメラを操作できない場合は、相手のカメラの遠隔操作方式をご確認ください。

- 自分側と相手側から同時に同じカメラを操作すると、正常に動作しない場合があります。

ズームとアングルを調節する

カメラのズームとアングルを調節して、ディスプレイに映す映像を決めます。
通信中はディスプレイから、通信中でないときはランチャーメニューからズームとアングルが調節できます。また、カメラメニューからも調節できます。

ご注意

本機のカメラはデジタルズーム、パン、チルトカメラのため、ズームした画像に対してのみ、アングル調節（パン・チルト）が可能です。
フル画面のパン・チルトはできません。

通信中にディスプレイで調節するには

1 調節したいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選び、決定ボタンを押します。

2 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押す。

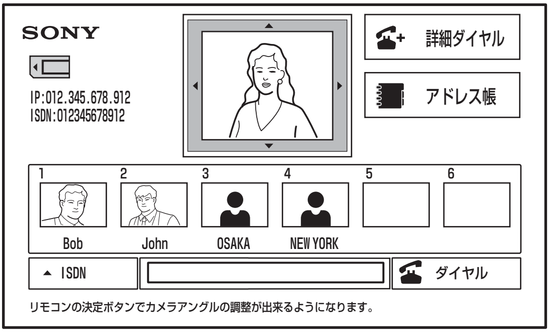
自分側または相手側のカメラのアングルが調節され、子画面またはフルスクリーンに調節された画像が映ります。

ランチャーメニューで調節するには（非通信中）

自分側カメラのズームとアングルが調節できます。

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでスクリーンを選び（スクリーン枠が黄色になります）、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。


SONY
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル

IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912

リモコンの決定ボタンでカメラアングルの調整が出来るようになります。

2 **リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。**

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

3 **リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して、写したい部分がスクリーンに表示されるよう、カメラアングルを調節する。**

4 **リモコンの決定ボタンを押す。**

カメラの調節が終了します。

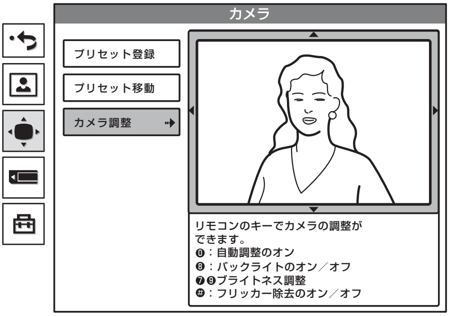
カメラメニューで調整するには

1 **リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ◆（カメラ）アイコンを選ぶ。**

カメラメニューが表示されます。

2 **リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ調整」を選び、決定ボタンを押す。**

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。


カメラ
プリセット登録
プリセット移動
カメラ調整

リモコンのキーでカメラの調整ができます。
❶：自動調整のオン
❽：バックライトのオン／オフ
❼❾ブライトネス調整
#：フリッカー除去のオン／オフ

3 通信中の場合、リモコンの相手／自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、ディスプレイに「FAR」インジケーターが表示されます。

4 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して、写したい部分がスクリーンに表示されるよう、カメラアングルを調節する。

6 リモコンの決定ボタンを押す。

画像の明るさを調整する

通常、画像の明るさ（ブライトネス）は、自動的に調整されますが、手動で調整することもできます。
通常は自動調整にしておいてください。最適な明るさが得られます。

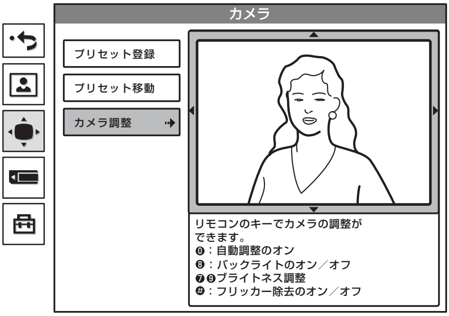
カメラ調整モードにするには

1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ◆（カメラ）アイコンを選ぶ。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ調整」を選び、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。
スクリーンの下に操作ガイダンスが表示されます。



リモコンのキーでカメラの調整ができます。
⓿：自動調整のオン
❽：バックライトのオン／オフ
❼❾ブライトネス調整
#：フリッカー除去のオン／オフ

3 通信中の場合、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、ディスプレイに「FAR」インジケーターが表示されます。

ご注意

相手側カメラは、フォーカスの手動調整だけが可能です。

フルスクリーン表示にするには

カメラメニュー表示中に、フルスクリーン表示にするには、「カメラ調整」を選び、リモコンの決定ボタンを押してから子画面ボタンを押してください。フルスクリーン表示になります。リモコンの戻るボタンまたは子画面ボタンを押すと、フルスクリーン表示は解除されます。

画像の明るさを調整するには

画面を明るくするときは、リモコンの 9 ボタンを繰り返し押します。「Brightness +」インジケーターが表示されます。
画面を暗くするときは、リモコンの 7 ボタンを繰り返し押します。「Brightness −」インジケーターが表示されます。

逆光補正機能を使用するには

背景が明るすぎて、被写体が暗めになるときは、逆光補正機能を使用してください。
リモコンの逆光補正ボタンまたはリモコンの 8 ボタンを押すたびに、逆光補正のオンオフが切り換わります。逆光補正オンのときは「Backlight On」インジケーターが表示されます。逆光補正オフのときは「Backlight Off」インジケーターが表示されます。

ご注意

逆光補正機能は自動調整モード時のみ有効です。ブライトネス調整機能を使って明るさを調整した場合は使用できません。

フリッカーを除去するには

本機と同じ電源系統に蛍光灯が接続されていると、カメラの映像にフリッカーが起きることがあります。リモコンの＃ボタンを押すと、フリッカーが除去されます。フリッカー除去オンのときは「Flickerfree On」インジケーターが表示されます。フリッカー除去オフのときは、「Flickerfree Off」インジケーターが表示されます。

ズームとアングルの設定をプリセットする

ズームとアングルの設定を６つまでプリセット登録しておくことができます。一度プリセット登録しておくと、その設定を簡単に呼び出してカメラを移動することができます。
通信中はディスプレイから、通信中でないときはランチャーメニューからプリセット登録できます。また、カメラメニューからもプリセット登録できます。

通信中にディスプレイでプリセットするには

1 ズームとアングルをプリセットしたいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選び、決定ボタンを押します。

2 ズームとアングルを調節する。

ズームボタンでズームを、リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンでアングルを調節します。

3 リモコンの１～６ボタンを押したままにする。

選んだ番号にズームとアングルの設定が登録され、「プリセット１（～６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます。

ランチャーメニューでプリセットするには（非通信中）

自分側カメラのズームとアングルがプリセット登録できます。

1 ランチャーメニューでズームとアングルを調節する。

リモコンの ⬆/⬇/⬅/➡ ボタンでスクリーンを選んで決定ボタンを押してから、ズームボタンでズームを、⬆/⬇/⬅/➡ ボタンでアングルを調節します。

2 リモコンの１～６ボタンを押したままにするか、#ボタンと１～６ボタンを続けて押す。

選んだ番号にズームとアングルの設定が登録され、「プリセット１（～６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます。

カメラメニューでプリセットするには

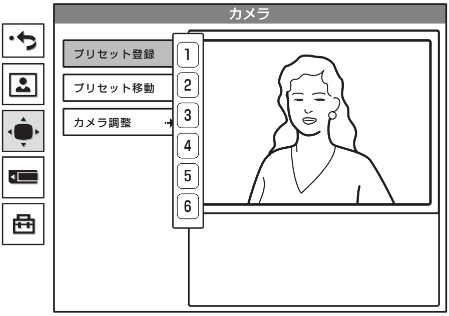
1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、⬆/⬇ ボタンで ●（カメラ）アイコンを選ぶ。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「プリセット登録」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンで設定をプリセットしたい番号（1 〜 6）を選び、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。



4 通信中の場合、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、ディスプレイに「FAR」インジケーターが表示されます。

5 ズームとアングルを調節する。

リモコンのズームボタンでズームを、↑/↓/←/→ ボタンでアングルを調節します。

6 リモコンの決定ボタンを押す。

選択した番号に設定値が登録され、「プリセット１（〜６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます。

プリセットしたズームとアングルの設定を呼び出す

通信中はディスプレイから、通信中でないときはランチャーメニューからプリセットしたズームとアングルの設定を呼び出してカメラを移動できます。また、カメラメニューからもプリセット位置にカメラを移動できます。

通信中にディスプレイでプリセットした設定を呼び出すには

1 プリセット位置に移動させたいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選びます。

2 リモコンの１～６ボタンを押す。

選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。「プリセット１（～６）番に移動しました。」というメッセージが表示されます。

ランチャーメニューでプリセットした設定を呼び出すには（非通信中）

自分側カメラをプリセットした位置に移動できます。

1 ランチャーメニューでスクリーンを選んで決定ボタンを押す。

2 リモコンの１～６ボタンを押す。

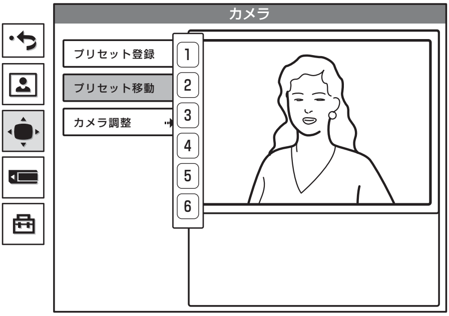
選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。「プリセット１（～６）番に移動しました。」というメッセージが表示されます。

カメラメニューでプリセットした設定を呼び出すには

1 カメラメニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「プリセット移動」を選び、決定ボタンを押す。

3 **リモコンの ↑/↓ ボタンで設定を呼び出したい番号（1 ～ 6）を選び、決定ボタンを押す。**


カメラ
プリセット登録
プリセット移動
カメラ調整
1
2
3
4
5
6

選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。「プリセット１（～６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます

設定値の保存について

本機は、カメラのズームとアングル、明るさ（ブライトネス）、逆行補正機能のオン / オフ、フリッカー除去機能のオン / オフを不揮発性メモリーに保存しています。
このため、電源を切っても、次に電源を入れたとき、前回の設定値でカメラが調節されます。

映像と音声を切り換える

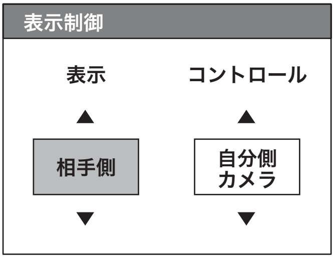
通信中にディスプレイに表示する映像や、入力される映像や音声を切り換えることができます。

通信中に相手側と自分側の映像を切り換える

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「表示」の「自分側」と「相手側」を切り換える。


表示制御
表示
コントロール
相手側
自分側
カメラ

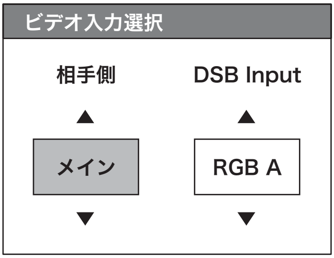
3 リモコンの決定ボタンを押す。

通信中に相手側の映像入力を切り換える

1 リモコンの入力切換ボタンを押す。

ビデオ入力選択メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「相手側」の入力を切り換える。


ビデオ入力選択
相手側
DSB Input
メイン
RGB A

メイン : 相手側のメインカメラの映像を選ぶとき

オブジェクト：相手側のシステムに接続された別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）の映像を選ぶとき

AUX 1: 相手側のシステムの VIDEO IN AUX 1 端子に接続されている機器の映像を選ぶとき

AUX 2: 相手側のシステムの VIDEO IN AUX 2 端子に接続されている機器の映像を選ぶとき

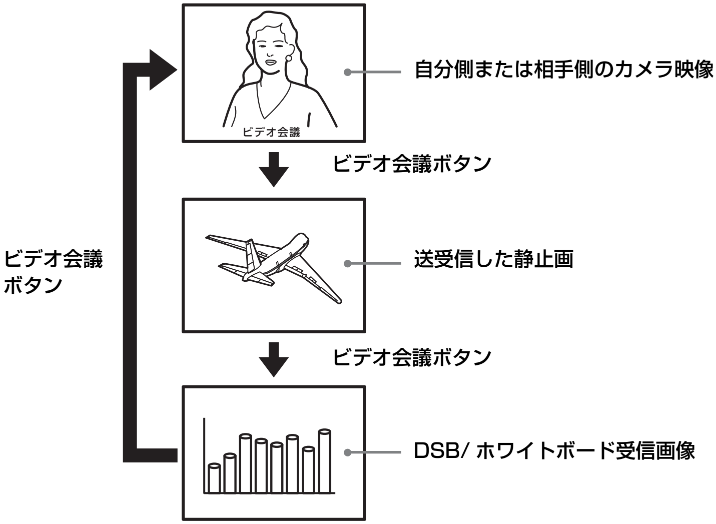
VTR: 相手側のシステムの VTR 入力の映像を選ぶとき（相手側システムに VTR 入力選択の機能があるときのみ表示されます。）

◆「DSB Input（DSB 入力）」については、「データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を選ぶには」（181 ページ）をご覧ください。

3 リモコンの決定ボタンを押す。

通信中にディスプレイに表示される映像を切り換える

リモコンのビデオ会議ボタンを押すたびに、ディスプレイに表示される映像が次のように切り換わります。


ビデオ会議
自分側または相手側のカメラ映像
ビデオ会議ボタン
ビデオ会議ボタン
送受信した静止画
ビデオ会議ボタン
DSB/ ホワイトボード受信画像

ご注意

- 静止画は、送信または受信した場合にのみ、表示されます。
- DSB画像は、別売りのデータソリューションボックスPCSA-DSB1Sを使用してコンピューターなどからRGB画像を受信している場合にのみ、表示されます。
- ホワイトボード画像は、ホワイトボードに描かれた内容を受信しているときのみ表示されます。

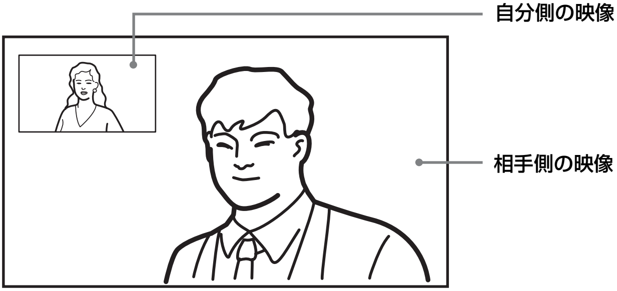
◆詳しくは、5章の「接続機器の映像・音声を会議に使う」（181ページ）をご覧ください。

自分側の映像を子画面に表示する—子画面表示

自分側の様子が相手のモニターにどのように映っているかを、ディスプレイの一部（子画面）に表示して確認することができます。

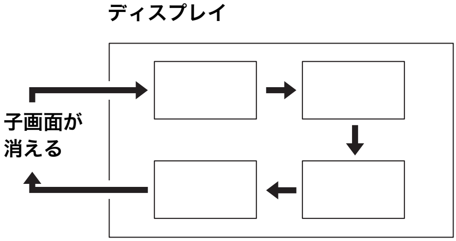
子画面を表示するには

通信中にリモコンの子画面ボタンを押します。
自分側の映像が子画面に表示されます。


自分側の映像
相手側の映像

子画面の位置を変えるには

子画面ボタンを押すたびに、子画面の位置が次のように切り換わります。



ご注意

- 子画面は、前回最後に表示されていた位置に表示されます。前回子画面を消していた場合は、表示されません。
- 通信中でないときは、子画面表示はできません。

相手側の映像を子画面表示するには

自分側の映像が子画面表示されているとき、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して、「表示」で「自分側」を選ぶと、自分側の映像がメイン画面、相手側の映像が子画面へと、入れ換わって表示されます。

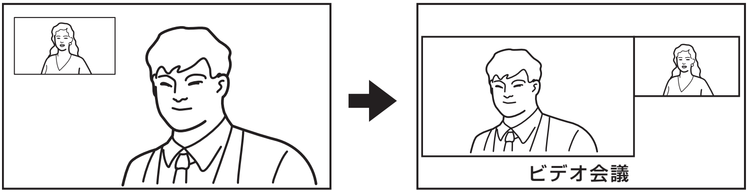
自分側と相手側の映像を 2 画面で見る—2 画面表示

自分側の映像と相手側の映像を同時にディスプレイに表示することができます。（2 画面表示機能）

2 画面表示にするには

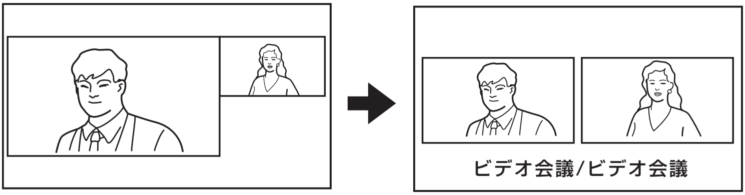
通信中にリモコンの 2 画面ボタンを押します。

全画面表示されていた映像が左に、子画面が右に表示されます。



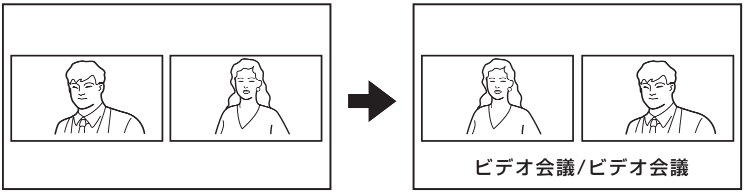
画面サイズを変えるには

リモコンの 2 画面ボタンを押すと、画面の大きさが変わります。


ビデオ会議/ビデオ会議

左右の画面を入れ換えるには

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「表示」の設定（相手側 / 自分側）を変更すると、左右の画面が入れ替わります。


ビデオ会議/ビデオ会議

ご注意

- 通信中でないときは、2 画面表示はできません。
- 画面モードを切り換えると約 1 秒間、画面モードが表示されます。

ワイド画面を切り換える

本機の画面モードは、電源を入れたときや通信開始時、終了時は、自動的に15:9のズームモードになり、メニューを表示すると、自動的に4:3のノーマルモードに切り換わります。
リモコンのワイド切替ボタンを使うと、好きな画面モードに切り換えることができます。

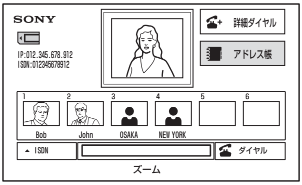
画面モードの自動切り換え

以下のタイミングで自動的に画面モードが切り換わります。

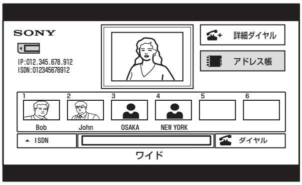
タイミング	画面モード
起動直後	ズームモード
メニュー表示直後	ノーマルモード
メニューから抜けた直後	ズームモード
通信開始時	ズームモード
通信終了直後	ズームモード

手動でワイド画面を切り換えるには

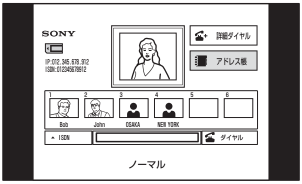
リモコンのワイド切替ボタンを押すたびに、画面モードが次のように切り替わります。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル
ズーム

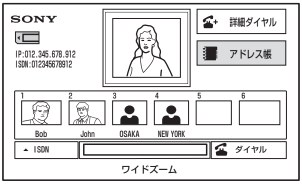
ズームモード


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル
ワイド

ワイドモード


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル
ノーマル

ノーマルモード


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル
ワイドズーム

ワイドズームモード

ワイド切替ボタンを押して画面モードを切り換えると、約1秒間、画面モードが表示されます。ただし、本機が画面モードを自動的に切り換えるときは表示されません。

各画面モードの特長

ズームモード：4:3の画面の上下を切り取り、15:9の画面にします。会議中はこのモードをお奨めします。

ワイドモード：4:3の画面の幅を全体的に広げて15:9の画面にします。

ワイドズームモード：4:3の画面の中心部分は元の画像のままで、外側になるほどワイド率を上げて15:9の画面にします。

ノーマルモード：4:3の画面をそのまま表示します。メニュー表示時はこのモードをお奨めします。

4 章

いろいろな機器を使った会議

この章では、ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 に含まれている構成機器以外に別売りの機器をプラスしてできるいろいろな会議のしかたを説明します。

◆別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使ったデータ会議を行うには、5 章をご覧ください。

◆多地点会議を行うには、7 章をご覧ください。

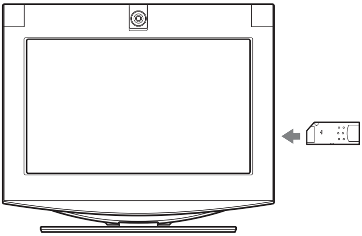
“メモリースティック”の静止画を会議に使う

別売りの“メモリースティック”に保存されている静止画をディスプレイに表示したり、相手に送信することができます。

“メモリースティック”の静止画を表示する

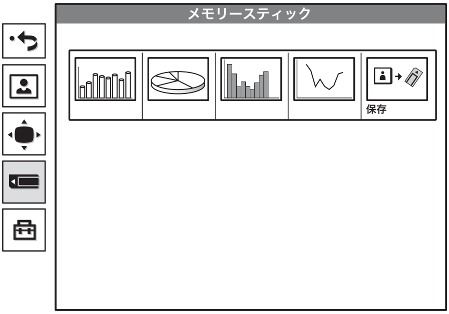
1 静止画が保存されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の裏側を手前に、上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



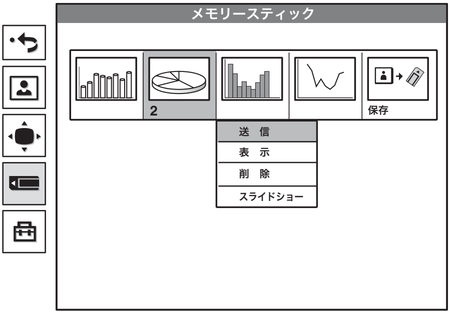
2 メモリースティックメニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ▬（メモリースティック）アイコンを選びます。


メモリースティック
保存

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで表示したい静止画を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。


メモリースティック
2
保存
送 信
表 示
削 除
スライドショー

4 リモコンの ↑/↓ ボタンで「表示」を選び、決定ボタンを押す。

メニューが消え、選んだ静止画が表示されます。

静止画表示を解除するには

静止画が表示されているときに、リモコンの決定ボタンを押してください。メモリースティックメニューに戻ります。

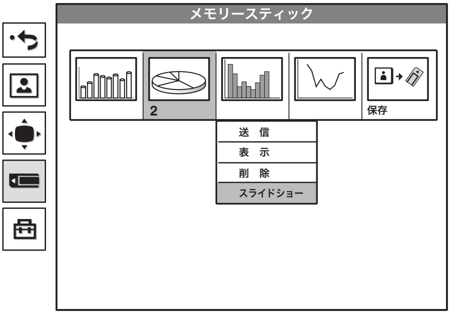
スライドショーで静止画を見るには

“メモリースティック”に保存されている静止画を次々に表示することができます。**(スライドショー)**

1 “メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れ、メモリースティックメニューを表示する。

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでスライドショーを開始したい画像を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの↑/↓ボタンで「スライドショー」を選び、決定ボタンを押す。

スライドショーが始まります。通信中のときは、相手に静止画が送信されます。

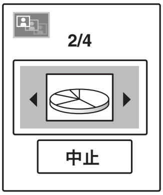
スライドショーを行っているときは、ディスプレイに🖼インジケーターが表示されます。

4 画像を切り換える。

リモコンの→ボタンを押すと、次の画像が表示されます。リモコンの←ボタンを押すと、前の画像が表示されます。

スライドショーの途中で別の静止画を選ぶには

スライドショーを行っているときにリモコンの決定ボタンを押すと、サブメニューが表示されます。



リモコンの ←/→ ボタンでサブメニュー画面の静止画を選び、決定ボタンを押すと、選んだ静止画がディスプレイにフルスクリーンで表示されます。通信中のときは、相手に選んだ静止画が送信されます。

スライドショーを中止するには

サブメニューが表示されているときは、リモコンの ↓ ボタンで「中止」を選び、決定ボタンを押してください。
サブメニューが表示されていないときは、リモコンの戻るボタンを押してください。メモリースティックメニューに戻ります。

静止画を削除するには

メモリースティックメニューを表示し、削除したい画像を選んで決定ボタンを押します。サブメニューが表示されますので、リモコンの ↑/↓ ボタンで「削除」を選び、決定ボタンを押してください。静止画が"メモリースティック"から削除されます。

"メモリースティック"を取り出すには

"メモリースティック"を一度押し込んで少し飛び出させてから取り出してください。

"メモリースティック"の静止画を送信する

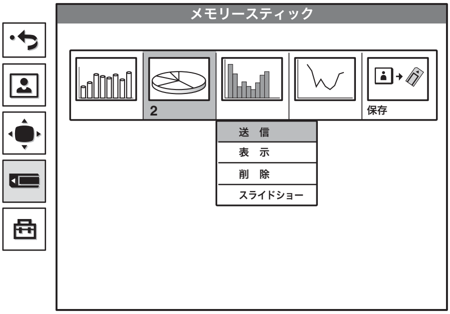
通信中、"メモリースティック"に保存されている静止画を相手に送信することができます。

1 "メモリースティック"をメモリースティックスロットに入れ、メモリースティックメニューを表示する。

◆"メモリースティック"の入れかたとメモリースティックメニューの表示のしかたは、「"メモリースティック"の静止画を表示する」(150ページ)をご覧ください。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで送信したい静止画を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ⬆/⬇ ボタンで「送信」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ静止画が表示され、静止画が送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

手順３で「スライドショー」を選ぶと

サブメニューの「スライドショー」を選び、決定ボタンを押すと、選んだ画像からスライドショーが始まり、静止画が相手に送信されます。

◆スライドショーについて詳しくは、151 ページをご覧ください。

ご注意

メモリースティック” のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」から「¥DCIM\109MSDCF」のうち、1 つのフォルダ内の画像が表示されます。優先的に表示されるフォルダは、「109MSDCF」、「108MSDCF」、「107MSDCF」…の順です。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”とは？

“メモリースティック”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代のIC記録メディアです。“メモリースティック”対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの1つとしてデータの保存にもお使いいただけます。
“メモリースティック”には、標準サイズのものとその小型サイズの“メモリースティックデュオ”があります。
“メモリースティックデュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れると、標準サイズの“メモリースティック”と同じサイズになり、標準サイズの“メモリースティック”対応機器でもお使いいただけます。

“メモリースティック”の種類

“メモリースティック”には、用途に応じて以下の5種類があります。

- “メモリースティック PRO”
  “メモリースティック PRO”対応機器でのみお使いいただける、著作権保護技術（マジックゲート）を搭載した“メモリースティック”です。
- “メモリースティック -R”
  いったん記録されたデータが上書きされない“メモリースティック”です。“メモリースティック -R”対応機器でのみデータを記録できます。著作権保護技術（マジックゲート）が必要なデータは記録できません。
- “メモリースティック”
  著作権保護技術（マジックゲート）が必要なデータ以外の、あらゆるデータを記録できる“メモリースティック”です。
- “マジックゲートメモリースティック”
  著作権保護技術（マジックゲート）を搭載した“メモリースティック”です。
- “メモリースティック -ROM”
  あらかじめデータが記録されている、読み出し専用の“メモリースティック”です。データの記録や消去はできません。
- “メモリースティック”（メモリーセレクト機能付き）
  内部に複数のメモリー（128MB）を搭載している“メモリースティック”です。
  “メモリースティック”本体裏面のメモリーセレクトスイッチにより、用途に応じてご使用になるメモリーを選択できます。各メモリーを同時に、また連続でご使用することはできません。

使用可能なメモリースティック

本機では、“メモリースティック”および“マジックゲート メモリースティック”がご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で表示するデータはマジックゲートによる著作権の保護の対象にはなりません。また、本機では“メモリースティック Pro”も使えません。

“メモリースティック デュオ”について

- “メモリースティック デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティックデュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。
- “メモリースティック デュオ ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認ください。
- “メモリースティック デュオ ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

マジックゲートとは？

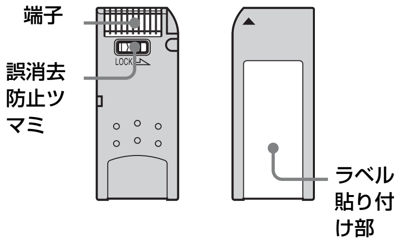
マジックゲートは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

本機で表示できるファイル形式

以下の形式で“メモリースティック”に保存されているファイルのみ表示できます。

- JPEG (Joint Photographic Experts Group) 方式で圧縮した画像ファイル（DCF 準拠）。ファイル拡張子は「.jpg」です。
- 画像ファイルは最大 2048 × 1536（画素）まで表示できます。

“メモリースティック”について



- 誤消去防止ツマミを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。
- “メモリースティック デュオ”の誤消去防止スイッチを動かすときは、先の細いもので動かしてください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - —読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - —静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

ご注意

- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- “メモリースティック デュオ”のメモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。

- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属などで触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  —高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  —直射日光のあたる場所
  —湿気の多い場所や腐食性のある場所

- Memory Stick Duo（“メモリースティック デュオ”）および MEMORY STICK DUO は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick（“メモリースティック”）および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- MagicGate Memory Stick（“マジックゲート メモリースティック”）および MAGICGATE は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick -ROM（“メモリースティック -ROM”）および MEMORY STICK-ROM は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick PRO（“メモリースティック PRO”）および MEMORY STICK PRO は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick R（“メモリースティック -R”）および MEMORY STICK-R は、ソニー株式会社の商標です。

“メモリースティック”をフォーマットする

ご注意

- コンピューターでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。必ず、本機でフォーマットした“メモリースティック”をお使いください。
- “メモリースティック”をフォーマットすると、“メモリースティック”に保存されている画像やアドレス帳などのデータなどのデータはすべて消去されます。

“メモリースティック”をフォーマットするには

一般設定メニューの「メモリースティックフォーマット」を選ぶと「メモリースティックをフォーマットしますか？」というメッセージが表示されます。ここで「OK」を選ぶと、“メモリースティック”がフォーマットされます。

フォーマットされていない“メモリースティック”が挿入されると

「メモリースティックをフォーマットしますか?」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは「OK」を選んでください。フォーマットしないときは「キャンセル」を選んでください。

カメラ映像を静止画にして送信する

カメラで撮影した動画や本機に接続している外部映像機器の動画を静止画として、送信することができます。
文字の多い画像などは、静止画として送ったほうが、画像がはっきりし、文字などが読みやすくなります。

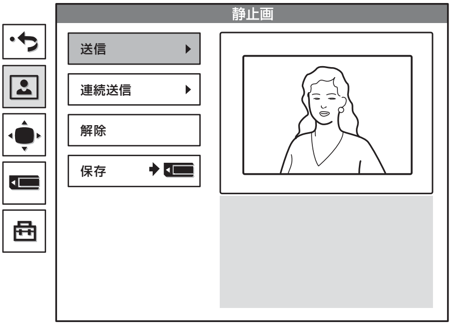
静止画メニューから送信する

通信中、自分側のカメラで撮影した動画を静止画にして相手に送信することができます。静止画は1枚だけ送信したり、連続して送信することもできます。

1 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ▣（静止画）アイコンを選びます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「送信」または「連続送信」を選び、決定ボタンを押す。



3 必要があれば、カメラのズームとアングルを調整し、決定ボタンを押す。

◆ズームとアングルの設定について詳しくは、「ズームとアングルを調節する」（133 ページ）をご覧ください。

ディスプレイの動画が静止画になり、相手に送信されます。
「送信」を選んだときは、静止画が1枚だけ送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。
「連続送信」を選んだときは、静止画が次々と送信されます。静止画が送信される間隔は、通信速度と画像によって変わります。

連続送信を中止するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ボタンで「停止」を選び、決定ボタンを押してください。

静止画表示を解除するには

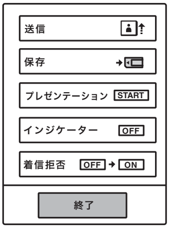
リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ボタンで「解除」を選び、決定ボタンを押してください。

通信中サブメニューから送信する

通信中、ディスプレイに表示されたカメラ映像を静止画にして、1枚だけ簡単に相手に送信することができます。

1 通信中にリモコンの決定ボタンを押す。

通信中サブメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「送信」を選び、決定ボタンを押す。

ディスプレイの動画が静止画になり、1枚だけ相手に送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押して通信中サブメニューを表示し、「解除」を選んで決定ボタンを押します。（静止画表示中はサブメニューの「送信」が「解除」に変わります。）

通信中サブメニューを消すには

通信中サブメニューの「終了」を選び、リモコンの決定ボタンを押します。またはリモコンの戻るボタンを押します。

静止画を受信中は

送信できません。解除を実行してから送信してください。

相手側から静止画を受信する

通信中、着信側の着信設定メニューと発信側の発信設定メニューの「遠隔カメラ制御」が「オン」になっていれば、相手側の映像を静止画として受信することができます。

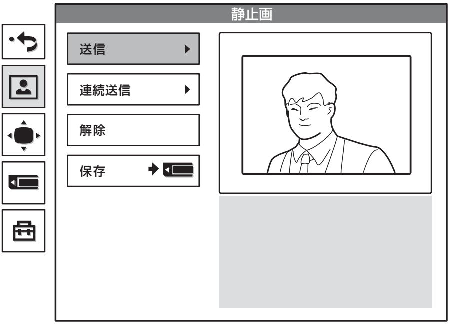
1　静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ▣（静止画）アイコンを選びます。

2　リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

静止画メニュー内のディスプレイに相手側のカメラの映像と「FAR」インジケーターが表示され、静止画メニューの「送信」が「受信」に変わります。

3　リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「受信」を選び、決定ボタンを押す。



ディスプレイに表示されている相手側の映像が静止画として受信されます。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ ボタンで「解除」を選び、決定ボタンを押してください。

会議中の静止画を保存する

あらかじめ“メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れておけば、自分側のカメラ映像や入力映像、会議中の相手側の映像を静止画として“メモリースティック”に保存することができます。
保存した画像は、ワンタッチダイヤルボタンやアドレス帳に登録することができます。

自動的に相手側の映像を保存する—自動静止画キャプチャー機能

本機は、通信開始から5秒おきに10回、自動的に相手側の画像をキャプチャーして本機内のメモリーに保存します。本機のメモリーに保存された静止画は、次回の通信開始時または電源オフ時まで保存されます。
この機能は“メモリースティック”が挿入されていなくても動作します。

ご注意

- 自動静止画キャプチャー機能は多地点会議のときは動作しません。
- 発信後、接続までに時間がかかった場合、はじめの数枚が黒い画像になることがありますが、故障ではありません。

リモコンの静止画保存ボタンで相手側の映像を保存する—静止画キャプチャー機能

通信中にリモコンの静止画保存ボタンを押すと、その時点の相手画像をキャプチャーして“メモリースティック”に保存します。

ご注意

多地点会議中にリモコンの静止画保存ボタンを押すと、ディスプレイに表示されている多地点分割画像がそのまま“メモリースティック”に保存されます。

静止画メニューから保存する

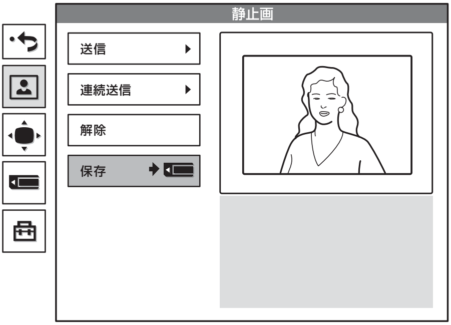
1 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで 🖼（静止画）アイコンを選びます。

2 保存したい映像をディスプレイに表示する。

自分側の入力映像を切り換えるには、リモコンの PC/ ビデオボタンを押して、保存したい映像を選択します。相手側の映像を保存するときは、リモコンの相手 / 自分ボタンで相手側の映像を選択します。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。



ディスプレイに表示された映像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

ご注意

- データの書き込みが終了するまでは、“メモリースティック”を抜かないでください。“メモリースティック”が壊れたり、本機が誤動作します。
- 静止画ファイルは、すべて新規ファイルとして保存されます。上書きはされません。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

「メモリースティックが書き込み禁止です。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”の容量がいっぱいのときは

「メモリースティックがいっぱいです。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”に保存される画像の形式

画像のファイル名

本機で保存する画像は、“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」の下に「DSCXXXXX.JPG」のファイル名で保存されます。

画像の圧縮形式

本機は、撮影した画像データを JPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮・記録しています。ファイル拡張子は「.jpg」です。

ご注意

- プログレッシブ JPEG には対応していません。
- すでに「¥DCIM¥101MSDCF」など 100 より大きい数字のフォルダが存在する場合には、数字の大きなフォルダに保存されます。

メモリースティックメニューから保存する

メモリースティックメニューに表示される“メモリースティック”保存サムネイルを使って静止画を保存することができます。

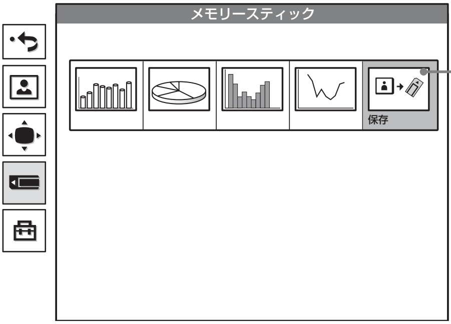
1 保存したい映像をディスプレイに表示する。

自分側の入力映像を切り換えるには、リモコンの PC/ ビデオボタンを押して、保存したい映像を選択します。
相手側の映像を保存するときは、リモコンの相手 / 自分ボタンで相手側の画像を選択します。

2 メモリースティックメニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで ▭（メモリースティック）アイコンを選びます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでカーソルをサムネイルの最後尾の“メモリースティック”保存サムネイルに合わせ、決定ボタンを押す。


メモリースティック
保存
“メモリースティック”保存サムネイル

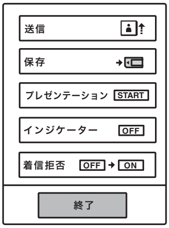
選んだ画像が静止画として“メモリースティック”に保存され、サムネイルができます。

通信中サブメニューから保存する

通信中にディスプレイに表示された画像を簡単に“メモリースティック”に保存できます。

1 通信中にリモコンの決定ボタンを押す。

通信中サブメニューが表示されます。


送信
保存
プレゼンテーション START
インジケーター OFF
着信拒否 OFF → ON
終了

2 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

ディスプレイに表示された画像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。
保存が終わると「静止画がメモリースティックに保存されました。」というメッセージが表示されます。

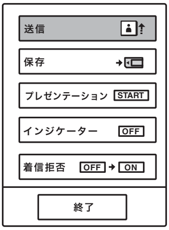
通信中サブメニューを消すには

通信中サブメニューの「終了」を選び、リモコンの決定ボタンを押します。

通信中に使える便利なメニュー
－通信中サブメニュー

通信中にリモコンの決定ボタンを押すと、ディスプレイに通信中サブメニューが表示されます。
通信中サブメニューは、通信中によく使う機能をワンタッチで実行できる便利なメニューです。

通信中サブメニュー



リモコンの⬆/⬇ボタンでメニューの各項目を選び、決定ボタンを押すと、以下の機能が実行されます。

送信：ディスプレイに表示されているカメラ映像を静止画として1枚送信します。
送信後はメニュー項目が「解除」に変わります。「解除」を選ぶとカメラ映像に戻ります。

保存：ディスプレイに表示されているカメラ映像を静止画として“メモリースティック”に保存します。

プレゼンテーション START：データソリューションボックス PCSA-DSB1S から入力した RGB 画像を相手に送信します。送信後はメニュー項目が「プレゼンテーション STOP」に変わり、これを選ぶと送信が終了します。
データソリューションボックスを接続しているときのみ表示されます。

インジケーター OFF：ディスプレイにインジケーターが表示されていないとき、表示させます。インジケーター表示中はメニュー項目が「インジケーター ON」に変わり、これを選ぶとインジケーターが表示されなくなります。

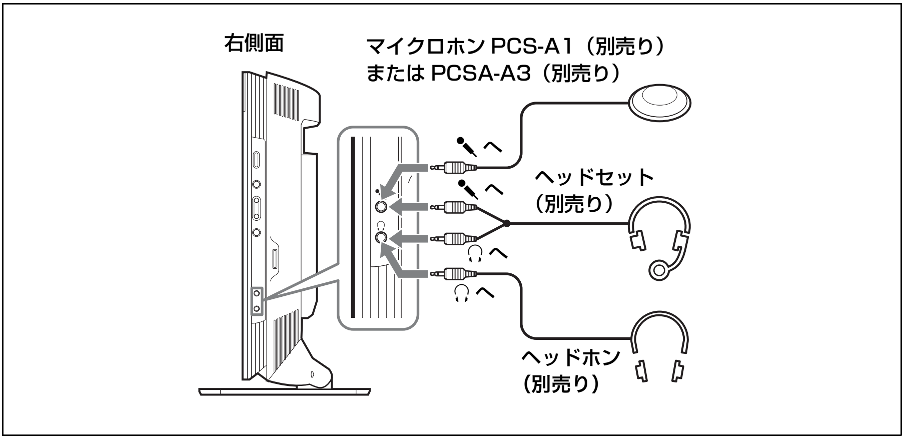
着信拒否 OFF ➔ ON：「着信拒否 OFF ➔ ON」を選ぶと、MCU ソフトウェアがインストールされている場合、会議中に他の端末からの呼び出しを受けたときに接続を拒否します。
再度通信中サブメニューを表示させるとメニュー項目として「着信

拒否 ON ➡ OFF」が表示され、これを選ぶと会議中の着信が許可されます。

終了：通信中サブメニューを消します。

外部マイクやヘッドホンを使う

本機に内蔵されているマイクは、3人程度の参加者を想定していますが、別売りのマイクロホン PCS-A1 や PCSA-A3 を接続すると、多人数での会議も可能になります。
また、本機にはヘッドホンやヘッドセットをつなぐこともできます。



ご注意

- 本機に接続したマイクを使用するときは、音声設定メニューの「マイク選択」を「内部」のままにしてください。
- 外部マイクを接続すると、内蔵マイクは使用できなくなります。
- ヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカーは切れます。

マイクロホン PCS-A1、PCSA-A3 を設置するときのご注意

- マイクは、本機から1 m 以上離して設置してください。
- 参加者とマイクの間隔が50 cm 程度になるように設置してください。
- できるだけ静かで、音が反響しにくい場所に設置してください。
- ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 紙などでマイクを覆ったり、マイクを手に持って動かしたりしないでください。ノイズとエコーが相手側へ一時的に大きく伝わることがあります。その場合は、エコーがおさまるまでしばらくお待ちください。

音声のみの会議をする－ボイスミーティング

本機は、ISDN回線を経由して、ビデオ会議システム以外の通常の電話機と音声のみの会議をすることができます。（ボイスミーティング）
基本的な接続の手順は、映像と音声の会議を行うときと同じです。

ワンタッチダイヤルボタンやアドレス帳に登録していない相手とボイスミーティングをするとき

ランチャーメニューや詳細ダイヤルメニューの「回線種別」を「音声電話」に設定してください。
ボイスミーティング中は、ディスプレイに「Voice Only」インジケーターが表示されます。

◆「回線種別」の設定については、「詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（120ページ）をご覧ください。

ボイスミーティングをする相手を登録するとき

アドレス帳のリスト編集メニューで「回線種別」を「音声電話」に設定してください。

◆登録のしかたは、「会議の相手をアドレス帳に登録する」（82ページ）をご覧ください。

音声圧縮方式を選ぶには

発信設定メニュー4ページ目の「音声電話」の設定を行ってください。
こちらからボイスミーティングを開始するときは、「音声電話」を「オート」に設定してください。「オート」を選ぶと、ISDN設定メニューの「プロトコル」の設定に従って、音声圧縮方式が自動的に設定されます。（NTTを選択した場合は「G.711 μ-law」に設定されます。）
相手側からボイスミーティングを開始するときは、自分側の設定は必要ありません。

◆「音声電話」については、「発信設定メニュー」（54ページ）をご覧ください。

トーン信号で相手のシステムを制御する－DTMF の送信

ダイヤル発信する際の各数字（0 ～ 9、# 、*）に割り当てられているトーン信号（二重トーン多重周波数）を送信することにより、相手側に接続されているシステムを遠隔制御することができます。

1　通信中にリモコンの * ボタンを押す。

ディスプレイに DTMF メニューが表示されます。

2　リモコンの数字ボタン（0 ～ 9、# 、*）を押して、送信したい数字を選ぶ。

数字ボタンを押すと、トーン信号が相手に送られます。

3　終了するには、リモコンの決定ボタンを押す。

ディスプレイの DTMF メニューが消えます。

NetMeeting を使ってデータ会議をする－T.120 データ会議

NetMeeting* をインストールしたコンピューターを本機に接続すると、本機が ISDN 回線で接続されているときに限り、本機を介してデータ会議の国際標準である ITU-T 勧告 T.120 に準拠したデータ会議を行うことができます。

* NetMeeting は米国マイクロソフト社の登録商標です。

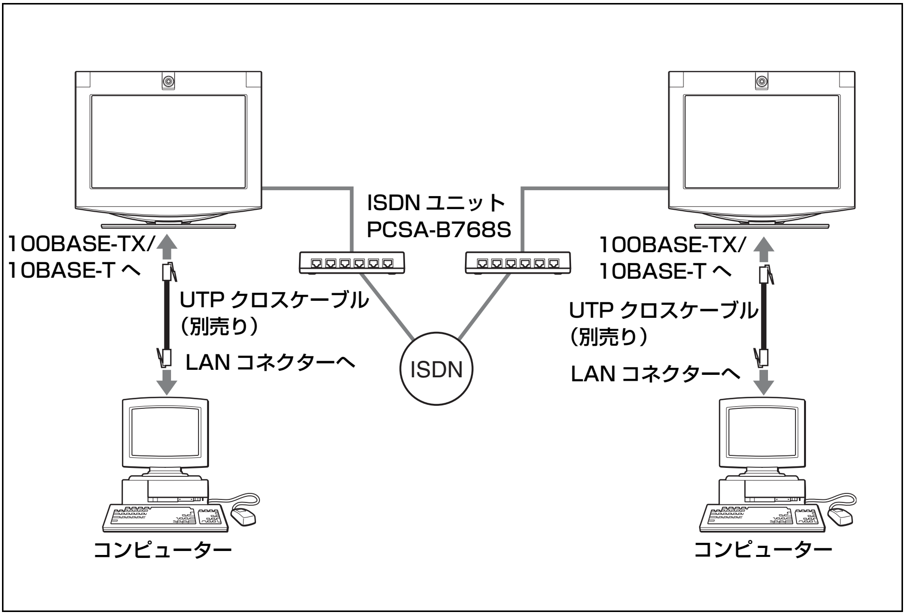
ご注意

- 本機を多地点会議装置（マルチポイント）として使用しているときは、T.120 データ会議を行うことはできません。
- 本機を相手のビデオ会議システムと LAN で接続している場合は、本機を介さず、コンピューター間で T.120 データ会議を行ってください。

コンピューターを接続するには

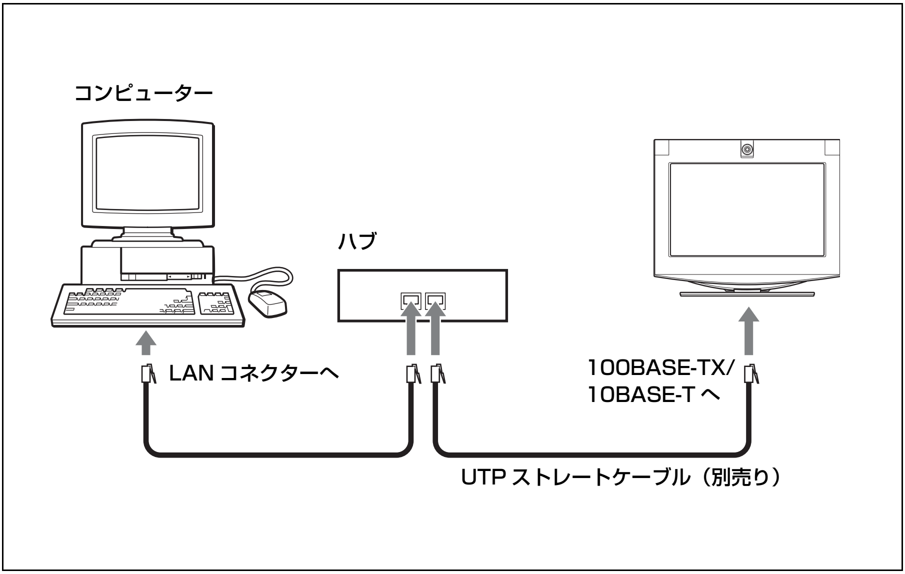
本機に直接接続するには

コンピューターの LAN コネクターと本機の 100BASE-TX/10BASE-T 端子を市販の UTP クロスケーブル（カテゴリー 5）で接続してください。


ISDN ユニット
PCSA-B768S
100BASE-TX/
10BASE-T へ
UTP クロスケーブル
（別売り）
LAN コネクターへ
ISDN
100BASE-TX/
10BASE-T へ
UTP クロスケーブル
（別売り）
LAN コネクターへ
コンピューター
コンピューター

ハブを使って接続するには

ハブを使用しているときは、UTP ストレートケーブルを使用して、コンピューターと本機を接続してください。


コンピューター
ハブ
LAN コネクターへ
100BASE-TX/
10BASE-T へ
UTP ストレートケーブル（別売り）

本機の設定をするには

一般設定メニュー2ページ目の「T.120 PC アドレス」にNetMeetingをインストールしたコンピューターのIPアドレスを入力してください。（59ページ）

自分側からミーティングを始めるときは

発信設定メニュー2ページ目の「T.120 データ」を「オン」に設定してください。（54ページ）

相手側から呼び出されるときは

着信設定メニュー2ページ目の「T.120 データ」を「オン」に設定してください。（57ページ）

ご注意

発信設定メニュー、着信設定メニューの「音声方式」は「G.728」に設定して使用することをお奨めします。

NetMeetingで接続するには

あらかじめ、コンピューターにNetMeetingをインストールしておいてください。

1 コンピューターでNetMeetingのアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューからNetMeetingのアイコンを選択して、NetMeetingを起動する。

2 本機を通信状態にする。

ディスプレイに「T.120」インジケーターが表示されていることを確認してください。

3 自分側または相手側のどちらかでNetMeetingの「通話」をクリックする。

4 「通話先」ダイアログボックスの「アドレス」に本機に設定されているIPアドレスを入力する。

5 「通話」をクリックする。

しばらくすると接続が完了します。

◆具体的な使用方法は、NetMeetingのヘルプメニューなどをご覧ください。

データ伝送レートについて

本機は、以下のデータ伝送レートをサポートしています。

MLP：6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps

HMLP：62.4 Kbps、64 Kbps、128 Kbps

外部から本機にアクセスする

本機は下記のような外部アクセスが可能です。いずれの場合も、詳しい内容については、お買い上げ店にご相談ください。

Web ブラウザを使用する

Web ブラウザから本機の IP アドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
本機へのアクセスを可能にするには、管理者用設定メニューの「Web アクセス」を「許可」に設定してください。（70 ページ）

◆アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」（68 ページ）をご覧ください。

◆Web 機能について詳しくは、10 章「Web 機能」をご覧ください。

Telnet を使用する

Telnet により、本機の IP アドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
本機へのアクセスを可能にするには、管理者用設定メニューの「Web アクセス」を「許可」に設定してください。（70 ページ）

◆アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」（68 ページ）をご覧ください。

5章

データソリューションボックスを使ったデータ会議

この章では、別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使い、コンピューターなどの画像を会議に使用する方法を説明します。

データソリューションボックス PCSA-DSB1S は、さまざまな入出力端子を備えています。たとえば、データソリューションボックスにコンピューターの RGB 映像出力を接続すれば、コンピューターに表示した画像や文書を会議の相手に送信することができます。またプロジェクターを接続して、相手の送ってくる高解像度のコンピューター画像を高速に表示することができます。そのほか、アクティブスピーカーやマイクを接続する端子があります。本機とは専用のインターフェースケーブルで接続します。

受信側は、データソリューションボックスがなくても、また PCS-1 や PCS-11、PCS-G70、PCS-1600 など他のビデオ会議装置でも、送られてきたコンピューター画像を見ることができます。ただし、端末の構成により、受信画像品質は異なります。受信側もデータソリューションボックスを使用すると、本機だけのときに比べて 1 秒あたりのコマ数をより多く表示できるので、動きのある高解像度のコンピューター画像を見ることが可能です。

◆端末構成による画像品質は、「データソリューションボックスの画像品質」（183 ページ）をご覧ください。

◆RGB 入出力信号の仕様について詳しくは、「仕様」の「RGB 入出力仕様」（311 ページ）をご覧ください。

データソリューションボックス使用時の IP アドレスの制限について

データソリューションボックス PCSA-DSB1S 使用時に本機で使用できる IP アドレスには制限があります。また、データソリューションボックスと本機間での通信用に使用しているネットワークは、別のセグメントに設定する必要があります。

したがって、本機で使用できないアドレスは、データソリューションボックスの通信用アドレスと使用するネットワークマスクの AND を取った値となります。

（本機で使用できないアドレス）＝（DSB 通信用アドレス）&（ネットワークマスク）

ここで DSB 通信用アドレスは、「192.254.1.2」の固定アドレスです。

たとえばネットワークマスクが「255.255.0.0」だとすると、このときに使用できないアドレスは、

192.254.m.n（$0 \leqq m \leqq 255, 0 \leqq n \leqq 255$）

となります。

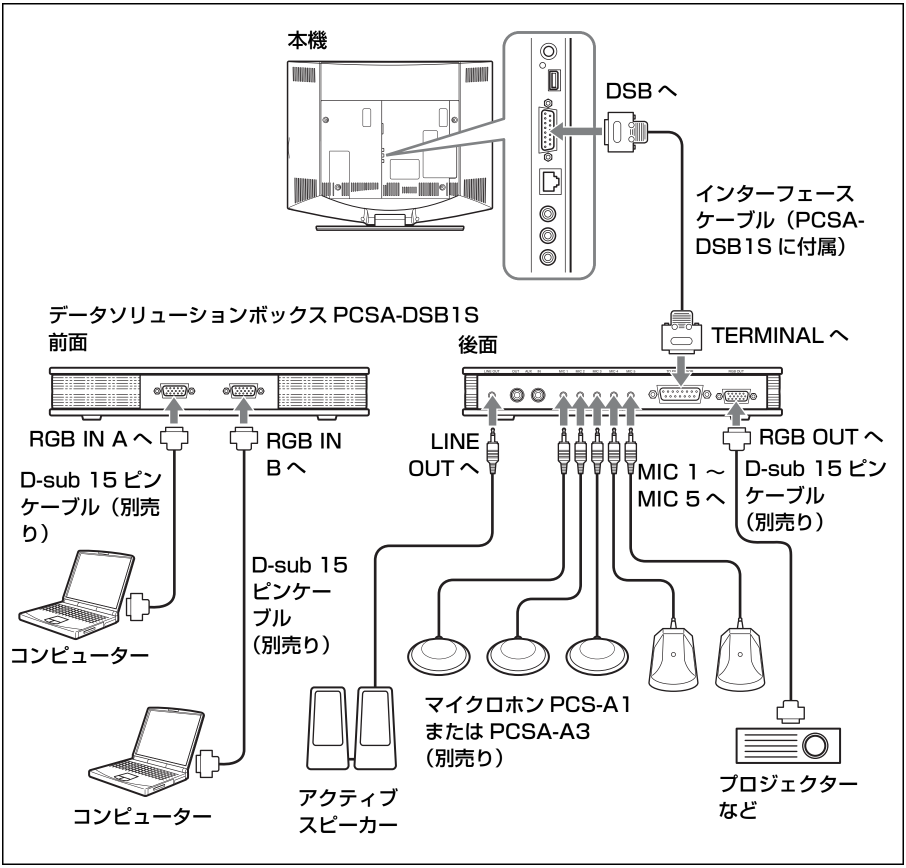
データソリューションボックス使用時のカメラ画像について

データソリューションボックスを使って送信中は、カメラ画像のコマ数が少なくなり、画質が悪くなります。

データソリューションボックスへの接続例

⚠注意

- 本機データソリューションボックスの故障の原因となりますので、電源を入れたままインターフェースケーブルを抜き差ししないでください。
- データソリューションボックスを初めて本機に接続して使用するとき、本機が自動的にデータソリューションボックスのソフトウェアをバージョンアップすることがあります。画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。


本機
DSBへ
インターフェースケーブル（PCSA-DSB1Sに付属）
データソリューションボックス PCSA-DSB1S
前面
後面
TERMINALへ
RGB IN Aへ
RGB IN Bへ
LINE OUTへ
MIC 1～MIC 5へ
RGB OUTへ
D-sub 15ピンケーブル（別売り）
D-sub 15ピンケーブル（別売り）
D-sub 15ピンケーブル（別売り）
コンピューター
コンピューター
アクティブスピーカー
マイクロホン PCS-A1またはPCSA-A3（別売り）
プロジェクターなど

接続例について

- 前ページのように接続すると、データソリューションボックスへの電源は、本機から供給されます。
- データソリューションボックスのRGB OUT端子にプロジェクターなどを接続すると、以下のことが可能になります。
  - 受信したコンピューター画像を、もっとも良い画像品質で出力できます。
  - 自分側のデータソリューションボックスと接続しているコンピューターの映像を出力できます。（データソリューションボックスの非通信時、一般設定メニューの「DSB OUT接続先」が「本体RGB入力」の場合）
  - 通信相手の映像を大画面に出力できます（データソリューションボックスの非通信時、一般設定メニューの「DSB OUT接続先」が「外部機器（映像/PC表示）」の場合）
- プロジェクターの代わりにデータソリューションボックスのRGB OUT端子に本機のRGB IN端子を接続すると、送信中のコンピューター画像を本機で見ることができます。

◆詳しくは、第9章「コンピューターディスプレイ機能/ビデオモニター機能」（246ページ）をご覧ください。

マイク使用時のご注意

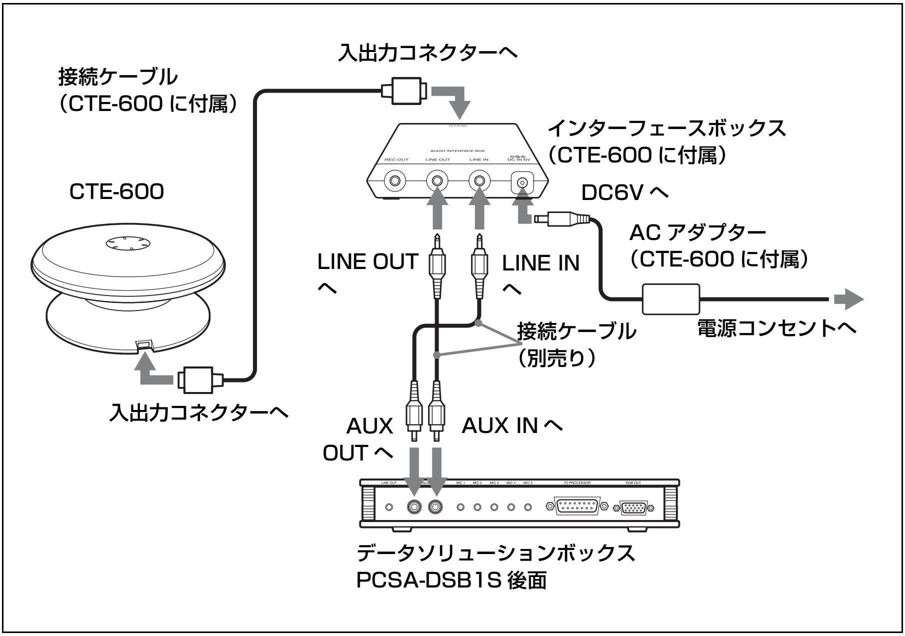
- データソリューションボックスには外部マイクを5本まで接続することができます。
- 外部マイク使用時、室内の騒音によって相手に届く音声が不明瞭になることがあります。この場合はマイクに近づいて話してください。
- 複数のマイクを接続して使用する場合、部屋によってはエコーキャンセルの特性を十分に発揮できないことがあります。この場合は、部屋の反響を押さえる、マイクの本数を減らすなどしてご使用ください。
- データソリューションボックスに接続した外部マイクと内部マイクは同時に使用できません。

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600 を接続する

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600 は、方位選択マイクと全方位スピーカーを一体化した機器です。1 台で雑音の少ない明瞭な音声を全方向から拾い、周囲に鮮明な音声を均等に伝えることができます。

ご注意

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600 は現在販売されていません。


入出力コネクターへ
接続ケーブル
（CTE-600 に付属）
インターフェースボックス
（CTE-600 に付属）
AUDIO INTERFACE BOX
REC OUT
LINE OUT
LINE IN
DC IN 6V
CTE-600
DC6V へ
AC アダプター
（CTE-600 に付属）
LINE OUT
へ
LINE IN
へ
電源コンセントへ
接続ケーブル
（別売り）
入出力コネクターへ
AUX
OUT へ
AUX IN へ
LINE OUT
MIC 1
MIC 2
MIC 3
MIC 4
MIC 5
TO PROCESSOR
RGB OUT
データソリューションボックス
PCSA-DSB1S 後面

データソリューションボックスに接続したコミュニケーショントランスデューサーを使うには

- 音声設定メニューの「CTE」を「DSB AUX IN」に設定してください。（61 ページ）
- コミュニケーショントランスデューサー底面の SYSTEM SELECT スイッチを「PCS」に設定してください。

ご注意

2台以上のコミュニケーショントランスデューサーを同じ部屋で使ったり、他のマイクとコミュニケーショントランスデューサーを併用することはできません。

◆コミュニケーショントランスデューサーの詳しい使いかたは、コミュニケーショントランスデューサーの取扱説明書をご覧ください。

接続機器の映像・音声を会議に使う

会議前の設定

データソリューションボックスに接続したマイクを使うには

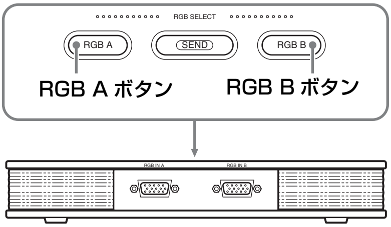
音声設定メニューの「マイク選択」を「DSB MIC」に設定してください。（61 ページ）

会議中の操作

データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を選ぶには

データソリューションボックスのボタンを使用する場合

データソリューションボックス上面の RGB A ボタンまたは RGB B ボタンを押します。
RGB IN A 端子に接続したコンピューターの画像を入力するには RGB A ボタン、RGB IN B 端子に接続したコンピューターの画像を入力するには RGB B ボタンを押してください。
選択したボタンのランプが点灯します。



リモコンのボタンを使用する場合

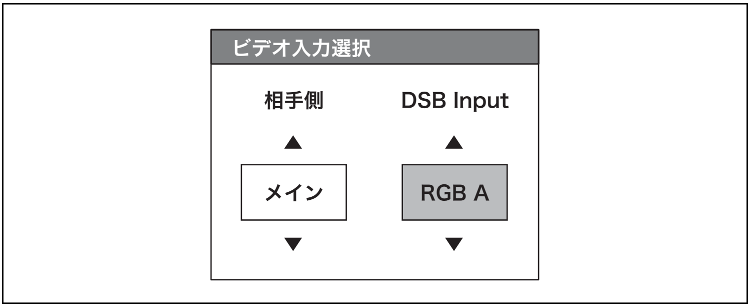
1 リモコンの入力切替ボタンを押す。

ビデオ入力選択メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「DSB Input」の「RGB A」と「RGB B」を切り換える。

RGB A：データソリューションボックスの RGB IN A 端子に接続したコンピューターの画像を選ぶとき

RGB B：データソリューションボックスのRGB IN B端子に接続したコンピューターの画像を選ぶとき


ビデオ入力選択
相手側
DSB Input
▲
▲
メイン
RGB A
▼
▼

3 リモコンの決定ボタンを押す。

選択した入力に応じ、データソリューションボックス上面のRGB AボタンまたはRGB Bボタンのランプが点灯します。

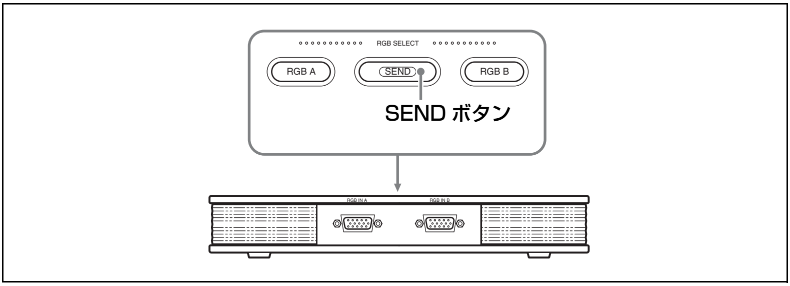
ご注意

データソリューションボックスのRGB A、RGB Bボタンで入力を切り換えても、「ビデオ入力選択」画面の表示は切り換わりません。

データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を送信するには

データソリューションボックス上面のSENDボタンを押します。

SENDボタンのランプが点灯し、選択されたコンピューターの画像がデータソリューションボックスのRGB OUT端子に接続されたプロジェクターや本機に表示されます。通信中であれば、会議の相手にもデータソリューションボックスで選択された画像が送信されます。


RGB SELECT
RGB A
SEND
RGB B
SENDボタン
RGB IN A
RGB IN B

プロジェクターや本機に表示されている送信中のコンピューター画像は、データソリューションボックスに入力している画像がそのまま表示されます。相手に送られている画像は、細かな部分が見にくくなる場合があります。また、コマ数が落ちます。

◆画像品質について詳しくは、「データソリューションボックスの画像品質」（183 ページ）をご覧ください。

◆リモコンの操作でコンピューター画像を送信することもできます。
詳しくは、「通信中に使える便利なメニュー－通信中サブメニュー」（165 ページ）をご覧ください。

ご注意

コンピューター画像を送信中は、他の端末からの静止画およびコンピューター画像を受信できません。送信を終了すると受信できます。
他の端末からコンピューター画像を受信中は、データソリューションボックスに接続した機器からの静止画およびコンピューター画像を送信することはできません。静止画を受信中は、データソリューションボックスに接続した機器からのコンピューター画像は送信できますが、静止画は解除されて動画として送信されます。

多地点でコンピューター画像を伝送するには

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（LAN 接続用）、または H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（ISDN 接続用）を本機にインストールしているときは、多地点間でコンピューター画像を伝送することができます。

データソリューションボックスの画像品質

相手側の端末や接続方法、モニター出力（サブモニター出力）の設定により、データソリューションボックスから送信された画像の受信品質が異なります。
相手側でもデータソリューションボックスを使用すれば、動きのある高画質のコンピューター画像を見ることが可能です。

受信端末が PCS-TL50 の場合

受信端末の出力先	解像度	コマ数	画像品質
本体ディスプレイ	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。回線レートにもよりますが、1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
データソリューションボックス PCSA-DSB1S の RGB OUT 端子 (PCSA-DSB1S 使用時のみ)	◎	◎	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体の RGB OUT 端子使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 5 枚程度です。 **ご注意** XGA で伝送した画像は 3 枚程度の表示になります。

◎高、○中、△低

受信端末が PCS-1 の場合

受信端末の「モニター出力（サブモニター出力）」の設定		受信端末のコンピューター画像の出力端子	解像度	コマ数	画像品質
受信端末の「デュアルモニター：オフ」のとき	受信端末の「デュアルモニター：オン」のとき				
本体 VIDEO	—	コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR MAIN 端子	○	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を NTSC/PAL に変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
—	本体 VIDEO	コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR SUB 端子	○	○	同上
本体 RGB	本体 RGB	コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。

◎高、○中、△低

受信端末がPCS-1の場合（つづき）

受信端末の「モニター出力（サブモニター出力）」の設定		受信端末のコンピューター画像の出力端子	解像度	コマ数	画像品質
受信端末の「デュアルモニター：オフ」のとき	受信端末の「デュアルモニター：オン」のとき				
DSB RGB	DSB RGB	データソリューションボックスPCSA-DSB1SのRGB OUT端子(PCSA-DSB1S使用時のみ）	◎	◎	VGA/SVGA/XGAで伝送した画像をXGAで出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体のRGB OUT端子使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、1 Mbpsのとき1秒あたり5枚程度です。 **ご注意** XGAで伝送した画像は3枚程度の表示になります。

◎高、○中、△低

◆それぞれの出力端子から画像を出力するための設定は、PCS-1の取扱説明書をご覧ください。

受信端末がPCS-11の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	○	VGA/SVGA/XGAで伝送した画像をNTSC/PALに変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、1 Mbpsのとき1秒あたり1枚程度の画像を見ることができます。

◎高、○中、△低

受信端末が PCS-1600 など他のビデオ会議装置の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	△	4CIF で伝送するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。またそのとき、回線レートにもよりますが、数秒に 1 枚程度の画像になります。

◎高、○中、△低

6章

暗号化会議

機密性の高い会議をしたいときやインターネットを介して会議を行う場合に、映像や音声、データソリューションボックスPCSA-DSB1Sに接続したデータを暗号化して会議を行うことができます。この会議のしかたを暗号化会議と呼びます。

本機は、ITU-Tで規定されたH.233、H.234、H.235に準拠した標準の暗号化方式と、ソニー独自の暗号化方式に対応しています。
独自方式の暗号化会議を行うことができるのは、PCS-TL50同士または、相手側（受信側）の端末が、PCS-1、PCS-11、PCS-G70、PCS-G50、PCS-TL30の場合のみです。これ以外のソニー製や他社のビデオ会議システムとは独自方式の暗号化会議はできません。
標準方式の場合は、LAN接続またはISDN接続で2地点間、多地点間（カスケード接続を含む）の暗号化会議が可能です。LAN接続とISDN接続が混在する多地点接続の場合でも暗号化会議ができます。
独自方式の場合は、LAN接続またはSIP接続で2地点間、多地点間の暗号化会議が可能です。

ご注意

- 独自方式の暗号化会議では、相手のカメラをコントロールするためのデータは暗号化されません。
- 独自方式に対応しているのは、PCS-TL50、PCS-1、PCS-11、PCS-G70、PCS-G50、PCS-TL30です。

暗号化方式対応表

2 地点会議

回線種別 暗号化方式	LAN	ISDN	SIP
独自方式	○	×	○
標準方式（H.233、H.234、H.235）	○	○	×

多地点会議

回線種別 暗号化方式	LAN	ISDN	SIP	LAN と ISDN の混在	LAN と SIP の混在	ISDN と SIP の混在
独自方式	○	×	○	×	○	×
標準方式（H.233、H.234、H.235）	○	○	×	○	×	×

○：暗号化会議ができます。

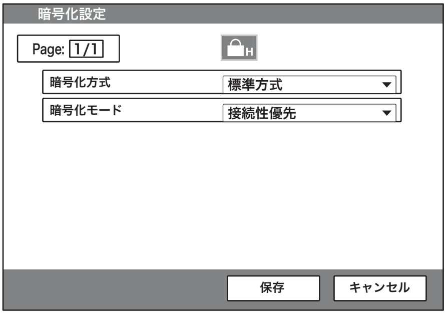
×：暗号化会議はできません。通常の会議となります。

暗号化会議の準備

暗号化会議を開催するには、暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「標準方式」か「独自方式」にしておく必要があります。

標準方式の場合

1 **暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「標準方式」にする。**


暗号化設定
保存
キャンセル

Page: 1/1

暗号化方式　標準方式

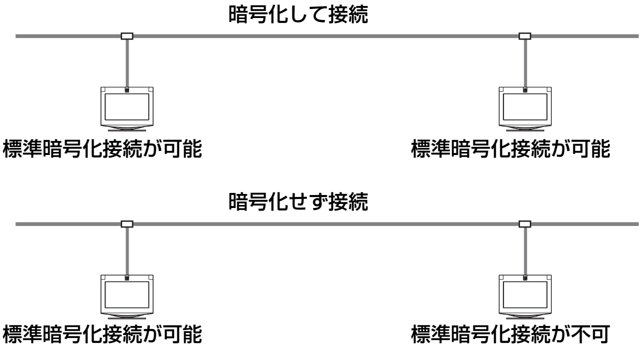
暗号化モード　接続性優先

「暗号化モード」が表示されます。

2 **「暗号化モード」を選ぶ。**

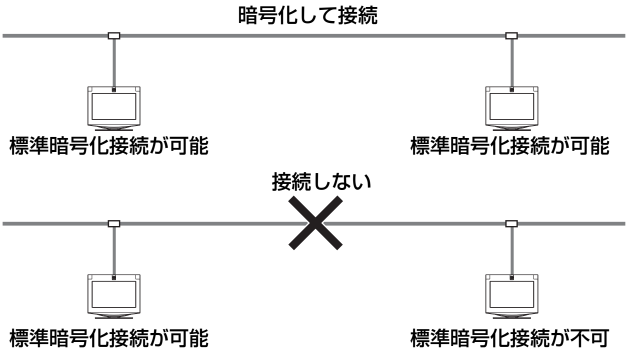
接続性優先

標準暗号化接続ができる相手とは、暗号化接続します。標準暗号化接続ができない、または「暗号化モード」が「オフ」になっている相手とは、暗号化せずに接続します。


暗号化して接続
標準暗号化接続が可能
標準暗号化接続が可能
暗号化せず接続
標準暗号化接続が可能
標準暗号化接続が不可

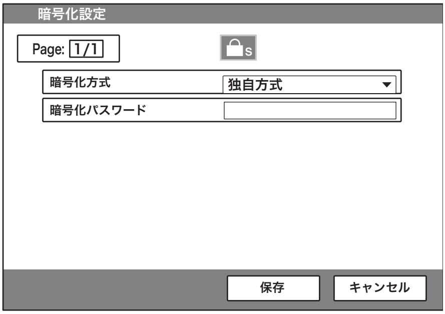
暗号化優先

標準暗号化接続ができる相手とのみ接続します。


暗号化して接続
標準暗号化接続が可能
標準暗号化接続が可能
接続しない
標準暗号化接続が可能
標準暗号化接続が不可

独自方式の場合

1 暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「独自方式」にする。


暗号化設定
Page: 1/1
保存
キャンセル

暗号化方式　独自方式

暗号化パスワード

「暗号化パスワード」欄が表示されます。

2 「暗号化パスワード」欄に 13 ～ 20 文字のパスワードを半角英数字、記号で入力する。

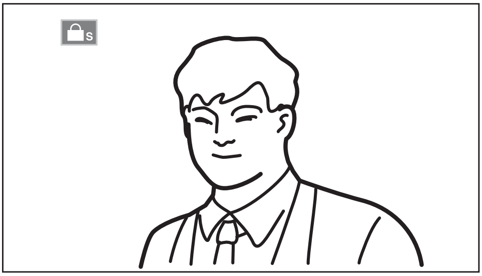
◆詳しい設定のしかたは、「暗号化設定メニュー」（78 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 「独自方式」の場合、LAN 接続で暗号化機能を持たない端末や、「暗号化方式」が「オフ」になっている端末、また「暗号化パスワード」が異なる端末との接続はできません。
- 「独自方式」の場合、ISDN 接続の端末には接続できますが、暗号化はされず、通常の会議となります。

暗号化会議を始める

通常の会議と同じ方法で、暗号化会議をする相手を呼び出します。暗号化会議中、モニター画面には、暗号化会議アイコンが表示されます。表示されるアイコンは、暗号化方式が「独自方式」の場合は🔒S、「標準方式」の場合は🔒Hになります。



ご注意

アイコンが表示されていないときは、送受信データは暗号化されていません。アイコンが表示されていることを確認してから会議を始めてください。

暗号化会議ができない場合は

以下の場合、暗号化会議はできません。相手を呼び出すと、以下のエラーメッセージが表示され、暗号化会議では接続されません。

エラーメッセージ	原因
「相手側の暗号化機能がオフになっています。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。または、相手側と暗号化通信方式の設定が違う。
「暗号化のパスワードが違います。」	相手側の暗号化パスワードが本機と異なっている。
「ISDN 接続を含んだ暗号化会議はできません。」	ISDN 接続で会議中に LAN 接続の端末を呼び出した、または呼び出された。
「こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。」	自分側の暗号化機能がオフになっている。
「相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。

エラーメッセージ	**原因**
「会議を始めます。（暗号化機能はオフになっています。）」	暗号化機能がオフになっている。
「SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。」	相手側と SIP で接続している。
「ISDN 接続を含んだ独自方式の暗号化会議はできません。」	相手側と ISDN で接続している。

7章

多地点会議

この章では、多地点会議を行う方法を説明します。
本機を使って多地点会議を行うには、別売りのH.323 MCUソフトウェアPCS-323M1（LAN接続用）またはH.320 MCUソフトウェアPCS-320M1（ISDN接続用）を本機にインストールする必要があります。
LANを使用する場合は、自分側を含め、最大10地点間で多地点会議を行うことができます。
ISDN回線を使用する場合は、自分側を含め、最大6地点間で多地点会議を行うことができます。そのうち最大5地点までに音声電話を使うことができます。
LAN接続とISDN接続が混在する多地点会議もできます。

◆SIP（Session Initiation Protocol）を使った多地点会議については、8章をご覧ください。

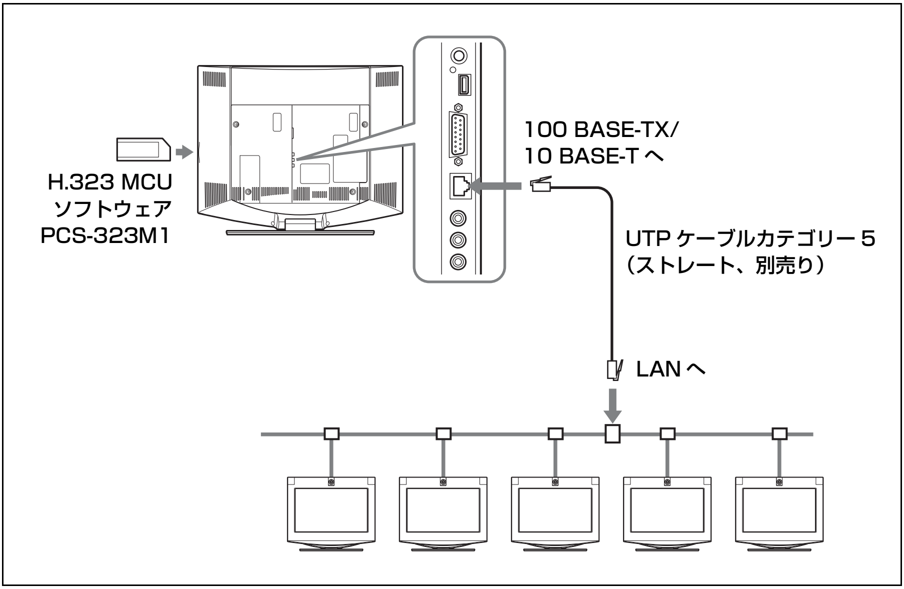
MCUソフトウェア使用時の制限事項

- LAN接続の多地点会議の場合、帯域は、全地点合計で最大1,920kbpsとなるように自動的に設定されます。接続地点数により、各地点への回線レートが変わります。
- ISDN接続の多地点接続の場合、帯域は、各地点が同じチャンネル数で、合計が最大12Bチャンネルとする必要があります。
- 映像方式は、H.263、H.261のみの対応です。
- 音声方式は、G.711、G.722、G.728のみの対応です。

多地点会議の接続例

LAN 接続の場合（最大 6 地点）

1 台のビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 に H.323MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）をインストールすると、最大 6 地点間の多地点会議が可能です。

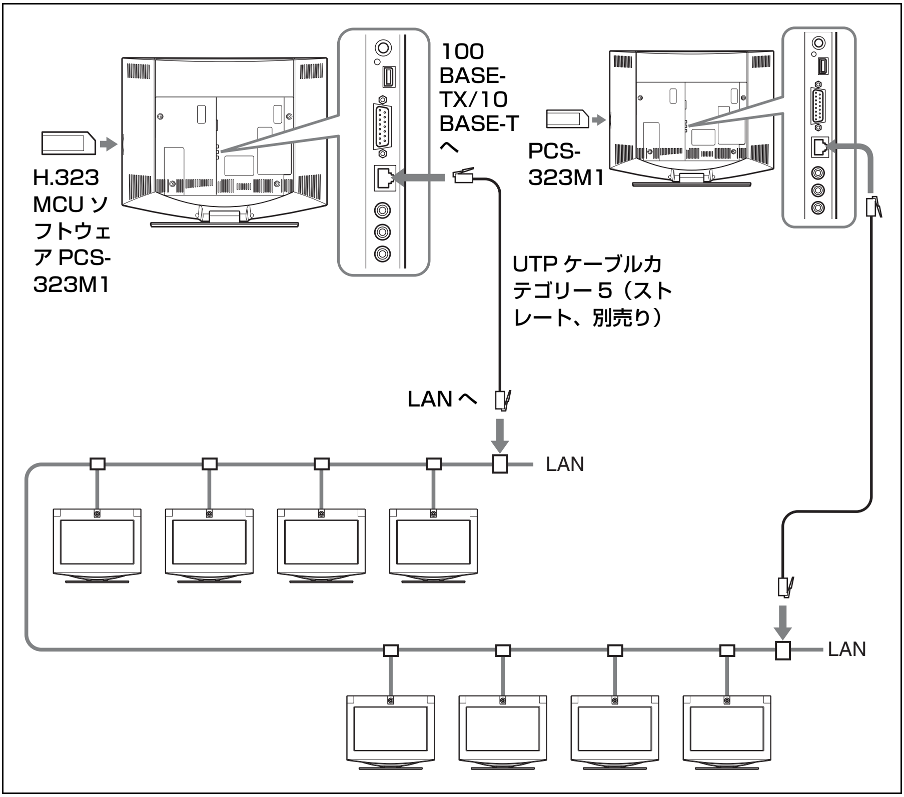

H.323 MCU
ソフトウェア
PCS-323M1
100 BASE-TX/
10 BASE-T へ
UTP ケーブルカテゴリー 5
（ストレート、別売り）
LAN へ

ご注意

多地点会議を行う場合、H.323MCU ソフトウェア PCS-323M1 をインストールしたビデオコミュニケーションシステムだけが親機として使えます。
会議の形態により、複数のビデオコミュニケーションシステムを親機として利用したい場合には、その個数だけ H.323MCU ソフトウェアが必要です。

LAN カスケード接続の場合（最大 10 地点）

H.323MCU ソフトウェア PCS-323M1 を 2 台のビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 にインストールすることにより、親機を 2 台とするカスケード接続ができます。各親機に 4 台ずつの子端末を接続して、最大 10 地点間の多地点会議が可能です。

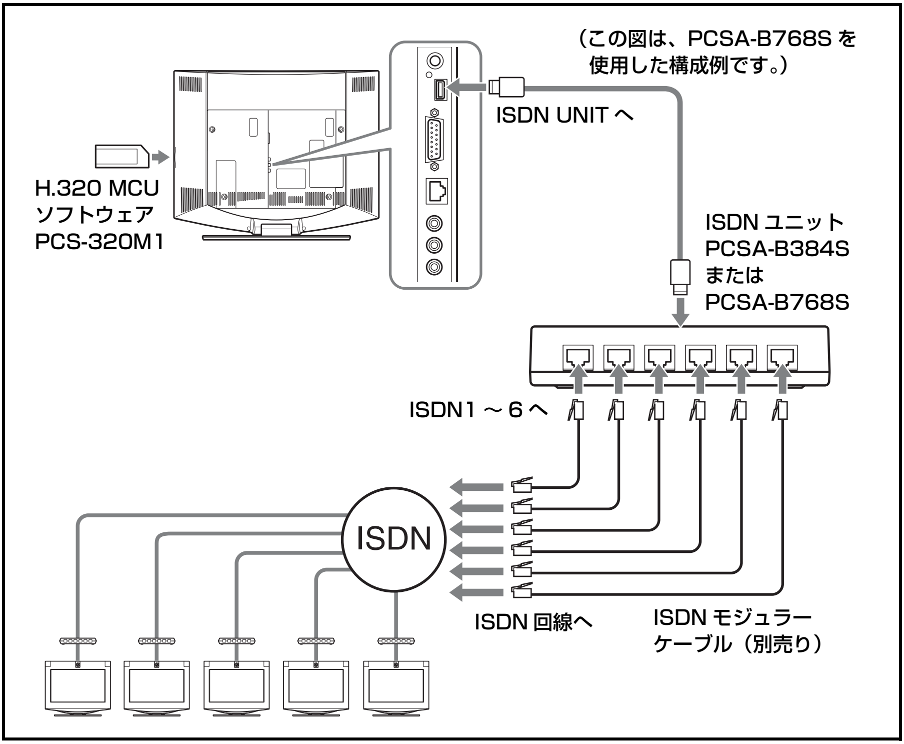

100
BASE-
TX/10
BASE-T
へ
H.323
MCU ソ
フトウェ
ア PCS-
323M1
PCS-
323M1
UTP ケーブルカ
テゴリー 5（スト
レート、別売り）
LAN へ
LAN
LAN

ご注意

- MCU ソフトウェア PCS-323M1 を 3 台以上の PCS-TL50 にインストールしても、カスケード接続はできません。3 台目以降の PCS-TL50 では、設定メニューまたはマルチポイント設定メニューの「マルチポイントモード」を「オート」にしてください。
- カスケード接続の場合、通信中の放送モードは音声検出モードになります。分割モード、分割位置固定モードで表示することはできません。
- 相手側の親機として使用できるのは、PCS-1、PCS-G50、PCS-G70、PCS-TL50 のいずれかです。

ISDN 接続の場合

1 台のビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 に H.320MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）をインストールすると、ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S を介して最大 6 地点間の多地点会議が可能です。


（この図は、PCSA-B768S を
使用した構成例です。）
ISDN UNIT へ
H.320 MCU
ソフトウェア
PCS-320M1
ISDN ユニット
PCSA-B384S
または
PCSA-B768S
ISDN1 ～ 6 へ
ISDN
ISDN 回線へ
ISDN モジュラー
ケーブル（別売り）

ISDN の使用回線数と会議の地点数について

多地点会議の 1 地点目の接続に使用する ISDN 回線のチャンネル数は、マルチポイント設定メニューで設定できます。以下の設定が可能です。

1B(64K)：1B チャンネルで接続するとき
2B(128K)：2B チャンネルで接続するとき
4B(256K)：4B チャンネルで接続するとき
6B(384K)：6B チャンネルで接続するとき

接続可能な地点数は、使用している ISDN 回線の本数と上記の「使用回線数」の設定により決まります。たとえば、ISDN 回線を 3 本接続しているとき（6B チャンネルまでの使用が可能なとき）、「4B(256K)」

に設定すると、1地点目は4Bチャンネルで、2地点目は2Bチャンネルで接続されます。

ご注意

相手から呼び出された場合、相手側で設定したチャンネル数が本機で設定したチャンネル数より小さい場合は、相手側の設定が優先されます。

音声電話の接続について

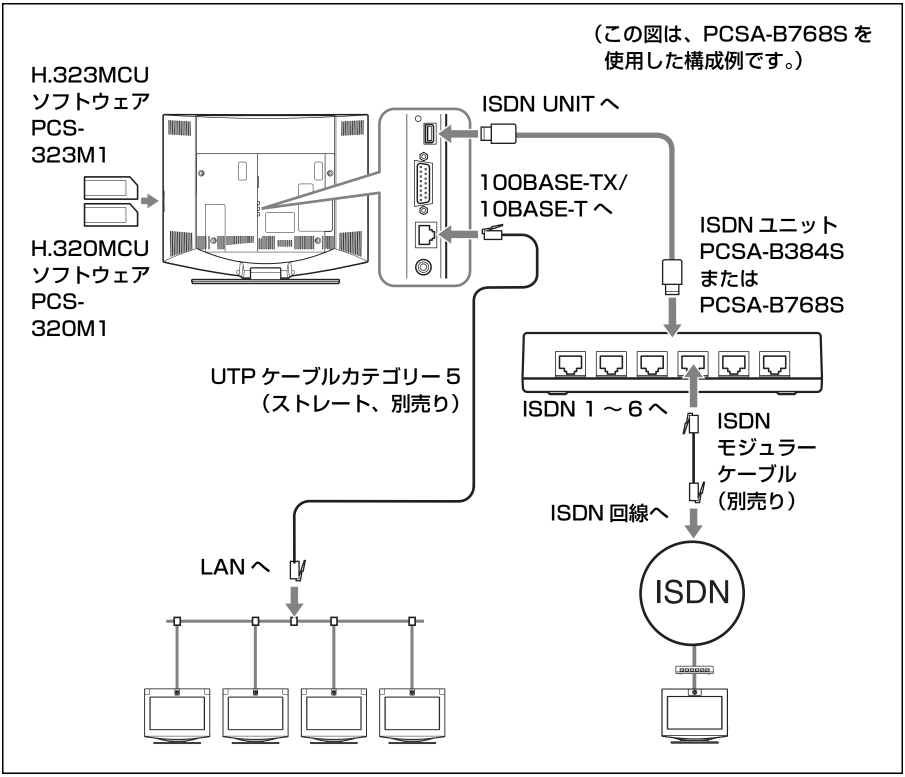
ISDN接続の場合、最大5地点までに音声電話を接続できます。
音声電話は1B(64K)接続となります。

ご注意

- ISDN接続の場合、2台以上のPCS-TL50にH.320 MCUソフトウェアPCS-320M1をインストールしても、カスケード接続はできません。
- 多地点会議を行う場合、H.320MCUソフトウェアPCS-320M1をインストールしたPCS-TL50だけが親機として使えます。会議の形態により、複数のPCS-TL50を親機として利用したい場合には、その個数だけH.320MCUソフトウェアが必要です。

LAN & ISDN 接続の場合

1台のビデオコミュニケーションシステムにH.323MCUソフトウェアPCS-323M1とH.320MCUソフトウェアPCS-320M1を両方インストールすると、LAN接続とISDN接続が混在した多地点会議が可能です。

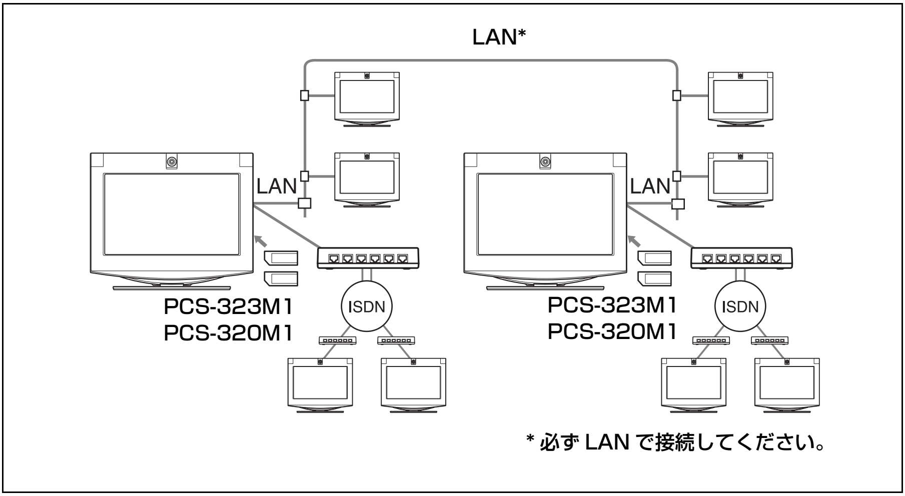

（この図は、PCSA-B768Sを使用した構成例です。）
H.323MCU ソフトウェア PCS-323M1
H.320MCU ソフトウェア PCS-320M1
ISDN UNITへ
100BASE-TX/10BASE-Tへ
ISDNユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S
UTPケーブルカテゴリー5（ストレート、別売り）
ISDN 1～6へ
ISDN モジュラーケーブル（別売り）
ISDN回線へ
LANへ
ISDN

ご注意

上記の図はLAN接続4台、ISDN接続1台の例です。混在させるLAN接続とISDN接続の機器の台数に制限はありません。

LAN & ISDN カスケード接続の場合

2台のビデオコミュニケーションシステムPCS-TL50にH.323MCUソフトウェアPCS-323M1とH.320MCUソフトウェアPCS-320M1を両方インストールすることにより、親機を2台とするカスケード接続ができます。各親機に4台ずつの子端末を接続して、最大10地点間のLAN接続とISDN接続が混在した多地点会議が可能です。


LAN*
LAN
LAN
PCS-323M1
PCS-320M1
ISDN
PCS-323M1
PCS-320M1
ISDN
* 必ずLANで接続してください。

ご注意

カスケード接続する2台のPCS-TL50間は、必ずLAN接続してください。両方にH.320MCUソフトウェアPCS-320M1がインストールされている場合でもISDNによるカスケード接続はできません。

多地点会議の準備

MCU ソフトウェアをインストールする

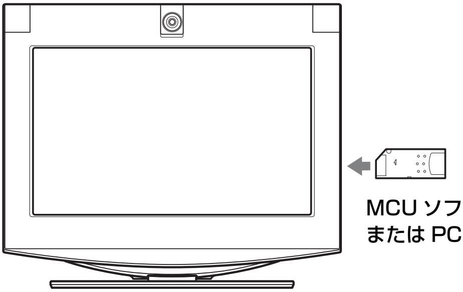
インストール時のご注意

- MCU ソフトウェアの入った“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっているとインストールできません。
- 1 個の MCU ソフトウェアでインストールできるのは 1 回のみです。
- コンピューターなどで他の“メモリースティック”にコピーした MCU ソフトウェアはインストールできません。

1 本機の右側面の ⏻（電源）スイッチで電源を切る。

2 MCU ソフトウェア PCS-323M1 または PCS-320M1 の入った“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の裏側を手前に、上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



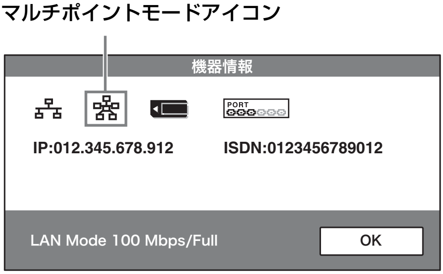
MCU ソフトウェア PCS-323M1
または PCS-320M1

3 本機の ⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。

MCU ソフトウェアが本機にインストールされます。

MCU ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには

ランチャーメニューを表示し、リモコンのヘルプボタンを押すと機器情報メニューが表示されます。「マルチポイントモード」を「オン」にするとマルチポイントモードアイコンが表示されます。



IP:012.345.678.912

ISDN:0123456789012

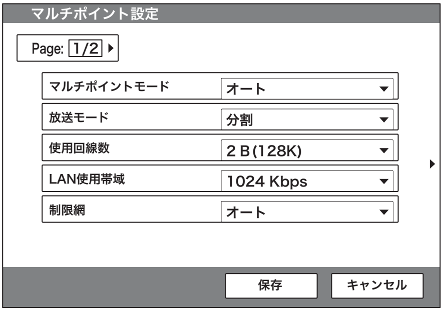
LAN Mode 100 Mbps/Full

また、インフォメーションメニューの「ソフトウェアオプション」にインストールされたソフトウェアが表示されます。

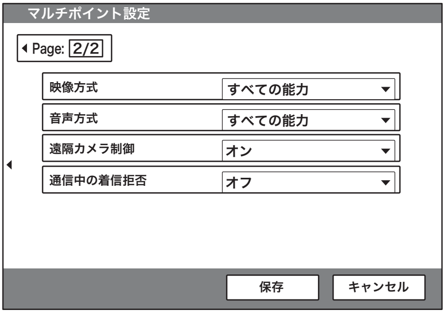
◆インフォメーションメニューについて詳しくは、「インフォメーションメニュー」（74 ページ）をご覧ください。

多地点会議の設定をする

マルチポイント設定メニューで、多地点会議の設定を行います。


マルチポイント設定
Page: 1/2
保存
キャンセル

マルチポイントモード：オート
放送モード：分割
使用回線数：2 B(128K)
LAN使用帯域：1024 Kbps
制限網：オート


マルチポイント設定
Page: 2/2
保存
キャンセル

映像方式：すべての能力
音声方式：すべての能力
遠隔カメラ制御：オン
通信中の着信拒否：オフ

◆詳しい設定のしかたは、「マルチポイント設定メニュー」（72ページ）をご覧ください。

ご注意

マルチポイント設定メニューの設定値は、発信設定メニューや着信設定メニューの設定より優先されます。

多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する

多地点会議の相手をすべて登録したマルチポイント接続リストをアドレス帳に作成しておくと、相手に一括してダイヤルできるので便利です。

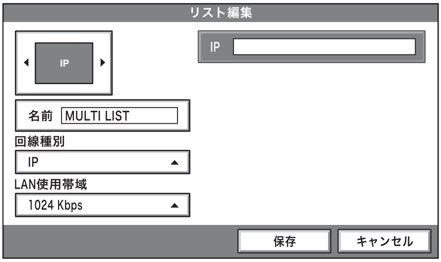
新たに相手を入力してマルチポイント接続リストを作成したり、すでにアドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定することもできます。

新たにマルチポイント接続リストを登録するには

アドレス帳への登録のしかたは、基本的には2地点間の会議の相手の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（82ページ）をご覧ください。

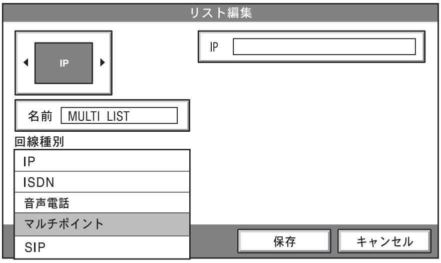
1 アドレス帳で「新規登録」を選んでリスト編集メニューを表示し、名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。

◆詳しくは、「新しい相手を登録する」（82ページ）の手順1～3をご覧ください。


リスト編集
IP
IP
保存
キャンセル

名前 MULTI LIST
回線種別 IP
LAN使用帯域 1024 Kbps

2 「回線種別」で「マルチポイント」を選ぶ。


リスト編集
IP
IP
回線種別
IP
ISDN
音声電話
マルチポイント
SIP
保存
キャンセル

名前 MULTI LIST

3 アドレス帳に表示する、マルチポイント接続リストの回線種別アイコン（⁂）または静止画を選ぶ。

4 マルチポイント接続リストに登録したい相手の回線情報を、入力欄A～Eに設定する。

① 入力欄の右端のドロップダウンリストから、接続に使用する回線を選択する。
LANを使うときは「IP」、ISDN回線を使うときは「ISDN」、音声電話を使うときは「TEL」を選択します。

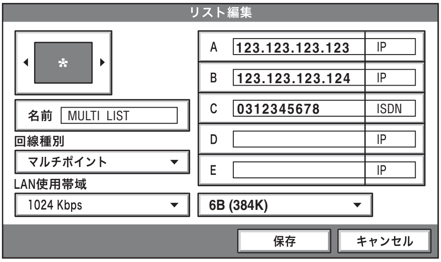
② 入力欄に相手の番号を入力する。
「IP」を選んだとき：IPアドレス

「ISDN」を選んだとき：ISDN の回線番号

「TEL」を選んだとき：頭に「T」を付けた電話番号

（例：T0390123456）

③ 入力欄 A ～ E にそれぞれの相手の ① と ② の情報を設定する。



名前 MULTI LIST

回線種別 マルチポイント

LAN使用帯域 1024 Kbps

A 123.123.123.123 IP

B 123.123.123.124 IP

C 0312345678 ISDN

D IP

E IP

6B (384K)

◆詳しい設定のしかたは、「新しい相手を登録する」（82 ページ）の手順 5 をご覧ください。

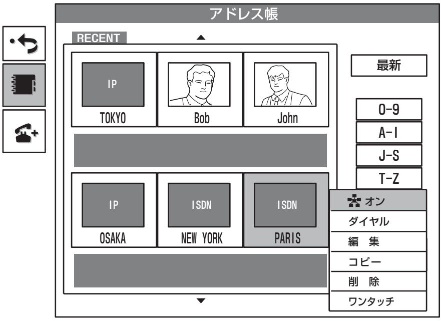
5 「保存」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。

これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

アドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定するには

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでアドレス帳の中から多地点会議の相手として指定したい相手を選ぶ。

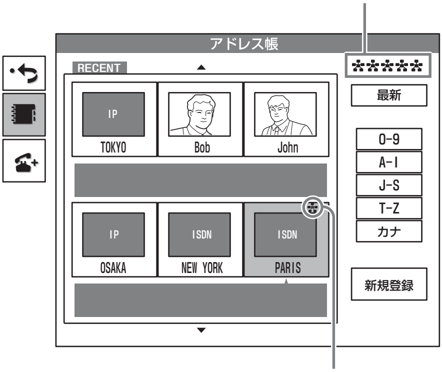
2 **リモコンの＊ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、▲/▼ボタンで「✤ オン」を選んで決定ボタンを押す。**


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
✤ オン
ダイヤル
編　集
コピー
削　除
ワンタッチ

選んだ相手のリスト欄の右上に ✤（マルチポイント）マークが表示され、多地点会議の相手に指定されます。

同じ手順で5地点までに ✤ マークをつけることができます。メニュー上部に ✤ マークをつけた相手の数だけ ✤ マークが表示されます。

指定した地点数


アドレス帳
RECENT
✤✤✤✤✤
最新
IP
TOKYO
Bob
John
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
新規登録

マルチポイントマーク

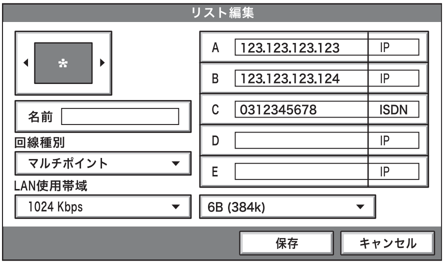
ヒント

✲マークを消すには、リモコンの✱ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ボタンで「✲オフ」を選んで決定ボタンを押します。

3 ✲マークをつけた相手の1つを選び、リモコンの決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ボタンを押してサブメニューから「✲編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。番号欄には✲マークをつけた相手のIPアドレスまたは電話番号がすべて入力されています。



リスト編集

名前

回線種別：マルチポイント

LAN使用帯域：1024 Kbps

A　123.123.123.123　IP
B　123.123.123.124　IP
C　0312345678　ISDN
D　　IP
E　　IP

6B (384k)

5 名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。

6 「保存」を選び、決定ボタンを押す。

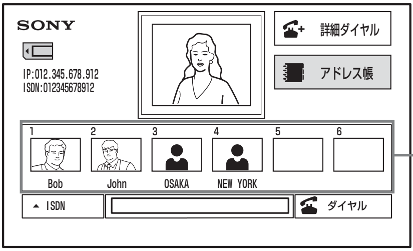
これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

多地点会議を始める

ワンタッチダイヤルで多地点会議の相手を呼び出す

1 **マルチポイント設定メニューの「マルチポイントモード」が「オート」に設定されていることを確認する。**

2 **ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストから、多地点会議を行いたい相手を選ぶ。**


SONY
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル

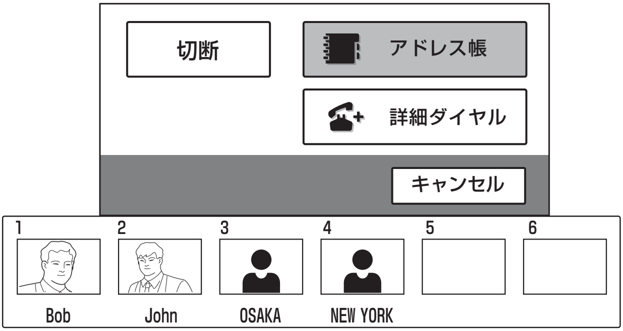
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912

ワンタッチダイヤルリスト

選んだ相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中（IP）」、「発信中（ISDN）」と表示されます。

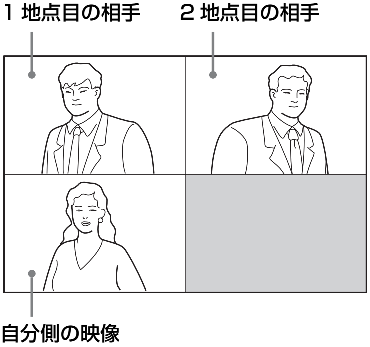
3 **リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。**

サブメニューが表示されます。


切断
アドレス帳
詳細ダイヤル
キャンセル
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK

4 **ワンタッチダイヤルリストから２地点目の相手を選ぶ。**

相手とつながると、システムは自動的にマルチポイントモードに移行し、４分割画面になります。


1 地点目の相手
2 地点目の相手
自分側の映像

5 **多地点会議を行いたい相手を次々に呼び出して接続する。**

2 地点目以降にワンタッチダイヤルに登録していない相手を呼び出すときは

リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押すと、手順 3 のサブメニューが表示されます。
「アドレス帳」を選ぶとアドレス帳が表示されます。「詳細ダイヤル」を選ぶと詳細ダイヤルメニューが表示されます。

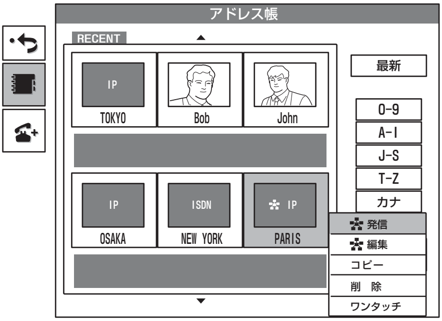
接続する相手の登録状態にあわせて、「アドレス帳から多地点会議の相手を選択して呼び出す」（210 ページ）の手順 1 から 4 と、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（211 ページ）の手順 1 から 4 を順番に行ってください。

マルチポイント接続リストに登録している相手を呼び出す

1 **アドレス帳に登録してあるマルチポイント接続リストを選ぶ。**

マルチポイント接続リストの回線種別アイコンは「✣」です。

2 **リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「✣ 発信」を選んで決定ボタンを押す。**

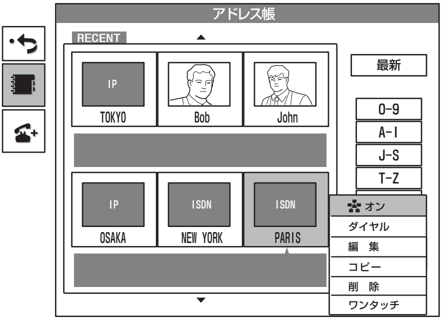

アドレス帳
RECENT
最新
IP
TOKYO
Bob
John
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
IP
PARIS
発信
編集
コピー
削　除
ワンタッチ

マルチポイント接続リストに登録された相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

アドレス帳から多地点会議の相手を選択して呼び出す

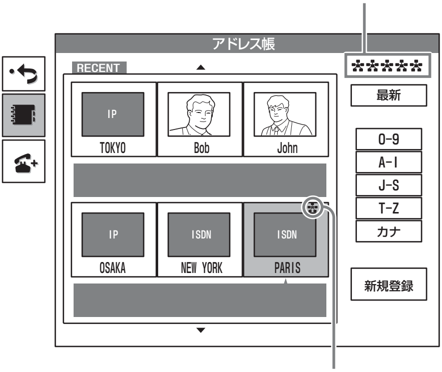
1 **アドレス帳で多地点会議を行いたい相手を選ぶ。**

2 **リモコンの ✱ ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、⇧/⇩ ボタンで「 ⁂ オン」を選んで決定ボタンを押す。**


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
⁂ オン
ダイヤル
編　集
コピー
削　除
ワンタッチ

選んだ相手のリスト欄の右上に ⁂（マルチポイント）マークが表示され、多地点会議の相手に指定されます。
同じ手順で５地点までに ⁂ マークをつけることができます。メニュー上部に ⁂ マークをつけた相手の数だけ ⁂ マークが表示されます。

指定した地点数


アドレス帳
⁂⁂⁂⁂⁂
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
新規登録

マルチポイントマーク

ヒント

⁂ マークを消すには、リモコンの ✱ ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、⇧/⇩ ボタンで「 ⁂ オフ」を選んで決定ボタンを押します。

3　✲ マークをつけた相手の 1 つを選ぶ。

4　リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「✲ 発信」を選んで決定ボタンを押す。

✲ マークをつけた相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「✲ 発信中」と表示されます。

相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

2 地点目以降の相手を呼び出すには

リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押すとサブメニューが表示されます。

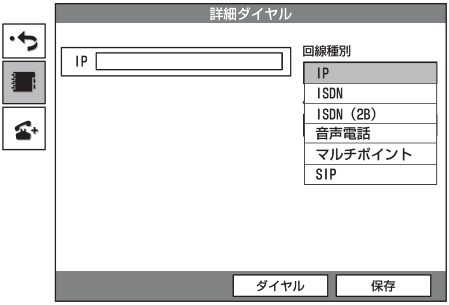
接続する相手の登録状態に合わせてサブメニューのワンタッチダイヤルリスト、「アドレス帳」または「詳細ダイヤル」を選び、次に接続する相手を選びます。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出す

登録していない相手の呼び出しかたは、基本的には 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す」(120 ページ）をご覧ください。

1　ランチャーメニューで「詳細ダイヤル」を選び、詳細ダイヤルメニューを表示する。

2　「回線種別」で「マルチポイント」を選ぶ。

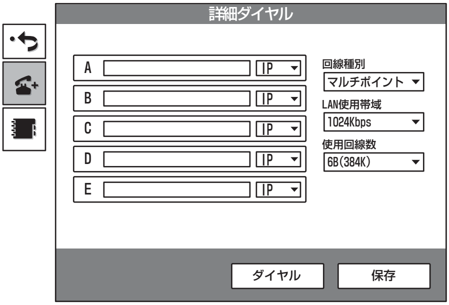


3 多地点会議を行いたい相手の回線情報を、入力欄 A ～ E に設定する。

① 入力欄の右端のドロップダウンリストから、接続に使用する回線を選択する。
LAN を使うときは「IP」、ISDN 回線を使うときは「ISDN」、音声電話を使うときは「TEL」、SIP を使うときは「SIP」を選択します。

② 入力欄に相手の番号を入力する。
「IP」を選んだとき：IP アドレス
「ISDN」を選んだとき：ISDN の回線番号
「TEL」を選んだとき：電話番号
「SIP」を選んだとき：SIP 用の番号

③ 入力欄 A ～ E にそれぞれの相手の ① と ② の情報を設定する。



A　IP
B　IP
C　IP
D　IP
E　IP
回線種別：マルチポイント
LAN使用帯域：1024Kbps
使用回線数：6B（384K）

◆詳しい設定のしかたは、「詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（120 ページ）の手順 3 をご覧ください。

4 「ダイヤル」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

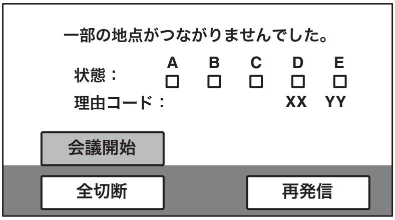
手順 3 で入力した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「☎ 発信中」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

2 地点目以降の相手を呼び出すには

リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押すとサブメニューが表示されます。
接続する相手の登録状態に合わせてサブメニューのワンタッチダイヤルリスト、「アドレス帳」または「詳細ダイヤル」を選び、次に接続する相手を選びます。

マルチポイント接続で一部の地点がつながらなかった場合

以下のような画面が表示されます。希望の操作を選んでください。



一部の地点がつながりませんでした。

	A	B	C	D	E
状態：	□	□	□	□	□
理由コード：				XX	YY

会議開始：接続中の相手との会議を開始します。
全切断：すべての接続を終了し、ランチャーメニューへ戻ります。
再発信：接続に失敗した地点への発信処理を行います。

相手から呼び出しを受ける

2 地点間の会議の操作と同じです。

◆詳しくは、「相手から会議に呼び出される」（125 ページ）をご覧ください。

画面制御を行う

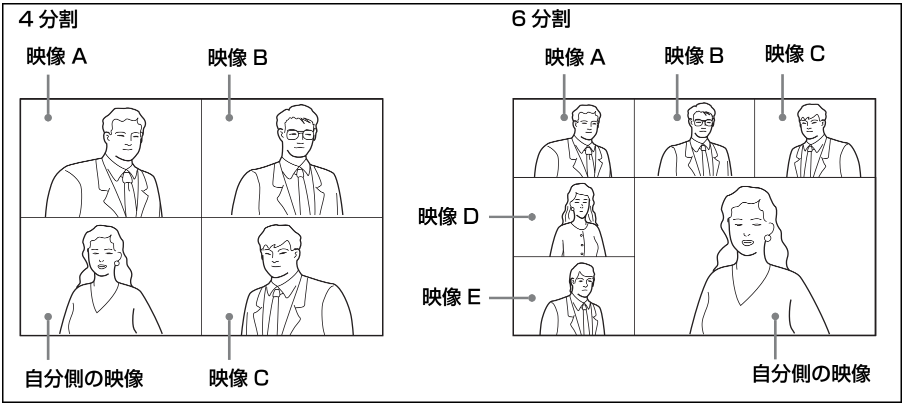
本機にMCUソフトウェアをインストールしているとき、多地点会議中に自分側から下記のような操作が可能になります。

放送モードの種類

放送モードには分割モードと分割位置固定モード、音声検出モード、放送選択モードがあります。

分割モード

接続している端末の映像と自分側の映像が、分割されてディスプレイに表示されます。
分割数は、接続されている端末の数により、端末数が1のときは全画面表示、端末数が2か3のときは4分割、端末数が4か5のときは6分割になります。
映像A～C（またはA～E）には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



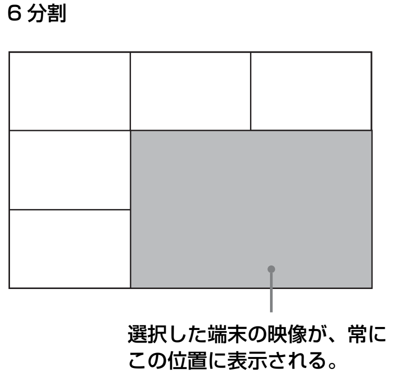
ご注意

- 6分割の分割モードのときは、音声が一番大きい端末を検出し、右下の位置に表示します。検出された端末の映像が表示されていた位置には、自分側の映像が表示されます。
- 端末数が1の場合は、設定にかかわらず全画面表示になります。
- 通信中に分割モードから音声検出モードに切り換えて特定の地点をフルスクリーンに表示すると、あとで分割モードに戻したとき、映像A～Eの位置が変わります。

- 分割モード、分割固定モードのときは接続している端末のカメラをコントロールすることはできません。

分割位置固定モード

分割モードと同様に、接続している端末の映像と自分側の映像が分割されてディスプレイに表示されます。さらに、6分割の右下の画面に表示される端末を固定できます。固定画面以外の分割画面には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



音声検出モード

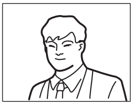
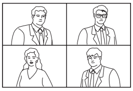
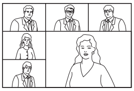
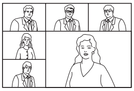
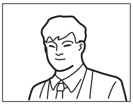
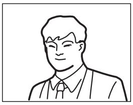
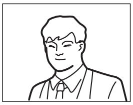
音声が一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。音声検出モードのときは、ディスプレイに「V.A」インジケーターが表示されます。また、放送中の端末を表す、A、B、Cなどアルファベットのついたインジケーター（ など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、ディスプレイに が表示されます。

放送選択モード

端末を選択し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。ディスプレイに放送中の端末を表す、A、B、Cなどアルファベットのついたインジケーター（ など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、ディスプレイに が表示されます。

放送モードと画面表示

それぞれの放送モードを選択したときの画面表示は次のようになります。また、接続の状態によっては選択できないモードもあります。下記の表で、画面表示のない接続では選択できません。

接続の状態			**カスケード接続でない場合**	**カスケード接続の場合**
接続図			LAN 接続（194 ページ参照） ISDN 接続（196 ページ参照） LAN & ISDN 接続（198 ページ参照）	LAN カスケード接続（195 ページ参照） LAN & ISDN カスケード接続（199 ページ参照）
最大地点数			6	10
放送モード	分割モード	端末数が 1 のとき	フルスクリーン 	–
		端末数が 2、3 のとき	4 分割 	–
		端末数が 4、5 のとき	6 分割 	–
	分割位置固定モード	端末数が 1 ～ 3 のとき	–	–
		端末数が 4、5 のとき	6 分割 	–
	音声検出モード		フルスクリーン 	フルスクリーン 
	放送選択モード		フルスクリーン 	–

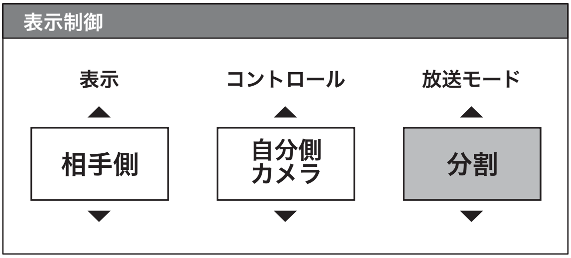
放送モードを切り換える

会議を始めるときはマルチポイント設定メニューの「放送モード」で設定したモードになっています。会議中に以下のように放送モードを切り換えることができます。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「放送モード」を選び、決定ボタンを押す。



分割：分割モードを選ぶとき

分割（A を固定）：分割位置固定モードで、1 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（B を固定）：分割位置固定モードで、2 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（C を固定）：分割位置固定モードで、3 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（D を固定）：分割位置固定モードで、4 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（E を固定）：分割位置固定モードで、5 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（自分を固定）：分割位置固定モードで、自分側の映像の位置を固定するとき

音声検出：音声検出モードを選ぶとき

自分を放送：放送選択モードで、自分側の映像を放送するとき

A を放送：放送選択モードで、1 番目に接続した端末の映像を放送するとき

B を放送：放送選択モードで、2 番目に接続した端末の映像を放送するとき

C を放送：放送選択モードで、3番目に接続した端末の映像を放送するとき

D を放送：放送選択モードで、4番目に接続した端末の映像を放送するとき

E を放送：放送選択モードで、5番目に接続した端末の映像を放送するとき

放送終了：放送選択モードで、放送を終了するとき

音声検出モードのときに自分側の映像を確認するには

音声検出モードのときは、自分側の映像を自分側のディスプレイにのみ表示することができます。他の端末は音声検出モードの状態になっています。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「表示」に「自分側」を選び、決定ボタンを押す。

自分側の映像が自分側のディスプレイに表示されます。

音声検出モードに戻るには

リモコンの相手 / 自分ボタンをもう一度押し、「表示」の「相手側」を選んでください。

他の端末から送信要求を受ける

接続されている端末から「自分を放送」を受信すると、その端末の映像が他の端末に自動的にフルスクリーンで放送されます。接続されている端末から「放送終了」を受信すると、元のモードに戻ります。

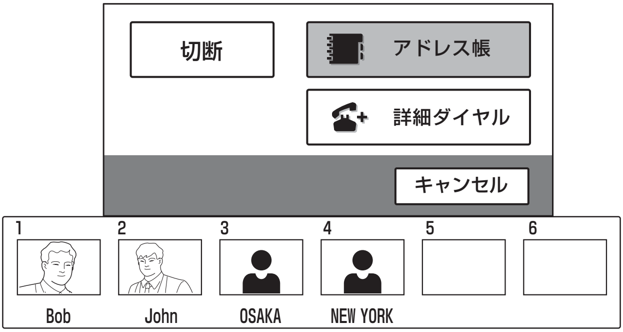
ご注意

- すでに他の端末から「自分を放送」を受信しているときは、上記の動作を行いません。
- カスケード接続の場合は、音声検出モードのみをサポートします。

多地点会議を終了する

1 リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

下記のサブメニューが表示されます。

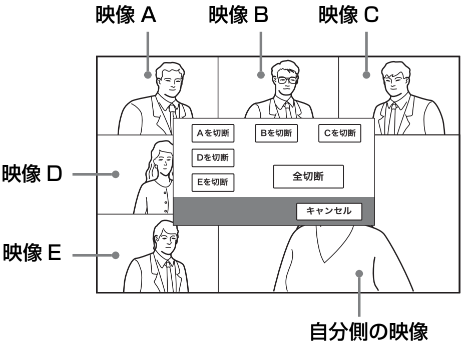

切断
アドレス帳
詳細ダイヤル
キャンセル
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「切断」を選び、決定ボタンを押す。

分割画面に切り換わり、下記のメニューが表示されます。

A ～ E（または A ～ C）に表示される映像は、端末が接続されたときの順番に戻ります。

このとき、マルチポイント設定の「端末名表示」を「一定時間表示」または「常時表示」に設定していると、端末名が表示されます。


映像 A
映像 B
映像 C
映像 D
映像 E
自分側の映像
Aを切断
Bを切断
Cを切断
Dを切断
Eを切断
全切断
キャンセル

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで切断する端末を選び、決定ボタンを押す。

A を切断：1 番目に接続した端末を切断するとき

B を切断：2 番目に接続した端末を切断するとき

C を切断：3 番目に接続した端末を切断するとき

D を切断：4 番目に接続した端末を切断するとき

E を切断：5 番目に接続した端末を切断するとき

全切断：すべての端末を切断するとき

選択した端末の接続が切れます。
すべての端末を切断する場合は、リモコンの接続 / 切断（ 📞 / ☎ ）ボタンをもう一度押しても切断されます。

切断を中止するときは

手順 3 で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

二次端末の取り扱い

本機で設定している能力に満たない端末が接続された場合には、その端末を二次端末と呼びます。
本機と二次端末間の通信は以下のようになります。

- ・音声の送 / 受信を行う。
- ・二次端末からの映像を受信する。
- ・二次端末への映像の送信は行わない。

◆二次端末について詳しくは「用語解説」（321 ページ）をご覧ください。

音声電話が接続されたとき

音声電話が接続されても、ビデオ会議端末の音声モードには影響がありません。
また、音声電話が会議を終了してもビデオ会議端末に影響はありません。

「遠隔カメラ制御」の設定が「オン」と「オフ」の端末が混在しているとき

「遠隔カメラ制御」の「オン」と「オフ」では映像のビットレートが異なるため、一部の端末では映像が表示されません。

非制限網（64 K ネットワーク）での会議のとき、制限網（56 K ネットワーク）との混在が発生したとき

制限網へ自動的に移行します。移行できない端末は二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

音声モードが違う端末が接続され、映像ビットレートが違っているとき

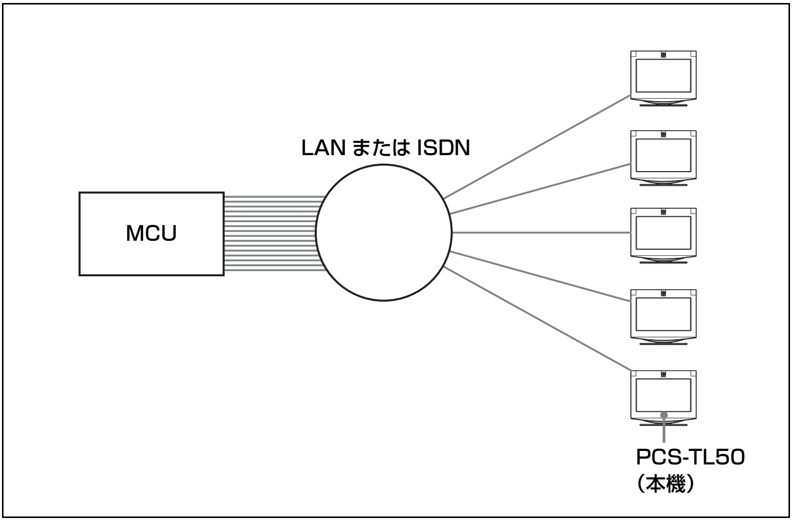
映像ビットレートの低い端末に音声モードを合わせます。音声モードを合わせられない端末があると、この端末を二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

ビデオが QCIF しかない端末が混在しているとき

QCIF 端末へは映像を送信しません。

外部 MCU と接続する

本機を外部 MCU（Multipoint Control Unit）に接続すると、本機に MCU ソフトウェアをインストールしなくても多地点会議ができるようになります。



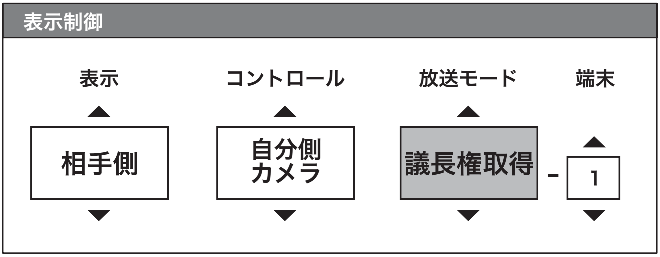
議長制御をする

議長制御機能のある ISDN 用の MCU と接続すれば、本機から 99 台までの端末の議長制御ができます。
議長制御とは、端末を選択してその映像を見たり、すべての端末にその映像を放送したり、自分の映像をすべての端末に放送したりする機能です。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「議長権取得」を選ぶ。



3 **リモコンの決定ボタンを押す。**

これで、本機から最大99台までの端末の議長制御ができるようになります。議長権は、「議長権解放」を選択するまで持続します。

ご注意

実行不可能な操作をしたときには、「MCU操作は拒否されました」というメッセージがディスプレイに表示されます。

選択した端末の映像を見るには

1 **表示制御メニューを表示する。**

2 **リモコンの**↑/↓/←/→**ボタンを押して「放送モード」の「受信する」を選ぶ。**

3 **リモコンの**↑/↓/←/→**ボタンを押して「端末」に映像を見たい端末の番号を表示し、決定ボタンを押す。**

選んだ端末の映像が、自分側のディスプレイに映ります。

ご注意

- 端末の番号を選択していないときは、一番小さな番号の端末の映像が映ります。
- 端末の番号は、MCUより通知された端末の情報に基づいて割り付けられます。

選択した端末の映像をすべての端末に放送するには

1 **表示制御メニューを表示する。**

2 **リモコンの**↑/↓/←/→**ボタンを押して「放送モード」の「放送する」を選ぶ。**

3 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「端末」に放送したい端末の番号を表示し、決定ボタンを押す。**

選んだ端末の映像が、自分側のディスプレイに映り、すべての端末に放送されます。

自分側の映像をすべての端末に放送するには

1 **表示制御メニューを表示する。**

2 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「放送モード」の「放送する」を選ぶ。**

3 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「端末」に「0」を表示し、決定ボタンを押す。**

自分側の映像が、すべての端末に放送されます。自分側の映像を放送中は、ディスプレイに📡が表示されます。

議長制御を終了するには

1 **表示制御メニューを表示する。**

2 **リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して「放送モード」の「議長権解放」を選び、決定ボタンを押す。**

これで議長制御ができなくなります。

マルチポイントの属性表

番号	属性	H.320MCU の値	H.323MCU の値
1	単体のマルチポイントに接続可能な最大端末数	5（自分も含めると 6）	5（自分も含めると 6）
2	単体のマルチポイントでサポート可能な並行開催（独立）の最大会議数	1	1
3	他のマルチポイントに接続可能なポートの最大数	0	1
4.1	各ポートにおける網インターフェース	BRI	LAN
4.2	制約網能力	Restrict_Required	–
5	各ポートで利用可能な転送レート	1B、2B、4B、6B	全地点合計 最大 1920Kbps
6	音声プロセッサー	あり	あり
6.1	ミクスト / 切替 「沈黙」ポートの雑音 / エコー抑制	ミクスト なし	ミクスト なし
6.2	各ポートでの音声アルゴリズム	G.711、G.728、G.722	G.711、G.728、G.722
7	映像プロセッサー（動画）	あり	あり
7.1	切替 / ミクスト	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御
7.2	各ポートでの映像アルゴリズム	H.261、H.263	H.261、H.263
8	データプロセッサー	あり	あり
8.1	データ同報送信機能、LSD データ同報送信機能、HSD	あり なし	– –
8.2	MLP プロセッサー	あり	–
9	暗号化	サポートする（標準暗号化方式のみ）	サポートする

番号	属性	H.320MCUの値	H.323MCUの値
10	選択された通信モード—SCMの選択方法	ユーザーによる設定： 回線レート（1B/2B/4B/6B） 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722） 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261固定/H.261とH.263の自動判定） 制限網・非制限網の切り替え（制限網固定/自動）	ユーザーによる設定： 回線レート（全地点合計最大1920kbps） 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261固定/H.261とH.263の自動判定）
11	二次端末の取り扱い	音声の送/受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送/受信のみ。	音声の送/受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送/受信のみ。
12	着信設定規定	予約発/着信機能なし	予約発/着信機能なし
13	制御能力	−	−
13.1	端末の番号付け BASを使用する簡易議事制御	なし なし	あり なし
13.2	MLP機能（T.120）	なし	なし
13.3	H.224（シンプレックスデータ）	あり	あり
14	カスケーディング	なし	あり
14.1	固定レート（「シンプル」）	なし	なし
14.2	マスター/スレーブ	なし	あり
15	端末識別	なし	あり
16	MBE能力	なし	−

8章

SIPを使った会議

この章では、SIP（Session Initiation Protocol—セッション開始プロトコル）を使った会議を行う方法を説明します。

SIPは、IETF（Internet Engineering Task Force）で標準化された、IPネットワーク上で通信を開始するプロトコルです。SIPを使った会議を行うには、別売りのSIPソフトウェアPCSA-SP1を本機にインストールし、SIPサーバーを経由してIP電話などの端末と接続します。

また、別売りのMCUソフトウェアをインストールすることで、最大5台までのIP電話などと接続して多地点会議を行うこともできます。

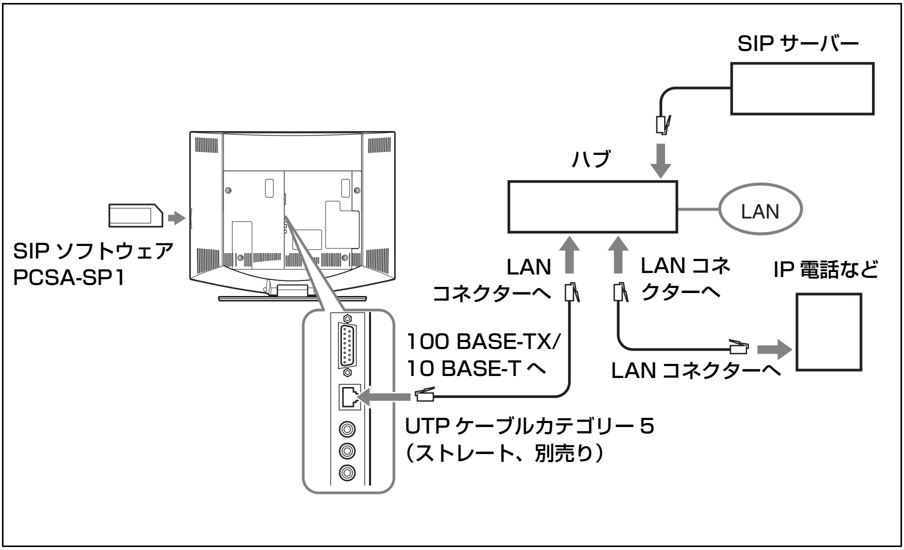
ご注意

SIPでのカスケード接続はサポートしておりません。

SIP を使った会議をするための接続例

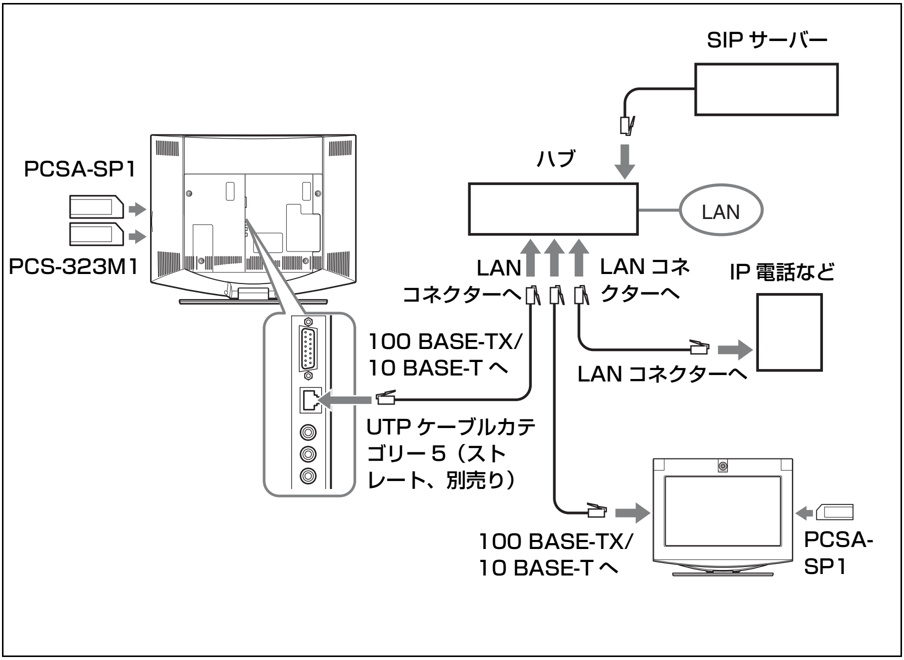
2 地点間の接続例

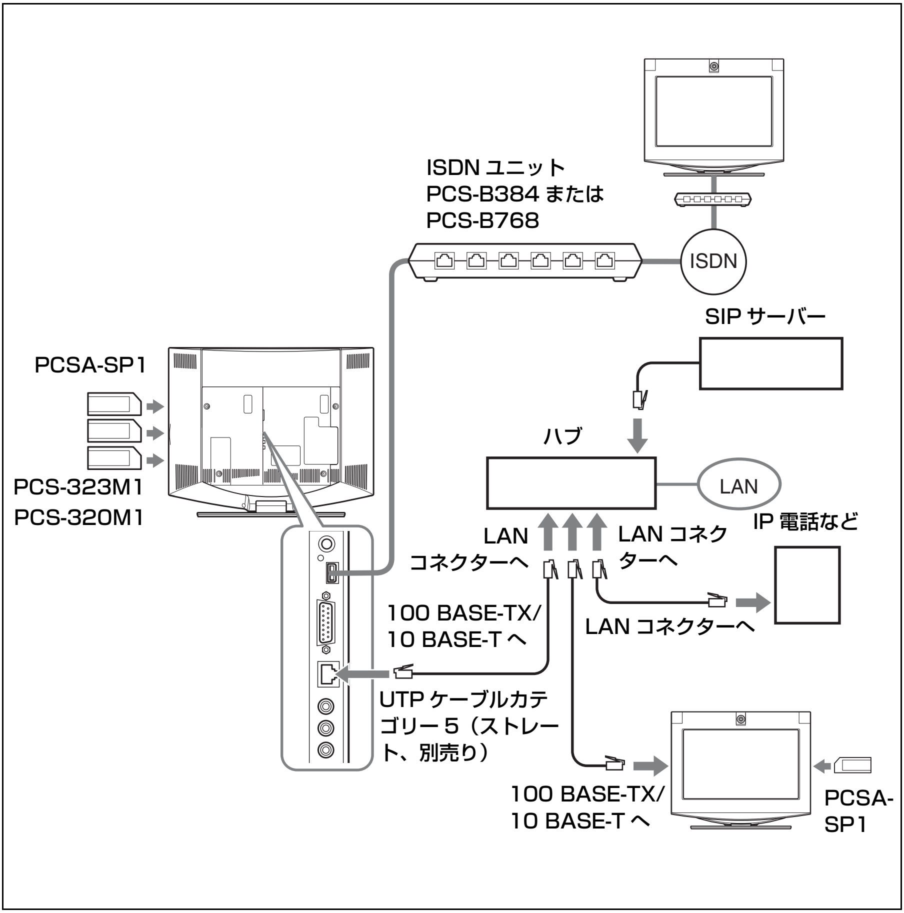
ビデオコミュニケーションシステムに SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）をインストールし、ハブを介して IP 電話と SIP サーバーに接続します。


SIP サーバー
ハブ
LAN
SIP ソフトウェア
PCSA-SP1
LAN
コネクターへ
LAN コネ
クターへ
IP 電話など
100 BASE-TX/
10 BASE-T へ
LAN コネクターへ
UTP ケーブルカテゴリー 5
（ストレート、別売り）

多地点会議の接続例

SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）と H.323MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）をインストールすると、最大 6 地点間での多地点会議が可能です。また、さらに H.320MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）をインストールすると、SIP と ISDN 接続が混在した多地点会議が可能です。


SIP サーバー
ハブ
LAN
PCSA-SP1
PCS-323M1
LAN コネクターへ
LAN コネクターへ
IP 電話など
100 BASE-TX/ 10 BASE-T へ
LAN コネクターへ
UTP ケーブルカテゴリー５（ストレート、別売り）
100 BASE-TX/ 10 BASE-T へ
PCSA-SP1


ISDN ユニット
PCS-B384 または
PCS-B768
ISDN
SIP サーバー
PCSA-SP1
ハブ
LAN
PCS-323M1
PCS-320M1
LAN
コネクターへ
LAN コネク
ターへ
IP 電話など
100 BASE-TX/
10 BASE-T へ
LAN コネクターへ
UTP ケーブルカテ
ゴリー 5（ストレー
ト、別売り）
100 BASE-TX/
10 BASE-T へ
PCSA-
SP1

ご注意

2台以上のビデオコミュニケーションシステムにSIPソフトウェアをインストールしてもカスケード接続はできません。

SIP を使った会議の準備

SIP ソフトウェアをインストールする

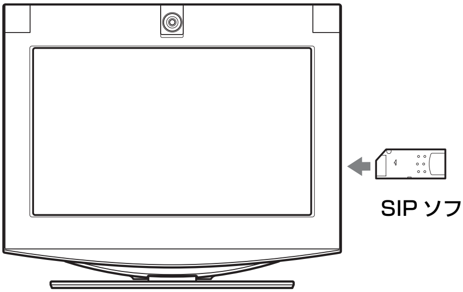
インストール時のご注意

- SIP ソフトウェアの入った“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっているとインストールできません。
- 1 個の SIP ソフトウェアでインストールできるのは 1 回のみです。
- コンピューターなどで他の“メモリースティック”にコピーした SIP ソフトウェアはインストールできません。

1　本機右側面の電源スイッチをオフにする。

2　SIP ソフトウェア PCSA-SP1 の入った“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



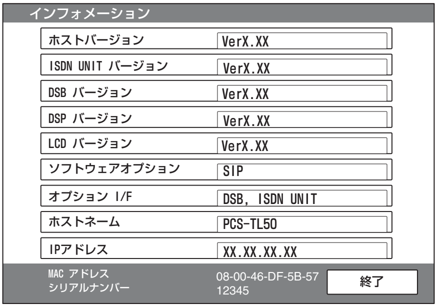
SIP ソフトウェア PCSA-SP1

3　本機右側面の電源スイッチをオンにする。

SIP ソフトウェアが本機にインストールされます。

SIP ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには

インフォメーションメニューの「ソフトウェアオプション」に「SIP」と表示されます。



ホストバージョン VerX.XX
ISDN UNIT バージョン VerX.XX
DSB バージョン VerX.XX
DSP バージョン VerX.XX
LCD バージョン VerX.XX
ソフトウェアオプション SIP
オプション I/F DSB, ISDN UNIT
ホストネーム PCS-TL50
IPアドレス XX.XX.XX.XX
MAC アドレス 08-00-46-DF-5B-57
シリアルナンバー 12345

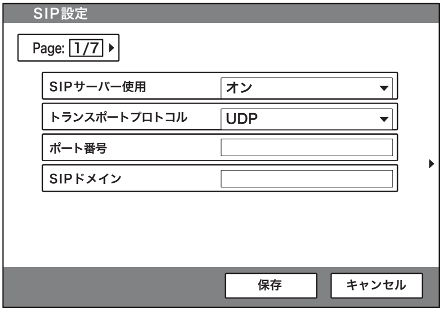
◆インフォメーションメニューについて詳しくは、「インフォメーションメニュー」（74 ページ）をご覧ください。

SIP の設定をする

設定メニューの SIP 設定メニューで、SIP を使用した会議の設定を行います。

◆詳しい設定のしかたは、「SIP 設定メニュー」（79 ページ）をご覧ください。

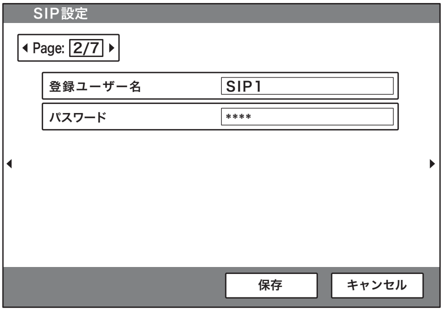
1 SIP 設定メニューの 1 ページ目の「SIP サーバー使用」を「オン」にする。



SIPサーバー使用 オン
トランスポートプロトコル UDP
ポート番号
SIPドメイン

2 SIPで使用するプロトコル (TCPまたはUDP) を選択し、ポート番号、SIP ドメインを入力する。

3 SIP 設定メニューの２ページ目を開き、接続する端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力する。



SIP設定
Page: 2/7
保存
キャンセル

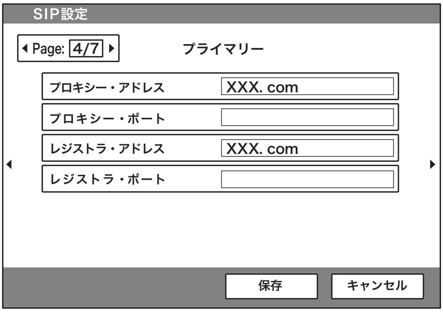
登録ユーザー名　SIP1

パスワード　****

ご注意

H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1 がインストールされている端末では、多地点会議を行うすべての端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力してください（最大５つ）。

4 SIP設定メニューの４ページ目を開き、使用するSIPサーバーのアドレスとポート番号を入力する。



SIP設定
Page: 4/7
プライマリー
保存
キャンセル

プロキシー・アドレス　XXX. com

プロキシー・ポート

レジストラ・アドレス　XXX. com

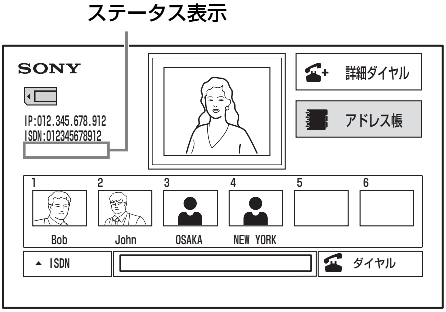
レジストラ・ポート

ご注意

４台までの SIP サーバーを設定できます。複数の SIP サーバーを設定する場合は、４ページ目から７ページ目にそれぞれのサーバーのアドレスとポート番号を入力してください。

5 SIP サーバーへの登録が正しく行われたことを確認する。

ランチャーメニューで、ステータス表示部に「SIP: Registration Failed」および「SIP: Registration Requested」と表示されていないことを確認してください。


ステータス表示
SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
▲ ISDN
ダイヤル

ランチャーメニューに SIP のユーザー名やアドレスを表示するには

一般設定メニューの「番号表示」（60 ページ）で表示したい内容を設定してください。

SIP 接続時に音声のみを使用するときは

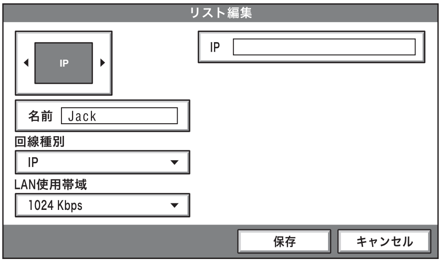
- 発信設定メニューの「映像方式」（52 ページ）と着信設定メニューの「映像方式」（56 ページ）を「SIP ビデオなし」に設定してください。
- 多地点会議を行う場合は、マルチポイント設定メニューの「映像方式」（73 ページ）を「SIP ビデオなし」に設定してください。

会議の相手をアドレス帳に登録する

SIP 接続をする相手をアドレス帳へ登録する方法は、基本的には通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（82 ページ）をご覧ください。

1　アドレス帳で「新規登録」を選んでリスト編集メニューを表示し、名前の欄に相手の名前を入力する。

◆詳しくは、「新しい相手を登録する」（82 ページ）の手順 1 〜 3 をご覧ください。

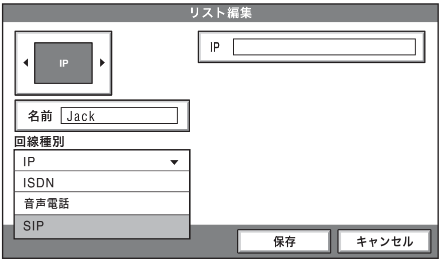

リスト編集
IP
IP
保存
キャンセル

名前　Jack

回線種別　IP

LAN使用帯域　1024 Kbps

2　「回線種別」で「SIP」を選ぶ。


リスト編集
IP
IP
IP
ISDN
音声電話
SIP
保存
キャンセル

名前　Jack

回線種別　SIP

3　IP アドレス入力欄に相手のアドレスを入力する。

4　アドレス帳に表示する回線種別アイコン（SIP）または静止画を選ぶ。

5　「保存」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。

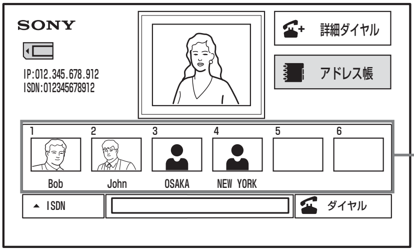
設定した内容がアドレス帳に登録されます。

SIP を使った会議を始める

相手を呼び出す

ワンタッチダイヤルで相手を呼び出すには

基本的に、通常の2地点間の会議の場合と同じです。
ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストを見て、呼び出したい相手が登録してあるリモコンのワンタッチダイヤルボタン（1～6）を押します。


SONY
IP:012.345.678.912
ISDN:012345678912
詳細ダイヤル
アドレス帳
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK
ISDN
ダイヤル

ワンタッチダイヤルリスト

選んだ相手にダイヤルが始まり、ディスプレイに「発信中（SIP）」と表示されます。相手とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

◆詳しくは、「ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す」（113 ページ）をご覧ください。

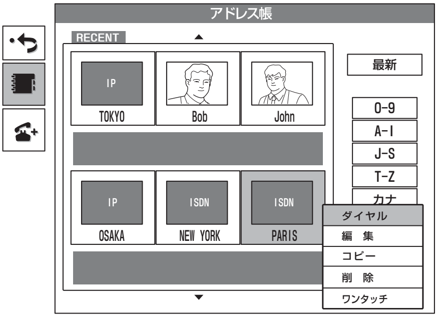
アドレス帳に登録している相手を呼び出すには

1 ランチャーメニューで「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出す相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。


アドレス帳
RECENT
IP
TOKYO
Bob
John
IP
OSAKA
ISDN
NEW YORK
ISDN
PARIS
最新
0-9
A-I
J-S
T-Z
カナ
ダイヤル
編　集
コピー
削　除
ワンタッチ

3 **リモコンの ↑ または ↓ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。**

手順 2 で選んだ相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中（SIP）」と表示されます。

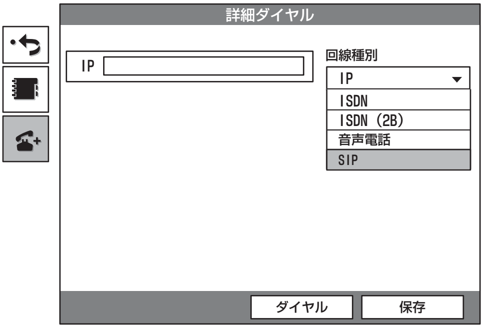
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには

基本的には通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「詳細ダイヤルメニューを使ってアドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（120 ページ）をご覧ください。

1 **ランチャーメニューで「詳細ダイヤル」を選び、詳細ダイヤルメニューを表示する。**

2 **「回線種別」で「SIP」を選ぶ。**


詳細ダイヤル
IP
回線種別
IP
ISDN
ISDN（2B）
音声電話
SIP
ダイヤル
保存

3 **IP アドレス入力欄に相手を指定するアドレスを入力する。**

SIP で相手を指定するときのアドレスには以下のような形式があります。

- 4000（SIP サーバーから割り当てられた番号）
- 4000@sip.com
- 192.168.1.1（IP アドレス）

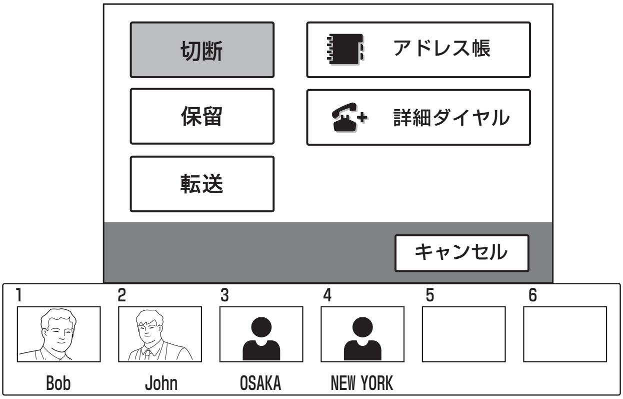
SIP サーバーの種類によっては、IP アドレス形式をサポートしてないものがあります。
ご使用の SIP サーバーがサポートしているアドレス形式をご確認ください。

4 「ダイヤル」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

手順 3 で入力した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中（SIP）」と表示されます。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示されます。

多地点会議の相手を次々と呼び出すには

1 地点目を選んで通信を始めたあと、リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押すと、次のようなサブメニューが表示されます。


切断
アドレス帳
保留
詳細ダイヤル
転送
キャンセル
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK

接続する相手の登録状態に合わせてサブメニューのワンタッチダイヤルリスト、「アドレス帳」または「詳細ダイヤル」を選び、次に接続する相手を選びます。
詳しくは、「相手を呼び出す」（236 ページ）をご覧ください。

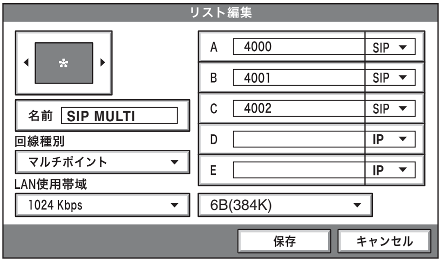
多地点会議の相手を一括して呼び出すには

アドレス帳に、SIPを使った多地点会議を行う相手を登録した「SIP用マルチポイント接続リスト」を作成することができます。

マルチポイント接続リストの作成のしかたは、8章の「多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する」（202ページ）をご覧ください。

相手の回線情報を、以下のように設定します。

①「回線種別」で「マルチポイント」を選ぶ。
② 回線種別アイコンとして「 ✲ 」（または希望の静止画）を選ぶ。
③ 入力欄右端のドロップダウンリストから「SIP」を選ぶ。
④ 入力欄にSIP用の相手の番号を入力する。



名前　SIP MULTI
回線種別　マルチポイント
LAN使用帯域　1024 Kbps
A　4000　SIP
B　4001　SIP
C　4002　SIP
D　　IP
E　　IP
6B(384K)

多地点会議を始めるとき、アドレス帳の「SIP用マルチポイント接続リスト」を選択してリモコンの接続／切断（☎／☎）ボタンを押すと、多地点会議の相手を一括して呼び出すことができます。

相手から呼び出される

2地点間のテレビ会議の操作と同じです。

◆詳しくは、「相手から会議に呼び出される」（125ページ）をご覧ください。

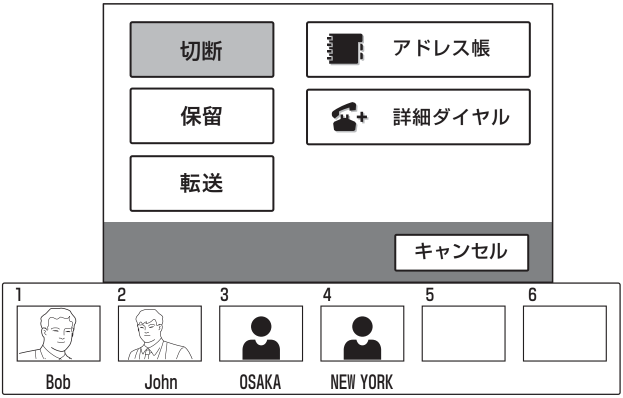
通話を保留する

SIP を使った 2 地点間会議または多地点間会議中のみ、通話を保留することができます。

2 地点間会議を保留するには

1 通信中にリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

次のサブメニューが表示されます。


切断
アドレス帳
保留
詳細ダイヤル
転送
キャンセル
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保留」を選び、決定ボタンを押す。

自分および相手のディスプレイに「保留中」画面が表示されます。

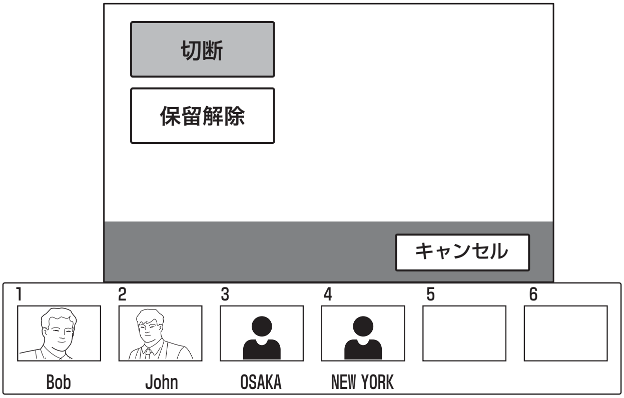
ご注意

- 2 地点間会議の保留中は、発信、着信ができません。
- 2 地点間会議中、データソリューションボックスの送受信中やホワイトボードの受信中に保留になった場合、送受信は解除されます。保留を解除しても送受信は復帰しません。

2地点間会議の保留を解除するには

自分側から保留を行った場合のみ、次の方法で保留解除ができます。

保留中にリモコンの接続/切断（☎/☎）ボタンを押し、表示されるサブメニューから「保留解除」を選んで決定ボタンを押します。保留が解除され、会議を続けることができます。



ご注意

2地点間会議の場合、相手側から保留された場合は「保留解除」はできません。「切断」のみが可能です。

多地点会議中に通話を保留するには

保留や保留解除の操作は2地点間会議の場合と同じです。
「2地点間会議を保留するには」、「2地点間会議の保留を解除するには」をご覧ください。

多地点会議中に保留した場合の動作および画面表示は、以下のようになります。

- 本機にMCUソフトウェアをインストールして、多地点会議を行っている場合、本機で保留操作を行うと、すべての子端末がいっせいに保留となり、「保留中」画面が表示されます。
  ただし、多地点会議にSIP以外の回線種別の端末が参加している場合は、本機から保留することはできません。
- 本機にMCUソフトウェアをインストールして、分割モードで多地点会議を行っている場合、子端末で保留操作を行うと、保留操作を行った子端末の映像が「保留中」画面に変わります。この場合、本

機から保留ができなくなります。また、子端末がすべて保留操作を行うと自分側の映像のみが表示されます。

- 本機に MCU ソフトウェアをインストールして音声検出モードで多地点会議を行っている場合、放送中の子端末で保留操作を行うと、その端末だけが保留となり、本機の映像が放送されます。放送中以外の子端末が保留した場合は、放送は続きます。

◆「分割モード」、「音声検出モード」について詳しくは、7 章の「放送モードの種類」（214 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 保留中にできる操作は、「切断」および「保留解除」のみです。
- 多地点会議中、データソリューションボックスの送受信中やホワイトボードの受信中に受信端末がすべて保留になった場合、送受信は解除されます。保留を解除しても送受信は復帰しません。ただし、子端末の 1 つが保留しても、他の子端末との通信が続いていれば、送受信は解除されません。

通話を転送する

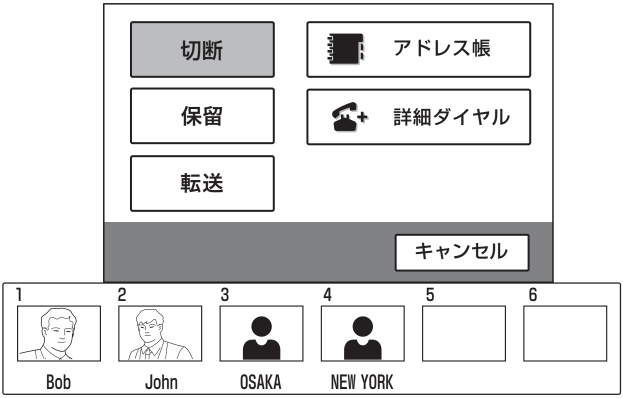
SIP を使った 2 地点間会議中のみ、別の相手に通話を転送することができます。

ご注意

多地点会議中は、通話の転送はできません。

1 通信中にリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

次のサブメニューが表示されます。



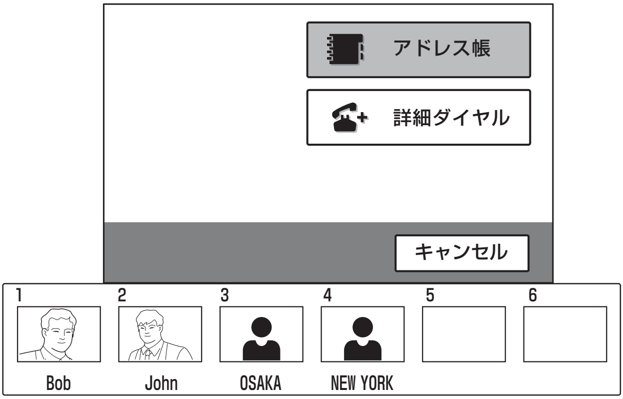
2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「転送」を選び、決定ボタンを押す。

現在通話中の端末は保留になります。保留状態は、転送が完了するまで続きます。

ご注意

- 転送時、保留された端末から「保留解除」はできません。「切断」のみが可能です。
- データソリューションボックスの送受信中やホワイトボードの受信中に転送の操作を行うと、送受信は解除されます。転送が完了しても送受信は復帰しません。

本機には、次のサブメニューが表示されます。



3 転送したい相手がワンタッチダイヤルリストに登録してある場合は、リモコンのワンタッチダイヤルボタン（1～6）を押す。ワンタッチダイヤルリストに登録していない相手に転送する場合は、リモコンの↑/↓/←/→ボタンで「アドレス帳」または「詳細ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

4 「アドレス帳」または「詳細ダイヤル」を選んだ場合は、それぞれのメニューで転送したい相手を選び、ダイヤルする。

◆詳しくは、「ワンタッチダイヤルで相手を呼び出すには」（236ページ）、「アドレス帳に登録している相手を呼び出すには」（236ページ）の手順2、3、または「アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには」（237ページ）の手順2～4をご覧ください。

ご注意

「回線種別」が「SIP」以外の相手には転送できません。

相手側とつながると、ディスプレイに相手側の映像と「切断すると転送されます。」のメッセージが表示されます。

5 相手に転送することを伝え、リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

通話が相手に転送されます。回線が切断され、ディスプレイはランチャーメニューに戻ります。

転送をキャンセルするには

サブメニューの「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

ご注意

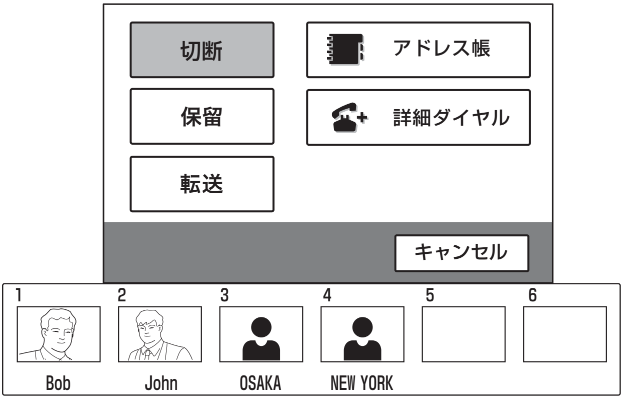
転送をキャンセルできるのは、転送先の端末が応答するまでです。応答後にキャンセルしたい場合は、転送先端末で回線を切断してもらってください。

会議を終了する

2 地点間の会議を終了するには

1　リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

次のサブメニューが表示されます。


切断
アドレス帳
保留
詳細ダイヤル
転送
キャンセル
1
2
3
4
5
6
Bob
John
OSAKA
NEW YORK

2　リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「切断」を選び、決定ボタンを押す。

会議が終了し、ディスプレイはランチャーメニューに戻ります。

多地点会議を終了するには

通常の多地点会議の場合と同じです。7 章の「多地点会議を終了する」（219 ページ）をご覧ください。

9章

コンピューターディスプレイ機能/ビデオモニター機能

ビデオ会議をしていないとき、本機のディスプレイをコンピューターディスプレイやビデオモニターとして使用することができます。
この章では、ビデオ会議をしていないときの本機の使いかたを説明します。

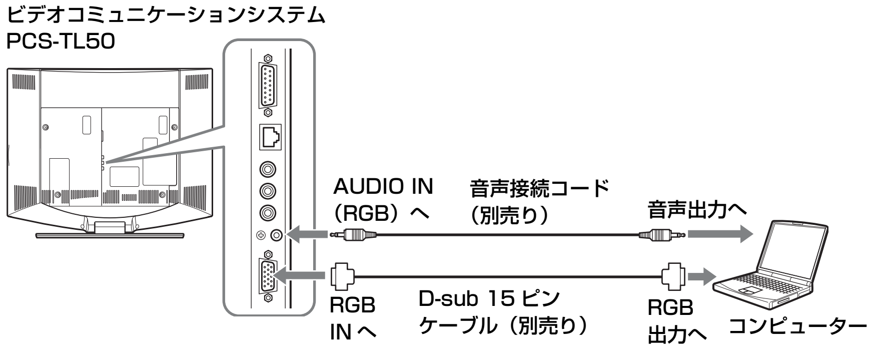
コンピューターディスプレイ機能

本機をコンピューターに接続し、コンピューターの映像を本機のディスプレイで見ることができます。

コンピューターと接続する

本機のリアカバーを外し、コンピューターを接続します。

◆リアカバーの外しかたは、31ページをご覧ください。


ビデオコミュニケーションシステム
PCS-TL50
AUDIO IN
(RGB）へ
音声接続コード
（別売り）
音声出力へ
RGB
IN へ
D-sub 15 ピン
ケーブル（別売り）
RGB
出力へ
コンピューター

コンピューターの映像を見る

1 リモコンのPC/ ビデオボタンを押してPC入力を選ぶ。

ボタンを押すたびに、本機のRGB IN端子に接続したコンピューターの映像と、VIDEO IN端子に接続したビデオ映像が交互に切り換わります。

PC入力にすると、本機のスピーカーからコンピューターの音声がステレオで聞こえます（音声接続をしている場合）。

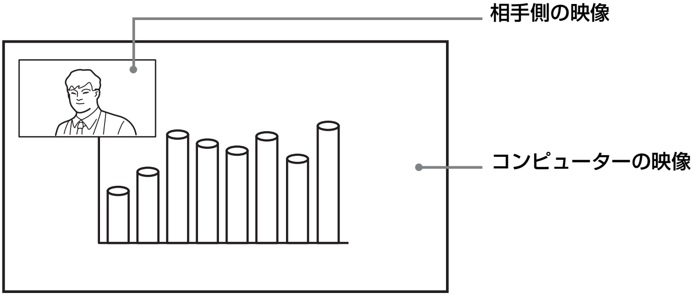
2 リモコンの音量＋ / －ボタンを押して、コンピューターからの音量を調節する。

3 映像の画質調節をする。

◆調節のしかたは、「ディスプレイの画質を調節する」（253ページ）をご覧ください。

ビデオ会議中にコンピューターの映像を見る

本機のディスプレイでコンピューター映像を見ているとき、相手から会議に呼び出されると、自動的に子画面表示モードになり、相手側の映像が子画面に表示されます。


相手側の映像
コンピューターの映像

次の操作で、会議に適したディスプレイモードに切り換えることができます。

子画面のビデオ会議の映像位置を変えるには

リモコンの子画面ボタンを押します。

ビデオ会議の映像のみを表示するには

リモコンのビデオ会議ボタンを押します。

コンピューターの映像に戻すには、再びPC/ビデオボタンを押します。

ビデオ会議とコンピューターの映像を2画面表示で見るには

リモコンの2画面ボタンを押します。

左側（メイン画面）にコンピューター映像、右側（サブ画面）にビデオ会議の映像が表示されます。

ビデオ会議の映像を相手側から自分側の映像に切り換えるには

リモコンの相手/自分ボタンを押し、表示制御メニューの「表示」の設定（相手側/自分側）を変更します。

ご注意

通信中でないときは、子画面表示や2画面表示はできません。

ヒント

相手から会議に呼び出されたとき、自分側の映像が相手に送られないようにするために、本機上部のシャッタースイッチを使ってカメラのシャッターを閉めておくことができます。

映像切り換え時の画面モード表示

リモコンを使って画面表示を切り換えた場合、約1秒間、画面下部に選択された画面モードが表示されます。表示される内容は次のとおりです。

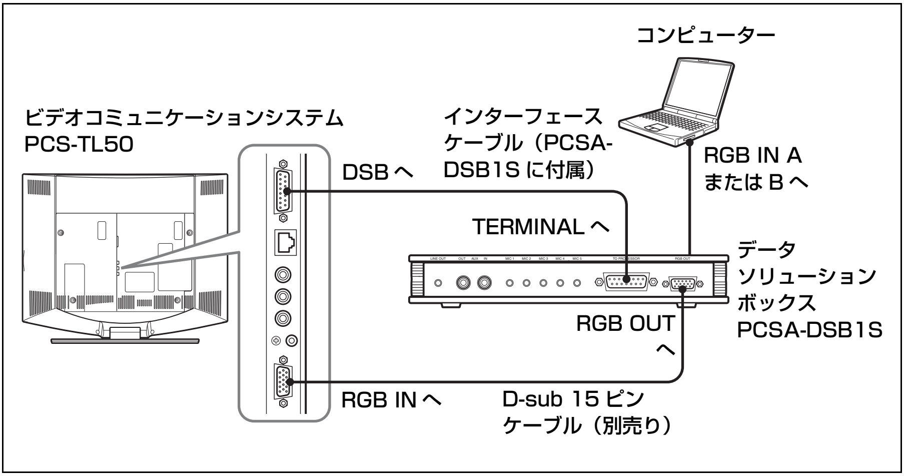
切り換え動作	表示
ビデオ会議に切り換えたとき	ビデオ会議
RGB IN端子に接続したコンピューターの映像に切り換えたとき	PC
VIDEO IN端子に接続したビデオ映像に切り換えたとき	ビデオ
子画面表示や2画面表示を切り換えたとき	ビデオ会議、PCまたはビデオ（メイン画面の映像表示）
ビデオ会議の相手側/自分側を切り換えたとき	ビデオ会議/ビデオ会議

切り換え動作	表示
静止画などの通信画面とビデオ会議を切り換えたとき	ビデオ会議 / ビデオ会議
RGB IN 端子に接続したコンピューターの映像とビデオ会議の 2 画面表示にしたとき	PC/ ビデオ会議
VIDEO IN 端子に接続したビデオ映像とビデオ会議の 2 画面表示にしたとき	ビデオ / ビデオ会議

データソリューションボックスを介してコンピューターの映像を見る

データソリューションボックス PCSA-DSB1S の RGB OUT 端子と本機の RGB IN 端子を接続すると、データソリューションボックスを介して送信するコンピューターの映像を本機のディスプレイで見ることができます。

接続のしかた


コンピューター
ビデオコミュニケーションシステム
PCS-TL50
インターフェースケーブル（PCSA-DSB1S に付属）
DSB へ
RGB IN A
または B へ
TERMINAL へ
データ
ソリューション
ボックス
PCSA-DSB1S
RGB OUT
へ
RGB IN へ
D-sub 15 ピン
ケーブル（別売り）

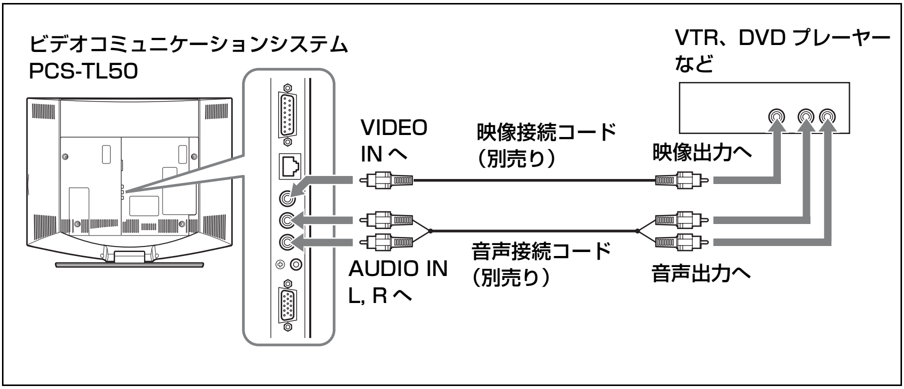
ビデオモニター機能

本機をビデオ機器に接続し、接続した機器の映像を本機のディスプレイで見ることができます。

ビデオ機器と接続する

本機のリアカバーを外し、ビデオ機器を接続します。

◆リアカバーの外しかたは、31ページをご覧ください。


ビデオコミュニケーションシステム
PCS-TL50
VTR、DVDプレーヤーなど
VIDEO IN へ
映像接続コード（別売り）
映像出力へ
AUDIO IN L, R へ
音声接続コード（別売り）
音声出力へ

ビデオ機器の映像を見る

1 リモコンのPC/ビデオボタンを押してビデオ入力を選ぶ。

ボタンを押すたびに、本機のRGB IN端子に接続したコンピューターの映像と、VIDEO IN端子に接続したビデオ映像が交互に切り換わります。

ビデオ入力にすると、本機のスピーカーからビデオ機器の音声がステレオで聞こえます（音声接続をしている場合）。

2 リモコンの音量＋／－ボタンを押して、ビデオ機器からの音量を調節する。

3 映像の画質調節をする。

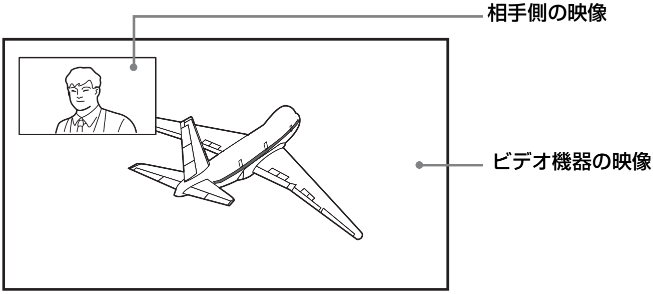
◆調節のしかたは、「ディスプレイの画質を調節する」（253ページ）をご覧ください。

ご注意

市販のVTRやDVDプレーヤーにはまれに出力信号の規格に合致していないものがあります。このような場合、映像が正しく表示されない場合があります。

ビデオ会議中にビデオ機器の映像を見る

本機のディスプレイでビデオ機器の映像を見ているとき、相手から会議に呼び出されると、自動的に子画面表示になり、相手側の映像が子画面に表示されます。



次の操作で、会議に適したディスプレイモードに切り換えることができます。

子画面のビデオ会議の映像位置を変えるには

リモコンの子画面ボタンを押します。

ビデオ会議の映像のみを表示するには

リモコンのビデオ会議ボタンを押します。

ビデオ機器の映像に戻すには、再びPC/ビデオボタンを押します。

ビデオ会議とビデオ機器の映像を2画面表示で見るには

リモコンの2画面ボタンを押します。

左側（メイン画面）にビデオ映像、右側（サブ画面）にビデオ会議の映像が表示されます。

ビデオ会議の映像を相手側から自分側の映像に切り換えるには

リモコンの相手/自分ボタンを押し、表示制御メニューの「表示」の設定（相手側/自分側）を変更します。

映像切り換え時の画面モード表示

リモコンを使って画面表示を切り換えた場合、約1秒間、画面下部に選択された画面モードが表示されます。表示される内容は次のとおりです。

◆表示される内容については、「映像切り換え時の画面モード表示」（248ページ）をご覧ください。

ご注意

通信中でないときは、子画面表示や2画面表示はできません。

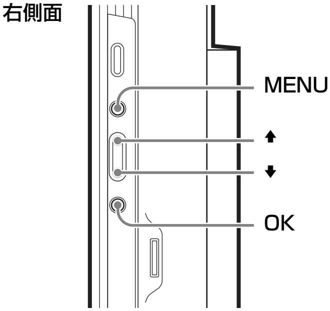
ヒント

相手から会議に呼び出されたとき、自分側の映像が相手に送られないようにするために、本機上部のシャッタースイッチを使ってカメラのシャッターを閉めておくことができます。

ディスプレイの画質を調節する

本機の右側面の MENU, ⬆/⬇, OK ボタンを使って画質調整を行います。

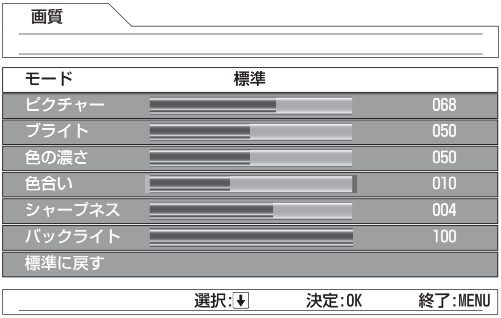
画質調整項目は、ディスプレイのメイン画面に表示される3種類の映像（ビデオ会議、ビデオ映像、コンピューター映像）によって異なり、それぞれの映像の調整値が保持されます。



1　本機右側面の MENU ボタンを押す。

画質調整メニューが表示されます。

例：ビデオ映像の画質調整メニュー



画質

モード　標準

ピクチャー　068

ブライト　050

色の濃さ　050

色合い　010

シャープネス　004

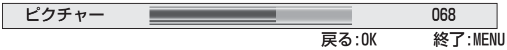
バックライト　100

標準に戻す

選択:⬇　決定:OK　終了:MENU

2 本機右側面の ♠/♣ ボタンを押して設定項目を選び、OK ボタンを押す。

選んだ設定項目の調整画面が表示されます。


ピクチャー 068

3 本機右側面の ♠/♣ ボタンを押して調整し、OK ボタンを押す。

4 MENU ボタンを押してメニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

画質調整メニュー最下部の「標準に戻す」を選び、OK ボタンを押します。

ご注意

画質調整メニューは、約 10 秒間操作しないと自動的に消えます。また、次の場合も消えます。

— MENU ボタンを押した場合

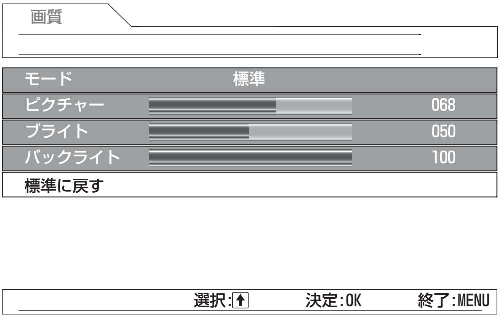
— リモコンのビデオ会議ボタンまたは PC/ ビデオボタンでディスプレイの映像を切り換えた場合（ビデオ会議系内の表示切替では、画質調整メニューは消去されません）

— 音量調節をした場合

— ワイドモードを変更した場合

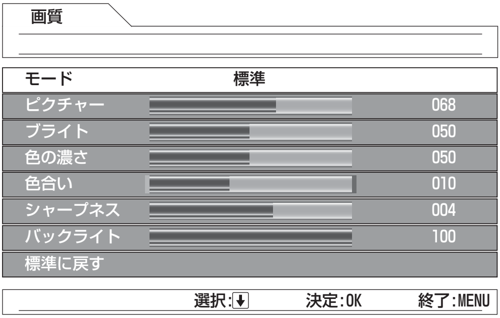
— 子画面表示または２画面表示の状態が変化した場合

ビデオ会議の画質調整メニュー


モード 標準
ピクチャー 068
ブライト 050
バックライト 100

設定項目	⬇ ボタンを押すと	⬆ ボタンを押すと	調整範囲
モード	ダイナミック、標準、AV プロが選択できる。「ダイナミック」にすると青っぽい色調に、「AV プロ」にすると赤っぽい色調になります。		–
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる	0 〜 100
ブライト	暗くなる	明るくなる	0 〜 100
バックライト	バックライトが暗くなる	バックライトが明るくなる	0 〜 100

ビデオ映像の画質調整メニュー


画質

モード　標準
ピクチャー　068
ブライト　050
色の濃さ　050
色合い　010
シャープネス　004
バックライト　100
標準に戻す

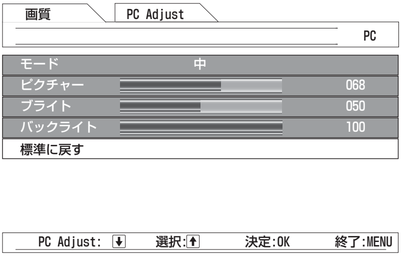
選択:⬇　決定:OK　終了:MENU

設定項目	⬇ ボタンを押すと	⬆ ボタンを押すと	調整範囲
モード	ダイナミック、標準、AV プロが選択できる。「ダイナミック」にすると青っぽい色調に、「AV プロ」にすると赤っぽい色調になります。		–
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる	0 〜 100
ブライト	暗くなる	明るくなる	0 〜 100
色の濃さ	淡くなる	濃くなる	0 〜 100
色合い	緑っぽくなる	赤っぽくなる	緑 50 〜赤 50
シャープネス	やわらかな画質になる	くっきりした画質になる	0 〜 6
バックライト	バックライトが暗くなる	バックライトが明るくなる	0 〜 100

コンピューター映像の画質調整メニュー

コンピューター映像の画質調整メニューは、「画質」タブと「PC Adjust」タブの2枚の画面があります。画面を切り換えるには、⬇ボタンで最下部の項目を選び、さらに⬇ボタンを押すか、⬆ボタンで最上部の項目を選び、さらに⬆ボタンを押します。

「画質」タブ



画質　PC Adjust

PC

モード　中

ピクチャー　068

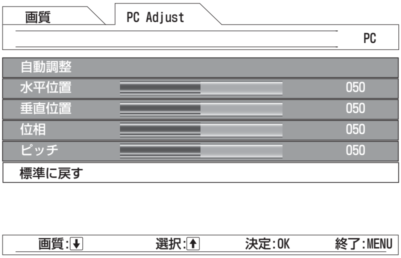
ブライト　050

バックライト　100

標準に戻す

PC Adjust: ⬇　選択:⬆　決定:OK　終了:MENU

「PC Adjust」タブ



画質　PC Adjust

PC

自動調整

水平位置　050

垂直位置　050

位相　050

ピッチ　050

標準に戻す

画質:⬇　選択:⬆　決定:OK　終了:MENU

タブ	設定項目	⬇ボタンを押すと	⬆ボタンを押すと	調整範囲
画質	モード	画面の色温度を高、中、低から選択できる		–
	ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる	0～100
	ブライト	暗くなる	明るくなる	0～100
	バックライト	バックライトが暗くなる	バックライトが明るくなる	0～100
PC Adjust	自動調整	位相とピッチを自動的に調整する		–
	水平位置	画面全体が左方向に移動する	画面全体が右方向に移動する	0～100*
	垂直位置	画面全体が下方向に移動する	画面全体が上方向に移動する	0～100*
	位相	横方向の縞や文字のにじみが最小になるように調整する		0～100
	ピッチ	縦方向の大きな縞がなくなるように調整する		0～100

* 水平位置、垂直位置の調整範囲は、入力されているRGB信号の仕様により、異なる場合があります。

10 章

Web 機能

この章は、PCS-TL50 上で動作する Web 機能をまとめたものです。Web 機能とは、PC 上の Web ブラウザ（Internet Explorer）から PCS-TL50 にアクセスし、PCS-TL50 のコントロール、設定変更を行う機能です。

Internet Explorer は Microsoft 社の製品です。バージョン 5.0 以上 (6.0 を推奨) を使用してください。

Web ページへのアクセス方法

Web ブラウザのアドレス欄に PCS-TL50 に設定されている IP アドレスを入力します。

http://xxx.xxx.xxx.xxx/

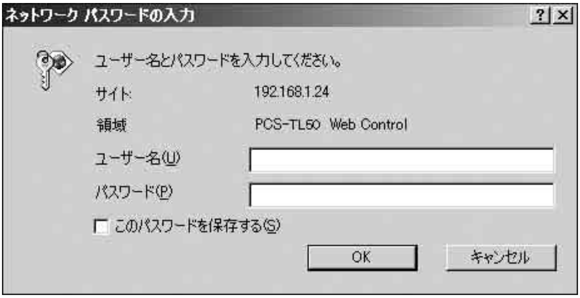
例　IP アドレスが 192.168.1.24 の場合
http:// 192.168.1.24/

ご注意

ネットワークセグメント外部の Proxy が設定されているときは、PCS-TL50 の LAN 設定のゲートウェイアドレスを指定する必要があります。もしくは、Web ブラウザの Proxy 設定で NoProxy に指定してください。

認証ページの入力方法

Webページにアクセスすると以下のような認証ページが表示されます。



ネットワーク パスワードの入力

ユーザー名とパスワードを入力してください。

サイト: 192.168.1.24

領域 PCS-TL50 Web Control

ユーザー名(U)

パスワード(P)

□ このパスワードを保存する(S)

ユーザー名入力欄にユーザー名を、パスワード入力欄にパスワードを入力し、OKボタンをクリックします。

パスワードは、"*"で表示されます。

ユーザー名、パスワードを正しく入力すると、[Dial/Disconnect]ページが表示されます。

誤ったユーザー名、パスワードを入力すると、再度ユーザー名、パスワードをきいてきます。

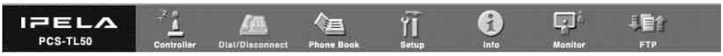
３回誤った入力を行うと、エラーメッセージが画面に表示されます。

ご注意

- ユーザー名に"user"を入力した場合、管理者設定のリモートアクセス・パスワードを入力します。Phone Book、Setupの内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に"super"を入力した場合、管理者設定のスーパーユーザー・パスワードを入力します。Phone Bookの内容確認と変更・新規登録、Setupの内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に"sonypcs"を入力した場合、管理者設定の管理者パスワードを入力します。Phone Bookの内容確認と変更・新規登録、Setupの内容確認と変更を行うことができます。
- パスワードが設定されていないときは、パスワード入力欄を空白でOKボタンをクリックします。
- 管理者パスワード、スーパーユーザー・パスワード、リモートアクセス・パスワードは管理者設定の中で設定します。

機能ボタンの選択

各機能ボタンをクリックすることで、それぞれのページを表示します。


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP

[Controller]

制御卓から各種操作を行うことができます。
リモコン（PCS-RTL50）と同様の操作を行うことができます。

[Dial/Disconnect]

マニュアルダイヤル発信と切断を行うことができます。

[Phone Book]

リストの一覧表示を行うことができます。
リスト発信を行うことができます。
リストの新規登録、内容確認、編集を行うことができます。

Private Address Book

プライベートアドレス帳の場合は、Phone Book ボタンが Private Address Book ボタンに変わります。

[Setup]

Setup の内容確認と変更を行うことができます。
Send Message を行うことができます。
Reset の各項目を行うことができます。（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

[Info]

通信状態、回線状態、機種情報を確認することができます。
Cause Code を確認することができます。
Call Log を確認することができます。（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

[Monitor]

PCS-TL50 の映像をモニターすることができます。

ご注意

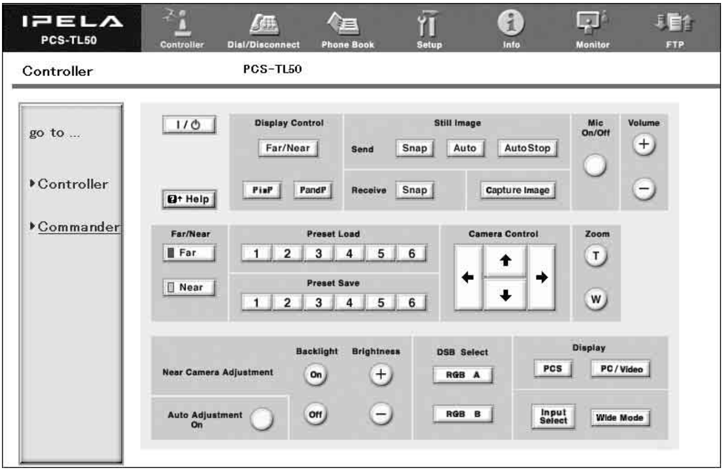
管理者設定メニューの Web モニターがオフのときは、映像のモニターはできません。

- **[FTP]**

  FTPにアップロードされている画像をダウンロードして、本機に挿入した“メモリースティック”に保存すると、保存した画像をアドレス帳やワンタッチダイヤル用の静止画として使うことができます。

[Controller] ページの使用方法

Controller 画面

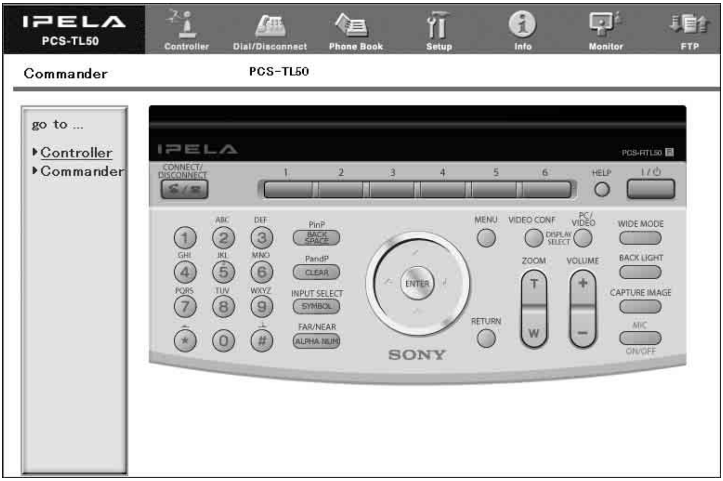

IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
Controller
PCS-TL50
go to ...
Controller
Commander
I / ⏻
? Help
Display Control
Far/Near
PiP
PandP
Still Image
Send
Snap
Auto
AutoStop
Receive
Snap
Capture Image
Mic On/Off
Volume
+
−
Far/Near
Far
Near
Preset Load
1
2
3
4
5
6
Preset Save
1
2
3
4
5
6
Camera Control
Zoom
T
W
Near Camera Adjustment
Backlight
On
Off
Brightness
+
−
Auto Adjustment On
DSB Select
RGB A
RGB B
Display
PCS
PC / Video
Input Select
Wide Mode

機能ボタンの [Controller] をクリックすると制御卓の画像が表示されます。
それぞれのボタンをクリックすることにより静止画の送受信、カメラ操作、プリセット登録、などの制御を行うことができます。

プリセット登録の方法

① Camera Control ボタンなどでカメラを任意の位置に合わせます。
② Preset Save（1 ～ 6）ボタンをクリックします。
③ プリセット登録完了です。
④ Preset Load (1 ～ 6) ボタンをクリックするとセーブされたプリセット（1 ～ 6）をロードします。

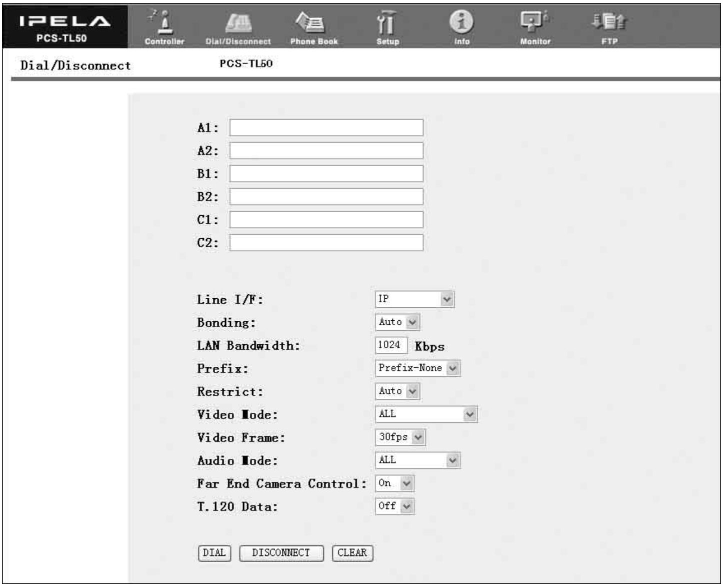
Commander 画面


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
Commander
PCS-TL50
go to ...
Controller
Commander
IPELA
PCS-RTL50
CONNECT/DISCONNECT
1
2
3
4
5
6
HELP
I/⏻
ABC
DEF
GHI
JKL
MNO
PQRS
TUV
WXYZ
PinP
BACK SPACE
PandP
CLEAR
INPUT SELECT
SYMBOL
FAR/NEAR
ALPHA NUM
ENTER
SONY
MENU
VIDEO CONF
PC/VIDEO
DISPLAY SELECT
WIDE MODE
ZOOM
VOLUME
BACK LIGHT
T
W
+
−
CAPTURE IMAGE
RETURN
MIC
ON/OFF

左側の ▶ Commander をクリックするとリモートコマンダーの画像が表示されます。

それぞれのボタンをクリックすることにより、実際のリモコン（PCS-RTL50）と同様にカメラコントロール、ダイヤルなどの操作を行うことができます。

[Dial/Disconnect] ページの使用方法


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
DIAL
DISCONNECT
CLEAR

Dial/Disconnect　PCS-TL50

A1:
A2:
B1:
B2:
C1:
C2:

Line I/F: IP
Bonding: Auto
LAN Bandwidth: 1024 Kbps
Prefix: Prefix-None
Restrict: Auto
Video Mode: ALL
Video Frame: 30fps
Audio Mode: ALL
Far End Camera Control: On
T.120 Data: Off

機能ボタンの [Dial/Disconnect] をクリックすると Dial/Disconnect ページが表示されます。

Dial の方法

① 番号入力欄に相手回線番号（LAN 接続時は IP アドレス、DNS ネームなど）を入力します。
② Line I/F: を選び、他に必要な項目も同じように選びます。
③ DIAL ボタンをクリックします。
④ “Now dialing...” と表示されます。
⑤ 接続が完了すると、“Connect OK.” と表示され、このページが再表示されます。

Disconnect の方法

① DISCONNECT ボタンをクリックします。
② “Now disconnecting...” と表示されます。
③ 切断が完了すると、“Disconnect OK.” と表示され、このページが再表示されます。

リダイヤルの内容をクリアする

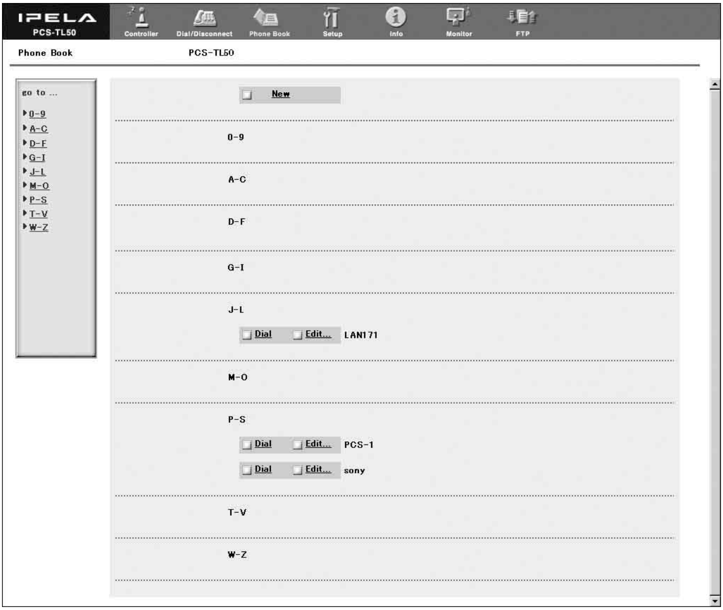
① CLEAR ボタンをクリックします。

② リダイヤルの内容がクリアされ、このページが再表示されます。

ご注意

Dial Setup ページの More Options Enable が Off のときは、Line I/F と LAN Bandwidth のみ表示されます。

[Phone Book] ページの使用方法


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
Phone Book
PCS-TL50
go to ...
0-9
A-C
D-F
G-I
J-L
M-O
P-S
T-V
W-Z
New
0-9
A-C
D-F
G-I
J-L
Dial
Edit...
LAN171
M-O
P-S
Dial
Edit...
PCS-1
Dial
Edit...
sony
T-V
W-Z

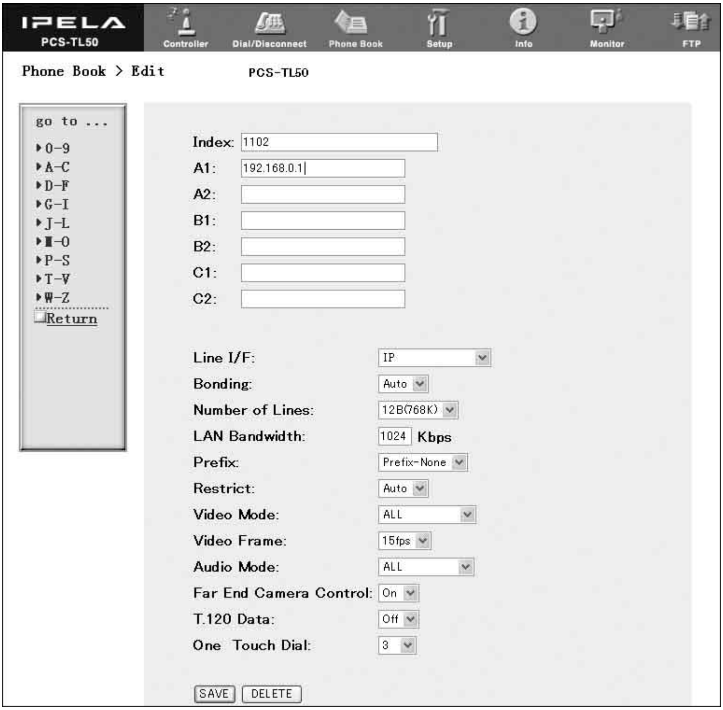
機能ボタンの [Phone Book] をクリックするとリスト一覧ページが表示されます。

Dial の方法

① ダイヤルしたい相手の Index 名の左側にある □Dial をクリックします。
“Now dialing...” と表示されます。

② 接続が完了すると、“Connect OK.” と表示され、リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book 編集画面


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
go to ...
0-9
A-C
D-F
G-I
J-L
M-O
P-S
T-V
W-Z
Return
SAVE
DELETE

Phone Book > Edit　PCS-TL50

Index: 1102
A1: 192.168.0.1
A2:
B1:
B2:
C1:
C2:

Line I/F: IP
Bonding: Auto
Number of Lines: 12B(768K)
LAN Bandwidth: 1024 Kbps
Prefix: Prefix-None
Restrict: Auto
Video Mode: ALL
Video Frame: 15fps
Audio Mode: ALL
Far End Camera Control: On
T.120 Data: Off
One Touch Dial: 3

Phone Book を編集する（ユーザー名：super、sonypcs で認証したとき）

① リスト一覧ページで、修正したい相手の Index 名の左側にある□Edit... をクリックします。
Phone Book 編集画面が表示されます。

② 回線番号、属性を修正します。

③ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book から削除する（ユーザー名：super、sonypcs で認証したとき）

① リスト一覧ページで、削除したい相手の Index 名の左側にある□Edit... をクリックします。
Phone Book 編集画面が表示されます。

② DELETE ボタンをクリックします。
DELETE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

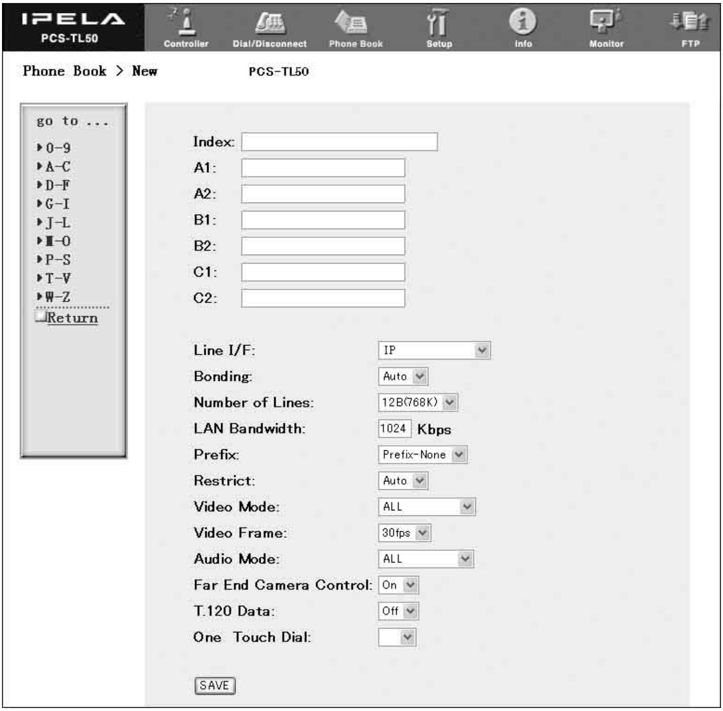
リスト一覧ページに戻る

① 左側の □Return をクリックします。
リスト一覧ページが再表示されます。

ご注意

Dial Setup ページの More Options Enable が Off のときは、Line I/F, Number of Lines、LAN Bandwidth、One Touch Dial のみ表示されます。

Phone Book 新規登録画面


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
go to ...
0-9
A-C
D-F
G-I
J-L
M-O
P-S
T-V
W-Z
Return
SAVE

Phone Book > New PCS-TL50

Index:
A1:
A2:
B1:
B2:
C1:
C2:

Line I/F: IP
Bonding: Auto
Number of Lines: 12B(768K)
LAN Bandwidth: 1024 Kbps
Prefix: Prefix-None
Restrict: Auto
Video Mode: ALL
Video Frame: 30fps
Audio Mode: ALL
Far End Camera Control: On
T.120 Data: Off
One Touch Dial:

Phone Book に新規登録する（ユーザー名：super、sonypcs で認証したとき）

① リスト一覧ページで □New をクリックします。
新規登録画面が表示されます。

② 相手 Index 名、回線番号を入力します。

③ Line I/F: を選び、他に必要な項目も同じように選びます。

④ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、新規リストが追加され、リスト一覧 ページが再表示されます。

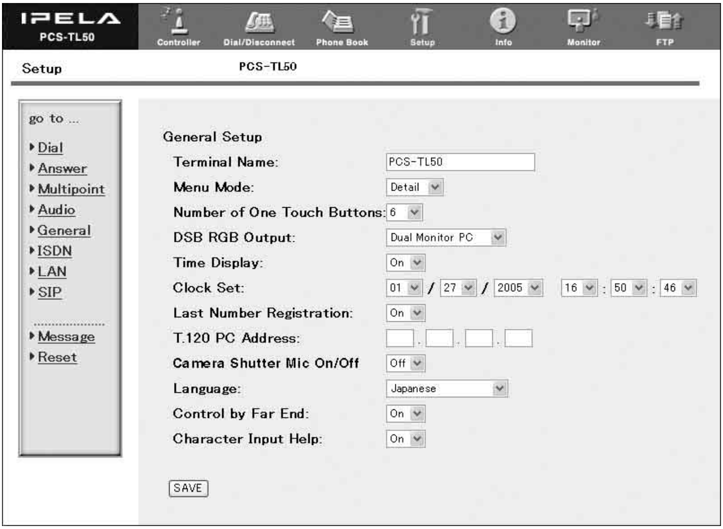
リスト一覧のページに戻る

① 左側の □Return をクリックします。
リスト一覧ページが再表示されます。

ご注意

Dial Setup ページの More Options Enable が Off のときは、Line I/F、Number of Lines、LAN Bandwidth、One Touch Dial のみ表示されます。

[Setup] ページの使用方法



Setup PCS-TL50

go to ...

- Dial
- Answer
- Multipoint
- Audio
- General
- ISDN
- LAN
- SIP

- Message
- Reset

General Setup

Terminal Name: PCS-TL50
Menu Mode: Detail
Number of One Touch Buttons: 6
DSB RGB Output: Dual Monitor PC
Time Display: On
Clock Set: 01 / 27 / 2005 16 : 50 : 46
Last Number Registration: On
T.120 PC Address: . . .
Camera Shutter Mic On/Off: Off
Language: Japanese
Control by Far End: On
Character Input Help: On

SAVE

機能ボタンの [Setup] をクリックすると Basic Setup のページが表示されます。（上のページは General Setup ページ）

他の Setup を行うときは、左側の ▶ Dial、▶ Answer、▶ Multipoint、▶ Audio、▶ General、▶ ISDN、▶ LAN、▶ SIP をクリックしてください。それぞれのページが表示されます。

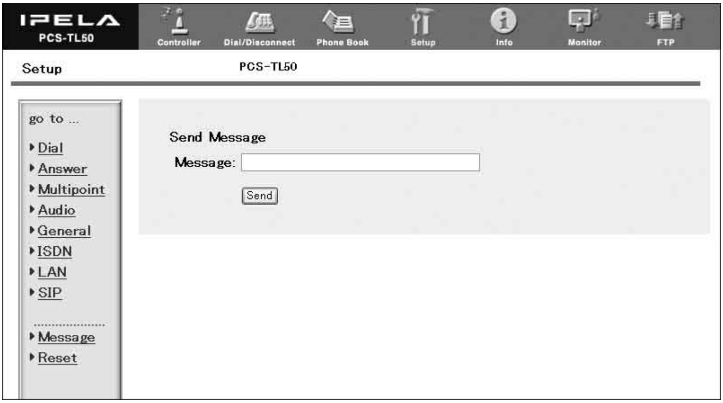
Setup の変更方法（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

① 各 Setup のページを開きます。
② 設定項目を変更します。
③ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、ページが再表示されます。

ご注意

LAN 設定変更時、ページが再表示できない場合があります。

Send Message 画面


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
Setup
PCS-TL50
go to ...
Dial
Answer
Multipoint
Audio
General
ISDN
LAN
SIP
Message
Reset
Send Message
Message:
Send

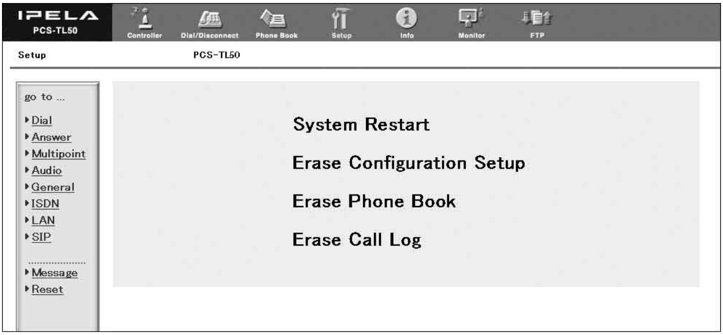
左側の ▶ Message をクリックすると Send Message のページが表示されます。

入力欄にメッセージを入力し、Send ボタンをクリックすると、PCS-TL50 本体にメッセージを送ります。
完了後、“message send OK.” と表示され、ページが再表示されます。

ご注意

メッセージは、最大で半角 200 字まで送れます。

Reset 画面


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
Setup
PCS-TL50
go to ...
Dial
Answer
Multipoint
Audio
General
ISDN
LAN
SIP
Message
Reset
System Restart
Erase Configuration Setup
Erase Phone Book
Erase Call Log

左側の ▶ Reset をクリックすると Reset のページが表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

① 実行したい項目をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

② OK ボタンをクリックすると実行します。

System Restart

PCS-TL50 本体をリセットします。

Erase Configuration Setup

Setup の内容を工場出荷値に戻します。

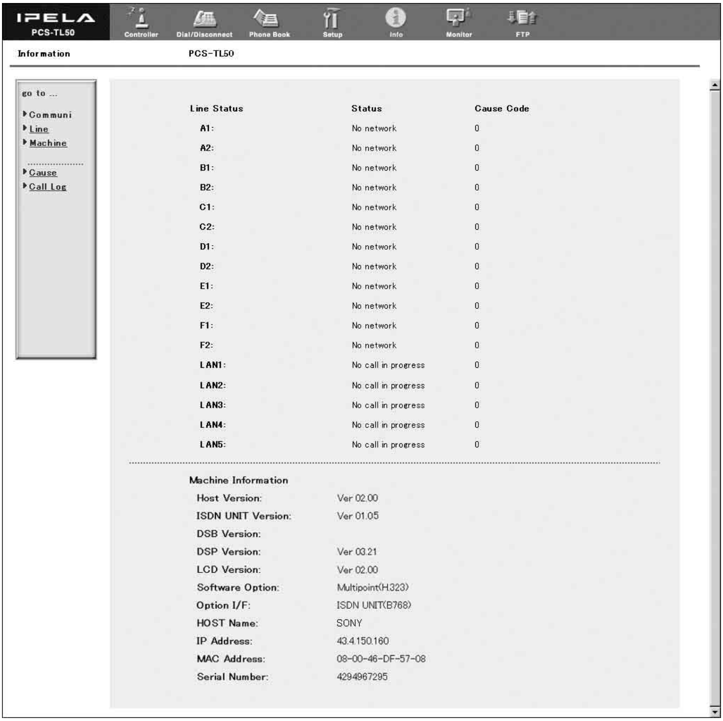
Erase Phone Book

Phone Book の内容をすべて消去します。

Erase Call Log

Call Log の内容をすべて消去します。

[Info] ページの使用方法


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
go to ...
Communi
Line
Machine
Cause
Call Log

Information PCS-TL50

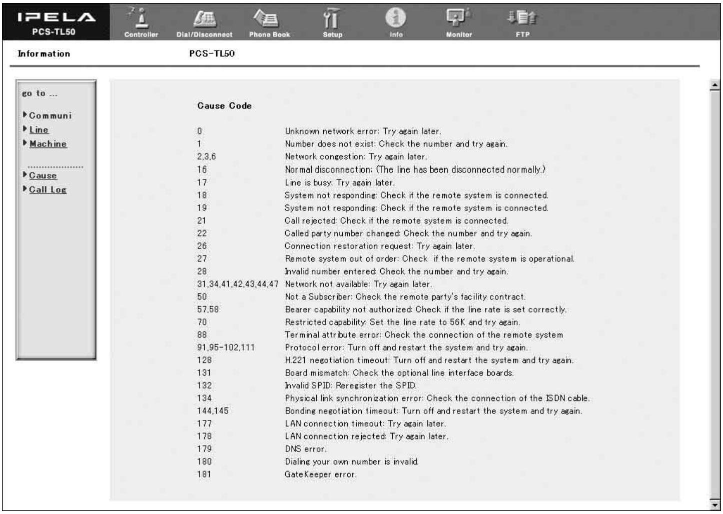
Line Status	Status	Cause Code
A1:	No network	0
A2:	No network	0
B1:	No network	0
B2:	No network	0
C1:	No network	0
C2:	No network	0
D1:	No network	0
D2:	No network	0
E1:	No network	0
E2:	No network	0
F1:	No network	0
F2:	No network	0
LAN1:	No call in progress	0
LAN2:	No call in progress	0
LAN3:	No call in progress	0
LAN4:	No call in progress	0
LAN5:	No call in progress	0

Machine Information	
Host Version:	Ver 02.00
ISDN UNIT Version:	Ver 01.05
DSB Version:	
DSP Version:	Ver 03.21
LCD Version:	Ver 02.00
Software Option:	Multipoint(H.323)
Option I/F:	ISDN UNIT(B768)
HOST Name:	SONY
IP Address:	43.4.150.160
MAC Address:	08-00-46-DF-57-08
Serial Number:	4294967295

機能ボタンの [Info] をクリックすると Information ページが表示されます。

非通信中は Line Status、Machine Information が表示されます。
通信中は Communication Status、Line Status、Machine Information が表示されます。

Cause Code 一覧画面



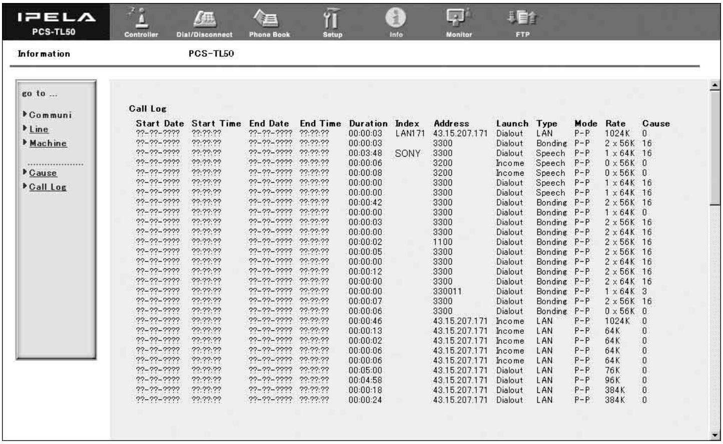
Cause Code

0	Unknown network error: Try again later.
1	Number does not exist: Check the number and try again.
2,3,6	Network congestion: Try again later.
16	Normal disconnection: (The line has been disconnected normally.)
17	Line is busy: Try again later.
18	System not responding: Check if the remote system is connected.
19	System not responding: Check if the remote system is connected.
21	Call rejected: Check if the remote system is connected.
22	Called party number changed: Check the number and try again.
26	Connection restoration request: Try again later.
27	Remote system out of order: Check if the remote system is operational.
28	Invalid number entered: Check the number and try again.
31,34,41,42,43,44,47	Network not available: Try again later.
50	Not a Subscriber: Check the remote party's facility contract.
57,58	Bearer capability not authorized: Check if the line rate is set correctly.
70	Restricted capability: Set the line rate to 56K and try again.
88	Terminal attribute error: Check the connection of the remote system
91,95-102,111	Protocol error: Turn off and restart the system and try again.
128	H.221 negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
131	Board mismatch: Check the optional line interface boards.
132	Invalid SPID: Reregister the SPID.
134	Physical link synchronization error: Check the connection of the ISDN cable.
144,145	Bonding negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
177	LAN connection timeout: Try again later.
178	LAN connection rejected: Try again later.
179	DNS error.
180	Dialing your own number is invalid.
181	GateKeeper error.

左側の ▶ Cause をクリックすることにより Cause Code ページが表示されます。

Cause Code の一覧を表示します。

Call Log 画面



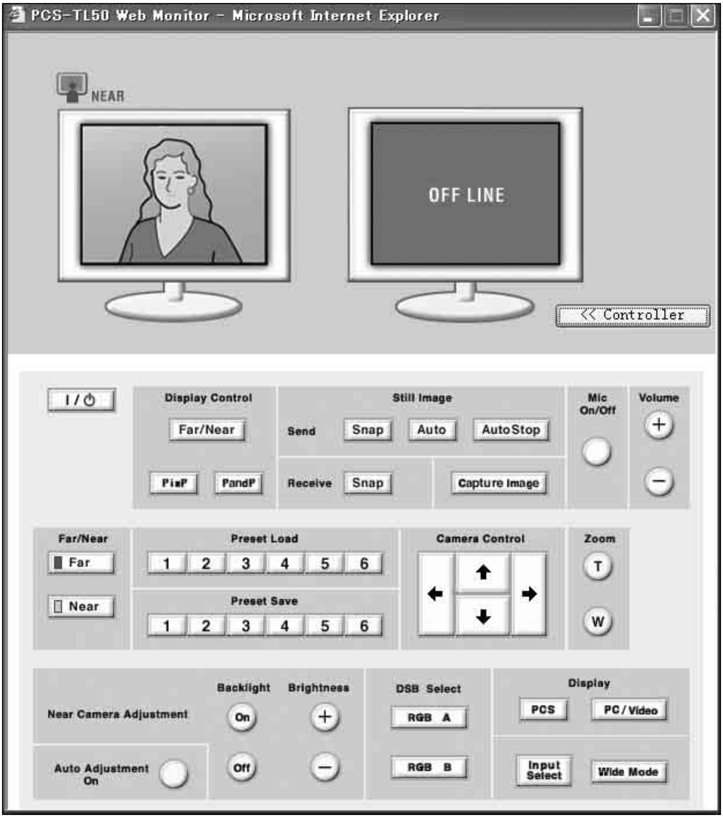
Call Log

Start Date	Start Time	End Date	End Time	Duration	Index	Address	Launch	Type	Mode	Rate	Cause
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:03	LAN171	43.15.207.171	Dialout	LAN	P-P	1024K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:03		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:03:48	SONY	3300	Dialout	Speech	P-P	1 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:06		3200	Income	Speech	P-P	0 x 56K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:08		3200	Income	Speech	P-P	0 x 56K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Speech	P-P	1 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Speech	P-P	1 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:42		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Bonding	P-P	1 x 64K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:03		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:02		1100	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:05		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:12		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 64K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:00		330011	Dialout	Bonding	P-P	1 x 64K	3
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:07		3300	Dialout	Bonding	P-P	2 x 56K	16
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:06		3300	Dialout	Bonding	P-P	0 x 56K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:46		43.15.207.171	Income	LAN	P-P	1024K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:13		43.15.207.171	Income	LAN	P-P	64K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:02		43.15.207.171	Income	LAN	P-P	64K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:06		43.15.207.171	Income	LAN	P-P	64K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:06		43.15.207.171	Income	LAN	P-P	64K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:05:00		43.15.207.171	Dialout	LAN	P-P	76K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:04:58		43.15.207.171	Dialout	LAN	P-P	96K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:18		43.15.207.171	Dialout	LAN	P-P	384K	0
??-??-????	??:??:??	??-??-????	??:??:??	00:00:24		43.15.207.171	Dialout	LAN	P-P	384K	0

左側の ▶ Call Log をクリックすることにより Call Log ページが表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

Call Log を表示します。

[Monitor] ページの使用方法

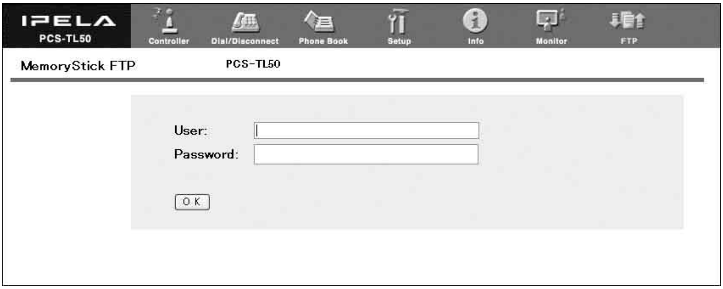

PCS-TL50 Web Monitor - Microsoft Internet Explorer
NEAR
OFF LINE
<< Controller
I / ⏻
Display Control
Far/Near
PinP
PandP
Still Image
Send
Snap
Auto
AutoStop
Receive
Snap
Capture Image
Mic On/Off
Volume
+
−
Far/Near
Far
Near
Preset Load
1 2 3 4 5 6
Preset Save
1 2 3 4 5 6
Camera Control
Zoom
T
W
Near Camera Adjustment
Backlight
On
Off
Brightness
+
−
Auto Adjustment On
DSB Select
RGB A
RGB B
Display
PCS
PC/Video
Input Select
Wide Mode

機能ボタンの [Monitor] をクリックすると Monitor ページが別ウィンドウで表示され、PCS-TL50 の映像をモニターします。

ご注意

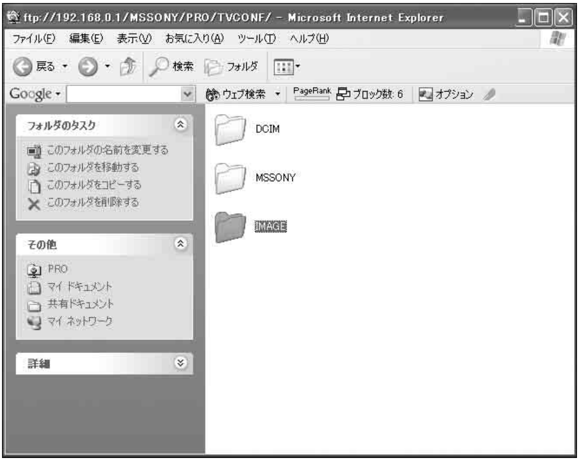
管理者設定の Web モニターがオフのときは、映像のモニターはできません。

[FTP] ページの使用方法


IPELA
PCS-TL50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
FTP
MemoryStick FTP
PCS-TL50
User:
Password:
O K

機能ボタンの [FTP] をクリックすると Memory Stick FTP ページが表示されます。

User 欄に“sonypcs”と入力し、Password 欄に管理者用設定メニューで設定したリモートアクセス・パスワードを入力し、OK ボタンをクリックします。
パスワードは、“*”で表示されます。
正しく入力すると、FTP サイトに接続されます。


ftp://192.168.0.1/MSSONY/PRO/TVCONF/ - Microsoft Internet Explorer
ファイル(F)
編集(E)
表示(V)
お気に入り(A)
ツール(T)
ヘルプ(H)
戻る
検索
フォルダ
Google
ウェブ検索
PageRank
ブロック数: 6
オプション
フォルダのタスク
このフォルダの名前を変更する
このフォルダを移動する
このフォルダをコピーする
このフォルダを削除する
その他
PRO
マイ ドキュメント
共有ドキュメント
マイ ネットワーク
詳細
DCIM
MSSONY
IMAGE

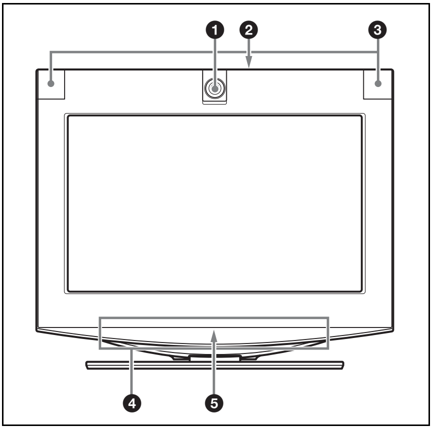
FTP サイトの IMAGE フォルダから画像をダウンロードし、本機に挿入した“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」の下に「DSCXXXXX.jpg」のファイル名をつけて保存します。
保存した画像は、アドレス帳やワンタッチダイヤルの登録のときに静止画として選ぶことができます。

付録

各部の名称と働き

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

前面



❶ レンズ

❷ シャッタースイッチ

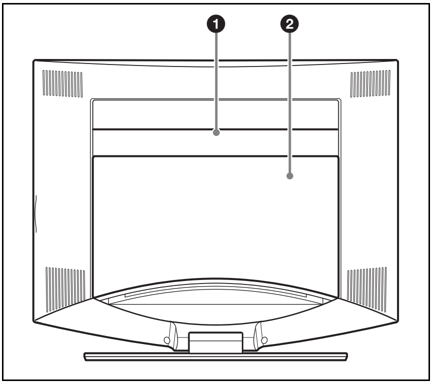
カメラを隠すシャッターを開閉します。

❸ マイク

❹ スピーカー

❺ リモコン受光部

後面

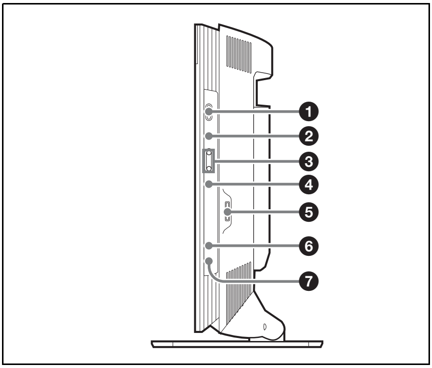


❶ ハンドル

❷ リアカバー

リアカバーを外すと、内部にコネクターパネルがあります。

右側面



❶ ⏻（電源）スイッチとインジケーター

本機の電源を入 / 切します。

電源が入るとインジケーターが緑色に点灯します。

❷ MENU ボタン

ディスプレイに画質調整メニューを表示します。

❸ ↑/↓ ボタン

画質調整メニューの設定項目を選んだり、項目を調整するのに使います。

❹ OK ボタン

選んだ項目や調整内容を確定します。

❺ メモリースティックスロット

“メモリースティック”を挿入します。

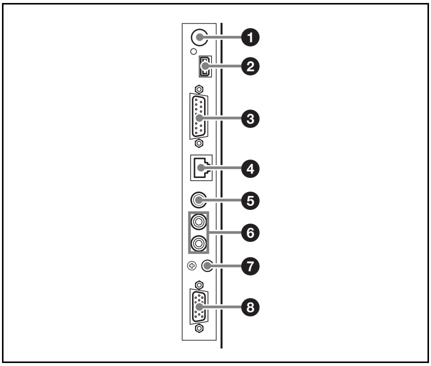
❻ 🎤（マイク）端子（ミニジャック）

別売りのマイクロホン PCS-A1 または PCSA-A3 を接続します。

❼ 🎧（ヘッドホン）端子（ステレオミニジャック）

アクティブスピーカーなどの音声入力端子と接続します。

コネクターパネル部



❶ DC 19.5V 端子

付属の AC アダプター PCS-AC19V8 を接続します。

❷ ISDN UNIT（ISDN ユニット）端子

別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S または PCSA-B768S の TERMINAL 端子と接続します。

❸ DSB 端子（D-sub 15 ピン）

別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S の TERMINAL 端子と接続します。

❹ 100BASE-TX/10BASE-T 端子（8 ピンモジュラー）

LAN を介して会議を行うときに使用します。カテゴリー 5 のケーブルを使ってハブなどに接続します。

❺ VIDEO IN（映像入力）端子（ピンジャック）

別売りの映像機器などの映像出力端子と接続します。

❻ AUDIO IN L、R（音声入力　左 / 右）端子（ピンジャック）

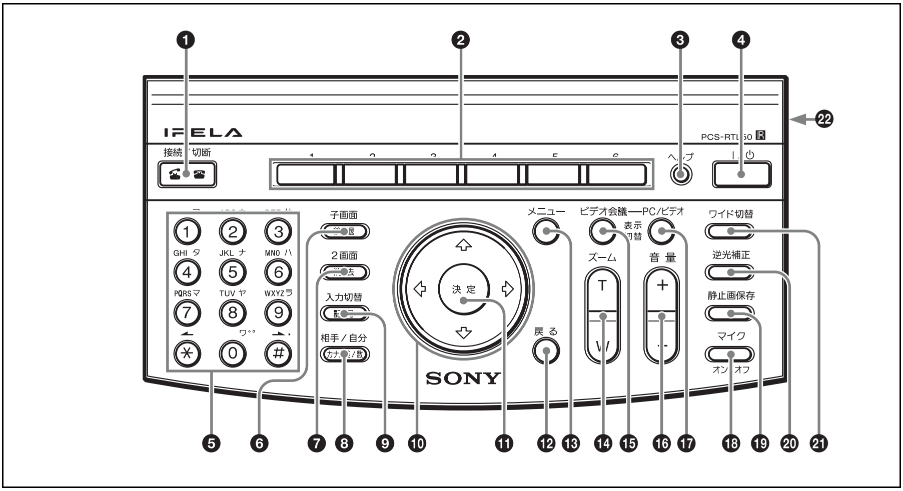
別売りの映像機器やオーディオ機器の音声出力端子と接続します。

❼ AUDIO IN（RGB）（PC 用音声入力）端子（ミニジャック）

RGB IN 端子に接続したコンピューターの音声出力端子と接続します。

❽ RGB IN（RGB 入力）端子（MINI D-sub 15 ピン）

コンピューターやデータソリューションボックスの RGB 出力端子と接続します。


❶
❷
❸
❹
㉒
IFELA
PCS-RTL50
接続／切断
1
2
3
4
5
6
ヘルプ
子画面
2画面
入力切替
相手／自分
カナ/英/数
GHI タ
JKL ナ
MNO ハ
PQRS マ
TUV ヤ
WXYZ ラ
ワ°°
メニュー
ビデオ会議―PC/ビデオ
表示切替
ズーム
T
W
音量
+
−
決定
戻る
ワイド切替
逆光補正
静止画保存
マイク
オン オフ
SONY
❺
❻
❼
❽
❾
❿
⓫
⓬
⓭
⓮
⓯
⓰
⓱
⓲
⓳
⓴
㉑

リモコンのボタンを押したときのビープ音は、メニューの設定で音が出ないようにすることもできます。

◆詳しくは、「音声設定メニュー」（62 ページ）をご覧ください。

❶ 接続 / 切断（☎ / ☎）ボタン

会議をする相手と接続するときや、回線を切るときに使用します。

❷ ワンタッチダイヤルボタン（1 〜 6）

ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストに登録した相手を選択します。

❸ ヘルプボタン

オンラインヘルプを画面に表示するときに押します。

❹ I / ⏻（電源）ボタン

本機の電源を入 / 切します。

❺ 数字（0 〜 9、# 、* ）ボタン

回線番号などの数字や名前などを入力するときに使用します。
また、画像の明るさの調整などを行う場合にも使用します。

❻ 子画面（後退）ボタン

通信中に押すと、子画面を表示します。押すたびに子画面の位置が変わります。
カメラメニュー表示中に押すと、画像をフルスクリーン表示にします。
文字を入力するときは、押すと、最後に入力した文字が消えます。

❼ 2 画面 (消去) ボタン

通信中に押すと、2 画面表示になります。
文字入力のときに押すと、1 行分の文字を消去します。

❽ 相手 / 自分（カナ / 英 / 数）ボタン

相手側と自分側の映像を切り換えます。

文字を入力するときは、入力モードを切り換えます。

❾ 入力切替（記号）ボタン

映像入力を選択します。押すたびに映像入力を切り換えます。

文字を入力するときは、記号入力ボタンとして機能します。

❿ ⬆/⬇/⬅/➡（矢印）ボタン

メニューを選んだり、項目を設定するのに使います。カメラのアングル調整にも使います。

⓫ 決定ボタン

選んだメニューや設定した内容を確定して次の階層に進みます。

⓬ 戻るボタン

メニューのひとつ前の階層に戻ります。

⓭ メニューボタン

メニューを表示するときに押します。

⓮ ズーム（T/W）ボタン

カメラのズームを操作します。

T: 画像が大きくなります。

W: 画像が小さくなります。

⓯ ビデオ会議表示切替ボタン

ディスプレイに外部映像が表示されているとき、会議の映像に切り換えるときに押します。

⓰ 音量（＋ / －）ボタン

音量を調整します。

＋ : 音量が大きくなります。

－ : 音量が小さくなります。

⓱ PC/ ビデオ表示切替ボタン

ディスプレイに会議の映像が表示されているとき、外部映像に切り換えるときに押します。押すたびにRGB IN 端子に入力された映像とVIDEO IN 端子に入力された外部ビデオ映像が切り換わります。

⓲ マイクオン / オフボタン

自分側からの音声を相手に送るのを中断するときに押します。再び音声を相手に送るときは、もう一度押します。

⓳ 静止画保存ボタン

会議中に押すと、相手側の映像を静止画として“メモリースティック”に保存します。

⓴ 逆光補正ボタン

逆光補正の入 / 切をします。

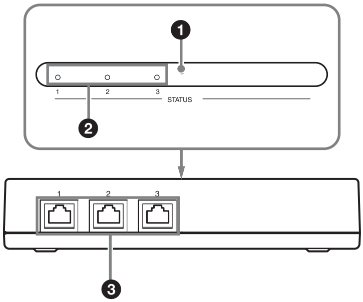
㉑ ワイド切替ボタン

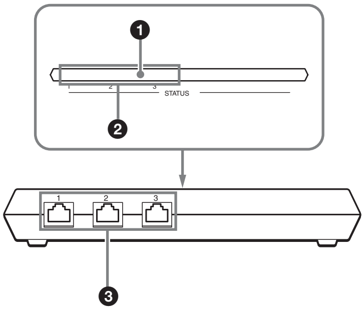
押すたびにディスプレイのワイドモードをズーム、ワイド、ワイドズーム、ノーマルモードの順に切り換えます。

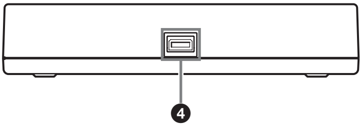
㉒ 電池入れ（後面）

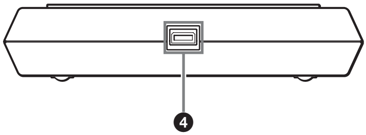
単 3 形乾電池を 2 本入れます。

ISDN ユニット PCSA-B384S/PCS-B384（別売り）


PCSA-B384S 前面・上面


PCS-B384 前面・上面


PCSA-B384S 後面


PCS-B384 後面

❶ STATUS ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 3 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

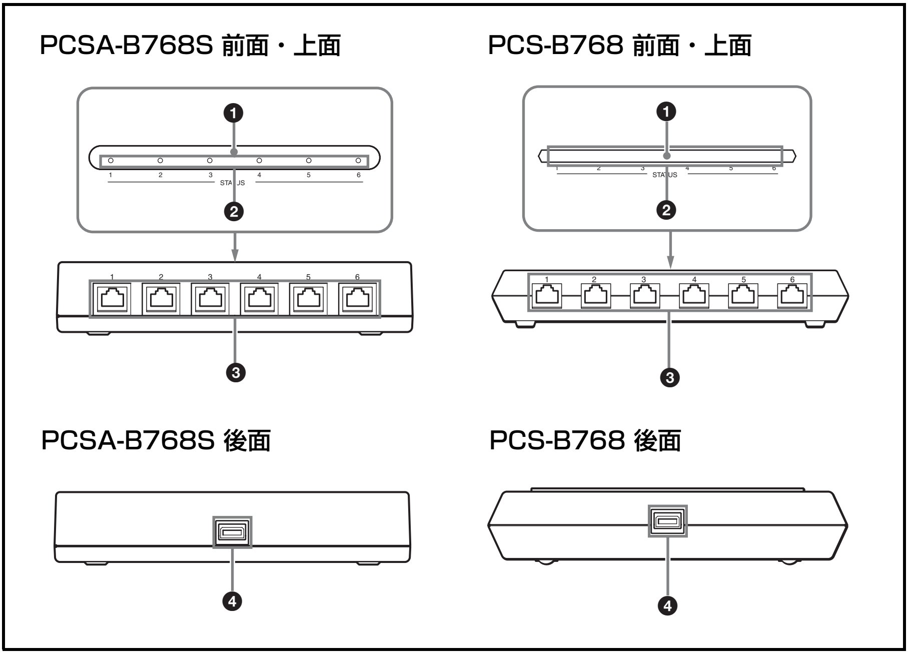
❸ ISDN 1 ～ 3 端子（8 ピンモジュラー）

ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、本機の ISDN UNIT 端子と接続します。

ISDN ユニット PCSA-B768S/PCS-B768（別売り）


PCSA-B768S 前面・上面
PCS-B768 前面・上面
❶
❷
❸
STATUS
1
2
3
4
5
6
PCSA-B768S 後面
PCS-B768 後面
❹

❶ STATUS ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 6 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

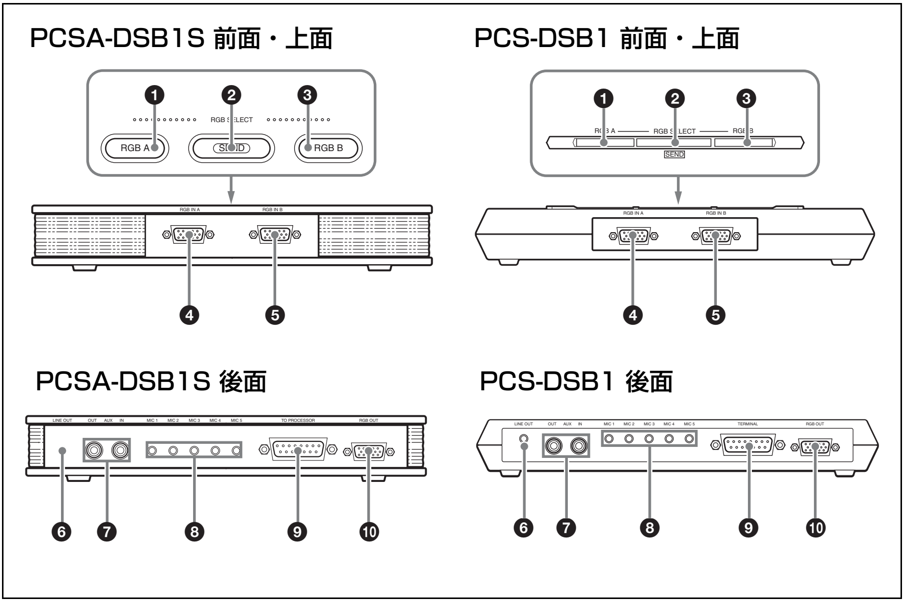
❸ ISDN 1 ～ 6 端子（8 ピンモジュラー）

ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、本機の ISDN UNIT 端子と接続します。

データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1（別売り）


PCSA-DSB1S 前面・上面

PCS-DSB1 前面・上面

PCSA-DSB1S 後面

PCS-DSB1 後面

RGB A
RGB SELECT
SEND
RGB B
RGB IN A
RGB IN B
LINE OUT
OUT
AUX
IN
MIC 1
MIC 2
MIC 3
MIC 4
MIC 5
TO PROCESSOR
TERMINAL
RGB OUT
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

❶ RGB A 入力選択ボタンとランプ

RGB IN A 端子に接続されている機器の映像を選びます。

❷ SEND（送信）ボタンとランプ

選択した映像を本機へ送信します。

❸ RGB B 入力選択ボタンとランプ

RGB IN B 端子に接続されている機器の映像を選びます。

❹ RGB IN A（RGB 入力 A）端子（D-sub 15 ピン）

コンピューターなどの RGB 出力端子と接続します。

❺ RGB IN B（RGB 入力 B）端子（D-sub 15 ピン）

コンピューターなどの RGB 出力端子と接続します。

❻ LINE OUT（ライン出力）端子（ステレオミニジャック）

アクティブスピーカーなどの音声入力端子と接続します。

出力はモノラルです。

❼ AUX IN/OUT（補助入出力）端子（ピンジャック）

別売りのコミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）を接続します。

❽ MIC 1 ～ MIC 5（マイク 1 ～ 5）端子（ミニジャック）

別売りのマイクロホン PCS-A1 または PCSA-A3 を接続します。

❾ TERMINAL（ターミナル）端子（D-sub 15 ピン）

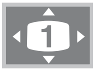
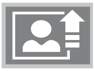
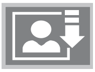
データソリューションボックスに付属のインターフェースケーブルを使って、本機のDSB端子と接続します。

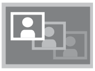
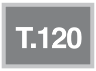
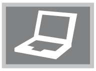
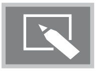
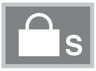
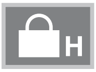
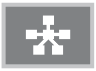
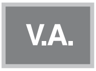
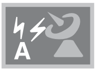
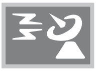
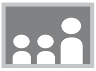
❿ RGB OUT（RGB出力）端子（D-sub 15 ピン）

プロジェクターやモニター用テレビ、本機のディスプレイへ映像を出力します。

インジケーター一覧

コミュニケーションターミナルを操作中、モニター画面に表示されるインジケーターの一覧です。

インジケーター	名称	説明
MIC OFF	マイクオフ中	通信中、非通信中ともに自分側のマイクがオフの場合に表示
ALPHA NUM カナ	入力モード	数字、文字を入力するときのモードを表示
FAR	相手カメラコントロール中	通信中、コントロールしているカメラが相手の場合に表示
☼ Brightness +	ブライトネス調整	カメラメニューでブライトネス調整を行っているときに表示
☼ Brightness –		
Auto Camera	カメラ自動調整	ブライトネスとフォーカスを自動調整にしたときに表示
Backlight On	バックライト ON/OFF	カメラの逆光補正機能の ON/OFF を切り換えたときに表示
Backlight Off		
Flickerfree On	フリッカー除去 ON/OFF	フリッカー除去の制御を行ったときに表示
Flickerfree Off		
Packet Loss	パケットロス発生	H.323 での通信中にパケットロスが発生したときに表示
	プリセット呼び出し	通信中にプリセットした設定を呼び出すときに表示
	静止画送信中	静止画送信中に表示
	静止画受信中	静止画受信中に表示

インジケーター	名称	説明
	スライドショー中	スライドショーを実行しているときに表示
	データ通信 ON	通信中、T.120 が使用できる状態のときに表示
	RGB 送受信中	プレゼンテーション画面を送受信中に表示
	ホワイトボード受信中	ホワイトボード画像受信中に表示
	独自方式暗号化通信中	独自方式の暗号化会議中に表示
	標準方式暗号化通信中	標準方式の暗号化会議中に表示
	マルチポイントモード中	マルチポイントモードが ON になっているときに表示
	音声検出中	内部マルチポイント動作時、音声検出モードのときに表示
	放送中（A ～ E）	MCU 接続中、その端末が放送中のときに表示
	放送中（自分）	
	議長権取得中	外部 MCU と接続し、議長権を保有しているときに表示

付録

メッセージ一覧

本機を操作中、ディスプレイにメッセージが現れたら、下記の表で確認してください。

メッセージ	意味
正しいセットアップをしてください。	相手が登録されていない、または登録内容が不適切です。
回線を完全につなぐことができません。 （下記の理由コードとメッセージが表示されます。）	
0　理由なし：	もう一度ダイヤルしなおしてください。
1　該当番号なし：	相手側の電話番号を確認してください。
2、3、6　回線渋滞：	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
16　正常切断：	（通常の回線切断です）
17　通話中：	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
18　相手側応答なし：	相手側ビデオ会議装置の接続を確認してください。
19　相手側応答なし：	相手側ビデオ会議装置の接続を確認してください。
20　加入者不在：	相手側の電話番号を確認してください。
21　通信拒否：	相手側ビデオ会議装置の接続を確認してください。
22　相手側番号変更：	相手側の電話番号を確認してください。
26　接続復旧要求：	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
27　相手側故障中：	相手側ビデオ会議装置の動作を確認してください。
28　無効な番号：	相手側の電話番号を確認してください。
31、33、34、41 ～ 44、47　回線不通：	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
50　未契約：	相手側回線の契約内容を確認してください。
57、58　伝達能力不許可：	［制御網］の設定を確認してください。
70　能力制限：	［制御網］を［56K］に設定してダイヤルしてください。
88　端末属性不一致：	相手側ビデオ会議装置の接続を確認してください。
91、95 ～ 102、111　手順誤り：	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
128　H.221 同期取得失敗：	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。

メッセージ	意味
132　無効 SPID:	SPID が正しく設定されていません。
134　物理的同期取得失敗 :	ISDN ケーブルの接続を確認してください。
144、145　ボンディング同期取得失敗 :	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
177　LAN 接続タイムアウト :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
178　LAN 接続拒否 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
179　DNS エラー :	DNS を確認してください。
180　自分にはダイヤルできません :	相手先のアドレスを確認してください。
181　ゲートキーパーエラー :	相手先のアドレスを確認してください。
話し中のためつなぐことができません。	相手の回線が使用中なので接続できません。
相手側が応答しません	相手側ビデオ会議装置の接続を確認してください。
相手側の都合で送れません。	相手が何かの作業を行っているので、静止画を送信することができません。
回線をつなぐためメニューを閉じてください。	会議を行うときはメニューを閉じてください。
回線の一部がつながりません。	相手側の回線番号を確認してください。
接続タイムアウト	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
通信エラー。	通信エラーが起こりました。
設定エラー	通信エラーが起こりました。
MCU 操作は拒否されました	外部 MCU 接続時の操作はできません。
信号エラー　切断します。	信号エラーが起こりました。
受信信号エラー　切断します。	信号エラーが起こりました。
メモリーがいっぱいです。	“メモリースティック”の容量が残っていません。
タイトルを入力してください。	インデックスタイトルを入力してください。
操作はできません。	—
パスワードが違います。	正しいパスワードを入力してください。
01H　ＬＡＮセットアップエラー（ＩＰアドレス）	IP アドレスの設定が不適切です。
02H　ＬＡＮセットアップエラー（ネットマスク）	ネットマスクの設定が不適切です。
03H　ＬＡＮセットアップエラー（MAC アドレス）	マックアドレスの設定が不適切です。
04H　ＬＡＮセットアップエラー（ＤＨＣＰエラー）	IP アドレスとネットマスクが取得できません。

メッセージ	意味
05H　ゲートキーパー登録エラー。	ゲートキーパーの設定が不適切です。
06H　SNMP エラー	SNMP の設定が不適切です。
ＬＡＮ セットアップエラー （ゲートキーパー）	ゲートキーパーの設定が不適切です。
ＬＡＮ セットアップエラー（SNMP エラー）	SNMP の設定が不適切です。
LAN セットアップエラー。	LAN 設定メニューの設定が不適切です。
メモリースティック・エラー	“メモリースティック”のフォーマットが違います。
一般エラー	—
メモリースティックがありません。	“メモリースティック”を挿入してください。
メモリースティックが書き込み禁止です。	“メモリースティック”の誤消去防止ツマミの LOCK を解除してください。
メモリースティックがいっぱいです。	“メモリースティック”の容量が残っていません。
メモリースティックファイルエラー	“メモリースティック”のファイルフォーマットが違っています。または、ファイルに異常があります。
メモリースティック ファイルデコードエラー	“メモリースティック”の JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
メモリースティック ファイルサイズエラー	“メモリースティック”のファイルサイズが不適切です。
メモリースティックに画像はありません。	“メモリースティック”に画像が何も保存されていません。
ファイルエラー	ファイルに異常があります。
ファイルサイズエラー	ファイルサイズが不適切です。
ファイルデコードエラー	JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
フォーマットエラー	“メモリースティック”がフォーマットできません。
通信中は設定の変更は出来ません。	通信が終わってから設定を変更してください。
静止画送信が出来ませんでした。	静止画の送信に失敗しました。
プレゼンテーション画像の送信が出来ません。	データソリューションボックスから入力した RGB 画像の送信に失敗しました。
この相手へのマルチポイント接続は出来ません。	この相手へのマルチポイント接続はできません。
LAN が使用できません。	LAN が使用できません。

メッセージ	意味
データソリューションボックスが使用出来ません。	データソリューションボックスが使用できません。
ISDN ユニットとの通信が出来ません	ISDN ユニットとの通信ができません。
これ以上のカスケード接続ができません。	MCU ソフトウェアを 3 台以上の PCS-TL50 にインストールしてもカスケード接続はできません。
ISDN ではカスケード接続はできません。	ISDN 接続の場合、カスケード接続はできません。
RGB 画像を受信中です。送信はできません。	他の端末から RGB 画像を受信中は、データソリューションボックスに接続した機器からの RGB 画像を送信することはできません。
静止画送受信中です。データソリューションボックスの使用はできません。	静止画を送受信中は、データソリューションボックスを介して RGB 画像を送受信することはできません。
データソリューションボックスとの接続が正常ではありません。 システムの電源を入れなおしてください。	本機とデータソリューションボックスが正常に接続されていません。本機の電源を入れなおしてください。
データソリューションボックスは使用できません。	データソリューションボックスは使用できません。
相手側は暗号化に対応していません。	暗号化機能を使って会議を行う場合、相手側のビデオ会議システムが暗号化機能に対応していない場合は接続できません。
相手側の暗号化機能がオフになっています。	暗号化機能を使って会議を行う場合、相手側の暗号化機能がオンに設定されていないと接続できません。
相手側の暗号化機能がオンになっています。	通常の会議を開始する場合、相手側の暗号化機能がオンに設定されていると接続できません。
暗号化のパスワードが違います。	正しいパスワードを設定してください。
ISDN 接続を含んだ暗号化会議はできません。	ISDN 接続で会議中、暗号化機能が独自方式になっていると、LAN 接続の端末とは接続できません。
暗号化のパスワードは 13 文字以上入力してください。	暗号化機能を使った会議を行うために必要なパスワードは 13 文字以上 20 文字以下です。
こちら側の暗号化機能がオフになっています。	暗号化機能をオンにしてください。

メッセージ	意味
相手側の暗号化機能がオフになっています。	相手側に暗号化機能をオンにするよう依頼してください。
SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。	接続方法を変えるか、独自方式の暗号化会議にしてください。
ISDN 接続を含んだ独自方式の暗号化会議はできません。	接続方法を変えるか、標準方式の暗号化会議にしてください。
PPPoE 接続に失敗しました。	LAN 接続ができません。PPPoE の設定を確認してください。
PPPoE のサーバー認証に失敗しました。	正しいパスワードを入力してください。
PPPoE のサーバーへの接続が出来ません。	DNS サーバーの設定を確認してください。
LAN が使用できません。LAN ケーブルの接続を確認してください。	LAN 接続ができません。接続を確認してください。
DHCP で IP アドレスが取得できていません。	DHCP の設定を確認してください。
IP 番号を使用して発信してください。	相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS 参照の解決ができません。	ドメインネームサーバー使用時、相手の名前を入力したため LAN 接続できませんでした。IP アドレスを入力してください。
接続処理を開始していますが、処理途中で何らか障害があり、接続ができません。	再度、接続をし直してください。
ゲートキーパーの登録情報を確認してください。	ゲートキーパー使用時、LAN 設定メニューの 2 ページ目にゲートキーパーの登録情報が表示されますので、ご確認ください。
ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続が拒否されました。	ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続できませんでした。
ゲートキーパーが応答しません。	ゲートキーパーの設定を確認してください。
ISDN ユニットが接続されていません。	ISDN ユニットが接続されていません。
ISDN 回線が有効ではありません。接続を確認してください。	ISDN 回線の接続を確認してください。

メッセージ	意味
ISDN 回線の接続が正しくありません。	ISDN 回線の接続を確認してください。
ISDN の設定を確認してください。	「ISDN 設定メニュー」で ISDN 回線の設定を確認してください。
相手の電話番号が入力されていません。	相手の電話番号を入力してください。
相手の電話番号が正しく入力されていません。	相手の電話番号を正しく入力してください。
交換機または相手側の ISDN 回線接続に問題があり、正しく接続できません。	ISDN 回線の接続ができません。交換機または相手側の接続に問題があります。
回線がビジーです。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。	回線が使用中です。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
回線を完全につなぐことができません。呼び出しましたが、相手ビデオ会議装置が応答しませんでした。	相手側のビデオ会議装置が応答せず、接続できませんでした。
指定した IP アドレスの機器がないか、電源が入っていません。	相手に接続できませんでした。 指定した IP アドレスを確認してください。 または相手に電源を入れてもらってください。
相手が接続を拒否しました。	相手に接続できませんでした。
相手を呼び出しましたが、応答がありません。	相手側から応答がありません。
H.245 エラー	LAN の多地点接続ができませんでした。
相手側端末がボンディング接続未対応の可能性があります。	相手側がボンディング機能を使用していないか、ボンディング機能を搭載していない可能性があります。
ISDN設定の電話番号が正しく設定されていません。正しく設定してください。	本機の ISDN 設定メニューで電話番号を正しく設定してください。
相手端末の **ISDN** 設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。	相手側の端末で電話番号が正しく設定されていません。
xB で接続されました。	xB 以上のチャンネルで接続できませんでした。

メッセージ	**意味**
PPPoE のサーバー認証に失敗しました。 PPPoE ユーザ名と PPPoE パスワードを確認してください。	PPPoE サーバーに接続できませんでした。 正しいパスワードとユーザー名を入力してください。
LAN セットアップエラー。PPPoE の固定 IP がオンになっています。 PPPoE 固定 IP アドレスを確認してください。	固定 IP アドレスを使用して PPPoE に接続するように設定されています。PPPoE 固定 IP アドレスを入力してください。
PPPoE の認証に失敗しています。 PPPoE の設定を確認のうえ、もう一度ダイヤルしてください。	PPPoE サーバーに接続できません。PPPoE の各種設定をし、再度ダイヤルしてください。
DNS サーバーにアクセスできませんでした。PPPoE の DNS 設定を確認してください。	DNS サーバーに接続できませんでした。PPPoE の DNS サーバーの設定を確認してください。
DNS での名前解決ができません。 IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。IP アドレスを入力して発信してください。
DHCP で IP アドレスを取得中です。	DHCP で IP アドレスを自動取得中です。
LAN セットアップエラー。不正な IP アドレスが設定されています。	設定した IP アドレスが不適切です。
LAN セットアップエラー。不正なネットワークマスクが設定されています。	設定したネットワークマスクが不適切です。
DNS サーバにアクセスできません。IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS アドレスを設定するか、IP アドレスで発信してください。	DNS アドレスを設定するか、相手の IP アドレスを入力して発信してください。
発信するユーザー名、もしくはユーザー番号が正しいか確認してください。	ユーザー名、ユーザー番号を正しく入力してください。
相手端末がゲートキーパーへ登録されていない可能性があります。 ゲートキーパー管理者へ連絡してください。	相手端末のゲートキーパー登録に関してゲートキーパー管理者へ連絡してください。

メッセージ	意味
ゲートキーパーが応答しません。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。もしくは相手のIPアドレスで発信してください。	ユーザー名やユーザー番号での発信はできませんでした。ゲートキーパー管理者へ連絡するか、相手のIPアドレスを入力して発信してください。
LANセットアップエラー。ゲートキーパーがONになっています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。	ゲートキーパーを使用してLAN接続するように設定されています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。
LANセットアップエラー。NATモードがONになっています。NATアドレスを確認してください。	NATを使用してネットワークに接続するように設定されています。NATアドレスを確認してください。
LANセットアップエラー。不正なNATアドレスが指定されています。NATアドレスを確認してください。	設定したNATアドレスが不適切です。LAN設定メニューで正しいNATアドレスを入力してください。
LANセットアップエラー。NAT機器以外のアドレスがNATアドレスに指定されています。NATアドレスを確認してください。	LAN設定メニューで正しいNATアドレスを入力してください。
LANセットアップエラー。ポート番号が重複しているため、完全につなぐ事ができません。	LAN設定メニューで、「TCPポート番号」と「UDPポート番号」が重複していないか確認してください。
LANセットアップエラー。無効なポート番号が指定されているため、完全につなぐ事ができません。	相手に接続できません。LAN設定メニューで、「TCPポート番号」と「UDPポート番号」を確認してください。
「回線が混雑しています。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。」	回線がつながりません。再度、発信してください。
ISDN設定の電話番号が正しく設定されていません。正しく設定してください。xBで接続されました。	xB接続されました。より高速の接続をするには、ISDN設定メニューで電話番号を正しく設定してください。
相手端末のISDN設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。xBで接続されました。	xB接続されました。相手端末のISDN設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。

メッセージ	意味
H.221 同期取得失敗。 電源を入れなおしてもう一度接続してください。	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
同じアドレスに発信できません。	すでに発信した相手にダイヤルしています。
回線数が不足しています。 MCU 設定の回線数を確認してください。もしくは、ISDN ケーブルが外れていないか確認してください。	ISDN の回線がいっぱいで接続できません。マルチポイント設定メニューの ISDN の回線数を確認または ISDN ケーブルの接続を確認してください。
回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。	LAN 設定メニューで、回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。
発信設定エラー。Prefix 欄が空白です。	発信設定メニューでプリフィックスを登録していません。
発信設定エラー。LAN Prefix 欄が空白です。	発信設定メニューでプリフィックスを登録していません。
LAN セットアップエラー、PPPoE が ON になっています。ユーザ名、パスワードを確認してください。	PPPoE を使用して LAN 接続するように設定されています。ユーザ名、パスワードの設定が必要です。
LAN セットアップエラー。IP Precedence の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの IP Precedence の値を 0 ～ 7 に設定してください。
LAN セットアップエラー。 Diffserve の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの Diffserve の値を 0 ～ 63 に設定してください。
SIP での接続が出来ません。 パラメーターエラー	設定が不正のため接続できません。「SIP 設定メニュー」などの設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 システムコールエラー	システムの状態に問題があるため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 メモリー確保失敗	本機のメモリーが不足しているため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 初期化エラー	初期化に失敗したため接続できません。 設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 ハンドル不正	内部エラーのため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 最大セッション数オーバー	接続地点数のオーバーにより接続できません。

メッセージ	**意味**
SIP での接続が出来ません。 最大プレゼンス数オーバー	会議参加者数のオーバーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 内部エラー	内部エラーのため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 暫定応答タイムアウト	発信後一定時間相手からの応答がなかったため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 要求タイムアウト	一定時間、相手から応答がなかったため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 400 番台応答受信	本機がサポートしていないメディアを相手が使用しているなどの理由により、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 500 番台応答受信	SIP サーバーのエラーなどの理由により、接続できません。SIP サーバーを確認してください。
SIP での接続が出来ません。 600 番台応答受信	相手が見つからないなどの理由により、接続できません。相手の番号などを確認してください。
SIP での接続が出来ません。 未定義のエラー	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 状態不正	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 相手からキャンセルされました。	相手が本機を呼び出したあとキャンセルしたため、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 相手から切断されました。	相手が本機からの呼び出しをキャンセルしたため、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 Reject 受信	相手から拒否されたため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 ネットワークエラー	ネットワークの状態に問題があるため接続できません。ネットワーク状態を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 暗号化での通信はできません。	「暗号化方式」が「標準方式」に設定されていると SIP 接続できません。
SIP での接続が出来ません。 話し中のためつなぐことができません	相手が話し中のため接続できません。
SIP 以外の回線種別への転送は出来ません。	IP 接続や ISDN 接続の相手へは転送できません。
保留中の回線があるため、操作できません。	保留中にできる操作は、保留解除または切断のみです。
非対応ルーターです。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。

メッセージ	意味
ルーターのポート設定をご確認ください。	ルーターの設定を確認してください。
認証エラーです。パスワードをご確認ください。	パスワードを確認してください。
認証エラーです。ID をご確認ください。	ID を確認してください。
接続相手が存在しません。番号をご確認ください。	相手側の設定を確認してください。
要求がタイムアウトしました。	ネットワークの状態に問題があるか、一定時間相手側からの応答がなかったため接続できません。
相手が接続できない状態にあります。	相手側の設定を確認してください。
話中のためつなぐことができません。	相手側が話し中のため接続できません。
接続相手からキャンセルがありました。	相手側が本機を呼び出した後キャンセルしたため接続出来ません。
接続できませんでした。	通信設定を確認してください。
400 番台の応答コードを受信しました。	本機がサポートしていないメディアを相手側が使用しているなどの理由により接続できません。
500 番台の応答コードを受信しました。	サーバーのエラーなどの理由により接続できません。SIP サーバーを確認してください。
接続相手からキャンセルがありました。	相手側から接続を拒否されたため接続できません。
600 番台の応答コードを受信しました。	相手側が見つからないなどの理由により接続できません。相手側の番号などを確認してください。
現在の設定では IPELA VC Link を使った接続はできません。	IPELA VC Link 設定を確認してください。
現在の設定では SIP を使った接続はできません。	SIP 設定を確認してください。
非対応ルーターです。（M-SEARCH 応答なし）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（対応サービスなし）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（WAN 側 IP Address 取得失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。

メッセージ	意味
SIPでの通信ができません。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
空きポートがありません。ルーターのポート設定をご確認下さい。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
NAT自動設定に失敗しています。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
SIPサーバ使用設定が有効なため、機能拡張コマンドを実行できません。	IPELA VC Linkを利用する場合、SIPサーバー設定がOFFであることを確認してください。
サーバから拒否されました。	相手側から接続を切断されました。
認証エラーです。	IDとパスワードを確認してください。
一時的に接続できません。後でかけ直してください。	後でかけ直してください。
非対応ルーターです。（ポートマッピング削除失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
通信できません。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnPでの通信ができません。（タイムアウト）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnPでの通信ができません。（ビジー）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnPでの通信ができません。（内部エラー）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
指定された回線種別では、現在の通信モードでの接続はできません。	現在の通信モードを確認してください。
相手からのパケットが来なくなったため切断しました。	パケットが正常に受け取れなかったため切断されました。

以下のメッセージは、操作や会議の開始、終了を確認するために表示されます。

メッセージ	意味
ミーティングを始めます。	相手との接続が完了しました。 これで会議を始めることができます。
回線の接続を始めます。	相手から呼び出しを受け、システムが回線の接続動作を始めました。
ミーティングを終わります。	会議の終了操作が完了しました。
しばらくお待ちください。	データの保存中です。
インストールが完了しました。	ソフトウェアのインストールが終了しました。

メッセージ	**意味**
静止画が送信されました。	静止画が送信されました。
静止画送信が解除されました。	静止画の送信が解除されました。
プリセット1番（～6番）に移動しました。	カメラのアングルとズームがプリセット1番（～6番）に登録された状態に変更されました。
静止画がメモリースティックに保存されました。	静止画が“メモリースティック”に保存されました。
プリセット1番（～6番）に登録されました。	カメラのアングルとズームの設定がプリセットの1番（～6番）に登録されました。
端末A（またはB、C、D、E）を切断しました。	多地点会議をしているとき、相手A（またはB、C、D、E）を切断しました。
A（またはB、C、D、E）が退出しました。	多地点会議をしているとき、相手A（またはB、C、D、E）が会議を終了しました。
スライドショーを終了しました。	スライドショーを終了しました。
1地点目（～5地点目）が選択されました。	アドレス帳から多地点会議の1地点目（～5地点目）の接続先を選択しました。
端末が会議に参加しました。	表示されている端末が多地点会議に参加しました。
端末が会議から退出しました。	表示されている端末が多地点会議から退出しました。
端末を見ています。[端末名]	表示されている端末の画像を見ています。
バージョンアップ中です。しばらくお待ちください。	ソフトウェアのバージョンアップを実行しています。バージョンアップが完了するまで電源を切らないでください。
カスケード接続されました。	カスケード接続で端末との接続が完了しました。
カスケード接続されました。分割画面表示はできません。	カスケード接続では分割画面を表示することはできません。
プライベートアドレス帳の使用を開始します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が挿入されました。プライベートアドレス帳が使用できます。
プライベートアドレス帳の使用を終了します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が抜かれました。プライベートアドレス帳の使用を終了します。
PPPoE接続中です。	PPPoEを使用してLANに接続中です。
転送先が切断されました。	SIP接続時、転送先の相手が回線を切断しました。
転送元が切断されました。	SIP接続時、転送元の相手が回線を切断しました。
保留が解除されました。	SIP接続時、保留が解除されました。
会議を始めます。（暗号化機能がオンになっています。）	暗号化機能がオンの状態で会議を始めます。

メッセージ	意味
会議を始めます。（暗号化機能はオフになっています。）	暗号化機能がオフの状態で会議を始めます。

故障かな？

本機が正しく動作しないときは、故障とお考えになる前に以下の項目を確認してください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源スイッチがオンになっていない。	右側面の電源スイッチを押して電源を入れてください。（36 ページ）
	リモコンの電池が消耗している。	新しい乾電池と交換してください。（34 ページ）
「冷却ファンの異常です。電源を切ります。」と表示後、電源が切れる。	本体内部の冷却ファンが停止している。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。
音声が聞こえない・小さい。	本機の音量が小さすぎる、または最小になっている。	リモコンの音量ボタンを押して音量を調節してください。（40 ページ）
	会議中の相手のマイクがオフになっている。	相手に、音声が聞こえないことを伝え、マイクをオンにするよう依頼してください。
	「マイク選択」が正しく設定されていない。	音声設定メニューの「マイク選択」を正しく設定してください。（61 ページ）
	マイクまたは入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。
映像が映らない。	映像信号入力用外部機器の電源が入っていない。	電源を入れてください。
	入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。
	ボイスミーティングを行っている。	故障ではありません。
	カメラの動きをさえぎった。	本機の電源を入れ直してください。
	カメラのシャッターが閉じている。	シャッタースイッチを右にスライドさせてシャッターを開けてください。（38 ページ）

症状	原因	対策
相手とつながらない。	違う番号にダイヤルした。	入力した番号をよく確かめてください。
	回線種別の選択がまちがっている。（マニュアルダイアルのとき）	回線種別を参照して正しく選択してください。（115、120 ページ）
	アドレス帳の登録内容がまちがっている。	「2 章　登録と設定－管理者用」の「会議の相手をアドレス帳に登録する」を参照して正しく登録してください。（82 ページ）
	システム設定の設定内容がまちがっている。	「2 章　登録と設定－管理者用」の「システムを設定する」を参照して正しく設定してください。（50 ページ）
	IP アドレス、ネットワークマスクの設定がまちがっている。（LAN 通信のとき）	ネットワーク 担当者などに問い合わせて、正しく設定してください。（63 ページ）
	LAN または ISDN の接続ケーブルが抜けている。	正しく接続してください。（32、33 ページ）
	LAN または ISDN の接続ケーブルの接続端子をまちがえている。	正しく接続してください。（32、33 ページ）
	LAN または ISDN の接続ケーブルが断線している。	ケーブルを交換してください。
	ISDN 専用のケーブルを LAN 用に使っている。（LAN 通信のとき）	ISDN で使えても LAN には使えないケーブルがあります。LAN 用のケーブルを使ってください。
	LAN または ISDN の接続にタイプ（クロスまたはストレート）の違う接続ケーブルを使っている。	正しいケーブルに交換してください。
	DSU の電源が入っていない。（ISDN 通信のとき）	DSU の電源を入れてください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	通信中にISDN接続ケーブルを抜いたり、電源を切るなど通常の手順によらないで通信を終了すると、しばらくつながらなくなることがある。（ISDN通信のとき）	電源を切り、数分待ってから使ってください。
	LANケーブルの抜き差しや電源の入り切りを繰り返していると、しばらく使えなくなることがある。（LAN通信のとき）	電源を切り、数分待ってから使ってください。
	LANの一時的な障害（LAN通信のとき）	一時的な障害がおさまってから使ってください。
	ご使用のLAN環境ではビデオ会議のパケットを通せない。（LAN通信のとき）	ネットワーク担当者に相談して、ビデオ会議のパケットを通せるようにLAN環境を整えてください。
	相手端末の電源が入っていない。	相手端末の電源を入れてもらってください。
	相手端末がスタンバイ（スリープ）状態から着信可能になるまでに時間がかかる。	相手端末をスタンバイ（スリープ）状態から復帰させてもらってください。
	相手端末が他の端末と通信中である。	相手端末が通信を終えてからダイヤルし直してください。
	相手端末が設定変更などの操作中で、着信を許可しない。	相手端末に着信を受け付けてもらってください。
	相手端末が自動着信になっていない。	相手端末の設定を自動着信に変更する、または、相手端末に手動で着信を受け付けてもらってください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	相手端末の ISDN 回線番号が設定されていない。（ボンディング接続のとき）	相手端末の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定してもらってください。（71 ページ）
	相手端末の使用している複数の ISDN 回線番号の、下から 8 桁目以上の番号が共通になっていない。（ボンディング接続で、相手端末が PCS-1600 など旧機種のとき。）	ボンディングを使用しないで接続する、または下から 8 桁目以上の番号が共通になっている ISDN 回線番号を使用してください。
	相手端末側に問題がある。	他の端末にダイヤルして確かめてください。
	画面にメッセージが表示される。	「メッセージ一覧」をご覧ください。（288 ページ）
“メモリースティック”に静止画やアドレス帳を保存できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除してください。（156 ページ）
	“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	他の“メモリースティック”に保存してください。

仕様

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50

本機は ITU-T 勧告 H.320 と H.323 に準拠しています。

動画

動作帯域	64 Kbps ～ 1920 Kbps（標準、LAN による接続） 56 Kbps ～ 768 Kbps（PCSA-B768S 取り付け時、ISDN による接続） 56 Kbps ～ 384 Kbps (PCSA-B384S 取り付け時、ISDN による接続)
コーディング方式	H.261/H.263/H.263+/H.263++/H.264/ インターレース SIF（ITU-T 勧告準拠） MPEG4 Simple Profile（LAN による接続）
画素	CIF 352 ピクセル× 288 ライン QCIF 176 ピクセル× 144 ライン
カラー方式	NTSC ただし、PAL 方式と相互接続可能

静止画

画素	704 ピクセル× 480 ライン
圧縮方式	H.261（ITU-T 勧告準拠）Annex. D（4CIF） H.263（独自方式）

音声

周波数帯域	14 kHz (MPEG4 Audio) 7 kHz（G.722/G.722.1 ITU-T 勧告準拠） 3.4 kHz（G.711/G.728/G.723.1/G729 ITU-T 勧告準拠）
伝送レート	56 Kbps、64 Kbps（G.711 ITU-T 勧告準拠） 48 Kbps、56 Kbps、64 Kbps（G.722　ITU-T 勧告準拠） 64 Kbps、96 Kbps（MPEG4 Audio）（LAN による接続） 24 Kbps、32 Kbps（G.722.1 ITU-T 勧告準拠）（LAN による接続） 16 Kbps（G.728　ITU-T 勧告準拠） 8 Kbps（G.729　ITU-T 勧告準拠）（LAN による接続） 5.3 Kbps、6.3 Kbps（G.723.1 ITU-T 勧告準拠）（LAN による接続）

ネットワーク

多重分離化	映像信号、音声信号、データを多重分離化
フレームフォーマット	H.221（ITU-T 勧告準拠）
回線	LAN（標準）、64 Kbps ～ 1920 Kbps ISDN（BRI）、6 回線接続可能（PCSA-B768S 取り付け時）、3 回線接続可能 (PCSA-B384S 取り付け時)

データ伝送レート	
	LSD 1.2 Kbps、4.8 Kbps、6.4 Kbps
	MLP 6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps
	HMLP 62.4 Kbps、64 Kbps、128 Kbps
サポート LAN プロトコル	
	HTTP FTP Telnet RTP/RTCP TCP/UDP SNMP

リモートコントロール

相手カメラコントロール	
	H.281（ITU-T 勧告準拠）
データ伝送	T.120（ITU-T 勧告準拠）

カメラ

映像方式	NTSC カラー EIAJ 標準方式
映像素子	1/3 型カラー CCD（総画素数 約 41 万画素、有効画素数 約 38 万画素）
レンズ	f = 4.0 mm、F4.0、水平画角 約 70°
最至近撮影距離	
	500 mm
最低被写体照度	
	2 ルクス（F4.0）/50 IRE
パン・チルト機能	
	デジタル方式

オートホワイトバランス機能搭載

自動露出機能搭載

ディスプレイ

サイズ	20 型ワイド
アスペクト比	
	15 : 9
解像度	1280 × 768（WXGA）
最大画面輝度	
	440 Cd/m^2
応答時間	15 ms
コントラスト比	
	500 : 1
視野角	160°
発色数	1670 万色

ディスプレイコントローラー

PinP	4 隅
P&P	2 画面表示
入力	内部：テレビ会議用 外部 RGB：コンピューターディスプレイ 外部 Video：外部ビデオ入力（NTSC/PAL 自動認識）
ワイド切替	ノーマル、ズーム、ワイド、ワイドズーム
RGB 切替	640 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 768 など、拡大表示可能
音量調整	PCS 側は固定、ディスプレイ基板のアンプによる音量調整
OSD	輝度、色合い、位置、幅、高さなどが調整可能

スピーカー

スピーカー	3 W × 2

マイクロホン

周波数帯域	15 kHz
指向特性	単一指向性

その他

電源電圧	DC 19.5V
消費電流	7.7A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20%～80%
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20%～80%（結露しないこと）
外形寸法	528 × 445 × 110 mm（幅／高さ／奥行き）（スタンド除く） 528 × 445 × 265 mm（幅／高さ／奥行き）（スタンド含む）
質量	約 10 kg
付属品	リモコン PCS-RTL50（1） リモコン用単 3 形乾電池（2） AC アダプター PCS-AC19V8（1） 電源コード（1） CD-ROM（1） 操作ガイド（1） 簡単接続ガイド／リモコン操作ガイド（1） B&P ワランティブックレット（1） 保証書（1）

リモコン PCS-RTL50

信号方式	赤外線 SIRCS
制御	DC 3 V 単 3 形乾電池 2 本使用

AC アダプター PCS-AC19V8

電源	AC 100～240V、50/60 Hz、2.2 A～1.0 A
出力	DC 19.5 V、7.7 A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20%～80%
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20%～80%（結露しないこと）
外形寸法	81 × 49 × 165 mm（幅／高さ／奥行き）
質量	約 800 g

マイクロホン PCS-A1（別売り）

周波数帯域	13 kHz
指向特性	無指向性
外形寸法	74 × 16 × 93 mm（幅／高さ／奥行き）
質量	約 170 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

マイクロホン PCSA-A3（別売り）

周波数帯域	13 kHz
指向特性	単一指向性
外形寸法	68 × 16 × 96 mm（幅／高さ／奥行き）
質量	約 200 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

ISDN ユニット PCSA-B384S/PCS-B384（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.3 A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20％～80％
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20％～80％（結露しないこと）
外形寸法	PCSA-B384S: 166 × 34 × 128 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず／脚含む） PCS-B384: 165 × 34 × 127 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず）
質量	PCSA-B384S: 約 400 g PCS-B384: 約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1） 保証書（1）

ISDN ユニット PCSA-B768S/PCS-B768（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.5 A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20％～80％
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20％～80％（結露しないこと）
外形寸法	PCSA-B768S: 166 × 34 × 128 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず／脚含む） PCS-B768: 165 × 34 × 127 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず）
質量	PCSA-B768S: 約 400 g PCS-B768: 約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1） 保証書（1）

データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	1.0 A
動作温度	5°C～35°C
動作湿度	20％～80％
保存温度	－20°C～＋60°C
保存湿度	20％～80％（結露しないこと）
外形寸法	PCSA-DSB1S: 240 × 36 × 180 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず／脚含む） PCS-DSB1: 240 × 33 × 160 mm（幅／高さ／奥行き）（突起部含まず）
質量	PCSA-DSB1S: 約 1.1 kg PCS-DSB1: 約 850 g
付属品	インターフェースケーブル（10 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1） 保証書（1）

H.320 MCU ソフトウェア PCS-320M1（別売り）

外形寸法	50 × 2.8 × 21.5 mm （幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 4 g
付属品	シリアル番号シール (1) 取扱説明書 (1)

H.323 MCU ソフトウェア PCS-323M1（別売り）

外形寸法	50 × 2.8 × 21.5 mm （幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 4 g
付属品	シリアル番号シール (1) 取扱説明書 (1)

SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）

外形寸法	50 × 2.8 × 21.5 mm （幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 4 g
付属品	シリアル番号シール (1) 取扱説明書 (1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第 3-2 部 : 限度値 - 高調波電流発生限度値 (1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

RGB 入出力仕様

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL50 RGB IN 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
640 × 480	VGA mode	31.469	59.94	25.17	H- 負 V- 負
	Macintosh 13"	35	66.667	30.24	H- 負 V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	36	H- 負 V- 負
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	36	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	40	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	50	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	49.5	H- 正 V- 正
800 × 600	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	56.25	H- 正 V- 正

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	75	H- 負 V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	78.75	H- 正 V- 正
1280 × 768	WXGA VESA 60Hz	47.693	59.992	80.12	H- 負 V- 正

データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1 RGB IN A/RGB IN B 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
640 × 480	VGA mode	31.469	59.94	25.17	H- 負 V- 負
	Macintosh 13"	35	66.667	30.24	H- 負 V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	36	H- 負 V- 負

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	36	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	40	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	50	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	49.5	H- 正 V- 正
800 × 600	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	56.25	H- 正 V- 正
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	75	H- 負 V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	78.75	H- 正 V- 正

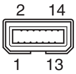
データソリューションボックス PCSA-DSB1S/PCS-DSB1 RGB OUT 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負

RGB IN A または RGB IN B の映像の送信中は、入力映像信号規格（VGA/SVGA/XGA）のまま出力されます。

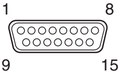
端子のピン配列

ISDN UNIT 端子



ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック＋
4	DCLK −	クロック−
5	DR+	受信データ＋
6	DR −	受信データ−
7	FS+	フレーム同期＋
8	FS −	フレーム同期−
9	DX+	送信データ＋
10	DX −	送信データ−
11	RX	シリアル受信データ
12	TX	シリアル送信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

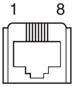
DSB 端子



D-sub 15 ピン端子（オス）

ピン番号	信号名	意味
1	Video	ビデオ信号
2	Video. GND	ビデオ信号用接地
3	LINE A+	ライン音声＋
4	LINE A −	ライン音声−
5	MIC+	マイク音声＋
6	MIC −	マイク音声−
7	TD+	送信データ＋
8	TD −	送信データ−
9	19.5V	19.5V
10	NC	—
11	AGND	アナログ接地
12	NC	—
13	RD+	受信データ＋
14	RD −	受信データ−
15	GND	接地

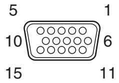
100BASE-TX/10BASE-T 端子



モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	TPOPTX+	送信＋
2	TPONTX −	送信−
3	TPIPRX+	受信＋
4	NC	—
5	NC	—
6	TPINRX −	受信−
7	NC	—
8	NC	—

RGB IN 端子

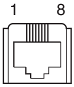


MINI D-sub 15 ピン端子（メス）

ピン番号	信号名	意味
1	RED	R（赤）
2	GREEN	G（緑）
3	BLUE	B（青）
4	NC	—
5	GND	接地
6	RED.GND	R（赤）信号用接地
7	GREEN.GND	G（緑）信号用接地
8	BLUE.GND	B（青）信号用接地
9	NC	—
10	SYNC.GND	同期信号用接地
11	NC	—
12	NC	—
13	HSYNC	水平同期
14	VSYNC	垂直同期
15	NC	—

別売り機器の端子のピン配列

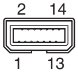
ISDN1 ～ 3 端子（PCSA-B384S/PCS-B384）ISDN 1 ～ 6 端子（PCSA-B768S/PCS-B768）



モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	NC	—
2	NC	—
3	TA	送信＋
4	RA	受信＋
5	RB	受信－
6	TB	送信－
7	NC	—
8	NC	—

TERMINAL 端子 (PCSA-B384S//PCS-B384/PCSA-B768S/PCS-B768)

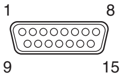


USB 端子

ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック＋
4	DCLK －	クロック－
5	DR+	送信データ＋
6	DR －	送信データ－
7	FS+	フレーム同期＋

ピン番号	信号名	意味
8	FS –	フレーム同期 –
9	DX+	受信データ +
10	DX –	受信データ –
11	TX	シリアル送信データ
12	RX	シリアル受信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

TERMINAL 端子（PCSA-DSB1S/PCS-DSB1）



D-sub 15 ピン端子（オス）

ピン番号	信号名	意味
1	Video	ビデオ信号
2	Video. GND	ビデオ信号用接地
3	LINE A+	ライン音声 +
4	LINE A –	ライン音声 –
5	MIC+	マイク音声 +
6	MIC –	マイク音声 –
7	RD+	受信データ +
8	RD –	受信データ –
9	19.5V	19.5V
10	NC	—
11	AGND	アナログ接地
12	NC	—
13	TD+	送信データ +
14	TD –	送信データ –
15	GND	接地

PCS-TL50 使用ポート番号一覧

対向接続時（規定値）

LAN 設定メニューの「使用ポート番号」を「規定値」に設定した場合、PCS-TL50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号
RAS（PCS-TL50）	1719（ゲートキーパー使用時）
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）
Q.931（発信）	2253 から 2255 の任意
Q.931（着信）	1720
H.245	2253 から 2255 の任意
オーディオ RTP	49152
オーディオ RTCP	49153
ビデオ RTP	49154
ビデオ RTCP	49155
FECC RTP	49156
FECC RTCP	49157
データ会議 RTP	49158
データ会議 RTCP	49159

対向接続時（ユーザー設定：TCP ポート番号 3000、UDP ポート番号 3100 の場合）

LAN 設定メニューの「使用ポート番号」を「ユーザー設定」に設定した場合、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」に入力した値により、PCS-TL50 が使用するポート番号が決定します。

例として、「TCP ポート番号」を「3000」、「UDP ポート番号」を「3100」に設定した場合、PCS-TL50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号
RAS（PCS-TL50）	1719（ゲートキーパー使用時）
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）
Q.931（発信）	3000 ～ 3002 の任意
Q.931（着信）	1720
H.245	3000 ～ 3002 の任意
オーディオ RTP	3100
オーディオ RTCP	3101
ビデオ RTP	3102
ビデオ RTCP	3103
FECC RTP	3104
FECC RTCP	3105
データ会議 RTP	3106
データ会議 RTCP	3107

マルチポイント接続の親機として使用時（規定値）

LAN 設定メニューの「使用ポート番号」を「規定値」に設定した場合、親機として動作する PCS-TL50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号（1 地点目）	ポート番号（N 地点目）
RAS (PCS-TL50)	1719（ゲートキーパー使用時）	
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）	
Q.931（発信）	2253 ～ 2263 の任意（ゲートキーパー使用時）	
Q.931（着信）	1720	
H.245	2253 ～ 2263 の任意（ゲートキーパー使用時）	
オーディオ RTP	49152	49152+20 × (N-1)
オーディオ RTCP	49153	49153+20 × (N-1)
ビデオ RTP49154	49154	49154+20 × (N-1)
ビデオ RTCP	49155	49155+20 × (N-1)
FECC RTP	49156	49156+20 × (N-1)
FECC RTCP	49157	49157+20 × (N-1)
データ会議 RTP	49158	49158+20 × (N-1)
データ会議 RTCP	49159	49159+20 × (N-1)

マルチポイント接続の親機として使用時（ユーザー設定：TCP ポート番号 3000、UDP ポート番号 3100 の場合）

LAN 設定メニューの「使用ポート番号」を「ユーザー設定」に設定した場合、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」に入力した値により、PCS － TL50 が使用するポート番号が決定します。

例として、「TCP ポート番号」を「3000」、「UDP ポート番号」を「3100」に設定した場合、親機として動作する PCS-TL50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号（1 地点目）	ポート番号（N 地点目）
RAS（PCS-TL50）	1719（ゲートキーパー使用時）	
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）	
Q.931（発信）	3000 ～ 3010 の任意	
Q.931（着信）	1720	
H.245	3000 ～ 3010 の任意	
オーディオ RTP	3100	3100+20 × (N-1)
オーディオ RTCP	3101	3101+20 × (N-1)
ビデオ RTP	3102	3102+20 × (N-1)
ビデオ RTCP	3103	3103+20 × (N-1)
FECC RTP	3104	3104+20 × (N-1)
FECC RTCP	3105	3105+20 × (N-1)
データ会議 RTP	3106	3106+20 × (N-1)
データ会議 RTCP	3107	3107+20 × (N-1)

ご注意

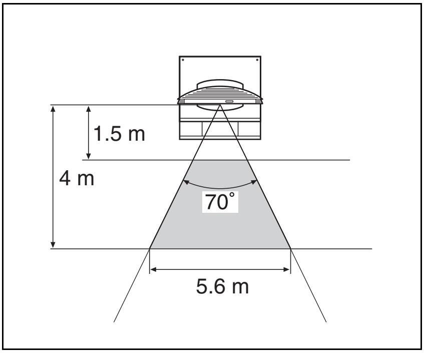
RTP、RTCP については、ポートが正しく使用できない場合は上記の範囲を超えて使用されることがあります。

ミーティングスペースのレイアウト

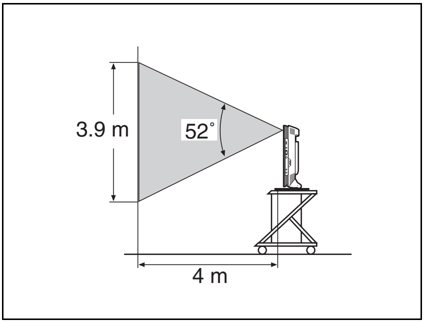
カメラに映し出される範囲

図の ▨ で示した部分が、カメラが最大にズームアウトして正面を捉えているときに映し出される範囲です。数値はおおよその目安です。レイアウトの参考にしてください。

上から見た図（ズームアウト最大時の、左右方向の範囲）



横から見た図（ズームアウト最大時の、上下方向の範囲）

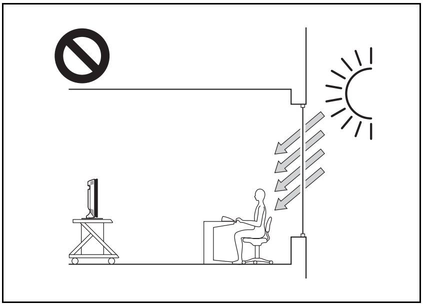


ミーティングスペースをレイアウトするときのご注意

- 参加者の背景には、できるだけ物を置かないようにしてください。とくに、大きな動くものがあると、相手に送られる画像の質が低下することがあります。人が行き来するようなところを背景にしないでください。
- 木目調の壁や横縞などの細かい柄の壁を背景にすることも避けてください。
- できるだけ音が反響しない場所に設置してください。
- エアコンやコピー機など、電源ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 社内放送用のスピーカーがある部屋に設置することも避けてください。

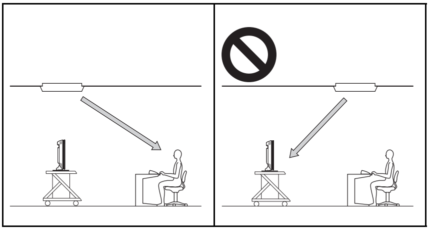
照明について

外から光が入る窓の正面にカメラを設置しないでください。カメラの写りが悪くなります。どうしてもカメラの正面に窓がくる場合は、厚手のカーテンなどで窓を覆ってください。



ミーティング参加者に光が当たり、ディスプレイの画面に直接光が当たらないように照明器具の位置や明るさを調節してください。

参加者の顔の明るさは300ルクス以上が目安です。



照明にインバーター方式や調光のできる蛍光灯を使用した場合、リモコンの感度が低下します。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？」（302 ページ）をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店にお問い合わせください。

用語解説

インターレース SIF

テレビの映像は、通常 1 秒間に 60 枚のフィールドとよばれる画面を飛び越し走査（インターレース）表示することで滑らかな動きと高い解像度を実現しています。通常の CIF サイズを使ったビデオ会議では、1 秒間に 352 ピクセル× 288 ラインの画面を 1 秒間に 30 枚だけ送っているので、通常のテレビ放送のような滑らかな動きが出ていません。これに対して、インターレース SIF モードでは、飛び越し走査（インターレース）された 352 ピクセル× 240 ラインからなる SIF サイズの映像を 1 秒間に 60 枚送ることが可能になります。これにより、全体として 352 ピクセル× 480 ラインの高い垂直解像度と、滑らかな動きを実現することが可能になります。なお、情報量が 2 倍になりますから、比較的高いビットレートで使用することが必要になります。

エコーキャンセラー

音声の伝送時に発生するエコーを消去し、違和感なく聞こえるようにする装置。

基本インターフェース（BRI）

ITU-T で規定された標準的なインターフェース。2B ＋ D のインターフェース構造になります。

ゲートキーパー

ネットワーク上でのH.323ビデオ会議のアクセスをコントロールする装置。ゾーン管理や許可制限、帯域制限、エイリアスなどの機能を使用することができる。

コーデック

CODer-DECoderの略。音声や映像のアナログ信号をデジタル信号に変換、圧縮するコーダーと、圧縮されたデジタル信号を元のアナログ信号に戻すデコーダーが一体になった装置。

サブアドレス

ISDNにはバス配線で複数の機器を接続することができます。これらの機器の回線番号は同一になるので、同一回線にバス接続された機器にそれぞれ違うサブアドレスを付けて区別します。

二次端末

多地点会議を行う際には、すべての地点のビデオ会議装置の映像方式や音声方式、伝送レートなどが同一でなければ、通常は接続できません[*1]。多地点会議を行うとき、共通の方式で接続できる地点の端末を一次端末と言います。一方、共通の方式で接続できないため、機能を制限して接続する地点の端末のことを二次端末と言います。機能の制限方法は、多地点会議装置の「二次端末の取り扱い」に依存します。

たとえば、共通の方式に移行できない地点のビデオ会議装置には映像を送信しませんが、音声通話を可能にして接続します。この場合、映像を見ることのできない端末を二次端末と言います[*2]。また音声電話で多地点会議に加わるとき、音声しか接続できませんので、この場合の音声電話端末も二次端末と呼びます。様々な接続の場合の二次端末の取り扱いについては、「二次端末の取り扱い」（221ページ）をご覧ください。

*1NTSCとPALの違いは許されます。

*2このとき二次端末には映像を送信しませんが、二次端末からの映像は受信できる場合があります。

フレームレート

1秒間にエンコード / デコードできるフレーム数。

ボンディング *

複数のISDN回線を使用してビデオ会議装置を接続できるようにする方法(Inverse Multiplexing)の1つです。最初の1つのISDN回線番号にダイヤルするだけで他の残りの回線も接続できます。2つ目以降のISDN回線番号は、ビデオ会議装置同士のやりとりで発信側に知らせ、接続します。ボンディングで接続するには、両方のビデオ会議装置がボンディング機能を持っていなければなりません。また着信側ビデオ会議装置のISDN設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定しておく必要があります。ボンディングで接続するときビデオ会議装置どうしがやりとりして知らせるのは着信側のISDN回線番号なので、発信側のISDN設定メニューの市外局番号、市内番号は設定していなくても接続できます。

* BONDING (Bandwidth on Demand Interoperability Group) はTHE BONDING CONSORTIUMの登録商標です。

リップシンク

ビデオ会議システムで、発言者の唇の動きと音声とを同期させるために音声を遅延させて同期させること。

CIF（Common Intermediate Format）

ビデオ会議システムにおいて、NTSC方式とPAL方式がお互いに通信できるように定めた共通ビデオフォーマット。352ピクセル×288ライン

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）

動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク内のIPアドレスを管理します。

DNS（Domain Name System）

ドメインネームシステムを規定します。

G.711

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を64kbpsのデータレートのデジタル信号に変換します。56kbpsで伝送する場合もあります。

G.722

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。7kHz帯域の音声を48kbps、56kbps、または64kbpsのデジタル信号に変換します。

G.722.1

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。7kHz帯域 の音声を24kbps、または32kbpsのデータレートのデジタル信号に変換します。

G.723.1

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を5.3kbpsまたは6.3kbpsのデータレートのデジタル信号に変換します。

G.728

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を16kbpsのデータレートのデジタル信号に変換します。

G.729

ITU-Tで勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を8kbpsのデータレートのデジタル信号に変換します。

H.221

オーディオビジュアル情報の個々のフレームをデジタルチャネルに多重化するためのフレーミングに関する勧告。

H.239

ITU-Tで勧告化されたプレゼンテーション機能対応の規格。カメラ映像とパソコンデータを同時に送受信できます。

H.261

p × 64としても知られており、異なるメーカーのビデオコーデックがお互いに通信するためのビデオコーディングアルゴリズム、ピクチャーフォーマットおよびエラー訂正技法を記述したビデオ会議の標準。

H.263

H.261を基本として、より低いビットレートの回線で通信するためのビデオコーディングアルゴリズムです。

H.263+

H263を基本として、画質、エラー耐性の向上などを目的とするAnnex I～T（I,J,K,...,T）を追加した映像符号化方式。通常、H.263/H.263+のAnnexのいくつかを用いたプロファイルと呼ばれる組み合わせで用いられます。

H.264

2003年5月にITU-Tで標準化されたビデオコーディングアルゴリズムです。低いビットレートでも高画質を実現でき、H.263と比べて約半分のビットレートで同等の画質を実現することが可能です。MPEG-4 Advanced Video Coding (AVC)とも呼ばれます。

H.320

互いに異なるビデオ会議システムがお互いに通信するためのビデオ会議の標準。

H.323

QoS非保証LAN上で通信可能なビデオ会議の標準。

HMLP

→ MLPを参照。

I-Mux

Inverse Multiplexerの略。384 Kbpsでの伝送をISDNの6Bに分けて伝送することを可能にします。

ISDN

Integrated Services Digital Networkの略。電話のみならずデータ、画像、ファックスなどの異なるサービスの情報をデジタル信号によって統一し、標準化したインターフェースを介して総合的なサービスを提供するネットワーク。

MCU（マルチポイント）

Multipoint Control Unitの略。マルチポイント機能を持った端末と接続すると、多地点間通信が可能になります。

MLP

ビデオ会議装置間で映像音声の通信をしているとき、同時にデータ通信を行うことができます。このデータを通すための手順に、MLPやHMLPがあります。NetMeetingなどのデータを通すのに使います。HMLPは、MLPより高速のデータ伝送レートをもつデータ通信手順です。

MPEG4

ISO/IECにて標準化されたビデオコーディングアルゴリズムで、H.263+を基本のアルゴリズムに採用しています。いくつかのツールの追加によって、H.263+より若干の画質の改善が得られます。また、PCや携帯電話などの民生用機器で広く使われているビデオコーディングアルゴリズムです。

QCIF（Quater CIF）

CIF の 1/4 の画素数を定めたフォーマット。通信速度が遅い場合に使用されます。
176 ピクセル× 144 ライン

SNMP

Simple Network Management Protocol の略。管理ステーションと管理対象システムの間での管理情報の交換プロトコルです。これにより、ソニー製ビデオ会議システムの監視が可能になります。

TOS (Type of Service)

IP ヘッダ内の TOS フィールド。サービスタイプに情報を組み込むことにより、パケットの優先順位などを、通信機器が適切に判断できるようになります。
また，サービスの種類 (遅延や容量) によって経路を変更することなども可能になります。

4CIF

CIF の 4 倍の画素数を定めたフォーマット。704 ピクセル× 576 ラインの解像度の静止画を送 / 受信する方法は、H. 261 Annex. D で標準化されています。

メニューの構成

本機のメニューは次のように構成されています。詳しい内容は、（　）内のページをご覧ください。太字は初期設定です。

- ランチャー（◆ 109 ページ）
  - ワンタッチ・ダイヤル操作（◆ 92 ページ）
    - 発信, 編集, 削除
  - アドレス帳（◆ 82 ページ）
    - リスト編集
      - 名前
      - IPアドレス
      - 回線番号
      - 回線種別
        - **IP**, ISDN, 音声電話, マルチポイント
      - 使用回線数
        - 1B(64K), 2B(128K), 3B(192K), 4B(256K), 5B(320K), 6B(384K), 8B(512K), **12B(768K)**
      - LAN使用帯域
        - 64Kbps, 128Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, **1024Kbps**, 1920Kbps, その他 (1〜1920Kbps)
      - 自動発信
        - オン, **オフ**
  - 詳細ダイヤル（◆ 120 ページ）
    - 詳細ダイヤル
      - IPアドレス
      - 回線番号
      - 回線種別
        - **IP**, ISDN, ISDN (2B), 音声電話, マルチポイント
      - 使用回線数
        - 1B(64K), 2B(128K), 3B(192K), 4B(256K), 5B(320K), 6B(384K), 8B(512K), **12B(768K)**
      - LAN使用帯域
        - 64Kbps, 128Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, **1024Kbps**, 1920Kbps, その他 (1〜1920Kbps)
  - メニューボタン
    - 静止画（◆ 158 ページ）
      - 送信, 受信
      - 連続送信, 停止
      - 解除
      - 保存
    - カメラ（◆ 134 ページ）
      - プリセット登録
        - 1, 2, 3, 4, 5, 6
      - プリセット移動
        - 1, 2, 3, 4, 5, 6
      - カメラ調整
        - 自動調整のオン, バックライトのオン/オフ, ブライトネス調整, フリッカー除去のオン/オフ
    - メモリースティック（◆ 150 ページ）
    - 設定（◆ 50 ページ）
      - 発信設定 → A
      - 着信設定 → B
      - 一般設定 → C
      - 音声設定 → D
      - LAN設定 → E
      - 管理者用設定 → F
      - ISDN設定 → G
      - マルチポイント設定 → H
      - インフォメーション → I
      - ステータス表示 → J
      - 暗号化設定 → K
      - SIP設定 → L
      - 共有アドレス設定 → M

A 発信設定
(◆ 51 ページ)

- (1/4ページ)
  - 回線種別 — **IP**, ISDN, 音声電話, SIP
  - ボンディング — **オート**, オン
  - 使用回線数 — 1B(64K), 2B(128K), 3B(192K), 4B(256K), 5B(320K), 6B(384K), 8B(512K), **12B(768K)**
  - LAN使用帯域 — 64Kbps, 128Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, **1024Kbps**, 1920Kbps, その他 (1～1920Kbps)
  - プリフィックス選択 — **なし**, プリフィックス-A, プリフィックス-B, プリフィックス-C
  - 制限網 — **オート**, 56K
- (2/4ページ)
  - 映像方式 — **すべての能力**, インターレースSIF, H.264, MPEG 4, H.263+, H.261, SIPビデオなし
  - 映像フレーム数 — 15fps, **30fps**
  - 音声方式 — **すべての能力**, MPEG4 Audio, G.722.1, G.722, G.729, G.728, G.723.1, G.711
  - 遠隔カメラ制御 — **オン**, オフ
  - T.120データ — オン, **オフ**
  - H.239 — **オン**, オフ
- (3/4ページ)
  - プリフィックス-A
  - プリフィックス-B
  - プリフィックス-C
- (4/4ページ)
  - 音声電話 — **オート**, G.711μ-law, G.711A-law
  - 詳細設定 — オン, **オフ**
  - 名前の入力 — オン, **オフ**

B 着信設定
(◆ 55 ページ)

- (1/2ページ)
  - 自動着信 — **オン**, オフ
  - 使用回線数 — 1B(64K), 2B(128K), 3B(192K), 4B(256K), 5B(320K), 6B(384K), 8B(512K), **12B(768K)**
  - 制限網 — **オート**, 56K
  - LAN使用帯域 — 64Kbps, 128Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, **1024Kbps**, 1920Kbps, その他 (1～1920Kbps)
  - ISDN ダイヤルイン — オン, **オフ**
  - 着信時マイク — **オン**, オフ
- (2/2ページ)
  - 映像方式 — **すべての能力**, インターレースSIF, H.264, MPEG 4, H.263+, H.261, SIPビデオなし
  - 映像フレーム数 — 15fps, **30fps**
  - 音声方式 — **すべての能力**, MPEG4 Audio, G.722.1, G.722, G.729, G.728, G.723.1, G.711
  - 遠隔カメラ制御 — **オン**, オフ
  - T.120データ — オン, **オフ**
  - H.239 — **オン**, オフ

C 一般設定
(◆ 58 ページ)

- (1/4ページ)
  - 端末名
  - メニューモード — シンプル, **詳細**
  - ワンタッチ表示数 — **6**, 30
  - DSB OUT出力先 — 外部機器 (映像/PC表示)、**外部機器 (PC表示)**、本体RGB入力
  - 経過時間表示 — **オン**, オフ
- (2/4ページ)
  - 日時設定
  - 会議終了後のリスト登録 – **オン**, オフ
  - T.120 PCアドレス
  - カメラシャッター マイクオン/オフ — マイクオン/オフ, **オフ**
- (3/4ページ)
  - 言語設定/Language — 英語/English, フランス語/French, ドイツ語/German, **日本/Japanese**, スペイン語/Spanish, イタリア語/Italian, 簡体中国語/Chinese, ポルトガル語/PORT, 繁体中国語/Chinese, 韓国語/Korean, オランダ語/Dutch, スウェーデン語/Swed., デンマーク語/Danish, フィンランド語/Fin., ポーランド語/Polish, ロシア語/Russian, アラビア語/Arabic, タイ語/Thai
  - カメラコントロール受信 – **オン**, オフ
  - 文字入力ヘルプ表示 — **オン**, オフ
  - メモリースティックフォーマット
- (4/4ページ)
  - 番号表示 — SIP: ユーザー名, SIP: アドレス, GK: ユーザー名, GK: ユーザー番号, NAT: アドレス, **IP:**, 表示しない
  - 端末名表示 — オフ, **一定時間表示**, 常時表示

D 音声設定
(◆ 61 ページ)

- (1/2ページ)
  - マイク選択 — **内部**, DSB MIC
  - CTE — **オフ**, DSB AUX IN
  - エコーキャンセラー — **内部**, オフ
  - リップシンク — オン, **オフ**
- (2/2ページ)
  - ビープ音 — **オン**, オフ
  - 効果音 — **オン**, オフ
  - 発信音 — **オン**, オフ
  - 着信音量 — オフ, 1, **2**, 3

- **E** LAN設定（◆63ページ）
  - (1/12ページ)
    - DHCPモード — オート, **オフ**
    - ホストネーム
    - IPアドレス
    - ネットワークマスク
    - ゲートウェイアドレス
    - DNSアドレス
  - (2/12ページ)
    - ゲートキーパー使用 — オート, オン, **オフ**
    - ゲートキーパーアドレス
    - ユーザー名
    - ユーザー番号
  - (3/12ページ)
    - SNMPサービス — オン, **オフ**
    - トラップ送信先
    - コミュニティ名
    - 機器の説明
    - 設置場所
    - 管理者連絡先
  - (4/12ページ)
    - NAT設定 — オン, **オフ**, オート (UPnP)
    - NATアドレス
    - 使用ポート番号 — ユーザー設定, **既定値**
    - TCPポート番号
    - UDPポート番号
  - (5/12ページ)
    - NAT/ファイアウォール越え — オン (H.460), **オフ**
  - (6/12ページ)
    - パケット再送要求 — **オン**, オフ
    - 最適レート制御 — **オン**, オフ
    - LANモード — **オート**, 100Mbps Full Duplex, 100Mbps Half Duplex, 10Mbps Full Duplex, 10Mbps Half Duplex
  - (7/12ページ) — TOS (ビデオ)
  - (8/12ページ) — TOS (オーディオ)
  - (9/12ページ) — TOS (プレゼンテーション)
  - (10/12ページ) — TOS (カメラコントロール)
      - TOS — **オフ**, IP Precedence, Diffserve
      - IP Precedence
      - 遅延 — オン, **オフ**
      - スループット — オン, **オフ**
      - 信頼性 — オン, **オフ**
      - コスト — オン, **オフ**
      - Diffserve値
  - (11/12ページ)
    - PPPoE — オン, **オフ**
    - PPPoEユーザー名
    - PPPoEパスワード
  - (12/12ページ)
    - PPPoE固定IP — オン, **オフ**
    - PPPoE固定IPアドレス
    - PPPoE DNS — 設定する, **自動取得**
    - DNSプライマリ
    - DNSセカンダリ

- **F** 管理者用設定（◆ 68 ページ）
  - (1/5ページ)
    - 管理者用パスワード
    - スーパーユーザー・パスワード
    - リモートアクセス・パスワード
  - (2/5ページ)
    - アドレス帳の保存
    - アドレス帳のロード
    - アドレス帳の消去
  - (3/5ページ)
    - 自動発信 ― **オン**, オフ
    - プライベートアドレス帳の作成
    - プライベートアドレス帳の削除
    - プライベートアドレス帳への複製
  - (4/5ページ)
    - 共有アドレス帳 ― オン, **オフ**
  - (5/5ページ)
    - Webモニター ― オン, **オフ**
    - Webアクセス ― 禁止, **許可**
    - 設定の保存
    - 設定のロード
    - 機能拡張コマンド

- **G** ISDN設定（◆ 71 ページ）
  - (1/5ページ)
    - 国/地域 ― ヨーロッパ (フランス以外)/Europe, フランス/France, **日本**, アメリカ合衆国/USA, 中国, その他/Other
    - 国/地域番号
    - プロトコル ― **NTT**, Euro ISDN, Euro ISDN (France), National ISDN, 5ESS (P-MP), 5ESS (P-P), DMS-100
  - (2/5ページ) ― 市外局番号―市内番号　A1～C2
  - (3/5ページ) ― 市外局番号―市内番号　D1～F2
  - (4/5ページ) ― サブアドレス　A1～C2
  - (5/5ページ) ― サブアドレス　D1～F2

H マルチポイント設定
(◆ 72 ページ)

- (1/2ページ)
  - マルチポイントモード — オン, **オート**
  - 放送モード — **分割**, 音声検出
  - 使用回線数 — 1B(64K), **2B(128K)**, 4B(256K), 6B(384K)
  - LAN使用帯域 — 384Kbps, 512KBps, 768Kbps, **1024Kbps**, 1920Kbps, その他 (1～1920Kbps)
  - 制限網 — **オート**, 56K
- (2/2ページ)
  - 映像方式 — **すべての能力**, H.263, H.261, SIPビデオなし
  - 音声方式 — **すべての能力**, G.722, G.728, G.711
  - 遠隔カメラ制御 — **オン**, オフ
  - 通信中の着信拒否 — オン, **オフ**

I インフォメーション
(◆ 74 ページ)

- ホストバージョン
- ISDN UNITバージョン
- DSBバージョン
- DSPバージョン
- LCDバージョン
- ソフトウェアオプション — なし, マルチポイント (H.323), マルチポイント (H.320), マルチポイント (H.320＋H.323), SIP, マルチポイント (H.323)、SIP, マルチポイント (H.320)、SIP, マルチポイント (H.320+H.323)、SIP
- オプションI/F — なし, ISDN UNIT, DSB
- ホストネーム
- IPアドレス
- MACアドレス
- シリアルナンバー

J ステータス表示 (◆76ページ)

- 通信状態
  - Connection A*
    - (送信/受信)
      - 音声符号化方式
      - 映像符号化方式
      - 映像フレームレート
      - 回線レート
      - MLPレート
      - HMLPレート
      - LSDレート
    - 回線I/F
    - 遠隔カメラ制御
    - T.120データ
    - H239プレゼン
  - ⋮
  - Connection E*
    - (送信/受信)
      - 音声符号化方式
      - 映像符号化方式
      - 映像フレームレート
      - 回線レート
      - MLPレート
      - HMLPレート
      - LSDレート
    - 回線I/F
    - 遠隔カメラ制御
    - T.120データ
    - H239プレゼン
- ISDN回線状態
  - 状態
  - 理由コード
- LAN回線状態
  - 状態
  - 理由コード
- LAN通信状態
  - Connection A*
    - ビットレート（送信/受信）
      - オーディオ
      - ビデオ
      - H.239
    - パケット数（ロスパケット数/復元パケット数/受信パケット数）
      - オーディオ
      - ビデオ
      - H.239
    - LAN Mode
  - ⋮
  - Connection E*
    - ビットレート（送信/受信）
      - オーディオ
      - ビデオ
      - H.239
    - パケット数（ロスパケット数/復元パケット数/受信パケット数）
      - オーディオ
      - ビデオ
      - H.239
    - LAN Mode

＊ 多地点会議の際には地点数に応じてConnection A〜Eと端末名を表示する。

- **K** 暗号化設定（◆ 78 ページ）
  - 暗号化方式
    - 標準方式, 独自方式, **オフ**
  - 暗号化モード
    - 接続性優先, **暗号化優先**
  - 暗号化パスワード

- **L** SIP設定（◆ 79 ページ）
  - (1/7ページ)
    - SIPサーバー使用
      - オン, **オフ**
    - トランスポートプロトコル
      - TCP, **UDP**
    - ポート番号
    - SIPドメイン
  - (2/7ページ)
    - 登録ユーザー名　1〜3
    - パスワード　1〜3
  - (3/7ページ)
    - 登録ユーザー名　4、5
    - パスワード　4、5
  - (4/7ページ)
    - (プライマリー)
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
  - (5/7ページ)
    - (セカンダリー)
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
  - (6/7ページ)
    - (トリニティー)
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
  - (7/7ページ)
    - (フォース)
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート

- **M** 共有アドレス帳設定（◆ 81 ページ）
  - SPBモード
    - オン, **オフ**
  - SPBサーバ・アドレス
  - SPB自動登録
    - オン, **オフ**
  - SPBサーバ・パスワード

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/